

大分の中世石造遺物

第1集 分布図・地名表編（上）

2013

大分県教育庁埋蔵文化財センター

大分の中世石造遺物

第1集 分布図・地名表編（上）

序 文

本書は、大分県教育委員会が文化庁の補助を得て、平成20年度から平成27年度まで8ヶ年の計画で実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」（『県内遺跡発掘調査』）の調査報告書『大分の中世石造遺物 第1集 分布図・地名表編（上）』です。この報告書は、今年度まで行った分布調査を中心とした成果を大分県東南部の分布図・地名表編として刊行するものです。

現在までの5年間に及ぶ分布調査から、大分県東南部では、1,500箇所をこえる中世の石造物の所在地が確認できました。本書はそれらを市町村ごとに一覧表にまとめ、それぞれの場所での石造物の概要を簡潔に記しました。今後、刊行予定の大分県北西部の分布図・地名表編、写真・実測図編、総括編と併せて大分県の古代・中世石造物の実態が把握できるものとなりますが、本書はその嚆矢として御利用いただければ幸いです。

本書が大分県の古代・中世石造物の基礎資料となるだけでなく、活用することによって、古代・中世石造物に対する認識を深めていただくとともに、さらには郷土の文化財保護の一助になることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査は、地元の石造物に誇りをもつ多くの方々からの御教示や、過疎化や高齢化の波のもと、きわめて厳しい状況の中でも管理され続けている方々の御協力になしには成し遂げられなかったものです。御協力いただいた方々に対し衷心より感謝申し上げます。

平成25年3月29日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 山 口 博 文

例 言

- 1 本書は大分県教育委員会が平成20年度より平成27年度までの予定で国庫補助を得て実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」（『県内遺跡発掘調査』）の報告書第1集「分布図・地名表編」である。
- 2 本書には、今回の悉皆調査において把握した大分県東南部の中世石造物の基礎データと位置を掲載している。なお、古代の石造遺物は現段階では、確認できなかったため、本書名を「大分の中世石造遺物」とし、中世の様相が残る近世初頭の範囲までを掲載対象とした。
- 3 94頁から185頁に掲載している分布図に使用した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平24情複、第614号）。なお、これを縮尺し5万分の1にした。
- 4 本書の執筆分担は下記のとおりである。
 - I、II 原田昭一
 - III 地域別の執筆分担
杵築市・日出町・別府市（小柳和宏）
大分市・臼杵市・津久見市・佐伯市（原田昭一・染矢和徳）
豊後大野市（友岡信彦・染矢和徳）
なお、編集は原田が行った。

目 次

I	はじめに	7
	1. 調査にいたる経緯	7
	2. 大分県の地勢	8
II	大分県における中世石造遺物の概要	9
III	中世石造遺物地名表	11
IV	中世石造遺物分布図	93

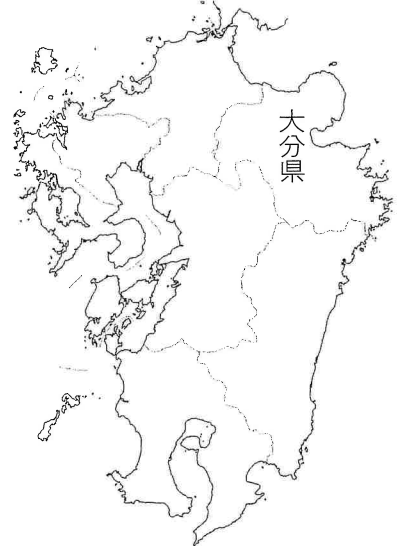
I はじめに

1. 調査にいたる経緯

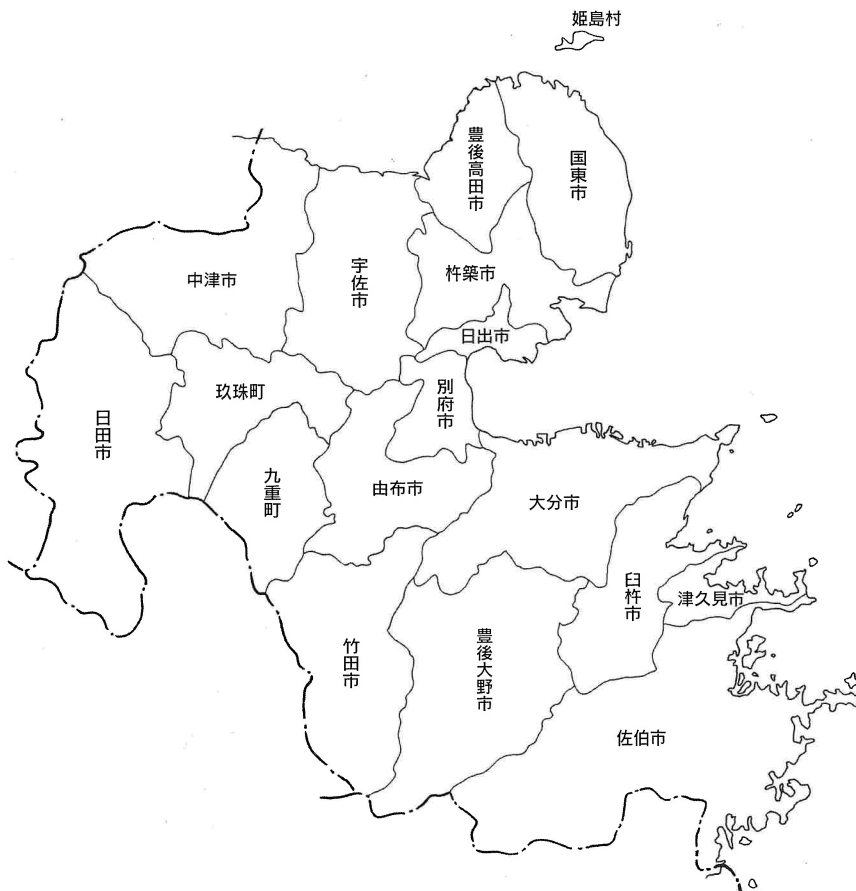
大分県には古代から近世初頭の石造物が、国・県指定物件だけで約 230 件あり、市町村指定あるいは無指定の物まで含めると、その数は膨大なものになる。これまで、大分県内では石造遺物について調査が行われてきたが、必ずしも全県下を見通し保存に向けた資料となるものではなかった。そのため、その所在が遺跡地図に記入され、その上、保護の措置が取られているものは、指定物件以外では極めて限られるのが現状である。また、最近の地域社会の崩壊や里山の荒廃は、石造遺物の所在そのものを忘れさせる要因になっている。さらに、最近では酸性雨により石材の風化が急速に進み、銘文が判読できなくなってきたものがあることも指摘されている。

このような現況のもと、保存に向けた取り組みを進めるため、これらの石造遺物の分布・種別・立地などの情報を悉皆的に把握し、全県下を網羅した台帳を整備することを目的とし、本事業「大分県古代・中世石造遺物分布調査」を興すこととなった。

国庫補助を得て平成 20 年から平成 27 年まで 8 ヶ年の予定で実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」も今年で残すところ 4 年となった。各年度の詳細な調査経過は、最終年度に刊行する予定である第 4 集に掲載する予定であるが、今年度から逐次、報告書を刊行する計画である。今年度と来年度にわたり、「分布図・地名表編」を刊行し、今年度は、その「分布図・地名表編(上)」となる。



第 1 図 大分県位置図



第 2 図 大分県内市町村位置図

2. 大分県の地勢

大分県は、九州北東部に位置し、北は周防灘、東は豊後水道に面し、北は福岡県、西は熊本県、南は宮崎県に隣接している。県土の総面積は約6,340km²で、総面積の70%を超える森林をもつ。

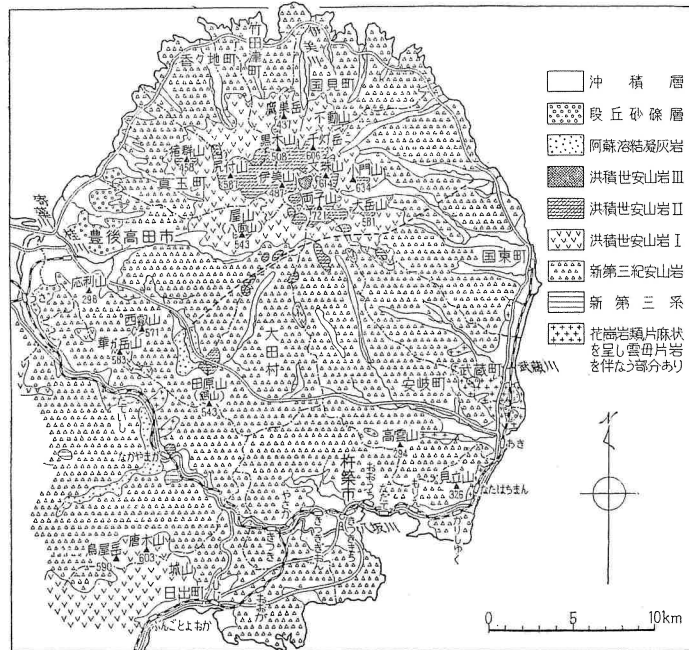
県下沿岸部には、県北の宇佐平野、県央の大分平野、県南の佐伯平野など、比較的広い平野があり、内陸には、日田、玖珠、由布院、竹田などの盆地が存在する。このほかは、山稜部が広がり、南北に霧島火山帯が縦走し、これに添って北西部に英彦山々系、南西部に祖母山々系が連なり、起伏に富む地形を形成している。

また、大分県南部の豊後大野市を中心として火砕流の堆積による火山性台地が広がり、山国川、駅館川、筑後川、大分川、大野川、番匠川などの主要河川により、侵食拡大の作用を受けている。

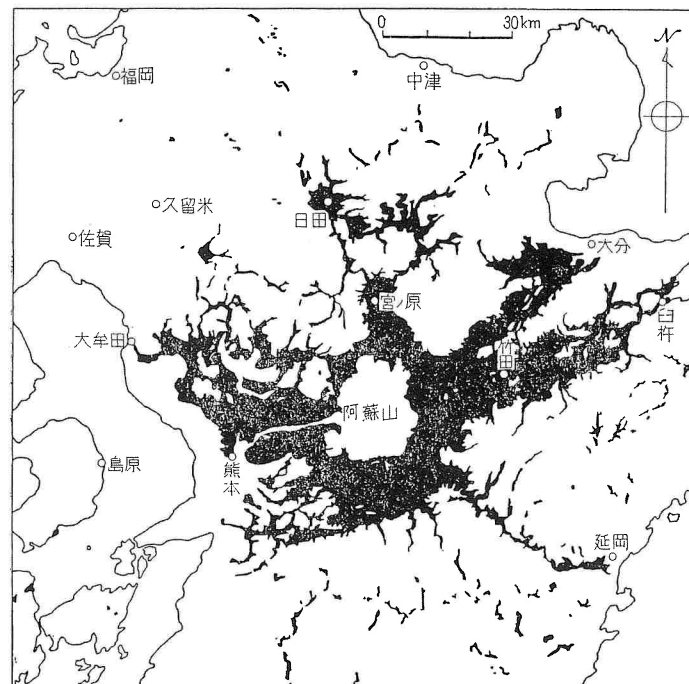
河川については、周防灘、別府湾、豊後水道に流れ出るものが多いが、筑後川上流部の大山川、玖珠川は日田盆地で合流し、三隈川となり、筑紫平野を抜け有明海へ注ぎ、北川水系の中岳川は南流し、延岡で五ヶ瀬川と合流し日向灘へ注いでいる。

海岸については、県の南北部で大きく異なり、周防灘、別府湾においては遠浅の砂浜が広がる。また、佐賀関以南の豊後水道沿岸にはリアス式海岸がひろがり、自然の良港が多く、漁場としても恵まれた環境を作り出している。

石塔の石材という視点で見れば、主要な石材は凝灰岩と安山岩に、ほぼ特定されてしまい、大分県北部の周防灘沿岸一帯から国東半島・別府湾北東岸にかけて安山岩が分布し、大分県中南部一帯や局地的に豊後高田市田染地区、杵築市山香町において凝灰岩が分布している。これらの石材産出地には同じ石材の石塔が分布しており、製作地と分布域がさほど離れたものではないことを物語っている。たとえば、極めて局地的な凝灰岩の産出が確認できる佐伯市では、産出地に近接した場所に質量とも充実した石塔の分布が認められ、そこから離れていくにしたがい、分布密度がうすくなっていくことから、地域におけるわずかな産出地をめざして、石材採取地と石塔製作地を求めたことがうかがえよう。



第3図 大分県国東半島の地質図（参考文献（1）より）



第4図 阿蘇溶結凝灰岩の分布図（参考文献（1）より）

Ⅱ 大分県における中世石造物の概要

大分県には、全国的にみても質量とも卓越した石造物が存在する。国宝および国特別史跡に指定されている臼杵石仏は、日本全国の石造物群中で最も傑出した文化財であるといっても差し支えないものと思える。

今回、調査の対象とした古代・中世石造遺物だけではなく、近世以降においても、「日本一、石橋が多い県」とされているように、石を使った歴史遺産は大分県が最も誇れるものである。また、名勝耶馬溪に代表されるように、自然が織りなす景観の美に岩が果たしている役割がきわめて大きいことも、大分県の特徴といえよう。

このように恵まれた石の文化の背景として、大分県中南部を中心として阿蘇溶結凝灰岩の分布が広範囲に認められることや、大分県北部を中心に石材としての安山岩の分布が充実していたことなど、豊富な石材を得るに事欠かない自然環境下にあったことが最大の要因といえる。石造物の分布は自ずと良好な石材が産出する地域に多く、臼杵市や大野川流域、国東半島一体には特に濃密な分布がみられる。

大分県臼杵市や日田市など、古代の石甲が確認できるが、古代に遡る石造物はきわめて特殊であり、また、類例も少ない。本格的に石造物が出現するのは、やはり中世に至ってからである。

中世の石造物は確実なものとして、我国最古の在銘五輪塔である岩手県平泉の釈尊院五輪塔（1169）の翌年、嘉応2年（1170）と承安2年（1172）銘をもつ臼杵市中尾五輪塔にはじまる。しかし、中尾五輪塔に近接する臼杵市日吉社五輪塔や国東市浜崎五輪塔の一部も中尾五輪塔に型式が近似し、同時期のものと考えられる。また、宝塔でも豊後高田市香々地坊中宝塔や国東市国見町千燈寺宝塔など、古式に位置付けられている宝塔もみられる。この両者は、いずれも岩屋に納められている特徴をもち、平安時代に遡る可能性をもつ宝塔の造立背景を知るうえでも興味深い。加えて、石塔としての加工はみられないが、宇佐市稲積山に所在したとされる自然石柱塔婆には長寛元年（1163）の銘がみられる。このように、石塔が極めて少数ながら、その嚆矢として確認されるのは、平安時代末期に至ってからである。

一方、紀年銘がみられないが、平安期に遡る石仏（磨崖仏）は豊富である。臼杵石仏をはじめ豊後高田市熊野磨崖仏、大分市元町石仏、豊後大野市菅尾磨崖仏等は平安時代後期に遡るものとされ、以降、自然の良好な露岩が多い県下に中世を通じて流行していく。

鎌倉前～中期には、石塔の造立が極めて乏しい。仁治2・4年（1241・43）銘をもつ豊後高田市富貴寺笠塔婆や正元元年（1259）銘をもつ宇佐市安心院町最明寺五輪塔などは、製作が単発的に終わり、前後に系譜をもつ石塔ではない。

石塔が本格的に流行の兆しをみるのは、文永・弘安年間（1264～1287）以降である。この時期は、全国的に石塔流行の契機となる時期であり、全国的な潮流のもと、県下においても同様の様相をもつ。文永4年（1267）銘をもつ臼杵市野津町水地九重塔、弘安5年（1282）銘をもつ中津市本耶馬溪町屋成家墓地宝塔、弘安6年（1283）銘をもつ国東市岩戸寺国東塔、弘安8年（1285）銘をもつ臼杵市野津町八里合五輪塔、正応4年（1291）銘をもつ国東市安岐町護聖寺板碑など、各種の塔形で紀年銘資料が確認できはじめ、それぞれの型式的な系譜を受け継ぐ石塔の始まりとなっている。中でも、岩戸寺国東塔出現以降、国東半島一帯に国東塔の形式が流行し、地域を特徴付ける塔形として広く受け入れられている。

文永・弘安年間以降に始まる石塔の系譜は途絶えることがなく、鎌倉時代末～南北朝期前葉にかけて、最も隆盛をみる。五輪塔・宝塔・国東塔・板碑などの塔形において、紀年銘資料をはじめとして数多くの類例が確認でき、石塔史上、質量とも最も充実している。この時期の石塔は中世を通じ、最も大型に造作され、彫製も精緻であり、造形も秀逸である。

これに続き、南北朝時代中葉には石塔が新たな展開をみる。貞和2年（1346）銘をもつ豊後大野市大野町川面墓地宝篋印塔、貞和3年（1347）銘をもつ日田市元大波羅神社宝篋印塔、貞和3年（1347）銘をもつ大分市成大寺宝篋印塔など、紀年銘資料をみても、県下各地において宝篋印塔が流行しはじめ、主役の座をこれまでの宝塔から奪ってしまう。もちろん、宝塔が消滅してしまうことはないが、大型の石塔の代表格として位置付けられていく。これとともに、紀年銘資料としては乏しいが、重制無縫塔の流行が南北朝期後半にはじまることと、歩を同じくしていることは興味深い。重制無縫塔は禅宗との関係において語られる石塔であることは言うまでもないが、宝篋印塔も禅宗寺院における開山塔として造立されたり、禅宗の舞台において造立される傾向

がうかがえる。豊後において南北朝期後半以降、禅宗が教線を伸ばしてくる傾向がみてとれるが、この流れに運動する塔形として捉えられ、これ以前に塔形の主役であった宝塔が天台宗の場に多く確認できることと比較して興味深い。

南北朝期後葉には、塔形の変化とは別に、交名が記された結衆塔婆が流行しはじめる。村々のお堂や墓地を中心に比較的大きな石塔として、国東塔や宝篋印塔などの塔形で造立されている。紀年銘資料でいえば、延文5年(1360)銘をもつ大分市楠木生五重塔、正平18年(1363)銘をもつ豊後大野市千歳町前田薬師堂宝篋印塔、応安元年(1368)銘をもつ由布市庄内町柿原笠塔婆、応安5年(1372)銘をもつ杵築市山香町小谷観音堂国東塔、応安8年(1375)銘をもつ豊後高田市熊野墓地国東塔などをはじめとして、県下各地において南北朝時代後葉から室町時代にかけて流行することは、当時、集村化という村の新たな形づくりと無関係には語れない資料であるといえよう。

また、この時期には、地藏や十王をモチーフとした石造物がみられる特徴がある。丸彫り石仏や画像石の形をとり、紀年銘資料としては、応安元年(1368)銘をもつ豊後高田市富貴寺地藏石仏、永和4～5年(1378～79)銘をもつ国東市文殊仙寺十王石仏、至徳2年(1385)銘をもつ豊後高田市青宇田六地藏画像石、明德4年(1393)銘をもつ国東市重藤十王石仏などが確認でき、紀年銘がみられない類例をみても、国東半島を中心とした地域に偏在する傾向が見られるものの、新たな石造物の様相として出現する。

室町期に入ると、交名が記された結衆塔婆は、宝篋印塔・宝塔を中心にするものから、石幢に移行する。応永17年(1410)銘をもつ豊後大野市朝地町館石幢を紀年銘資料の最古例として、県下各地において時代を代表する石塔として位置付けられてくる。国東半島一帯に流行する石殿型の石幢を含め、これらの石幢の龕部には、六地藏や十王が顕されており、前述した丸彫り石仏や画像石の理念の系譜を受け継ぐものとして捉えるべき石塔であろう。

南北朝後葉から室町時代には、地方武士層をはじめ、商工業者・有力農民など信仰層における民衆化=底辺の拡大が葬送追善儀礼重視の形で進行したと考えられており、その手法として地獄の恐怖や追善の必要を強調し、死後、初七日から三十三回忌の仏事をあらかず十三仏事などを浸透させることにより地域民衆との結びつきを深めていったとされている。このような信仰背景のもと、「講」という信仰集団を結び、村人が結束していく様子を読み取れる良好な歴史資料として、石塔が重要な位置づけをもつ。既存の塔形をみても、応永21年(1414)銘をもつ豊後高田市梅遊寺板碑に十三仏の梵字種子が刻まれているように、当時の時代相が反映されている。

このような背景のもと、様々な塔形において大きな変化が生じている。その特徴は小型化と矮小化の流れで捉えられ、かつ、爆発的な造立数が確認できる傾向は戦国期から近世初期を通して看取できる。その銘文も、葬送追善儀礼重視のもと、戒名と没年月日が記されるように、近世の墓碑につながる内容が多くを占めている。政治的にみれば、17世紀に入り、徳川幕府の成立により、様々な変化が生じる契機と考えられるが、石塔においては、17世紀中葉まで塔形及び銘文にみられる造立の趣旨は何ら変わることがない。前述したように、五輪塔・宝塔・宝篋印塔・板碑などをはじめとした塔形が、小型化・矮小化の傾向をもち、中には塔形の折衷様式とも受けとれるような形態も出現しはじめ、塔形がもつ本来の意義すら忘れ去られつつある印象を受ける。

このような中世石塔の様相が一変するのは、17世紀中葉に至ってからである。この時期は全国的に近世墓碑の出現期であり、板碑(剣頭)型墓碑の形をとり、寛文期(1661～73)に齊一的に出現し、それと同時に、中世的な石塔は一掃されてしまう。寛文期は徳川幕府が寺壇制度を確立させた時期と考えられており、檀那寺に保管される過去帳に記載される戒名と没年月日を墓碑へあらかずとともに、中世墓の多様な要素から様々な属性が捨選択され、墓碑が板碑型に特定されたように、政治色の強さが、塔形に反映されている。寺壇制度自体は戦国期から局地的に確認されるが、全国的に普遍的に確立したのは、寛文期である。このように近世墓碑が成立することにより、同時に中世石塔が終焉を迎えるのである。

Ⅲ 中世石造遺物地名表

ここでは本書で取り上げる大分県東南部の杵築市（旧大田村を除く）・日出町・別府市・大分市・臼杵市・豊後大野市・津久見市・佐伯市に所在する1491箇所の石造物について、一覧表で概要をまとめている。市町村史誌類をはじめとした過去の刊行物に記載された類例をはじめとして、平成20年から平成24年に及ぶ現地での悉皆調査により得られたデータをもとに作成したものである。

一覧表の各項目については、下記の凡例のとおりである。

凡 例

- 番 号……………94ページ以降の分布図の各市町村単位の番号と一致する。
- 名 称……………国県市町村指定の場合、指定名称を優先して採用し、また、過去に名称が確認できるものも優先して今回の名称に採用し、それ以外のは新たな名称とした。
- 所 在 地……………所在地は一覧表が市町村単位であるため、市町村名を省き、大字以下の地名を採用した。小字が判明しているものや、その場所固有の呼び名がある場合も併せて記載した。
- 造 立 時 期……………平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国の各時代で表記し、また、近世でも中世の様相をもつ石塔が残る近世初期の範囲まで、掲載の対象とした。
- 概 要……………立地や歴史的環境、塔形や特徴などをはじめ、特筆すべき点について簡単にまとめた。
- 在銘資料の年号……………元号と併せてカッコ内に西暦を記載した。石塔群で複数例確認できた場合はすべて掲載した。なお、各年号に該当する資料がどれであるかについては、概要の項目でふれている。
- 指 定 区 分……………指定区分については下記のとおりである。石塔群の場合は指定物件をカッコ内に示した。
【国 指 定】重要文化財：「国重文」と略記
 史 跡：「国史跡」と略記
【県 指 定】有形文化財：「県有形」と略記
 史 跡：「県史跡」と略記
【市町村指定】有形文化財：「市町村有形」と略記
 史 跡：「市町村史跡」と略記
- なお、上記以外でも「国宝・国指定特別史跡」等、特殊な指定の場合も併せて記載した。
- 参 考 文 献……………92～93ページに記載した文献一覧の番号と対応する。
- 地 図 番 号……………分布図の掲載地図番号と各分布図の縦横に8等分した小区画を記載している。
- 塔形及び個体数……………五輪塔・宝篋印塔・宝塔については、各部位ごとの実数を記載し、紙面の都合上、国東塔・板碑・一石五輪塔・無縫塔・角柱塔婆・石幢・石殿については、部材のみであっても実数を記載した。五輪塔・宝篋印塔・宝塔における完存については、部材の一部のみが失われていても、組合せが本来のものと判断できるものは、完存の個体数として認識した。これ以外の塔形については、「その他の塔形」の欄に塔形名と実数を記載した。なお、相輪のように、宝篋印塔や宝塔・層塔など、どの塔形においても可能性をもつ部材である場合、他の部材の存在等考慮して、可能性の最も高い塔形に分類したため、確実とはいえない。また、草むらや竹藪で覆われていたり、一部、地中に存在することが明確な場合等、正確な実数が把握できない場合は、あえて各項目に実数を記載せず、概要においてふれている。

市町村別一覧表

市町村名	掲載頁
杵築市	12～25
日出町	26～29
別府市	30～35
大分市	36～51
臼杵市	52～59
豊後大野市	60～77
津久見市	78～81
佐伯市	82～91

市町村別分布地図

市町村名	掲載頁
杵築市	12・19・20・21・27・28・29
日出町	20・27・28
別府市	27・35・36・43・44
大分市	36・37・44・45・46・47・53・54・55・62・64
臼杵市	46・55・56・57・64・65・72・73
豊後大野市	54・62・63・64・70・71・72・77・78・83・84
津久見市	56・57・65・66・76
佐伯市	65・66・67・71・72・73・74・75・77・78・79・80・81・82・84・85・86・87・88・89・90

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
1	松尾家古墓石塔群	山香町 向野 松尾	室町～戦国	松尾集落から北に登った山中にある松尾家の古墓に、中世の石塔がある。多くはばらばらになって横たわっている。異形の国東塔や宝篋印塔、宝塔、五輪塔が多数あり、在地領主クラスの良好な墓地景観を呈している。				12 H-5
2	松尾墓地石塔群	山香町 向野 松尾	戦国	松尾家墓地から約200mほど下ったところに五輪塔部材が墓地内に散在している。中世の松尾集落の墓地であろう。				19 A-5
3	松尾公民館石幢	山香町 向野 松尾	江戸初期	公民館裏の高台に六地藏を浮き彫りした石幢が1基立つ。				19 A-5
4	大造司墓地 宝篋印塔と 磨崖仏断片	山香町 向野 大造司	室町～戦国	大造司の墓地に小型の宝篋印塔がある。笠と塔身はソケット式。相輪下部には三角突起あり。塔身に浅く浮き彫りにした月輪内に梵字あり。納入孔なし。杵葉タイプと国東タイプの折衷様式。同じ墓地の江戸期の石祠の中に磨崖仏の断片が2つ置かれている。どこから持ち込まれたものであろう。				19 A-5
5	松尾国東塔	山香町 向野 松尾	室町	松尾の奥の墓地（大内家墓地石塔群のある墓地）にあったが、平成23年頃に宇佐市に移されたという。写真によると硬化した返花座に球形の塔身が乗り、緩やかに反りのはいった笠を載せるものである。				19 A-5
	中嶋統次五輪塔	山香町 向野 松尾	戦国	松尾国東塔のあった墓地にあつたとされるが、近年国東塔と一緒に宇佐に移された。	天正17 (1589)		41	19 A-5
6	大内家墓地石塔群	山香町 向野 大造司	室町～戦国	大造司墓地のさらに奥の墓地に五輪塔が一箇所に集まっている。多くは安山岩であるが、一部に凝灰岩が混じる。中には首部を持つものや、宝珠に花卉を刻むものがあるので宝塔も含まれる。				19 A-5
	八丸宝篋印塔群 (売御毛二人塔)	山香町 向野 八丸	南北朝	長野家屋敷内に2基の小型宝篋印塔が並んで立っている。いずれも相輪を欠く。内小型の方には永和3年の銘がある。	永和3 (1377)		41	19 A-5
7	向野浄土寺石塔群	山香町 向野	南北朝～戦国	本堂裏の墓地に国東塔3基、宝塔4基の他五輪塔部材が並べられている。ただし五輪塔部材の中には宝塔も含まれている可能性あり。本堂脇に無縫塔と宝篋印塔の部材が置かれている。宝篋印塔は選見タイプ。山門のところにも五輪塔部材あり。				19 A-4
8	貴船社五輪塔	山香町 向野 日野地	戦国	参道左手の林の中に五輪塔の火輪がある。				19 B-5
9	定野尾古堂石塔群	山香町 山浦 小谷	室町	定野尾集落の西の外れにある御堂の裏に磨崖の国東塔がある。さらに周囲には角柱塔婆や宝篋印塔、五輪塔が散在している。国東塔は相輪部分のみがかるうじて判別できるほど風化が進む。御堂も最近では手入れされていない。			41	19 D-5
10	大師堂板碑	山香町 山浦 原	南北朝	山浦の原と山井手の間にある大師堂の横に板碑が1基傾いて立っている。元々は個人宅にあつたものを井原横の大師堂に持ってきたもの。				19 D-5
11	山浦小学校北石塔群	山香町 山浦	戦国	五輪塔空風輪1、火輪6、水輪5などが小学校横の畑に置かれている。				19 E-5
12	本篠板碑	山香町 山浦 本篠	鎌倉	田の中の一角に立つ。総高239cmで、葉彫りしたキリークの梵字がひと際目を引く。梵字の下部に大振りな文字で建武元年と刻む。	建武元 (1334)	県有形	29-39	19 E-5
13	若八幡境内石塔群	山香町 山浦 川床	鎌倉後期	境内に板碑（h=123cm）と宝塔各1あり。宝塔は基礎2段で首部も2段になっている。				19 E-5
	若八幡参道下石塔群	山香町 山浦 川床	室町～戦国	参道下左手に宝篋印塔と五輪塔の部材が並べている。宝篋印塔はバラバラになっているが、4面に地蔵を彫った小型のもの、月輪を彫り窪めた中型のものがある。				19 E-5
14	桑ノ尾墓地石塔群	山香町 日指 園ノ木	南北朝～戦国	農業文化公園の東隣りに新しく作られた桑ノ尾の集団墓地に紀年名が刻まれている宝塔(天正18)と五輪塔(貞治3)がある。さらに宝塔や五輪塔の部材が点在する。	貞治3(1364) 天正18(1590)		5	19 H-5
15	槍原宝篋印塔	山香町 久木 野尾 槍原	戦国	上小学校裏山の山中に宝篋印塔が1基立つ。紀年銘は無いが、標柱には永禄4年に死去した田北隆生の墓である旨記されている。	永禄4 (1561)			19 H-5
16	大園寺板碑	山香町 向野 平原	室町	大園寺の前にコンクリに固められて板碑と石幢が立っている。石幢は近世のもの。周囲には五輪塔部材が置かれている。				19 A-6
17	児玉重正宝篋印塔	山香町 立石 大月	室町～戦国	泉道佐田山香線の松ヶ尾橋のところの道際、一段高いところに小型の宝篋印塔が1基立つ。近隣の児玉家先祖の墓という調れを持つ。			41	19 C-7
18	飛脚湍供養塔	山香町 立石 町下	戦国	綿線と川に挟まれた狭い所に、川を向いて立っている。弘治3年の紀年名とともに人名などが記される。	弘治3 (1557)		41	19 C-7
19	五徳寺石塔群	山香町 立石 五徳寺	南北朝～室町	五徳寺裏の墓地に無縫塔（開山塔）、宝篋印塔、五輪塔、宝塔などの部材が集められているが、本来の組み合わせを持つものは無い。宝篋印塔の内の1基は山名宗全の供養塔とされる。				19 B-7
20	長流寺墓地無縫塔	山香町 立石	南北朝～室町	長流寺墓地内に無縫塔3基あり。中央の大きなもの（h=133cm）は花崗岩製。他は安山岩製。				19 B-7
21	長流寺石塔群	山香町 立石	江戸前期	長流寺本堂入り口左右に1基ずつ石幢が立つ。			41	19 B-7
22	岡磨崖仏	山香町 立石 岡		立石川に向けて突き出た丘陵の先端に4体の磨崖仏がある。ほとんど風化しており、微かに像形のふくらみを確認出来る程度である。			41	19 C-7
23	竜ヶ尾綾部家墓地 宝篋印塔	山香町 立石 竜ヶ尾	江戸初期	墓地の中に墓標として宝篋印塔1基が立つ。他に自然石塔婆数基あり。				19 B-8
24	仏ヶ迫磨崖仏	山香町 立石 竜ヶ尾	鎌倉	肥前組合の裏にある谷（仏ヶ迫）の一番奥の急崖を登ると小さな平場があり、そこの浅い麓の中に阿彌陀仏と思われる磨崖仏がある。風化が激しい。		市史跡		19 B-8
25	下の西津留磨崖仏	山香町 下 西津留		立石川の南側の崖面に彫られた磨崖仏で、仏ヶ迫磨崖仏と対になり「夕日観音」とも呼ばれている。				19 C-8
26	棚田六地藏磨崖仏	山香町 下 金水	鎌倉～室町	凝灰岩の岩肌六地藏と単体の地藏が半肉彫りで表現されている。彩色もよく残る。		市史跡		19 D-8
27	原国東塔／原磨崖塔	山香町 山浦 原	鎌倉～江戸前期	原の丘陵上の墓地に国東塔と磨崖塔、五輪塔部材がある。国東塔は茶壺形に下半が締まった塔身が、基礎1段と一石で彫られた返花座に乗る。正慶2年の刻銘があるが、その横に朱書きされた「元禄4年」が造立年であろう。磨崖塔は笠の一石を欠くが、本来は五重磨崖塔である。こちらは鎌倉期のものでよい。五輪塔は南北朝期から室町期のものか。	正慶2 (1333) 正和3 (1314)	市有形 (国東塔と磨崖塔)	5	19 E-5
28	八坂社磨崖仏	山香町 山浦 出河内		泉道佐田山香線の那留公民館を北に入って約600mのところにある八坂社背後に磨崖仏があるが、風化が激しく像容がはっきりしない。				19 D-6
29	泉福寺石塔群	山香町 山浦 長田	南北朝	泉福寺の堂宇裏に観応3年銘を持つ国東塔が立ち、その周囲に五輪塔や宝塔、宝篋印塔が散在している。国東塔以外はすべて後の組み合わせであり、当初の姿はない。さらに石風炉には板碑が使われており、周囲には五輪塔部材が集められている。	観応3 (1352)	県有形 (国東塔)	5 29	19 E-6
30	吉野渡石塔群	山香町 吉野 渡 吉野渡	室町～戦国	立石川左岸の低丘陵上に五輪塔などが並べられ祀られている。五輪塔の水輪は大型である。他に板碑があるが倒れている。				19 E-6
31	蛇淵磨崖仏	山香町 吉野 渡 鳥之江		四角に彫られた龕の中に三尊像が彫られる。				19 E-6
32	堂野尾地蔵堂 石塔群	山香町 内河 野 堂野尾	南北朝・戦国～江戸初期	堂野尾地蔵堂の前に、板碑と宝塔が並んで立っている。宝塔にはそれぞれ造立趣旨と紀年銘を刻む。板碑は銘が読めないが、「永和4年」とされている。堂内には石像丸彫りの十王像がある。	永和4(1378) 天文13(1544) 永禄10(1567) 慶長2(1597)		5 39 41	19 E-8
33	専教寺五輪塔	山香町 内河 野 鶴成	戦国	専教寺の境内に五輪塔空風輪2、火輪2、水輪3がある。				19 E-8
34	東光寺石幢と板碑	山香町 内河 野 鶴成	戦国	近頃無住になった東光寺境内に十王と3体の俗人を竿に浮き彫りにする石殿がある。大永5年の銘が造立者名とともに刻まれている。また、墓地には永正13年の銘を持つ板碑があることになっているが、今回は確認出来なかった。	大永5(1525) 永正13(1516)	市有形	5 39 41	19 E-8

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
	2	10	6	3	1						1						5				1		
	8	2	10																1				
																					1		
					1																		磨崖仏の一部
																	1						
1																							
	7	15	12	7																			
	12	24	17	4		1	1				4						3				1		
		1																					
	7	12	8	2	1	1											1		2		1		
																			1				
	1	6	5	3		1	1																
											1							1					
	6	5	4	3			2	2	1														
	2	5	5								1	1	2						2				
					1																		
	4	1																1					
					1																		
																							自然石塔婆
	1	1	3	1		3	3						1	1							1		
																					3		
																						2	
					1																		磨崖仏
					1																		磨崖仏
																							磨崖仏
																							磨崖仏
5																	1					1	
																							磨崖仏
	16	10	9		1		1	1					1	2			1						
	6	10	11	8		1												1	1				
																							磨崖仏
											3							1					十王石像9体
	2	2	3																				
																		1					1

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
35	阿弥陀堂石塔群 (鎌倉山宝塔)	山香町 内河野 鶴成	鎌倉～南北朝	鎌倉山の阿弥陀堂前に宝塔がある。台座の蓮華座が平面隅丸方形となる。塔身に納入孔あり。相輪は火焰宝珠がのる。銘文は判読できない。火焰宝珠がもう一つあるが、他は見つからない。宝塔の周囲には五輪塔部材がある。			41	19 E-8
36	いしごうの 石河野角柱塔婆	山香町 石河野 山浦	南北朝～室町	石河野板碑群の背後の台地上の畑に立つ。				19 F-6
37	石河野板碑群	山香町 石河野 山浦	鎌倉～南北朝	石河野の集落を見下ろす台地の縁辺部に列をなして板碑が並んで立っている。すべて銘や種字は無い。2mを越える大型のものもある。大部分のものが傾いたり倒れたりしている。				19 F-6
38	石河野御堂石塔群	山香町 石河野 山浦	戦国	石河野公民館(元は堂宇であった)横に宝篋印塔や五輪塔、板碑が並べられている。宝篋印塔の1基は透見タイプ。板碑は中程まで埋もれている。				19 F-6
39	下山の御堂石塔群	山香町 石河野 山浦	室町	神社境内に宝篋印塔1基(完存)の他、五輪塔部材が点在する。宝篋印塔は通常タイプ。			5	19 G-6
40	下山角塔婆群	山香町 下山 山浦	南北朝	県有形の貞治5年の角柱塔婆の他に、墨書銘の入った角柱塔婆が隣接地に4基ある。いずれも大型で3基は倒れている。	貞治5 (1366)	市有形 (貞治5 年銘)	5 47	19 F-6
41	大村山板碑	山香町 大村山 野原	戦国	天文3年に行われた周防大内氏と豊後大友氏の戦いの舞台となった勢場ヶ原にある大村山頂上付近にやや厚みのある板碑が立つ。前面には地藏菩薩が浮き彫りされる。	天文3 (1534)	市有形		19 F-7
42	普門坊石塔群	山香町 内河野 山口	南北朝	西明寺の坊であった普門坊跡に康永4年銘を持つ板碑が1基立つ。胎蔵界大日如來の種子の下に康永4年に別時念仏講衆が建立した旨が記されている。周囲には五輪塔部材が点在する。	康永4 (1345)		13・39	19 E-8
43	余名国東塔	山香町 内河野 上市地区	南北朝	佐藤家の裏山に立つ国東塔は佐藤氏一族の祖先の墓とされる。明治初年に現在地に移転。塔は宝篋印塔の相輪を載せ、塔身、蓮華座とも天地逆となるなど、後世の改変を受けている。周囲には五輪塔部材が点在する。			41	19 E-8
44	大池石塔群	山香町 内河野 大池	室町～戦国	墓地の中に角柱塔婆(頭の部分、巾30cm)、五輪塔火輪2、水輪1あり				19 E-8
45	小谷国東塔と 石塔群	山香町 内河野	南北朝	国東塔は昭和15年に現在地(観音堂)に移設したもの。元は大谷山最大寺にあったという。総高2.45mの完存品である。塔身には応安5年の年号とともに一結講衆の人名が刻まれる。周囲には角柱塔婆や五輪塔部材が点在する。	応安5 (1372)	県有形	5 29	19 F-8
46	せいみょうじ 西明寺石造三重塔 と角柱塔婆	山香町 内河野	南北朝	西明寺境内に、四隅に結界の角柱塔婆を配す三重の層塔がある。総高3.75mで、第1層の4面に金剛界四仏の種字が、基礎には逆修の遍塔理由と貞和4年の銘が刻まれる。角柱塔婆にはそれぞれ阿号を持つ人名が刻まれている。また、明徳元年の名のある宝篋印塔があるとされるが、今回は確認出来なかった。	貞和4 (1348) 明徳元 (1390)	県有形 (層塔)	5 29	19 F-8
47	宮ノ迫(塔の本) 国東塔	山香町 貴井 野原	南北朝	虎御前の墓と呼ばれている国東塔である。もとは塔の本にあったが、現在は市営グラウンドの西に移されている。落書きがあるが、塔身には多くの人名とともに永徳4年の銘がある。	永徳4 (1384)		5 41	19 F-8
48	あきいだい 貴井台石塔群	山香町 貴井台 野原	戦国～ 江戸初期	貴井の台にある志手家墓地に宝塔5基と宝篋印塔1基が集められている。宝篋印塔には「慶長4年」の銘がある。近年集められたものである。	慶長4 (1599)		5・41	19 G-8
49	貴井台宝塔	山香町 貴井台 野原	鎌倉	貴井の台の南東側に1基の宝塔塔身が置かれている。大型の宝塔になる。おそらく国東塔であろう。	延慶3 (1310)		5	19 G-8
50	下中尾宝篋印塔	山香町 野原 下中尾地蔵堂	南北朝	下中尾の地蔵堂前に立つ均整の取れた宝篋印塔である。塔身4面には胎蔵界四仏の種字を刻み、基礎には永徳3年の銘がある。隅隅に突起は欠失している。	永徳3 (1383)	市有形		19 G-8
51	重永国東塔	山香町 重永 日指	南北朝	重永の薬師堂前に1基の国東塔が立つ。線刻で表現された返花座の上に塔身が乗る。永和元年の銘を持つ。	永和元 (1375)	市有形	5	19 G-7
52	重永墓地五輪塔	山香町 重永 日指	戦国	重永集落の東にある墓地の中に一石五輪塔が1基ある。				19 G-7
53	瀬口角柱塔婆	山香町 瀬口 日指	南北朝	瀬口集落の北約400mの林中にある。勢場ヶ原の合戦時の戦死者を合葬した跡に建てられたものと言われている。地元では「百手の塔」と言われている。H=1.91mで無銘。			41	19 G-6
54	むくろばる 檀原天満社横 お堂石塔群	山香町 檀原 日指	室町～戦国	参道脇に宝塔の基礎と思われるものあり。他に参道脇に五輪塔の火輪1あり。				19 H-5
55	中尾平宝篋印塔	山香町 中尾平 日指	戦国～江戸初	田北城のある丘陵の北東部斜面にある。「慶長5年9月18日 田北新介三右衛門尉左近亮源統周」の標識あり。相輪下部三角突起(透見タイプ)、宝珠下部方形。周囲に五輪塔水輪2。				19 H-6
56	中尾平薬師堂 石塔群	山香町 中尾平 日指	室町～戦国	中尾平の薬師堂前に五輪塔空風輪2、火輪2、地輪2と相輪2がある。				19 H-6
57	田北家墓地石塔群	山香町 宮平 日指	戦国	西福寺の右手奥の山裾に「田北家墓地」がある。ここには石塔群があるが、近年子孫によって集められたものという。天正6年の銘を持つ宝塔や板碑の他、五輪塔や方柱状の宝塔などがある。	天正6年 (1578)		41	19 H-7
58	西福寺国東塔	山香町 宮平 日指	室町	西福寺参道登り口手前に国東塔が1基ある。返花座に頸のない塔身がのる。相輪は上部が欠失している。			41	19 H-7
59	六太郎石塔群	山香町 六太郎 下	南北朝～室町	立石から豊後高田の真中に抜ける奥道が峠にさしかかる手前に御堂がある。その境内に風化の激しい国東塔が1基立っている。周囲には宝篋印塔や五輪塔の部材が点在する。			41	20 C-1
60	坂水供養塔	山香町 坂水 下	戦国	道路を広げるために少し移動している。大日如來と地藏菩薩の種字とともに「道意」と「現清」の為に造立したことが記されている。	天文12 (1543)		41	20 D-1
61	山本家前石塔群	山香町 坂水 下	戦国	近世以降の石造品と一緒に五輪塔空風輪1、火輪2が集められている。				20 D-1
62	妙善坊石塔群	山香町 妙善坊 倉成	室町～戦国	妙善坊跡地と思われる谷奥の平地から少し下った屋根上の2箇所に石塔群がある。宝塔を中心として、板碑や五輪塔が数十基ほど散乱している。板碑の内2つに年号が刻まれている。五輪塔部材としたものは、多くは宝塔の部材の可能性が高い。	文明10(1478) 元龜3(1572)		39	20 D-2
63	又井磨崖仏	山香町 又井 倉成	戦国	古墳時代の横穴墓の並びで、四角く浅い龕を穿った中に主に線刻で描かれている。彩色の残る地藏菩薩、月輪の中に蓮華座に乘る釈迦如來の種字などがあり、やや離れて天正6年の銘を持つ龕がある。	天正6 (1578)	市有形		20 E-1
64	円福寺石塔群	山香町 又井 倉成	戦国	境内に五輪塔空風輪15、火輪1、水輪5、一石五輪塔1基、宝篋印塔の相輪(三角突起付き)1あり。他に無銘塔の基礎と思われるものあり。また、堂宇左手に板碑状の長い石が伏せてある。種別は確認できず。				20 E-1
65	上市(城迫)宝塔	山香町 上市地区 内河野	南北朝	上市川左岸の段丘上にある上市弘法大師堂の横に立つ宝塔で、「タラーク」の種字が薬研堀で刻まれる。相輪は五輪塔の空風輪に置き換えられている。	建武5 (1338)		41	20 E-1
66	甲尾山石塔群	山香町 内河野 下市	南北朝	甲尾山城跡の一角に貞和5年銘の宝篋印塔塔身と笠が重ねられており、さらに五輪塔部材も点在する。	貞和5 (1349)		5	20 E-1
67	二野瀬家宝塔	山香町 東野原 野原	戦国～江戸初	水源地下のやや高台に立つ宝塔。基礎の蓮華座は無文で薄い円柱状となる。塔身に首は無い。				20 F-1
68	坪井家墓地 五輪塔群	山香町 東野原 野原	戦国	東野原の坪井家墓地に五輪塔火輪12、水輪2がある。				20 F-1
69	阿南家墓地石塔群	山香町 西野原 野原	近世初	阿南部の北側にいる墓地に、江戸時代前期の宝篋印塔や五輪塔が並べられている。江戸時代前期の庄屋墓地の景観として貴重である。	慶長13 (1608)		5	20 F-1
70	阿南邸石塔群	山香町 西野原 野原	戦国～ 江戸前期	阿南部の外、北西側に近世(寛永12)の五輪塔などとともに宝塔が置かれている。相輪を欠く。連弁は扁平な円柱状を呈す。望月では天正3年銘の宝塔塔身がもう1基あることになっているが確認出来ず。	天正3 (1575)			20 F-1
71	何松邸裏墓地 宝篋印塔群	山香町 東野原 野原	戦国	墓地の一角に宝篋印塔3基が並べられている。内1基はほぼ完存。すべて透見タイプ。				20 F-1

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇								
	2	1									1	1												
																						1		
																		14						
1					2													1						
	1	3	3	5	1																			
																						5		角柱塔婆5基
																		1						
		2	3															1						
		3	1			1											1							
		2	1																				1	
	1	2															1		1			1		
					1																	4		1
																	1							
					1						3													
	1						1				1													
					1																			
																	1							
		1						1											1					
			2																					
	2	2		2		2																		
		1	1								3			1				1						
																	1		1					
		3		1				1				1	1											
																								自然石塔婆
	1	2																						
	27	39	42	6							3	2						4	1					
																								磨崖仏
	15	1	5			1													1	1				
	2											1	1											
		1	1				1	3																
											1													
		12	2																					
5					4																			
3												1	1				1							
					3																			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図号
72	何松家墓地石塔群	山香町 野原	南北朝～江戸初	金比羅宮境内横にある何松家墓地に応安7年銘の国東塔、慶長9年の方柱状の宝塔、宝篋印塔などが立っている。望月の「浄栄寺跡」とするもの。	応安7(1374) 慶長9(1604)		5	20 F-1
73	心翁寺石塔群	山香町 野原	室町～戦国	境内に五輪塔火輪1、水輪1、宝塔塔身1が点在する。				20 F-1
74	掛樋小堂石塔群	山香町 掛樋	室町～戦国	樋掛の高台にある妙徳寺跡に立つ小堂の脇に、宝篋印塔などの部材が無造作に重ねられている。				20 G-1
75	岩尾家墓地石塔群	山香町 福林	戦国	岩尾家裏の墓地に石塔が散在する。全て当初の組み合わせは失われている。	天正7 (1579)			20 G-1
76	岩尾家石塔群	山香町 福林	戦国	岩尾氏宅裏の林中に堀が残り、その一角に岩尾家本家の古墓がある。そこに小型の宝塔(天正7年)1、五輪塔空風輪3、火輪2、水輪1、相輪1あり。	天正7 (1579)			20 G-1
77	小屋家石塔群(小屋家国東塔)	山香町 小野尾	南北朝	笠の角が垂直に立ち上がっている。宝篋印塔を彷彿とさせる。国東塔の周囲に五輪塔部材や宝塔の塔身2あり			41	20 H-1
78	松尾院前五輪塔	山香町 野原	戦国	松尾院と道を挟んで西側の江戸期の石祠脇に五輪塔空風輪1あり。				20 H-2
79	八幡森石塔群	山香町 八幡森	室町	道際に五輪塔空風輪21、火輪12、水輪23が並べられている。上記の奥の林中に、自然石塔婆1基があり、その前に五輪塔空風輪4、水輪1、地輪1が石積み基壇上に置かれている。さらに奥の高まりの上に板碑1、五輪塔水輪1、地輪1あり。				20 G-1
80	野田家五輪塔群	山香町 辻	室町～戦国	山香豊高南側の野田家前に五輪塔部材が集積されている。中に大型のものが含まれている。				20 G-1
81	笠源禅寺石塔群	山香町 辻	戦国	本堂裏の墓地に一石五輪塔1基と五輪塔空風輪1がある。六地藏石幢は新しいか?住職によると五輪塔などは山香豊高のところにあったが、学校建設に伴って今の所に持ってきた、という。				20 G-2
82	鍛冶屋十王堂石塔群	山香町 鍛冶屋坊	南北朝～室町	十王が室内に並べられている。中央の間隔1体は別物か、他に地藏坐像も古い。他に江戸期の石仏数体あり。堂前には宝篋印塔の相輪、笠、塔身、五輪塔の空風輪1、火輪1、地輪1あり。				20 H-2
83	宮地嶽宮板碑	山香町 中田居	江戸初期	額部太い凹線、月輪は1cmほど全体に彫り窪める。				20 G-2
84	中村墓地五輪塔群	山香町 中村	戦国	墓地の中に五輪塔空風輪1、火輪1、水輪1が点在する。				20 F-2
85	高取公民館裏五輪塔	山香町 高取	戦国	公民館北側にある社のところに五輪塔水輪1あり				20 F-2
86	正高寺石塔群	山香町 弘安寺	南北朝～室町	寺の裏にある墓地に五輪塔火輪2、水輪3あり。また、上に明治期の自然石塔標が乗る台座が、中世の無縫塔基礎か。また、本堂横の池の縁に相輪1あり。宝篋印塔か?				20 E-2
87	廣地邸宝篋印塔	山香町 平野	戦国	平野の八幡社のある高台の先端に1基の宝篋印塔が立つ。装飾的で赤彩がある。塔身も比較的に長いなど、中世末期の様相を持つ。				20 E-2
88	倉成磨崖仏と周辺の石塔群	山香町 正高寺	鎌倉	磨崖仏は石切場によってぎりぎりまで削られており、さらに摂理面から割れて、剥落が激しい。地藏や十王、毘沙門天、阿彌陀如来などが彫られる。周囲には中型の五輪塔や板碑、宝塔部材などが集められている。	市有形 (磨崖仏)	5		20 E-2
89	倉成観音堂石塔群	山香町 平野	室町	磨崖仏に登る手前の道沿いにある観音堂周辺にあり。宝篋印塔2基や宝塔の塔身、無縫塔の竿などが散在している。			5	20 E-2
90	山口国東塔	山香町 小岳	室町	安倍家の宅内に立つが、本来の場所は不明である。現高h=2.58mで凝灰岩製。請花、返花が一石で作られ、首の短い塔身にやや大きめの空が乗る。相輪は折れて下半分が横に置かれている。		41		20 E-2
91	徳野角柱塔婆	山香町 字徳野	南北朝	広瀬から小岳に抜ける道からやや西に登った丘陵頂部にある赤迫古墳の墳頂部とされる場所に立てられている。胎蔵界四仏の梵字と、その下に永徳3年銘が彫られている。	永徳3 (1383)		5	20 F-2
92	小岳一石五輪塔	山香町 小岳	室町～戦国	小武寺の南側のなだらかな丘陵頂部付近に一石五輪塔が1基あり、今も祀られている。				20 E-3
93	小岳寺石塔群	山香町 小武	南北朝～室町	小岳寺の境内に大型の国東塔1基、足長の一石五輪塔2基、大型の五輪塔の水輪2基、宝篋印塔部材などが点在している。足長の一石五輪塔は珍しい。五輪塔に正平13年の銘があるとされるが確認出来なかった。	正平13 (1358)	市有形 (国東塔)	5	20 E-3
94	藤ノ木宝塔群	山香町 藤ノ木	戦国	長野家墓地に宝塔が4基ある。中央に「長野家先祖の墓」と標柱の立つ天正3年の銘を持つ宝塔が三段の基礎の上に置かれるが、基礎は後補である。	天正3 (1575)		41	20 F-3
95	今畑五輪塔群	山香町 今畑	室町～戦国	県道山香国見線脇の家跡に五輪塔空風輪3、火輪1、水輪1が並べられている。				20 E-3
96	中畑国東塔	山香町 今畑	鎌倉	無銘、笠部欠失。中畑長者屋敷跡と言われる田の横に立つ。大正年間に道路工事中に発見される。宍形であると総高4mを越えるか?		市有形		20 E-4
97	教蓮寺石塔群	山香町 越井	戦国	山香から大田に抜ける県道が峠にかかると手前に教蓮寺がある。寺の墓地には宝篋印塔や五輪塔が集められている。また、寺の境内にも五輪塔の部材が点在する。宝篋印塔は基礎に扁平な蓮華座を持つ。			41	20 E-4
98	龍門寺宝篋印塔	山香町 龍門寺	江戸初期	墓地の中に江戸時代前期の宝篋印塔型の墓標が1基立っている。他にも前期の板碑型墓標あり。				20 H-3
99	大龍寺墓地石塔群	八坂 山中		大龍寺裏の墓地に一石五輪塔1基(h=51cm)、五輪塔火輪1、水輪1かある。				20 H-4
100	宇都宮家墓地宝篋印塔	大片平	江戸初期	宝珠欠く。速見タイプで近世初頭まで下る。				20 G-5
101	宝積寺石塔群	大片平	南北朝～室町	国東塔の1基は宍形塔(境内)、1基(境外)は風化進む。一石五輪塔の1基は大型(h=123cm)、他に五輪塔2基を浮き彫りにし、背面と側面(1面)に尊像を浮き彫りにした安山岩製の扉石状のものあり(巾29.5cm、高さ33.0cm、厚さ10.5cm)。			市有形 (境内国東塔)	20 G-5
102	境木集落公民館横五輪塔	大片平	戦国	境木集落公民館横の大日様周辺に一石五輪塔が2基あり。				20 F-5
103	松村観音堂石塔群	大片平 松村	南北朝～室町	もとは堂山の上にあったという観音を祀る観音堂の前に宝篋印塔と五輪塔がある。				20 E-5
104	三尾平板碑型塔婆	船部 三尾平	近世初頭か	集落の西外れ、崖上の旧道添いに立つ板碑型の塔婆。小さな「十字」が彫られているので地元では「キリシタン墓」ではないかと言う。				20 E-5
105	正覚寺観音堂跡石塔群	船部 三尾平	室町～戦国	参道階段を登って行くと、旧観音堂境内左側と右側に1基づつ宝篋印塔が立つ。周囲に五輪塔部材が点在。宝篋印塔の1基は風化が激しい。				20 E-5
106	光明寺石塔群	船部	室町～戦国	光明寺境内に散在する。相輪1基は宝篋印塔のものか。				20 E-5
107	二の坂墓地横五輪塔	溝井 二の坂	戦国	大振りな一石五輪塔1基				20 G-5
108	宝福寺石塔群	溝井	戦国	宝塔基礎と思われるものには反花座がつく。				20 G-5
109	二の坂墓地五輪塔	溝井 二の坂	戦国	山の斜面の墓地に五輪塔部材が点在している。				20 G-5
110	二の坂五輪塔	溝井 二の坂	江戸初期	五輪塔1基(近世まで下るか)が立つ。				20 G-6
111	有徳家墓地角柱塔婆	溝井 二の坂	南北朝	墓地の中に、大きな台石にはめ込まれて小型の角柱塔婆が立っている。4面に梵字を刻む。				20 H-5

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
		1	1		1						1						1						
		1	1				1																
1	7	8	5	7		3	3	2	1														
	3	2	1									1	1										
	3	2	1		1	1																	
	7	1	2	1				2											1				
	1																						
	25	12	24	2														1					自然石塔婆1
	5	7	9																				
	1																		1		1		
	1	1		1		1	1	1															十王石仏10体ほか
																		1					
	1	1	1																				
			1																				
		2	3			1														1			
					1																		
1	5	4	3	1		1												1					磨崖仏
	1	1	1		2								2						1				
																					1		
1		1	4				1		1								1		3		2		
					4																		
		8	1		1			1															
					1																		
		1	1																	1			
					1																		
2	13	8	8	2													2		4				五輪塔浮彫り板石1
																			2				
1					1														1				
																		1					
	7	7	3		2																		
5						1													1				
																			1				
	6	3	5	2									1										
	1	2	3																1				
1																							
																					1		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
112	芦刈地藏尊石塔群	溝井	戦国	宝篋印塔相輪には三角突起あり(速見タイプ)				20 H-5
113	芦刈地藏尊東墓地五輪塔群	溝井	戦国	芦刈地藏尊の東側の墓地に五輪塔火輪3、水輪2、地輪1が点在する。				20 H-5
114	二宮旧邸宝篋印塔	船部 尾上	室町	二宮旧邸裏庭の岩の上に小型(h=58cm)の宝篋印塔あり。速見タイプ。				20 F-6
115	松岡家角塔婆	船部 尾上	室町	旧「称興寺」跡の背後、松岡家の裏側の丘陵斜面に立っている。				20 E-6
116	宝福寺石塔群	溝井	戦国～江戸初期	宝福寺境内に立つが、1基は風化が激しい。				20 G-6
117	山神社五輪塔群	溝井	戦国	山神社に五輪塔空風輪3、火輪1がある。				20 G-6
118	轟地藏像	溝井 乙王	南北朝?	台座から光背まで地藏を含めて一石で作られており、台座などにはノミ痕を意図的に明瞭に残す。顔に白粉が塗られている。		県有形	5	20 F-7
	十王石仏	溝井 乙王	室町?	轟の淵に十王が並べられているが、鴨川迫の長福寺から持ち込まれたものとされる。十王像には年号は無いが、造形がしっかりしており中世のものと考えられる。		市有形	5	20 F-7
119	船部観音堂五輪塔群	船部	戦国	「西国観音霊場番外」の堂周辺に並べられている。				20 E-7
120	福嶋家墓地宝篋印塔	溝井 荒平	戦国	宗玄寺裏の墓地にある小型の宝篋印塔。				20 G-7
121	宗玄寺宝篋印塔群	溝井 荒平	室町	宗玄寺境内に2基立っている。				20 G-7
122	迫観音堂石塔群	鴨川	室町	迫の観音堂横に中近世の石造物が集められている。その内、中世のものは宝篋印塔で、相輪は折れて空風輪が乗る。周囲に五輪塔部材も点在している。				20 G-7
123	馬場尾御堂石塔群	馬場尾	室町～江戸初期	「白水の池」と県道大田杵築線を挟んだ北側にある小堂周辺に五輪塔部材がある(火輪は江戸期)。御堂の中には一光三尊型式の地藏三尊像あり。				20 H-7
124	合蔵石幢	本庄 下本庄	戦国	大久保新池の南にある墓地の中に立つ。蔵部と中台は後補か。	元亀4 (1573)			20 H-7
125	中平公民館南墓地石塔群	南杵築 中平	戦国	白水の池の南東にある墓地にある。				20 H-7
126	稲荷大明神前十王石仏	杵築 十王		数十年前まで石像十王像が鳥居の前に並んでいたという。轟地藏の場所に持っていったのではないかと、との説もある。				20 H-8
127	宮司地藏堂五輪塔群	宮司 宮司	室町～戦国	五輪塔部材が散乱しているが、草に埋もれて正確な数は不明。地元の人によると、このあたりで戦があった時の戦死者の墓だという。地藏堂には花崗岩製の石祠あり。				20 H-8
128	次郎丸墓地石塔群	宮司 次郎丸	室町	角柱塔婆は4面に梵字。五輪塔は直径55cmの水輪。他に空風輪1、火輪1あり。大型の五輪塔の部材。墓地には近世の無縫塔が複数あるので、寺院の関係か?				20 H-8
129	本村角塔婆	馬場尾	室町	今調査では所在不明。杵築市史によるとh=105cmで室町初期のものという。本村は、平家の落人が談合したという「談合堂」のある古い集落である。				20 H-7
	馬場尾本村石塔群	馬場尾 本村	室町～戦国	「談合堂」裏の斜面の一角に五輪塔部材が集まっている。				20 H-7
130	竹ノ尾地藏像	鴨川	南北朝か	竹ノ尾城下の川に面した岩屋に安置されている。2体は中世まで遡る可能性が高い。		5		20 G-7
131	桶屋敷宝篋印塔群	鴨川	戦国～近世初期	隣接地に「桶屋敷」と呼ばれた木付氏の墓地があったが、圃場整備で消滅した。宝篋印塔は文禄2年に自刃した木付鎮直夫妻の墓と云われる。		市有形		20 G-7
132	福嶋邸石塔群	鴨川 中筋	戦国～江戸初期	宝篋印塔は圃場整備の際に、田の畦にあつたものを家の横に持ってきた。国東塔は元から家の横にあり、「フクシマ様」と呼ばれていたという。ともに市道の工事に伴って道路脇に移設。				20 G-7
133	迎接寺南隣石塔群	鴨川 中筋	戦国	西氏宅裏の畑脇に疎ととも置かれている。				20 G-7
134	こしやうじ 迎接寺石塔群	鴨川 中筋	室町～戦国	木付氏ゆかりの迎接寺裏の墓地に角柱塔婆があり。境内には右に上げた石塔以外に、周辺の人が持ってきたという五輪塔が10基ほど並んでいる。				20 G-7
135	浅井家前旧墓地五輪塔群	大内	戦国	浅井家の入口手前にある旧墓地に五輪塔がある。				20 G-8
136	鴨川庚申塔脇石塔群	鴨川 中筋	戦国	川の東岸にある庚申塔の周囲に置かれている。				20 G-8
137	西邸宝篋印塔	鴨川 中筋	室町	速見タイプだが、ソケットで重ねている。露盤は蓮子。塔身は赤味がかった安山岩、他は黒味がかった安山岩。杵築市史では江戸中期から後期となっている(ただし、市の文化財台帳では室町となっている)が、中世後期のものである。				20 G-8
138	鴨川丘陵墓地五輪塔	鴨川	戦国	墓地の南端に五輪塔火輪1あり。道の反対側に「正徳」年間の庚申塔あり。				20 G-8
139	愛宕地藏五輪塔群	大内 草場	戦国	高山川を望む丘陵先端の弘法大師40番札所愛宕地藏周辺に五輪塔が集まっている。				20 H-8
140	草場墓地五輪塔	大内 草場	戦国	草場集落の背後の山中にある墓地内に一石五輪塔が1基あり。風化が進む。				20 H-8
141	篠原薬師堂石塔群	大内 篠原	室町～戦国	篠原集落の南の外れ、川沿いに建つ薬師堂の前に石塔群がある。宝篋印塔は基礎に扁平な花卉の表現、塔身は3段に彫り窪めている。				20 G-8
142	篠原道沿い五輪塔	大内 篠原	戦国	道沿いの田の畦に立っている。				20 G-8
143	岩谷御堂石塔群	岩谷 岩谷	室町～戦国	御堂の脇にあり。空風輪は大型、水輪は小さいが首部があるので宝塔かもしれない。				21 C-7
144	岩谷宇都宮邸五輪塔	岩谷	戦国	宇都宮氏宅南側の鹿屋の脇に一石五輪塔1基あり。				21 C-7
145	成久家墓地五輪塔群	大内 篠原	戦国	阿部家横丘陵上の墓地に五輪塔部材がある。				21 G-1
146	奥野家東側墓地	大内 篠原	戦国	集落の墓地の中に五輪塔部材が点在する。				21 G-1
147	東大内山石塔群	大内 東大内山	室町	高台にある長野家墓地に隣接。宝篋印塔は塔身の月輪を彫り窪め、中に墨書で梵字を書く。周囲に五輪塔あり。				21 H-1
148	朝霧神社横墓地五輪塔群	大内	戦国	神社の北側にある墓地の中に五輪塔が点在する。				21 G-1
149	麻生家西側墓地五輪塔群	大内	戦国	径5m、高さ1mほどの塚状の高まりの上に五輪塔空風輪3、地輪1がある。墓地内には一石五輪塔1基が立つ。				21 G-1
150	花木山墓地石塔群	大内 藤川	戦国	藤川公民館南側の丘陵先端にある墓地内に、五輪塔などが集められた一角がある。露盤の表現のあるものを宝塔の笠とした。				21 G-2

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
151	北山稲荷社石塔群	大内	戦国～近世前期	集落を見下ろす北山稲荷大明神境内に宝塔 (h=75cm) と五輪塔火輪がある。				21 F-2
152	小狭間墓地五輪塔群	大内 小狭間	戦国	虚空蔵の西側の墓地に五輪塔が2基ある。				21 F-2
153	小狭間虚空蔵石塔群	大内 小狭間	戦国～江戸初期	虚空蔵菩薩を祀る堂の前に並んでいる。宝篋印塔は連見タイプで存存。隣りに並ぶ宝塔は相輪ではなく蓮弁を刻む宝珠を載せ、「異形国東塔」とされるものである。他に五輪塔部材も集められている。				21 F-3
154	灘手廣田家墓地板碑	守江 灘手	南北朝期?	墓地の中に1基だけコンクリートに固められて立っている。他には中世に遡る石造物はない。国東タイプの板碑なので、最近になって持ち込まれたものかもしれない。				21 H-2
155	八坂神宮石塔群	守江	戦国	鳥居脇に一石五輪塔1 (赤っぽい色の石)、火輪1、本殿裏に水輪1、本殿左横に空風輪1、右横に一石五輪塔1。				21 H-2
156	灘手御堂裏石塔群	守江 灘手	戦国	堂宇の裏に五輪塔部材を集積。				21 H-2
157	瑞雲山延命寺地蔵尊宝塔	守江 迫	戦国	王子橋の交差点から登ってきた道沿いの御堂前に宝塔の笠2、塔身1あり。				21 H-3
158	大聖寺石塔群	守江 東	室町～戦国	参道階段下に五輪塔空風輪2、火輪1、水輪1、地輪1、本堂左手地蔵周辺に五輪塔空風輪4、火輪5、水輪5、地輪2、車進入路脇に五輪塔空風輪17、火輪27、水輪21、地輪4、一石五輪塔4、周辺には江戸期の無縫塔数基あり。				21 H-3
159	守江中尾平墓地石塔群	守江	室町	守江郵便局の角を北上した道脇の墓地の隅にまとめられている。相輪2 (内一つは大型) は宝篋印塔のものか?				21 H-3
160	守江小一郎五輪塔	守江 鍋倉	戦国	小一郎の横に一石五輪塔1、五輪塔2あり。				21 H-4
161	十三仏石殿北側畑石塔群	守江 野辺	室町～戦国	十三仏塔の上の段の畑に宝篋印塔基礎、五輪塔空風輪1、火輪1あり。他に江戸期の五輪塔火輪1あり。				21 H-4
162	十三仏石殿周辺石塔群	守江 野辺	室町～戦国	十三仏が陽刻された石殿の周辺に五輪塔水輪1、火輪1、相輪1、花卉付き基礎1、六角柱状の塔身 (無縫塔?) あり	市有形 (石殿)			21 H-4
163	水月寺跡東墓地石塔群	守江 水月	戦国～江戸前期	墓地の中に五輪塔空風輪5、火輪2、水輪4、一石五輪塔2基、宝塔の基礎 (反花座) 1、相輪1、墓地入口には十王 (6体のみ) あり。十王は近世か。				21 H-4
164	西氏墓地石塔群	狩宿	戦国	国道213号から約150m北に入った丘陵上の西家墓地に連ち並んでいる。コンクリで固められているので、集められたものか。				21 H-5
165	手嶋家裏墓地宝塔	狩宿 狩宿	戦国	国道213号添いの「あすかうどん」西側の交差点を北折、道なりに百数十m行き、左手。江戸前期からの墓地の中に宝塔1基あり。				21 H-5
166	狩宿北部公民館五輪塔	狩宿	戦国	一石五輪塔1 (下半欠) が公民館前にある。				21 H-5
167	手嶋家石塔群	狩宿 美里	室町～戦国	国道213号線添いの山神社の向かい側、バス停「美里」を北に約70m入った左側。空風輪に蓮弁の表現があるものがあるので宝塔もあったものか。				21 H-5
168	手嶋家墓地五輪塔	狩宿 美里	戦国	国道213号沿いの山神社参道脇の手嶋家墓地に一石五輪塔がある。				21 H-5
169	一宿庵石塔群	狩宿 美里	室町	山神社北側300mほどの所。圃場整備された田圃の一角に塚状に残る「一宿庵」跡に石塔群がある。宝篋印塔は連見タイプ。石殿は一部のみ。				21 H-5
170	足立家墓地五輪塔	狩宿 狩宿	戦国	狩宿集落の上を通る林道から30mほど下った所にある足立家墓地にある。				21 H-5
171	狩宿北部公民館前五輪塔群	狩宿 大塚	戦国	一石五輪塔2、空風輪1、火輪1が公民館前に集められている。				21 H-5
172	西園寺跡宝篋印塔	狩宿 大塚	室町	宝篋印塔の笠が、階段登って右手に置かれている。				21 H-5
173	東光寺石塔群	横城	室町	寺院建物周辺に石塔が散在。東光寺旧年の国東塔2基は城山公園へ移動。				21 F-5
174	赤石家五輪塔	奈多	戦国	国道213号から奈多宮方面に入ってすぐの家の庭に五輪塔がある (ひとつは蓮華座があるので宝塔か)				21 H-6
175	奈多宮宝篋印塔	奈多	戦国	奈多宮境内に宝篋印塔が1基ある。笠の三角突起が小さい。				21 H-6
176	地蔵寺池南東墓地五輪塔群	奈多	戦国	地蔵寺池南東にある首藤家墓地に五輪塔がある。				21 G-6
177	首藤家墓地五輪塔群	奈多 浜田	戦国	低丘陵上の墓地の一角に五輪塔が集積されている。				21 G-6
178	雪江院石塔群	奈多	江戸初期	奈多氏の菩提寺といわれる雪江院跡に宝篋印塔と五輪塔が立っている。宝篋印塔は奈多鑑基の墓と言われるが、江戸初期の供養塔である。年号は永禄12年という鑑基没年を刻む。類似の宝篋印塔は報恩寺にもある。	永禄12 (1569)			21 G-6
179	首藤家横五輪塔群	奈多	戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				21 G-6
180	奈多氏墓地石塔群	奈多 北奈多	南北朝～戦国	国道213号を報恩寺から南に250mほど下った西側の丘陵先端部に奈多氏の中世墓地がある。埋もれたものも多いが、宝塔や五輪塔が多数見られる。中世墓地の景観を残している。中心的な宝塔 (市史では異形国東塔) は基礎の返花座の平面観は方形 (山香町の阿弥陀堂の宝塔も方形) で宝珠は花卉付き。		5・46		21 G-6
181	井門家墓地無縫塔群	奈多	戦国	元奈多宮宮司井門家墓地に2基の無縫塔がある。1基は奈多鑑基の父宗心の、もう1基は大友宗麟の妻であった奈多鑑基の娘 (奈多夫人) の墓と言われる。	永禄4 (1561)		42	21 G-6
182	報恩寺石塔群	奈多	南北朝～江戸初期	奈多氏の菩提寺である報恩寺の入口左手に無縫塔3基が並び、本堂横には奈多鑑基の墓と言われる宝篋印塔が、裏山の墓地には五輪塔群がある。無縫塔は府内万寿寺の直翁智侃の十門の一人密室禅師の墓と言われる。宝篋印塔は天正15年という鎮墓没年を刻むが、造塔は江戸初期である。	天正15 (1587)			21 G-6
183	神鳥家裏墓地五輪塔群	奈多	室町～戦国	古町川から北に200mの国道213号沿いの墓地にある。				21 G-6
184	奈多城石塔群	奈多	戦国	奈多城最奥部の土塁上に立つ。新しい石祠の上に重ねられている。相輪は宝塔のものかもしれない。				21 G-6
185	奈多城北墓地五輪塔	奈多	室町	奈多城北側の墓地内に一石五輪塔が1基ある。				21 G-6
186	下霧八幡社石塔群	山香町 久木野尾 久木目久保	室町～戦国	八幡社横の御堂周辺に宝篋印塔や宝塔、五輪塔の部材が集められている。				27 D-4
187	浄専寺石塔群	山香町 久木野尾 口ノ尾	室町～戦国	浄専寺に宝篋印塔の笠、相輪、五輪塔空風輪1、火輪1、水輪1がある。				27 C-4
188	口ノ尾石塔群	山香町 久木野尾 口ノ尾	室町～戦国	小型の宝篋印塔の笠、相輪、基礎がばらばらに置かれている。五輪塔空風輪6、火輪2、水輪10あり				27 B-4

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
		1									1											
2																						
	4	5	5	3	1						2											
																		1				
	1		2																2			
		9	5																			
												2	1									
	23	33	27	7															4			
	12	10	10	11		2																
2																			1			
	1	2						1														
		1	1								1		1					1		1		
	5	2	4								1		1					2				十王石仏(6体)
	29	25	13	13							2	4	3	2								
											1											
																			1			
	4	5	2	2																		
																			1			
			1		1														1		1	
																			2			
	1	1																	1			
							1															
1	1	4	1	2													1					
2																						
					1																	
	2	2	1																			
	5	4	3	2															1			
1					1																	
		2	1	2																		
	4	5	5	1		1	1				1	2	7	2					1			
																				2		
		3	4	2	1																	
		1	1	1																1		
		1				1																
																				1		
	9	16	23	2	2						1	1										
	1	1	1			1	1															
	6	2	10			1	1		1													

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
189	甲斐家墓地 宝篋印塔	山香町 久木野尾	室町	4基有り。内1基は塔身無し。いずれもソケット式で、三角突起は不明。				27 B-4
190	安部家五輪塔	山香町 久木野尾 浄土寺	室町	阿部家の庭に五輪塔部材が置かれている。				27 B-5
191	宇都宮家裏五輪塔	山香町 久木野尾 浄土寺	戦国	宇都宮家の裏に五輪塔部材が置かれている。				27 B-5
192	浄土寺五輪塔	山香町 久木野尾 浄土寺	室町	浄土寺の玄関前に五輪塔1基が置かれている。				27 A-5
193	金重家前石塔群	山香町 久木野尾 蔦田	戦国	家の前に、近世の石造物とともに五輪塔空風輪1、水輪2が置かれている。				27 A-5
194	延命寺石塔群	山香町 南畑上河内	南北朝	延命寺の跡に1基の宝塔とともに、宝篋印塔や宝塔の部材が組み合わされて並んで立っている。もとは散在していたものを集めたという。宝塔には永徳4年の紀年名が刻まれる。宝篋印塔の基礎には蓮花座があるものがある。	永徳4 (1384)	41		27 B-5
195	迫田五輪塔	山香町 日指迫田	戦国	迫田公民館横の御堂前に一石五輪塔が1基 あり。				27 A-6
196	西仲尾宝篋印塔／ 板碑	山香町 野原西仲尾	戦国～江戸初	三社八幡宮境内に立つ。笠の隅飾り突起は小さく、相輪の宝珠下の講花座は平面四角形を呈し、相輪も中膨らみとなるなど新しい要素を持つ。「応安6年」の銘があると云われるが確認出来なかった。	応安6 (1373)	市有形	5	27 A-8
197	舟ヶ尾お弘法様 石塔群	山香町 広瀬舟ヶ尾	戦国	「お弘法様」と呼ばれるところに一石五輪塔1基。さらに続きの丘陵の先端部には一石五輪塔1基、五輪塔火輪3、地輪2が早に埋もれてある。ここには以前国東塔があったという。				28 A-3
198	舟ヶ尾墓地石塔群	山香町 広瀬舟ヶ尾	室町～戦国	墓地の中に小型宝塔の塔身2基、五輪塔空風輪1、水輪1、地輪1が重ねられている。				28 A-3
199	舟ヶ尾大日様 石塔群	山香町 広瀬舟ヶ尾	南北朝～戦国	墓地の一角で天照大神を祀っているところ（「大日様」と呼ばれる）に14世紀と考えられる無縫塔（h=105cm）1基、五輪塔2基、火輪2、水輪1、地輪2が並べられている。				28 A-3
200	生桑寺宝篋印塔	八坂 生桑	室町	生桑寺奥の院にある。透見タイプで、相輪上部は欠ける。				28 A-5
201	生桑寺墓地 五輪塔群	八坂 生桑	鎌倉～南北朝	生桑寺裏の山斜面にある生桑寺の墓地に中～大型の五輪塔が建ち並んでいる。近世の墓地とも重なるが、中世前期の墓地景観をよく残している。五輪塔群は八坂荘の地頭であった八坂氏に係わるものであろう。				28 A-5
202	生桑寺東墓地 石塔群	八坂 生桑	戦国	工藤家裏山、野狐谷池に行く途中の墓地。墓地の中に五輪塔部材が点在する。				28 A-5
203	旧阿弥陀寺石塔群	八坂 熊丸	室町～戦国	阿弥陀寺というお寺が現在の御堂の西側の丘の上にあったが、廃寺になって今の所に石塔群とともに下ろした、という。他に江戸期の宝篋印塔の笠あり。				28 A-6
204	奥家西石塔群	八坂 熊丸	戦国	奥家西側石祠周辺に五輪塔部材が集められている。				28 A-6
205	中野家前墓地 石塔群	八坂 熊丸	戦国	墓地内に五輪塔空風輪6（内1基には花卉あり、宝塔か?）、火輪6、水輪1。他に相輪1あり。				28 A-6
206	大儀寺石塔群	八坂	室町	大儀寺裏の墓地に透見タイプの宝篋印塔1基、五輪塔1基（江戸前期）、火輪1あり。				28 A-6
207	大儀寺北御堂 石塔群	八坂	戦国～江戸初期	大儀寺から200mほど北側の丘陵上の御堂前に宝篋印塔（塔身はなし）がある。基礎の格扶間は連子となり、隅に脚の表現がある珍しいもの。本来相輪下部に付く三角突起は、笠部と一体になっている。相輪は不明。他に五輪塔空風輪1あり。				28 A-6
208	天神山石塔群	中	南北朝～戦国	天神山の墓地の中にある。層塔は工藤祐経の墓といわれる。塔身下部に納入孔があるが、天地逆に重ね直されている可能性がある。周囲に五輪塔や塔身が方柱状の宝塔がある。		市有形 (層塔)		28 B-6
209	松ヶ尾池東墓地 五輪塔群	中	戦国	松ヶ尾池入口の墓地の中に五輪塔部材が点在している。				28 B-7
210	丸尾池北西墓地 五輪塔群	中	戦国	丸尾池背後の丘陵上にある墓地の中に一石五輪塔1基と五輪塔水輪がある。				28 B-7
211	高橋家墓地石塔群	中	室町～戦国	県道八坂真那井線沿いの丸尾池北側にある高橋家墓地に角柱塔婆や五輪塔、宝塔と思われる三段に成形された基礎がある。				28 B-7
212	天神社五輪塔	本庄	戦国	拝殿横に五輪塔火輪2あり。				28 A-6
213	上本庄貴船社 五輪塔群	本庄 上本庄	戦国	貴船社社殿周辺に五輪塔空風輪がある。				28 A-6
214	大昌寺跡石塔群	本庄 上本庄	戦国	「大昌寺板碑」とされるが、自然石塔婆である。もとの大昌寺跡に建つ御堂の横に立つ。肉眼では銘文を確認することは出来なかった。その他石幢や五輪塔の部材がある。	元亀3 (1572)			28 A-6
215	千光寺石塔群	本庄	戦国	境内に五輪塔部材が点在する。元は「東照寺」と呼ばれていたが、江戸期に「東照」を憚って「千光寺」に名前を変えて、現在地に移ったという。				28 A-7
216	東照寺石塔群	本庄	室町	東照寺は今の「千光寺」の前身の寺院跡。開山塔とされている角柱塔婆がある。月輪を彫り窪め、中に墨書で梵字を描く。周囲には五輪塔部材が集められている。				28 A-7
217	穴井宝篋印塔	本庄	室町	岩屋の前に完存の宝篋印塔（透見タイプ）が立つ。岩屋は「穴井の地蔵」と呼ばれているが、道路工事によってやや山側に移動した。洞内には江戸期の石像地蔵が並ぶ。				28 A-7
218	朝日寺墓地塔婆	南杵築 生地	戦国	寺の南脇を抜けて丘陵の先端まで行ったところにある墓地。歴代住職の墓地となっている。自然石の塔婆で、2体の人物を浮き彫りにしている。利益寺のものと同一の構成。	天正17 (1589)			28 A-7
219	朝日寺宝篋印塔	南杵築 生地	室町	山門脇に立っている。相輪上部を欠く。基礎に納入孔を持つ透見タイプの典型である。				28 A-7
220	田縁宝篋印塔群	南杵築 宗近	室町～戦国	住宅に囲まれた一角に宝篋印塔2基や五輪塔部材が集められている。宝篋印塔は2基とも相輪が掛けている。				28 A-8
221	松下家石塔群	杵築	戦国	松下家の庭に五輪塔部材が点在している。				28 A-8
222	新道墓地石塔群	南杵築	室町～戦国	アパート横の墓地に五輪塔部材がある。他に上面に花卉を配する基礎石（側面に蓮華文）あり。宝塔のものか。				28 A-8
223	最勝寺石塔群	南杵築 宗近	室町	宗近中学校東にある最勝寺跡に、無縫塔や五輪塔が近世の石造物とともに最近並べられた。城山公園にはここから移された宝篋印塔2基がある。				28 A-8
224	早鷹天満社五輪塔	南杵築	戦国	宗近中学校南の早鷹天満社境内に五輪塔火輪1あり。				28 A-8
225	妙徳寺石塔群	南杵築 (寺町)	戦国	国東塔と宝篋印塔は境内にあり。国東塔は相輪が折れて接している。宝篋印塔は部材を重ねている。裏の墓地には一石五輪塔がある。				28 A-8
226	東谷池北墓地 五輪塔群	南杵築	戦国	東谷池から50m北にある墓地片隅に五輪塔空風輪1、火輪3がある。				28 A-8
227	東谷池北東墓地 五輪塔	南杵築	戦国	東谷池北東角の墓地に一石五輪塔1基がある。				28 A-8
228	妙経寺石塔群	南杵築	戦国	妙経寺（日蓮宗）墓地に五輪塔2基、一石五輪塔1基がある。他に近世前期の花崗岩製五輪塔、板碑型宝篋あり。日蓮上人450年忌の大型五輪塔（花崗岩製）あり。				28 A-8

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
					4																	
	1	2																				
		2																				
1																						
	1		2																			
	3		2				2	4	3		1		3	1	1							
																			1			
					1													1				
		3	2															2				
	1		1	1									2									
2		2	1	2															1			
					1																	
10																			1			
	1	3	2																1			
	1	4	4	5			1															
	1	2	1																			
	5	6	1				1															
1		1			1																	
	1						1		1	1												
																						1
	1	2	1																			
			1																1			
	9	4	9	2															3		1	
		2																				
	3																					
	2	2		2																	1	自然石塔婆1
	1	1	1																1			
	1	2	1	1															1		1	
					1																	
											1											双体を彫る塔婆1
	2	2			2																	
	2	2	2																			
	1	5	2										1									
	4	3	3	4	2															1		
		1																				
						1	2	1										1		1		
	1	3																				
																			1			
2																			1			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
229	東谷池東墓地五輪塔	南杵 築	戦国	東谷池から200m東の墓地にやや足長の一石五輪塔1基ある。				28 A-8
230	須賀家墓地五輪塔	南杵 築	戦国	やや微高地になった墓地に五輪塔部材が点在している。				28 A-8
231	日野国東塔	日野 野田	南北朝～室町	以前は城山公園に移築していたもの。往還道から少し北に入ったところに再び建てられている。杵築市史で「新庄国東塔」とするもの。				28 B-7
232	新庄集落上往還道沿い石塔群	日野 新庄	室町～近世初頭	集落背後の往還道沿いの地蔵を祀っている所に石塔が重ねられている。五輪塔火輪は近世のもの。花崗岩製の地蔵も中世まで遡るか。				28 B-8
233	工藤家墓地五輪塔	日野 新庄	戦国	集落裏の小山を登ったところにある墓地に一石五輪塔がある。				28 B-8
234	利益寺石塔群	猪尾 三川	戦国期	利益寺（貫言宗）境内にある岩屋内に、自然石を光背型に加工した2基の塔婆と五輪塔部材がある。塔婆はいずれも人物2体を浮き彫りにし、梵字などを刻む。同様の塔婆は朝日寺墓地に1基ある。また境内の弁天堂には石像閻魔王像がある（背中に墨書あり）。	天正10 (1582)			28 B-8
235	利益寺墓地石幢	猪尾 三川	戦国	利益寺裏の台地にある墓地の中に六地藏石幢が立つ。				28 B-8
236	浄願寺石塔群	猪尾 三川	室町	もと浄土宗であった浄願寺の境内にある。宝篋印塔は大型。塔身は4面とも仏像を浮き彫りにする。透見タイプで、相輪下部の三角突起は間が離れており、古いタイプか。周囲には五輪塔が点在する。				28 B-8
237	渡辺家北五輪塔群	相原	戦国	家の庭に五輪塔が積み重ねられている。				28 C-6
238	熊野石塔群	熊野	室町～戦国	田の畦に並べられており、組み合わせはバラバラであるが、首のある塔身と相輪があり、国東塔と思われる。				28 D-8
239	密伝寺石塔群	熊野 年田	南北朝～室町	もと本堂裏山に立っていたという。現在は境内に置かれている。			5	28 D-8
240	片野地藏堂石塔群	片野	戦国	宝財神社から南東に100mのところにある地藏堂横に一石五輪塔1基、空風輪2、火輪4、水輪2、地輪1あり。また、堂内には石造十王あり。8月24日に近くの佐藤家5軒で祭りをする。				29 B-1
241	須崎千人塚	片野 須崎	戦国	杉本某氏宅裏庭に3m×2mで高さ1mほどの塚がある。その周辺に五輪塔部材が数基ある。北側約50mほどのところに昔は塚があったという。				29 B-1
242	高須五輪塔群	片野 高須	戦国	斉藤家庭に20基近い五輪塔が積み重ねられているが、正確な数は不詳。現在猪尾にある浄願寺が昔は高須にあったとされており、それに係わる石塔群か。				29 B-1
243	高須御堂石塔群	片野	室町～戦国	御堂に登る道の左側崖に宝篋印塔が逆さまに立てかけられている。山の上の境内には六地藏石幢（竿はない）あり。				29 B-1
244	阿部家墓地石塔群	熊野 年田	南北朝～室町	密伝寺向かいの山にある墓地。無縫塔は中台部分のみ、南北朝期か。				29 D-1
245	熊野御堂石塔群	熊野	戦国	高台にある堂の前に五輪塔が置かれている。				29 D-1
246	原南御堂五輪塔群	熊野 原南	戦国	御堂前に五輪塔空風輪4、火輪1が置かれている。				29 D-1
247	阿部家祭祀場五輪塔	熊野	戦国	阿部一族がお祭りをしているという石祠周辺に五輪塔部材がある。				29 D-1
248	キャンノン西側墓地石塔群	熊野	室町	熊野原南の旧墓地で、五輪塔の部材が点在している。				29 E-1
249	加貴地藏五輪塔	熊野 加貴	戦国	地藏があるところに五輪塔空風輪1がある。				29 E-1
250	愛宕地藏五輪塔群	熊野 加貴	戦国	愛宕地藏尊のある丘陵頂部に五輪塔が点在する。				29 E-1
251	荒巻家古墓地石塔群	熊野 加貴	戦国	少し山に入った荒巻家古墓地に石塔がある。				29 D-2
252	加貴東屋敷五輪塔群	熊野 加貴	戦国	通称「東屋敷」の造成の際、横の畑にあった五輪塔を道を挟んだ一角に移し替え、並べたという。今も、旧在の「東屋敷」東側には一部五輪塔が残されている。				29 D-2
253	熊野石祠横宝篋印塔	熊野	室町	宝篋印塔の笠1が江戸期の石祠横におかれている。				29 E-2
254	熊野旧墓地五輪塔群	熊野	戦国	もと墓地があったところに五輪塔部材がある。				29 E-2
255	見常寺五輪塔群	熊野	戦国	もと見常寺があったと言われる御堂前に石塔が並べられている。				29 E-2
256	見常寺奥墓地五輪塔群	熊野	戦国	見常寺から奥に入った墓地に五輪塔部材が点在している。				29 E-2
257	城山石塔群	城山公園	南北朝～室町	城山公園には市内各所にあった石塔が集められている。主なものだけでも国東塔は6基、宝篋印塔は5基、無縫塔は2基、五輪塔数十基がある。その内、旧所在地が判るものは、国東塔2基が東光寺、2基が鴨川区、1基が奈多区、宝篋印塔2基が最勝寺、1基が高須御堂、1基が熊丸阿弥陀寺である。		市有形		29 A-1
258	御塔山国東塔	狩宿 美濃崎	戦国末期～江戸初頭	凝灰岩製の国東塔。銘には「明応3年」とあるが、石塔は蓮弁や格状間の文様から戦国末期から近世初頭のものとの推測。	明応3 (1494)			29 B-5

塔形及び個体数																										
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形				
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身									基礎	基壇		
																		1								
	6		1																							
																		1								
	1	1		1				1																		
	3							1																		双体を彫る塔婆2基、 間魔像1体
																										1
		2	2	1	1																					
	1	3		1																						
	18	6	11	5								1	1													
																		2								
	2	4	2	1																						十王石像10体
	1	1																								
(20)																										
	1	2	6	4																						1
		2		1																						1
	4	1																								
	1	1																								
1	2	1																								
	1																									
		2	2	1																						2
	3	4	3									1	1													
	60	29	54	62																						
																										1
		1		1																						
		3	3	10																						1
		1	3	1																						
(数十基)																		6								2

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	上川久保宝篋印塔	藤原 上川久保	室町	笠の一部を欠くがほぼ完存の宝篋印塔1基と一石五輪塔などが御堂横に並べられているが、これらは近年現在の場所に移されたものである。宝篋印塔は速見タイプで、やや古い様相を持つ。				20 H-4
2	高平墓地五輪塔群	南畑 高平	戦国	県道別府山香線沿いの南畑コミュニティセンター北側の墓地内に五輪塔空風輪1、火輪1、水輪2、地輪2ある。				27 F-6
3	三重家墓地五輪塔	南畑 目刈		目刈バス停を30m下った左側の墓地の中に五輪塔水輪1ある。				27 G-6
4	中山家宝篋印塔	南畑 目刈		宝篋印塔の笠のみで、中が彫られて仏像を入れている。				27 G-6
5	大智寺石塔群	南畑 目刈	室町～江戸前期	大智寺本堂前の境内に宝塔1基、裏の畑中に五輪塔1基がある。				27 G-6
6	目刈大師堂石塔群	南畑 目刈	南北朝～室町	大智寺から大師堂へ下る道や大師堂の前に宝塔や一石五輪塔、五輪塔部材、宝篋印塔部材が並べられている。宝篋印塔は速見タイプ。				27 G-6
7	目刈石幢と五輪塔	南畑 目刈	戦国	目刈の道沿いに六地藏石幢がある。白っぽい安山岩製。笠には垂木の表現がある。また周囲には五輪塔部材がある。				27 G-6
8	海門寺石塔群	平道	室町～戦国	境内に宝篋印塔あり。ただし、幾つかの石塔部材を重ねている。また裏山の住職墓地には一石五輪塔や五輪塔部材が並べられている。				27 G-8
9	工藤家五輪塔	平道	戦国	小溝橋のたもとに五輪塔1基と五輪塔火輪1（花崗岩製）がある。				27 G-8
10	稲荷社五輪塔	平道	戦国	平道の稲荷社に五輪塔空風輪1がある。				27 G-8
11	法花寺宝篋印塔	豊岡 法花寺	戦国	石段を登って境内左手に大型の宝篋印塔がある。相輪と下部が欠損。速見タイプ。				27 D-8
12	薬師丸墓地五輪塔群	豊岡 薬師丸	戦国	墓地内の2箇所にあり。五輪塔火輪5、水輪1、地輪1。				28 F-1
13	竹下・阿部家墓地石塔群	豊岡 法花寺	戦国	墓地の中の2箇所に分かれて五輪塔がある。手前の方に火輪2、水輪2、地輪3で、奥の方に空風輪8、火輪5、水輪8、地輪8、一石五輪塔1、宝塔1がある。				28 E-1
14	大山祇神社参道石塔群	豊岡 永西	室町～戦国	参道登り口墓地に五輪塔火輪1、水輪5、地輪1。参道南側尾根上の墓地に五輪塔火輪6、水輪5、地輪7。他に宝篋印塔1基あり。				28 F-1
15	幸松家五輪塔	豊岡 永西	戦国	友安川に接する幸松邸の角に五輪塔火輪1、水輪1がある。				28 F-1
16	工藤家裏墓地五輪塔群	豊岡 永西	戦国	工藤家の裏の墓地に五輪塔空風輪1、火輪5、水輪1、地輪3が集積されている。				28 F-1
17	羯諦寺石塔群	豊岡 永西	戦国～江戸前期	羯諦寺（臨済宗）本堂裏に江戸期の臺標とともに宝篋印塔や五輪塔の部材が並べられている。				28 E-1
18	峰ノ後宝塔	豊岡 峰ノ後	室町～戦国	宝塔2基が並んで立っている。1基は文様のない返花の上に天地逆に塔身が据えられている。もう1基は梵字を持つ長胴のもの。				28 E-1
19	八津嶋神社鳥居と宝篋印塔	豊岡 是城	戦国	大友宗麟が永禄7年に寄贈したとされる鳥居（二の鳥居）がある。足を中程で接しており、古式である。貫は新材である。また、参道脇には岩の上に塔身から上の宝篋印塔が立てられている。相輪は別材か。	町有形（鳥居）			28 E-1
20	影の木墓地五輪塔群	豊岡 是城	戦国	墓地の中に五輪塔空風輪6、火輪6、水輪5、地輪1が点在している。				28 F-1
21	一宮家古墓石塔群	豊岡	戦国～江戸前期	一宮家の古墓に五輪塔空風輪4、火輪4、水輪4、地輪3と相輪1がある。				28 F-1
22	上栗木五輪塔群	豊岡 上栗木	室町～戦国	五輪塔2や空風輪1、火輪1、地輪1などが集められている。周辺であつた戦の戦死者の供養塔という。				28 F-1
23	辻間氏墓地石塔群	豊岡 是城	江戸前期～中期	宝篋印塔から崩れた臺標3基と宝塔から崩れた臺標4基ある。中世にこの地を支配した辻間氏の墓地である。				28 E-1
24	建福寺石塔群	豊岡 是城	室町～江戸前期	門を入ってすぐ右手に五輪塔が1基あるが組み合わせは当初のものではない。他に五輪塔空風輪5、火輪2がある。また本堂左手には宝篋印塔笠1、五輪塔水輪2、宝塔相輪1、宝塔笠1あり。本堂裏開山塔横には五輪塔1がある。				28 E-1
25	是城墓地五輪塔群	豊岡 是城	戦国～江戸前期	阿部家墓地には五輪塔空風輪2、火輪2、水輪1。東側墓地には五輪塔空風輪2、火輪4、水輪5、地輪2がある。				28 E-1
26	足立妙見尊五輪塔群	豊岡 是広	戦国	足立妙見尊様の墓地に五輪塔空風輪8、火輪3、水輪6、地輪5が並べられている。				28 E-2
27	北峯神社東五輪塔	日出 上仁王	戦国	道端の石祠周辺に五輪塔空風輪8、火輪3、水輪2、地輪1がある。				28 E-2
28	上仁王墓地石塔群	日出 上仁王	戦国	墓地の中に火輪2がある。別に相輪1がある。				28 E-2
29	松屋寺石塔群	日出 平	室町	松屋寺裏の墓地に宝篋印塔の笠がある。その他、江戸期の五輪塔型臺標が多数ある。また、松屋寺には室町期の笠塔婆があるようになっているが未確認。				28 E-2
30	日出藩主木下家墓塔群	日出 平	近世	松屋寺墓地に34基の大型五輪塔がある。関ヶ原後の慶長6年に日出藩主となった豊臣家ゆかりの木下家墓地である。				28 E-2
31	尾園宝篋印塔	藤原 尾園	南北朝	相輪と塔身（梵字あり）各1あり。宝篋印塔と思われる。				28 D-3
32	覚雲寺石塔群	藤原 覚雲寺	南北朝～室町	奥の墓地に無縫塔か2基並んでおり、横には宝篋印塔がある。周囲には五輪塔部材がある。境内鐘突堂脇や門跡の横にも五輪塔や宝塔の部材が点在する。		5		28 D-3
33	清水観音堂宝篋印塔	藤原 清水	室町	石段を登り付いた観音堂境内左手に宝篋印塔1基が立つ。また、その他五輪塔部材がある。宝篋印塔は完存しており速見タイプの典型である。				28 B-3
34	二宮家墓地石塔群	藤原 辻谷	南北朝～室町	願成就寺の西500mにある墓地の中に総高3m近い大型の国東塔が1基あり、墓地には多くの五輪塔部材が点在する。国東塔は、願成就寺のものと同巧であるが、やや硬化している。				28 A-4
35	願成就寺石塔群	藤原 赤松	鎌倉～南北朝	参道右手に大型で優美な国東塔が1基立つ。応長元年建立で、基礎に3区の格狭間を持つ。蓮弁は縦線入りで、この地域に特徴的なものである。また、門の前には丸彫りの十王像が並べられている。さらに境内裏手の池周辺には板碑が3基立つ（内1基は頭部のみ）。いずれも葉形彫りで梵字を刻む。貞和2年の板碑は願成就寺に隣接する牧峯神社旧在のもの。もう1基には貞治5年銘がある。また、境内には50～60基の五輪塔が点在している。	応長元(1311) 貞和2(1346) 貞和5(1349)	県有形(国東塔)	5 29 39	28 A-4
36	下川久保宝篋印塔・国東塔	藤原 下川久保	南北朝	下川久保の地藏堂（現公民館）前にいずれも完存の康応2年の銘を持つ宝篋印塔と永承4年の銘を持つ国東塔が並んで立っている。宝篋印塔の康応2年は、速見タイプの中ではこの地域では最も古い。	康成2(1390) 永和4(1378)	県有形(2基とも)	5 29	28 A-4
37	大津庵石塔群	藤原 後大津	戦国	赤松峠にある大津庵周辺に五輪塔部材や宝篋印塔部材が集積されている。また、御堂横の斜面には十王と思われる石仏が半ば埋もれている。十王像は江戸時代。				28 C-4
38	前大津湧水五輪塔群	藤原 前大津	戦国	湧水点周辺に五輪塔空風輪6、水輪2、地輪3がある。				28 C-4
39	陣の辻五輪塔	藤原 陣の辻	戦国～江戸前期	墓地に五輪塔火輪2がある。				28 C-4
40	藤原小学校北側墓地石塔群	藤原	江戸前期	墓地の中に五輪塔1基（江戸時代前期）、五輪塔火輪1がある。				28 C-4

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
41	笹原稲荷社五輪塔	藤原 笹原	戦国	稲荷社の境内に五輪塔火輪1がある。				28 C-4
42	釈迦堂石塔群	藤原 畑内	戦国	釈迦堂前に宝篋印塔の相輪の一部（速見タイプ）や五輪塔部材が並べられている。室内の石仏（釈迦如来坐像）も中世に遡るか。				28 D-4
43	安養寺五輪塔群	藤原 安養寺	戦国～ 江戸初期	墓地の中に一石五輪塔や五輪塔部材がある。存存のやや大型の五輪塔は近世か。				28 D-4
44	東部自治公民館横五輪塔	藤原 成田尾	戦国	猿田彦石塔の脇に五輪塔火輪1が置かれている。				28 D-4
45	成田尾観音堂裏墓地五輪塔群	藤原 成田尾	戦国	観音堂の裏手にある墓地に五輪塔空風輪4、水輪1がある。				28 D-4
46	上林墓地五輪塔	藤原	戦国～ 江戸初期	五輪塔1基が墓地に立っている。				28 D-4
47	和泉水神五輪塔群	藤原 和泉	戦国	和泉水神横の宅地角に五輪塔空風輪1、水輪1、地輪2がある。				28 D-3
48	日の出霊園横五輪塔群	藤原 鱈沢	室町～戦国	日出霊園横の墓地に一石五輪塔1、五輪塔空風輪7、火輪7、水輪8、地輪6と返花を持つ宝塔の基礎がある。				28 E-3
49	妙光寺石塔群	日出 内堀	江戸時代前期	墓地の中に10基の五輪塔型墓標あり。[妙法蓮華経]と刻む。また、9基のらん塔あり。内部には小型の五輪塔が入っているものあり。元禄13年の銘あり。妙光寺は藩主ゆかりの寺院である。				28 E-3
50	手嶋家横石塔群	川崎 宗行	室町～戦国	J R日豊線沿いの畑地の横に、宝篋印塔の笠や五輪塔部材などが積まれている。				28 E-3
51	竹光家墓地五輪塔	川崎 成行	戦国	成行墓地の北東にある竹光家墓地に五輪塔1基がある。				28 E-4
52	成行墓地五輪塔群	川崎 成行	戦国	墓地内の3箇所にまとまって五輪塔部材がある。				28 E-4
53	則次東墓地五輪塔	川崎 則次	戦国	則次グラウンド横の墓地に五輪塔空風輪2、水輪1がある。空風輪の一つは大型である。				28 E-4
54	則次西墓地五輪塔群	川崎 則次	室町～戦国	墓地の中に六地藏石幢の麓部と中台や五輪塔部材が並べられている。いずれも当初の組み合わせを失っている。				28 E-3
55	日出駅東墓地石塔群	川崎	室町～戦国	J R日出駅東の100m東にある墓地の中に、角柱塔婆、宝篋印塔、宝塔、五輪塔などが立っているが、すべて本来の組み合わせを失っている。				28 E-4
56	生目神社五輪塔	川崎	戦国	生目神社の境内に五輪塔空風輪が1基ある。				28 F-4
57	丸尾五輪塔	川崎 丸尾	江戸前期	丸尾の草地の中に五輪塔1基が祀られている。形態から江戸時代前期のものである。				28 F-3
58	愛宕神社石塔群	大神 辻ノ堂	戦国	真新しい境内に宝篋印塔相輪（速見タイプ）と大型の宝塔相輪が立てられている。				28 D-5
59	常照寺石塔群	大神 南大神	室町	常照寺の境内に五輪塔部材が点在する。梵字を刻むものあり。				28 D-5
60	朝日寺墓地石塔群	川崎 辻の尾	戦国～ 江戸前期	辻の尾の朝日寺横の墓地に五輪塔と宝塔の部材が散在している。				28 E-4
61	大峯お堂五輪塔群	川崎 大峯	室町～戦国	川崎大峯バス停横のお堂脇に五輪塔部材が集められている。				28 E-5
62	多良殿館南五輪塔群	大神 東大峯	室町～戦国	多良殿と言われる土塁で囲まれた館跡の南側の墓地に五輪塔がある。				28 E-5
63	吉良弾正供養塔周辺石塔群	大神 中村	戦国～ 江戸前期	弾正踏切の脇にある小さな社周辺に五輪塔や宝塔の部材が並べられている。この内のどれかが吉良弾正の供養塔という。				28 E-5
64	中村御霊社石塔群	大神 中村	戦国	中村の御霊社周辺に五輪塔部材と宝篋印塔相輪（速見タイプ）1がある。				28 E-5
65	石松城石塔群	大神 石松	室町	石松城は土塁と堀で囲まれた大神氏の館。内部には五輪塔空風輪2、火輪2、水輪4、地輪2が点在する。				28 E-5
66	ゴンバイ石塔群	大神 中村	室町～戦国	3件並んだ「厩」家は、通称「ゴンバイ」と言う。家人によると、「御馬所」の謂いとい、大神八幡社との関係があるという。庭に五輪塔部材が散在している。				28 E-5
67	常楽寺石塔群	大神 中村	戦国～ 江戸初期	大神氏の菩提寺であった常楽寺に五輪塔空風輪1、火輪4、水輪5、地輪4や相輪がある。五輪塔は江戸期に下る。				28 E-5
68	おひがし大神原山地蔵堂石塔群	大神 大原	室町～戦国	原山の地藏堂前の墓地の一角に角柱塔婆や五輪塔の部材が集められている。				28 E-6
69	大神大原河野家墓地五輪塔	大神 大原	戦国	墓地の中に五輪塔空風輪1あり				28 E-6
70	大神大原墓地五輪塔群	大神 大原	戦国	墓地の中に五輪塔火輪3、水輪3あり				28 E-6
71	大神大原石塔群	大神 大原	室町～戦国	江戸期の石祠の周りに宝篋印塔や五輪塔の部材が集められている。				28 E-6
72	浮島神社宝塔	真那井	戦国～ 江戸初期	境内北側の道路沿いに宝篋印塔のものと思われる相輪1がある。				28 E-7
73	真那井渡辺家墓地石塔群	真那井	戦国	真那井公民館北側の旧道添い渡辺家墓地に五輪塔火輪2、水輪2がある。				28 E-7
74	真那井公民館石塔群	真那井	室町～戦国	真那井公民館の横に五輪塔部材と宝篋印塔の笠がある。				28 E-7
75	藤原邸前五輪塔	真那井	戦国	五輪塔1基が家の前に置かれている。				28 E-7
76	堤ヶ迫池 南西墓地五輪塔群	真那井	戦国	丘陵先端部の墓地の中に五輪塔部材が1箇所に集められている。				28 D-7
77	旧宝積寺西側墓地石塔群	大神 軒ノ井	戦国	宝積寺から西に150mほど行った所の墓地に五輪塔の部材がある。				28 F-6
78	旧宝積寺裏旧道添い五輪塔	大神 軒ノ井	戦国	道端に一石五輪塔の残欠1あり。				28 F-6
79	旧宝積寺石塔群	大神 軒ノ井	南北朝～戦国	もと宝積寺があった公民館には石造物の集中地点が2箇所ある。一つは五輪塔や宝塔、宝篋印塔部材が集められている建物裏。もう1箇所は山門周辺である。門の左には宝篋印塔、右には宝塔が立ち、さらに門を入って左手に五輪塔の部材が集められている。宝塔相輪としたものは請花を刻む宝珠形のものである。			5	28 F-6
80	政所五輪塔群	大神 軒ノ井	室町～戦国	「佐藤家累代の廟」の周囲に五輪塔部材が集められている。佐藤家は「北政所」に居住する一族で、石塔も本来北政所にあったものか。				28 F-7
81	深江神社五輪塔	深江	戦国	深江港を望む深江神社の参道を登って鳥居左側に五輪塔火輪1ある。				28 G-6
82	中山家墓地五輪塔群	大神 牧の内	室町～戦国	深江の養魚池東にある墓地に五輪塔部材が集められている。				28 G-7

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	天間石幢	天間5組	戦国～江戸前	吉田邸の庭に六地藏石幢が立つ。五輪塔部材を重ねており、当初の姿は失われている。				27 H-3
2	正圓寺宝篋印塔	天間5組	室町	境内に宝篋印塔の笠がある。正圓寺は中世は天台宗であったといわれ、その時は300m西側の「天高堂」の場所であったという。				27 H-3
3	大所御堂石塔群	大所2組	戦国	大所バス停横の御堂周辺に五輪塔の部材が集められている。				27 G-7
4	大所五輪塔群	大所2組	戦国	大所の墓地の向かい側の道脇に五輪塔部材が集められている。				27 G-7
5	小坂御堂石塔群	小坂1組	室町	小坂の西の端、県道218号から少し東に入ったところに小さな御堂がある。その横に宝篋印塔が立っており、周辺には五輪塔が集められている。				27 G-7
6	小坂毘沙門堂裏五輪塔群	小坂6組	室町～戦国	毘沙門堂裏手の館林の中に五輪塔の部材が散らばっている。おそらくあまり原位置を動いていないと考えられる。				27 G-8
7	小坂戸口家横五輪塔群	小坂6組	戦国	五輪塔の空風輪1、火輪1、水輪1、地輪1が置かれている。				27 G-8
8	小坂加藤家前五輪塔群	小坂6組	戦国	五輪塔の空風輪1、火輪1、一石五輪塔1基が置かれている。				27 G-8
9	小坂平川家前五輪塔	小坂6組	戦国	一石五輪塔1基が置かれている。				27 G-8
10	小坂毘沙門堂石塔群	小坂6組	室町～戦国	小坂集落の北の外れにある毘沙門堂の周囲に一石五輪塔1基、五輪塔 空風輪1、火輪1、水輪1がある。宝塔の回りに置かれたような状態である。				27 G-8
11	小坂墓地五輪塔群	小坂6組	室町～戦国	墓地の中にあり。五輪塔 空風輪1、火輪2、水輪2、地輪2				27 G-8
12	松田家一石五輪塔	小坂6組	戦国	昔は田の畔に立っていたという。かなり形の崩れた一石五輪塔である。				27 G-8
13	天間鑑真堂横石塔群	天間3組	戦国	五輪塔が7基程度ある。今は天間の集落内にある浄土真宗正圓寺が、真宗寺院になる前に鑑真和尚を祭っていた時の寺院跡という。				35 A-3
14	御嶽権現宝塔	東山	鎌倉	鶴見山麓の御嶽権現社境内に立つ宝塔で、相輪先端部を欠く。塔身の四方を舟形に彫り込んだ中に阿弥陀、釈迦、薬師、観音を半肉彫りで表す。笠には垂木の表現があり、相輪の請花座には縦筋を入れる。	元亨2 (1322)	県有形	29	35 F-5
15	安楽寺石塔群	東山 城島		他所から持ってきたという五輪塔の火輪が境内に置かれている。				35 H-5
16	西念寺石塔群	内蔵	室町～戦国	真宗寺院西念寺境内に一石五輪塔1基と五輪塔1基（ただし、空風輪の代わりに相輪がある）、五輪塔の空風輪1、水輪1が点在する。				35 A-8
17	内蔵恒松家石塔群	内蔵5組	南北朝～室町	県道別府山香線に西に登り付いた谷の奥に近い恒松家の庭に、板碑や五輪塔部材を立て並べている。中央には相輪を載せる塔身に金剛界四仏の種子を彫る塔（望月「角塔婆」とする）が立つが、塔身はあるいは宝篋印塔のものかもしれない。板碑には薬師の種子が刻まれている。			5	35 A-7
18	内蔵天黒入口墓地五輪塔群	内蔵3組-5	室町～戦国	県道別府山香線のすぐ脇にある墓地に五輪塔の空風輪8、火輪1、水輪6、地輪7がある。中には中型の五輪塔も含む。				35 A-8
19	龍門社観音堂石塔群	内蔵	南北朝～戦国	龍八幡社の参道左手にある観音堂前に、笠塔婆と板碑、五輪塔、宝塔などが並べられている。笠塔婆は高さ1.1mで、塔身の四面を舟形に彫り窪めた中に四方仏を半肉彫りで表す。笠の上に宝珠を載せる。板碑はキリクを薬師彫りする。				35 A-8
20	和幸苑奥墓地宝塔	野田4組-1	室町	和幸苑から北東に入った墓地に宝塔の塔身（梵字あり）1基、宝塔の宝珠（線刻あり）1基がある。				35 B-7
21	北鉄輪浄香寺北交差点五輪塔群	北鉄輪5組	戦国	一石五輪塔1基、五輪塔火輪1、水輪1、相輪1がある。				35 B-7
22	高山邸隣接墓地五輪塔	野田3組	戦国	墓地の裏に一石五輪塔1基あり。ずんぐりした形。				35 B-8
23	大園邸隣接墓地五輪塔群	野田3組	戦国	墓地の中に空風輪1、水輪1、地輪1が置かれている。				35 A-8
24	亀川中央御堂周辺五輪塔群	亀川中央6	室町	北部中学から下ってくるヘアピンカーブを抜けた所の道下にある御堂周辺に五輪塔が散在している。五輪塔の中には中型のものあり。				35 A-8
25	龍門氏墓地石塔群	野田	鎌倉～室町	現在3箇所に石塔がまとめられている。一つは参道階段を上り付いたところで、あとは本殿裏の右手と左手である。特に奥の有形文化財に指定されている大型の五輪塔は左手に並べられたものである。全体では五輪塔、宝塔、角塔婆、板碑など23基となる。大型の五輪塔にあるとされる紀年名は確認出来ない。	嘉元4 (1307) 暦応2 (1339)	県史跡/ 県有形 (大型五輪塔3基)	5 29	35 B-8
26	御霊社参道入口横地蔵脇五輪塔	野田3組	戦国	御霊社に入る道沿いに五輪塔空風輪1、火輪1が置かれている。				35 B-8
27	恒松家墓地石塔群	野田1組-2	戦国～江戸初期	御霊社の150m南西の丘陵上にある恒松家墓地に、宝篋印塔から型式変化した2基の墓標や五輪塔部材、宝塔の部材などが散在している。				35 B-8
28	田中邸五輪塔群	北鉄輪3組-2	室町～戦国	敷地角に集積。五輪塔空風輪15、火輪4、水輪1、地輪4がある。				35 B-7
29	稲荷社五輪塔群	北鉄輪2組の1		稲荷社の脇に五輪塔空風輪2がある。80年くらい前に火災にあった。石塔は周囲にあったものを集めたという。				35 B-7
30	西福寺六地藏石幢	鉄輪	戦国～江戸前期	西福寺境内に六地藏石幢が1基立っている。				35 B-7
31	観音寺裏山西下墓地石塔群	亀川四の湯町二区3組	戦国	観音寺裏山の西側下にある墓地に五輪塔部材がある。				35 B-8
32	観音寺裏山石塔群	亀川四の湯町二区3組	南北朝～戦国	黄檗宗観音寺の裏山にある墓地に五輪塔が散在している。その内の一つは江戸期以降の墓壇上に立てられており、大友持圓の墓と言われている。				35 B-8
33	観音寺石塔群	亀川四の湯町二区3組	南北朝～室町	観音寺山門脇に2基の石塔が立ち並べられている。また、門前には板碑が1基ある。宝塔は単弁の返花座で格座間を持つ基礎と一石。全体のバランスが悪く本来のものではない。横の1基は宝篋印塔の笠を重ねる。笠は戦国期から近世初頭。梵字を刻む塔身は南北朝期から室町。				35 B-8
34	佐藤家五輪塔	上平田町	戦国	屋敷を囲む土塁の上に、五輪塔部材が並べられている。				35 B-8
35	上人小学校北側墓地宝篋印塔	上平田町3組	室町	宝篋印塔の笠部が墓地の中に置かれている。				35 B-8
36	神和苑石塔群	鉄輪	室町～戦国	板碑（永正11）と石幢（永享2）が神和苑の入口に近いところにある。いずれも他所から持ち込まれたもの。	永正11 (1514) 永享2 (1430)	市有形	39	35 B-7
37	白池地獄石塔群	鉄輪 御幸	室町	国東塔と宝篋印塔、六地藏石幢が白池地獄にある。いずれも他所から持ってきたものである。石幢は永禄11年銘を持ち、形態から福岡・佐賀方面からのものである。	永禄11 (1568)	県有形 (国東塔・石幢)	29	35 C-7

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身									基礎	基壇
		1	1																		1			
							1																	
	1	4	2	2																				
	1	2	1	1																				
	1	5	2	2	1																			
1	9	13	15	3																				
	1	1	1	1																				
	1	1																			1			
																					1			
	1	1	1								1										1			
	1	2	2	2																				
																					1			
	7	4	3	1				1																
											1													
		1																						
1	1		1																		1			
	1	1	5					1			1	1	1								4			
	8	1	6	7																				
5																					1	1	1	笠塔婆1
											1		1											
		1	1					1													1			
																					1			
	1		1	1																				
	2	2	6	2																				
5	5	8	5	7				1			1			4	1						2		2	
	1	1																						
	1	10	8	9	2	2							1								1			
	15	4	1	4																				
	2																							
																								1
		4	1	2																				
	57	36	31	31																		2		
								1			1			1	1						1			
	1	3	1	1																		1		
								1																
																						1		
																						1		
																						1		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
38	やすらぎ霊園先五輪塔	明巖5組の2	戦国	やすらぎ霊園先の交差点に五輪塔火輪1、地輪1が祀られている。				35 C-6
39	殿湯石塔群	小倉	室町～江戸初期	殿湯の裏山に石幢を中心として、角柱塔婆や五輪塔が散在している。石幢は六地藏+2体の浮き彫りをほどこす。				35 C-6
40	火男火売神社宝篋印塔	火売8-1 火男火売神社	戦国期	現在神社境内に江戸期の石塔とともに並べられているが、スキブラザ別府の西側2軒目(馬場1組の1)のところに旧在という。相輪上部欠く。透見タイプで、基礎には花卉の表現がある。				35 C-7
41	古殿板碑・古殿石塔群	火売4組の2(字古殿)	室町	最近現在の墓地に移された。板碑の周辺に五輪塔部材が集められている。		市有形(古殿板碑)		35 C-7
42	竹の内五輪塔群	竹の内5組の2	戦国	石を積み上げた塚の上に立て並べられている。塚は5m四方くらい。五輪塔2基と空風輪2、火輪2、水輪2、地輪2がある。				35 D-7
43	大平山小学校南墓地五輪塔	竹の内8組の2	戦国	五輪塔水輪2が置かれている。				35 D-7
44	大野家墓地五輪塔群	竹の内4組の2	戦国	蓮台寺跡のすぐ北側にある墓地に五輪塔部材が並べられている。				35 D-7
45	蓮台寺石塔群	竹の内3組の2	室町～戦国	大平山小学校の北東にある蓮台寺跡に、五輪塔200程程が整然と並べられている。積み重ねられているため正確な数は不明であるが、市内で最大の石塔点数である。				35 D-7
46	火男火売神社宝篋印塔旧所在地	北中		現在は火男火売神社境内に移設(40)				35 C-7
47	大畑石塔群	大畑1組の1	南北朝～戦国	大畑の住宅街の一角に、六地藏石幢を中心として角柱塔婆や五輪塔などが集中して立てられたところがある。角柱塔婆は無銘で、切込みは深く頭部は尖っている。				35 D-7
48	得生寺五輪塔	新別府4組	戦国	五輪塔1基が境内に立っている。				35 C-8
49	中須賀元町墓地石塔群	中須賀元町7組	南北朝～室町	墓地の中に、五輪塔の水輪と考えられる大きな石材がある。直径は65cm、高さは50cmある。下には地輪と思われる石材を据える。幅78cm、高さは30cm。横には、五輪塔の地輪らしきものがある。また、周辺には小さな五輪塔の石材が2点ある。				35 C-8
50	中須賀元町小堂石塔群	中須賀元町6組	室町～戦国	五輪塔が基壇上に約30基集積されている。内1基は一石五輪塔。基壇は幅2.8m、奥行き2m、高さ1mである。基壇横には相輪1基がある。				35 C-8
51	実相寺山石塔群	実相寺	南北朝	別府の市街地中央にある実相寺山の山頂に大型の板碑が1基立つ。周囲には五輪塔や宝塔の部材が集められている。板碑は釈迦を表す「ハク」の梵字を篆影りする。額の出は小さい。				35 D-8
52	山本家墓地五輪塔群	石垣西9丁目	戦国	五輪塔空風輪2、火輪3、水輪3、地輪3が墓地の中に集められている。				35 D-8
53	旧実相寺石塔群	実相寺	室町～戦国	元の実相寺があったとされる地点に宝篋印塔を中心とした石塔群がある。現在は当初の組み合わせを失っているが、比較的大型の宝篋印塔が4基はあったものと思われる。				35 D-8
54	目齒頭地藏五輪塔群	実相寺3組の4	戦国	旧実相寺所在地の東にある目齒頭地藏のところに十数基の五輪塔部材が集積されている。				35 D-8
55	南須賀墓地五輪塔群	南須賀4組の2	室町～戦国	実相寺山の裾を通る旧道沿いの墓地に五輪塔部材が点在している。やや大型のものもある。				35 D-8
56	美容室前石塔群	石垣西8丁目	戦国	コンクリで固められた一角に江戸期の石祠などとともに並べられている。				35 D-8
57	吉弘統幸墓	石垣西6丁目	江戸前期	石垣原合戦で戦死した吉弘統幸の墓とされる。吉弘神社本殿裏手に立つ自然石塔婆で、前面は平滑に削り顔の突出もあるなど板碑の形式を踏んでいる。頭部は丸く加工している。銘は無い。横に豊島石製のラントウ一基がある。				35 D-8
58	千足ビル西石塔群	石垣東6丁目	室町～戦国	小堂の前に宝篋印塔や五輪塔の部材が集められ、重ねられているが、当初の組み合わせを持つものは無い。				35 D-8
59	墓堂墓地石塔群	緑ヶ丘町	戦国	一石五輪塔1、五輪塔空風輪9、火輪3、水輪12、地輪5が大きく2箇所に分かれて分布している。				35 D-8
60	矢城五輪塔	石垣西5丁目		駐車場の脇に五輪塔の水輪が置かれている。				35 D-8
61	東荘園墓地石塔群	東荘園町	戦国～江戸前期	中部中学校南側の墓地の中に宝篋印塔から崩れたような塔1基、宝篋印塔の部材や宝塔、五輪塔部材などが点在している。宝塔は塔身が方柱状になるもの。寛永2年の宝塔は「寛永キリシタン塔」として別府市有形文化財。	市有形(宝塔)			35 E-8
62	万松寺五輪塔群	天満町9組	室町～戦国	万松寺境内に五輪塔空風輪2、火輪4、水輪8、地輪4がある。				35 E-8
63	堀田石塔群	堀田4組	南北朝～室町	堀田交差点山側駐車場角に宝塔や五輪塔が集められている。近辺で工事の際に出土したものでないか、という。宝塔は首の長い茶壺型をしている。				35 E-6
64	堀田3組墓地五輪塔群	堀田3組	室町～戦国	向井病院社宅宇裏の墓地の中に五輪塔空風輪4、火輪3、水輪2、地輪2がある。また五輪塔とはやや離れて宝塔と思われる相輪と笠がある。				35 E-6
65	堀田5組五輪塔	堀田5組	戦国	かはず本舗横に一石五輪塔1基がある。				35 E-6
66	西応庵五輪塔群	南立石本町1組	戦国	御堂の周辺に五輪塔4基程度(火輪4、水輪4)が集積されている。				35 E-6
67	宗像掃部墓	南立石本町1組		今は右から2番目の石祠を宗像掃部の墓にあてているが、本来は五輪塔であったのではないか、という。五輪塔火輪が左端に1基ある。	市有形			35 E-7
68	生目町墓地石塔群	生目町18組	戦国	分布は3箇所に分かれている。最も西側の熊谷家墓地に五輪塔空風輪4、火輪4、水輪5、中程に五輪塔1基、最も東側(ホテル側)の繁松家墓地に五輪塔火輪1、水輪3、地輪2、やや離れて空風輪3、火輪1、水輪3がある。				35 E-7
69	本光寺石塔群	山の手17-1	戦国～江戸初期	本光寺山門左脇に石幢1基が立っている。6地藏+2体を浅いレリーフで表現、火焰宝珠が載る。竿は方柱で面取あり。また、本堂裏手の墓地入口に五輪塔が点在している。				35 F-8
70	野口原五輪塔旧所在地	野口原	南北朝～室町	発掘調査で出土後、別府アリーナ西側に移設(71)				35 F-8
71	野口原五輪塔群	野口原	鎌倉～室町	別府公園のところで約1mの土石流に覆われた状態で出土したもので、火輪に骨が入られたものもあった。現在は移築されており全ての組み合わせである。		市有形		35 F-8
72	森家宝塔	上田の湯2	室町	森氏宅にある。	應永26(1419)	市有形		35 F-8
73	吉祥寺石塔群	乙原	南北朝期	ラクテンチ脇の旧吉祥寺跡に板状安山岩で基壇状に抱えた高まりがあり、吉祥寺開山塔の無縫塔(貞和3)と宝篋印塔(文和4)が立て並べられている。さらにその横のラクテンチ敷地内には宝篋印塔1基(透見タイプ)がある。無縫塔の「貞和」は後刻とされる。	貞和3(1347)文和4(1355)	市史跡		35 G-8
74	浄光寺石塔群	朝見3丁目	室町～戦国	浄光寺の境内に宝篋印塔の笠や五輪塔部材が並べられている。				35 G-8
75	朝見2丁目墓地石塔群	朝見2丁目15組	戦国	墓地の中に宝塔1と相輪1、五輪塔空風輪6、火輪11、水輪6、地輪6が点在している。宝塔は塔身が違う可能性高い。横に方柱状の塔身があるので、方柱状の宝塔になる可能性が高い。				35 G-8

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
		1		1																		
	1	1																	1	1		
					1																	
	2	4	1	1														1				
2	2	2	2	2																		
			2																			
		1	1	1																		
	134	191	155	150																		
	6	8	5	11															1	1		
1																						
	1	3	1	1																		
(30)												(1)						1				
	1	2	3										3					1				
	2	3	3	3																		
		1		1			4	4	2					1								
	9	8	8	2																		
	5	5	10	8																		
	1	1																				
																				自然石塔婆		
	7	4	6	1			1	1	1	1												
	9	3	12	5														1				
			1																			
	5	6	12	1	1	2	1				1											
	2	4	8	4																		
	2	4	1	2								1	1									
	4	3	2	2								1	1									
																		1				
		4	4																			
		1																				
1	7	6	11	2																		
	2	3	1																1			
25												1										
					2													1				
	7	8	6	5			1															
	6	11	6	6							1	1										

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
76	朝見大日種子板碑	朝見3丁目	室町	神氏邸の庭にあるが、現在は無住となっている。應永5年銘を持つ。豊後高田市柿ノ木旧在。	応永5 (1399)	市有形	39	35 G-8
77	朝見墓地石塔群	朝見2丁目	室町～戦国	広い墓地の中に五輪塔部材が点在している。上の段に多い。				35 G-8
78	法華寺跡石塔群	隠山2組 法華寺跡	戦国期を中心とする時期か	山の斜面にある御堂の前に宝篋印塔や石幢、五輪塔が並べられており、御堂周囲の草地にも五輪塔が散在している。宝篋印塔は完形で遠見タイプ。				35 H-8
79	山王社浮彫五輪塔	隠山 山王社	室町か	幅57cm、高さ36cm、厚さ6～8cmの安山岩製板石の表面を舟形光背状に彫り窪めた中に五輪塔2基を浮き彫りにする。山王社の社殿に置かれている。左側の地輪に墨書が見える。				35 H-8
80	別府市美術館石塔群	上人ヶ浜町	鎌倉～ 江戸前期	別府市美術館には別府市内在住者が収集した石造物などを集め、屋外展示している。旧富貴寺笠塔婆は文永6年のもの、五輪塔型の塔婆は正安元年のものである。その他、五輪塔や宝塔、宝篋印塔、板碑が並べられている。宝篋印塔型の墓標は、キリシタン墓とされる江戸前期のものである。	文永6 (1269) 正安元 (1299)	県有形 (笠塔婆 と五輪塔 型塔婆)	29	36 C-1
81	延命地藏五輪塔	駅前本町6	戦国	五輪塔空風輪2か地藏尊の建物裏に置かれている。				36 F-1
82	海門寺御札所五輪塔	北浜2丁目	戦国	禪宗寺院の海門寺参道入口脇の御札所横に五輪塔火輪2、水輪2、地輪1が集められている。				36 F-1
83	長松寺石塔群	朝見1丁目	室町～戦国	長松寺山門脇に、塔身に石幢の露盤をはめた宝篋印塔が立つ。境内の池周辺に五輪塔火輪5、水輪1が置かれている。				36 G-1
84	朝見1丁目墓地石塔群	朝見1丁目二区	戦国	墓地の中に方柱状の宝塔1基と五輪塔火輪1、水輪1が散在している。				36 G-1
85	宝満寺下墓地石塔群	田の口	戦国	宝満寺下にある墓地に五輪塔空風輪1、火輪9、水輪3、地輪4がある。宝満寺は大正年間に現在地に移ってきたものなので直接的な関係はない。				36 G-1
86	浜脇中学校横石塔群	浜脇	戦国～ 江戸前期	浜脇中学校グラウンド北西に宝篋印塔と五輪塔の部材が置かれている。				36 G-1
87	崇福寺石塔群	浜脇2丁目	戦国	境内左手に五輪塔空風輪3、火輪5、水輪1、一石五輪塔1が並べられ、歴代住職墓地には五輪塔空風輪1、水輪6が置かれている。				36 G-1
88	東別府駅裏石塔群	山家2組-1	戦国	五輪塔空風輪1、火輪2、水輪5が墓地の隅に集められている。				36 G-1
89	手嶋家墓地石塔群	山家	室町～戦国	主要地方道別府扶間線が浜脇の町に入る手前のやや高台にある墓地に五輪塔が散在している。				36 G-1
90	山家御堂石塔群	山家10組の1	戦国	主要地方道別府扶間線からやや南に入ったところにある御堂周辺に五輪塔等が散在している。相輪1あり。				36 G-1
91	両郡橋板碑	両郡橋	中世末～ 近世初頭	頭部が少し欠ける。厚みが厚く、方柱状に近い。類の出はなく、2本の沈線で表される。文字等は確認できない。中世末～近世初頭のものか。				36 G-2
92	田の口墓地五輪塔	田の口2組	戦国～ 江戸初期	一石五輪塔1基が墓地の中に立つ。				36 G-1
93	河内佐藤氏宅東側墓地石塔	河内3組	戦国～ 江戸前期	宝珠+笠+塔身+基礎を重ねているが、オリジナルのものでは無い。塔身が違う。				36 G-1
94	河内佐藤氏宅西側石塔群	河内3組	室町～戦国	五輪塔空風輪1、火輪2、水輪2、地輪2。ただし、水輪の1つは首部があるので宝塔か？				36 G-1
95	鳥越石塔群	鳥越2組	室町～戦国	県道別府扶間線の脇に五輪塔部材が集められている。火輪には露盤を表現するものが多く、宝塔も含まれるかもしれない。				36 H-1
96	八坂寺宝塔群	鳥越2組	戦国	3基の宝塔が並ぶ。宝塔はいずれも方柱状の塔身を持つもの。中央のものに墨書、右側のものに梵字がある。				36 H-1
97	松音寺石塔群	赤松	南北朝～戦国	旧松音寺裏手に無縫塔や宝塔、五輪塔が集められた一角がある。小型の宝塔には貞和2年、2基の無縫塔にはそれぞれ弘治3年と天正3年銘が入られている。五輪塔や宝塔の部材は草に埋もれ、正確な数は不明。五輪塔の部材としたものに宝塔のものも含む。	天正3 (1575) 弘治3 (157) 貞和2 (1346)	市有形		36 H-1
98	赤松石幢と五輪塔群	赤松塔の本	戦国	赤松の集落を見下ろす街道沿いの高台に立つ天正9年の銘を持つ六地藏石幢である。総高2.25m。周囲に五輪塔部材が点在する。	天正9 (1581)	市有形		36 H-2
99	山の口墓地石塔群	山の口3組	近世前期	県道東山庄内線沿いの墓地に、宝篋印塔4基がある。内1基は笠のみ。隅飾りがあるものと無いものがある。江戸時代前期まで宝篋印塔型の墓標が使われた事例のひとつ。				43 B-4
100	矢野家五輪塔	山の口2組	戦国	大友家家臣といわれる矢野家の庭先に五輪塔がある。				43 B-4
101	後畑宝篋印塔	東山寺後畑	戦国	後畑集落の西端にある田原家裏手の竹藪中に小型の宝篋印塔が立つ。その回りに五輪塔火輪2、水輪1、地輪1が点在する。ただし、火輪は宝塔の笠かもしれない。宝篋印塔には造立趣旨と永正13年銘を刻む。	永正13 (1516)	市有形		43 A-5
102	大野家墓地五輪塔群	東山	室町～戦国	県道沿いの墓地の中に五輪塔空風輪6、火輪5、水輪4、地輪3がある。				43 B-5
103	樫公民館北墓地五輪塔	東山2組	戦国	墓地の中に五輪塔火輪1、水輪1がある。				43 B-5
104	石城禅寺石塔群	内成 梶原	室町～戦国	石城寺の庭の一角に完存の宝篋印塔が1基立つ。塔身に墨書がある。また、やや離れて小型の宝塔が岩の上に立てられているが当初の組み合わせではない。これらはいずれも「キリシタン墓」と言われている。他に方柱状の宝塔塔身2基あり。				43 A-7
105	内成極楽寺跡石塔群	内成	室町	内成の棚田を望む丘陵先端部30m×30mほどのところが極楽寺跡と言われている。宝篋印塔や五輪塔部材が点在している。宝篋印塔は基礎から塔身まで重ねられているが笠以上は無い。基礎の背が高いのが特徴。				43 B-7
106	内成梶原五輪塔群	内成	戦国	梶原バス停横に五輪塔空風輪1、火輪2、水輪1、地輪1が置かれている。				43 B-7
107	内成善光寺石塔群	内成	室町～戦国	「善光寺」という寺があったとされる田の一角に、大型の宝篋印塔の笠と相輪(半折)や方柱状の塔身4基がある。さらに周囲には五輪塔部材や古瓦が散布している。二宮邸前の五輪塔部材も善光寺跡旧在のもの。				43 B-8
108	園田家墓地石塔群	内成 岩水	戦国～ 江戸前期	園田家墓地の中に江戸時代の宝篋印塔(中世に系譜)、別個体の笠1、一石五輪塔が集められている。				43 B-7
109	かいかげ薬師堂石塔群	内成 かい掛	戦国	崖の段上に五輪塔4基と宝塔2基が並び、いずれももとは崖下にあったものを並べたもの。組み合わせは正しくないとと思われる。宝塔の塔身は1基は方柱状で、一つは浅く地蔵?を浮き彫りにしている。他は茶臼型。薬師堂の麓の中に五輪塔空風輪1が置かれている。				43 C-8
110	生野家裏山墓地石塔群	内成	江戸前期	人間国宝だった故生野祥雲齋生家の裏山墓地に江戸時代前期の中世的な宝篋印塔型墓標が2基ある。横に「宝永」「延宝」の墓標あり。				43 C-8

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図号
1	田の浦石塔群	田の浦	戦国	3基の無縫塔が横6m、奥行3m、高さ1mの集石上に立てられている。3基の卒には銘文が刻まれている。	天文3 (1534)			36 H-3
2	門乃地藏堂石塔群	田の浦 門乃地藏堂	南北朝～戦国	小堂前に石造物が少数例あり。				36 H-3
3	大村集落墓地石塔群	三佐 大村	戦国	砂地の微高地上に墓地が営まれており、組合せが異なる部材が組まれている。				37 H-5
4	龍雲寺石塔群	白木 龍雲寺	南北朝～ 近世初頭	本堂前に五輪塔が存在するほか、境内横の露岩に崖を彫っており、中に石塔を納めている。窟は戦時中に掘られたと伝えられるが、中には古いものも存在するであろう。				44 A-5
5	大山寺石塔群	八幡 下八幡2組 大山寺	南北朝～ 近世初頭	大山寺裏の墓地に石塔が集積されている。組み合わせは全く本来のものではない。五輪塔(宝篋印塔・宝塔) 基壇に刻書・墨書銘が残るものがある。また、地藏堂横に相輪上半を欠く完形の宝篋印塔あり。大山寺裏の墓地の石塔はほとんどが戦国末～近世初。	天正8 (1580) 寛永2 (1625) 寛永13 (1636)			44 B-5
6	地藏院石塔群	金谷迫2組 地藏院	南北朝～戦国	地藏院の周辺に石塔部材が散在する。組み合わせは本来のものでなからう。空風輪に梵字種子が葉研彫りしているものがある。				44 C-4
7	観音堂石塔群	金谷迫 観音堂(公民館)	戦国末～近世初	観音堂裏の墓地内に、組み合わせの良い完形の角宝塔(近世初頭)が2基みられる。				44 C-5
8	机張原石塔群	八幡 机張原	戦国末～近世初	竹藪の中の小堂横に中近世の石塔が集められている。近世の石幢はさきわめて状態がよい。五輪塔・宝塔は本来の組み合わせでない。				44 C-4
9	日吉神社横石塔群	宮苑 日吉神社横	戦国	日吉神社横に5×4×0.5m程度の小さい塚があり、その上に方形の配石を施し、中近世の石塔を置いている。一部は埋もれており、わずかに上部が出ているのみである。				44 C-3
10	長野家墓地石塔群	宮苑 長野家墓地	戦国末～近世初	水田中の近世墓地中に中世の石塔が本来の組み合わせではなく、組まれている。五輪塔地輪のひとつには梵字種子が大きく葉研彫りされている。角宝塔の塔身には墨書銘がみられる。	寛永10 (1633)			44 D-3
11	宮苑集落墓地石塔群	宮苑 宮苑墓地	戦国末～近世初	累代葬化された墓地の一角に石塔が集められている。一部には地輪に墨書銘が残るものがある。				44 D-3
12	上宮苑石塔群	宮苑 上宮苑小堂	戦国末～近世初	小堂横に舟形を陽刻した板碑と五輪塔火輪が1点置かれている。				44 D-3
13	安部家横石塔群	宮苑	戦国末～近世初	水田中に五輪塔5基と角宝塔が1基立てられている。それぞれのセット関係は本来のものではない。角宝塔の塔身には墨書銘がある。	寛永19 (1642)			44 D-3
14	千代丸古墳石塔群	宮苑 千代丸古墳	戦国	千代丸古墳に寄り添うように火輪～地輪の五輪塔上に一石五輪塔がのせられている。				44 D-3
15	佐藤家石塔群	宮苑 佐藤家	戦国	個人の屋敷内に石塔残欠が組まれている。				44 D-3
16	宮苑石塔群	宮苑	鎌倉末～南北朝	3基に組まれた石塔である。いずれも大型で宝塔塔身には金剛界四仏の梵字種子を大きく葉研彫りしている。				44 D-3
17	小野家石塔群	宮苑 中村 小野氏宅	鎌倉～戦国	民家の庭先に石造物が集積されている。比較的大型の板碑2基と五輪塔部材がみられる。板碑2基のうち1基は墨書による梵字種子と銘文が雄大に書かれている。	元弘3 (1333)	36-40		44 D-4
18	中村石塔群	宮苑 中村	戦国～近世初	大野家近世墓地を累代葬化した横の近世墓碑中と、その上方の畑地・人家に面する丘陵裾の高台に石塔部材が並べられている。				44 D-4
19	宮苑公民館石塔群	宮苑 中村 宮苑公民館	戦国	公民館敷地の一角に石塔が集められている。				44 D-4
20	西岸寺石塔群	東院 中苑 西岸寺	戦国～近世初	境内に一石五輪塔1基と本堂裏の墓地に石塔残欠が散在する。				44 D-4
21	妙楽寺石塔群	宮苑 角ノ前 妙楽寺集会所	室町～近世初	境内に石塔部材が散在する。				44 D-4
22	首藤家石塔群	東院 古賀 首藤家横	南北朝～戦国	民家横の林の一角に中世の石塔部材が集められ、組み合わせられているが、組合せは本来のものではない。				44 D-3
23	古賀石塔群	東院 古賀	戦国	道路に面した民家の入口に享保年銘の完形の石幢があり、その横に中世の石塔部材がある。				44 D-3
24	三ヶ尻家横墓地石塔群	東院 猫山 三ヶ尻家横墓地	戦国	民家の一角に近世墓碑が集められているところあり。その中に石塔の部材あり。				44 D-3
25	中尾公民館石塔群	中尾 中尾公民館	鎌倉～戦国	公民館の敷地の端に石塔部材が組まれている。				44 E-4
26	中尾石塔群	中尾	戦国	集落内の畑地中に林があり、その中の石祠周辺に石塔の部材がある。				44 E-4
27	上片面公民館石塔群	賀来 上片面 上片面公民館	鎌倉末～南北朝	公民館の石壇の入口に2点の五輪塔水輪がある。				44 D-5
28	国分公民館石塔群	国分 国分公民館	戦国	公民館の横に近世以降の石塔群があり、この中に中世の石塔部材がみられる。宝塔塔身のひとつに刻銘がみられる。	文明19 (1487)			44 F-4
29	豊後国分寺石塔群	国分 豊後国分寺	鎌倉～戦国	国分寺境内に中世の石塔部材が散在する。			5	44 F-4
30	極楽寺石塔群	平横瀬 極楽寺	戦国～近世初頭	境内の歴代住職墓地と庫裏の裏2箇所に石塔がみられる。				44 F-3
31	鬼崎石塔群	鬼崎	戦国	小野家横の阿弥陀如来を安置した小堂横に完形の(地藏6体と二王2体)があり、その横に石塔部材が散在する。				44 F-3
32	麻生家前石塔群	横瀬 麻生家前	戦国～近世初頭	宝塔と五輪塔の部材が重ねられている。				44 F-3
33	上横瀬石塔群	横瀬 上横瀬	戦国	台地端の10m四方の一角に近世墓があり、その中に五輪塔の部材が散在している。中には集石状のものもみられる。				44 G-3
34	佐藤家横石塔群	横瀬	戦国	方形壇状の高まりを築き、五輪塔と宝塔を並べている。10基程度は佐藤氏宅の西側から、移されたと伝えられている。この場所は大泉寺の小庵があつたと伝えられている。				44 G-3
35	三ヶ尻家墓地石塔群	横瀬 三ヶ尻家	戦国～近世初頭	周辺に散在していたものを組み直して整理したと伝えられている。宝塔塔身に「心□□傳傳定門」の墨書銘が残るものあり。				44 G-3
36	大泉寺石塔群	横瀬 大泉寺墓地	戦国～近世初頭	門前の墓地に五輪塔火輪が1基あり、山門横に中近世の石造物が集められているところがある。また、本堂裏墓地にも中世石塔がある				44 G-3
37	二宮家横石塔群	横瀬 上横瀬	南北朝～戦国	二宮家横の市道脇に五輪塔1基が立てられている。五輪塔水輪は南北朝～戦国期のものであろう。周辺には「ガラシ」の地名がある。				44 G-3
38	田吹家墓地横石塔群	横瀬 上横瀬	戦国	田吹家墓地横に石塔が3基並べられている。				44 G-3

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
		3																		3			
	2	3	2		1		1																
	1	1	1	1																			
1	13	9	7				1				2	5	3	6				1				1	窟内に板碑を3基並べた磨崖碑があり
	39	26	25	50	2	8	3	6					15	8									
	5	6	10	10															2				
											2												
	8	6	7	12		3	5	5															
								1	1				1	1									
	2	2	3	1		1	3	2															
	4	5	9	13		1	8	3	2														
		1																	1				
5					1																		
		1	1	1																1			
		1	1	1																			
			1				1	2															
3	2	2																					
1		2				1	1	1															
		3																					
1									1			2	1							1			
12	3	6				3		2												1			
22	19	19	33			1	2																
		1	2																				
2	3	1	1																				
2		3				2	1	1	3														
		1																		1			
			3																				
2	3	3	1			3	2	4															
3	2		1			1	1																
2	3	3				1		1															
		1	1																				
1													1										
6	9	7																					
	20	14	15	6			4	4	2			10	7							2			
	3	3					1	1	1			6	2	2	2								
		1	1																				
2	3	3	3									1											

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 図番 号	
39	横瀬石塔群	横瀬	戦国	水田畔群に近世第1基と組合せが異なる五輪塔1基が並んで立てられており、周辺には石塔部材が散在する。				44 G-3	
40	林神社石塔群	横瀬 林神社	戦国	林神社門前の石灯籠に戦国期の五輪塔部材が組み込まれている。また、拝殿横に並ぶ石祠や石祠群裏に散在する。				44 G-4	
41	桜井家墓地石塔群	横瀬 桜井家墓地	戦国	近世墓地中に積まれている。				44 G-4	
42	寛円寺石塔群	横瀬 寛円寺	鎌倉～戦国	墓地入口に集められている。6基の石幢の内、3基は近世のものであり、また、その組み合わせもあやしい。宝塔塔身2基はいずれも角宝塔であり、四面に像容を陽刻する。				44 G-4	
43	横瀬宝塔	横瀬 富士見ヶ丘幼稚園横墓地	南北朝	墓地中に単独で立てられている。相輪は最上部の火焰宝珠と輪部の一部のみが残る。塔身には首があり四面の月輪内に葉研彫りした梵字種子がみられる。				44 G-4	
44	田吹宝篋印塔	廻栖野 田吹	戦国	小堂の前に相輪を欠く宝篋印塔が1基ある。笠～基礎の高さ155cmを測り、この上に戦国期の五輪塔空風輪がある。				44 H-4	
45	少林寺板碑群	木上 少林寺本堂裏	南北朝	本堂の真裏に石幢があり、その内部左右両側の壁に板碑が左側に3基、右側にもう2基、計5基が立てられている。左の一番大きな阿弥陀種子板碑には紀年銘がみられる。	貞和6 (1350)		36-40	44 H-4	
46	少林寺墓地石塔群	木上 少林寺歴代住職墓地	室町～戦国	少林寺歴代住職墓地に宝塔と五輪塔部材が組み合わされたものがある。				44 H-4	
47	少林寺前墓地石塔群	木上 少林寺前墓地	室町～戦国	近世墓地中に中世の石塔部材が散在する。				44 H-4	
48	親連寺五輪塔	木上 親連寺本堂裏	南北朝	本堂裏の高台に火輪・水輪のみが残る五輪塔あり。水輪に銘があるが、追刻と思える。葉研彫りの梵字種子は当初のものであろう。				44 H-5	
49	口戸磨崖仏附磨崖五輪双塔	口戸 口戸	鎌倉時代～戦国	3箇所の仏龕に尊像や神像を浮き彫りしている。この仏龕群の向かって右側の磨崖にも同様な龕が穿たれ、中に水輪を四角とした五輪塔を2基、並置して陽刻しており、紀年銘のみられる墨書がある。	永正6 (1509)	県史跡	5・29	44 H-5	
50	秋岡家墓地石塔群	口戸 田島	戦国～近世初頭	水田中に単独である墓地に完存の五輪塔と2基の板碑がある。				44 G-5	
51	佐藤家横石塔群	田原	南北朝～戦国	畑地の一角に大型の重層塔が2基あるが、組合せは本来のものではない。その部材には宝塔の部材が含まれるものと思える。他に一石五輪塔と五輪塔空風輪あり。			53	44 G-4	
52	田原神社前観音堂石塔群	田原 田原神社前観音堂	南北朝～戦国	観音堂に石塔が集められているが、組合せは本来のものではない。無縫塔は完存し、竿に銘がある。			53	44 G-4	
53	横超寺石塔群	田原 横超寺	室町～戦国	境内に石塔の部材がある。うち、五輪塔水輪に紀年銘がみられる。	応永20 (1413)		53	44 G-4	
54	正法寺観音堂石塔群	横瀬 正法寺観音堂	南北朝～戦国	現在、石幢の周辺に石塔が集められているが、周辺部から集められたものである。そのため組合せは本来のものではない。五輪塔水輪に法名の刻銘があるものが3基ある。				44 G-3	
55	西光寺石塔群	小野鶴 西光寺	鎌倉～戦国	墓地入口に完存の大型五輪塔と同規模同形式の2基の五輪塔あり。これらは鎌倉期に遡るものであろう。また、本堂のある境内の庭や門前にも石塔部材がみられる。				44 E-5	
56	安藤家墓地石塔群	上宗方	戦国	累代墓の横に石塔の部材が組み合わされて並べられているが、ほんらいの組み合わせではない。				44 F-6	
57	上宗方石塔群	上宗方	戦国	住宅地背後の畑地に石造物が集められている。				44 F-6	
58	勝音院石塔群	奥田 田中	鎌倉～南北朝	大型の石塔部材がコンクリートの覆い屋の中に積み重ねられている。				44 E-6	
59	聖養禅寺石塔群	荏隈 大石町	南北朝～戦国	境内に中世石塔の部材が散在する。				44 E-6	
60	悟真寺宝塔	荏隈 大石町	鎌倉～南北朝	墓地内に四方に月輪を線刻で刻み、中に梵字種子「バン」を葉研彫りする五輪塔水輪が1点ある。				44 E-6	
61	臨濟寺石塔群	永興 永興	室町～戦国	境内に石塔部材がみられる。石幢は宝珠や龕部のみである。				44 D-6	
62	永興石塔群	永興 永興	戦国～近世初	近世墓地中に中世の石塔部材が組まれている。				44 D-6	
63	永興地区墓地石塔群	永興 永興	戦国	近世以降の墓地中に中世の石塔部材がある。				44 D-6	
64	毘沙門堂石幢	三芳 志手	戦国	毘沙門堂前の近世石造物群中に石幢龕部のみが置かれている。				44 C-7	
65	浄土寺墓地石塔群	王子西町	近世初頭	墓地内に石塔が複数存在する。特に石殿内に宝篋印塔2基を納める石殿が多い。宝篋印塔に元和銘が認められるものがあり、そのほとんどが近世初頭のものである。				44 B-6	
66	王子中町石塔群	王子中町	南北朝～戦国	個人宅の庭に五輪塔部材が置かれている。水輪のひとつには梵字種子が葉研彫りされている。				44 B-7	
67	中世大友府内町跡石造物群	顕徳町ほか	鎌倉～近世初期	中世大友府内町跡の発掘調査において、五輪塔・宝塔・宝篋印塔・板碑をはじめ様々な石塔部材・石塔片が出土しているが、その数、数千点に及び、その多くが土木建築材として利用されている。			46	44 B-D-8	
68	大智寺石塔群	金池町	戦国～近世初期	境内に石塔部材が散在する。				44 C-8	
69	来迎寺墓地石塔群	錦町	戦国～近世初期	墓地に宝篋印塔笠と宝塔塔身が重ねられている。宝篋印塔笠の正面には、刻銘がみられるが、後刻であろう。				44 B-8	
70	万寿寺国東塔と周辺石塔群	金池町		万寿寺境内に完存の国東塔が建てられているが、国東半島から持ち込まれたものである。このほかに五輪塔部材が境内墓地にみられる。				44 B-8	
71	伽藍石仏	永興 南太平寺	鎌倉～室町	3つの石窟があり、中と周辺に石仏が彫られているが、風化が激しく像様不明のものも多い。		市史跡	5	44 D-7	
72	古賀石塔群	永興 南太平寺	南北朝～戦国	丘陵の南斜面の露岩に磨崖仏が2基ある。1基は風化してしまっているが、もう1基は如來形坐像であることがわかる。すぐその前に石塔が集められ組まれている。				44 D-7	
73	光西寺墓地石塔群	永興 南太平寺	南北朝～室町	総高210cmを測り、ピンク色の粒子がみられない花崗岩を石材とした完存の宝塔があり、この周囲に石塔部材がみられる。				44 D-7	
74	金剛宝戒寺石塔群	上野丘	南北朝～近世初期	河野家墓地に石殿や石幢に納められた宝塔などがみられるが、石塔部材の組み合わせは本来のものではないであろう。また、累代墓化された墓地の一角に中世の石塔が集積されており、大日堂横や本堂横など境内にも石造物の部材が散在する。				44 C-8	
75	岩屋寺石仏と周辺石塔群	古国府	平安～戦国	磨崖仏のほか石塔あり。宝塔には県中南部に特有の角宝塔がみられる。			県史跡	29	44 D-8
76	元町石仏	元町	平安～鎌倉	上野丘台地の東端の崖面に彫られ、岩葉師と呼ばれる木造反葺の覆屋内にある。堂外にも痕跡のみを残す三対の三尊像があるが、風化が激しく、面相や像容は不明である。		国史跡	5・29	44 D-8	
77	円寿寺石塔群	上野丘西	鎌倉～南北朝	境内に完存の角宝塔2基と宝塔1基、および奉納孔をもつ塔身みの宝塔がみられる。	元応元 (1319)			44 D-8	
78	三福寺石塔群	古国府	戦国	境内に一石五輪塔2基と、五輪塔水輪を灯籠に組んでいるものがある。				44 D-8	

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
	1	2	2																			
	1		3									1										
			2																			
	1												1	2						1		3
												1										
	1					1																
																			5			
		1										1	1									
	2	3	2	2		1	1															
		1	1																			
																						磨崖仏・磨崖五輪塔
1																			2			
	1																			1		磨崖2
	4	7	6									2								1		
		3	1	3																1		
	2	12	11	12			1					2	2							1		1
3	3	1	2																	1		
		3	6	2					1													
	3	1	3	1									1									
	1		2	1			1		1										1			
	1	7	6				3															
			1																			
													1									2
	2	2	2	1																		
	1	1																				
																						1
	1				17	6	3	1			3	2									2	7
		2	3																			
									1			1							1	1		
							1						1									
		2																1				
																						磨崖仏
	9	10	10	3									1									磨崖仏
	1	2	2	2							1								2			
	19	13	16	6								2	3	5	3				1			1
	2	3	1									2		2								磨崖仏
																						磨崖仏
											3		1									
			1																	2		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
79	津守石塔群	津守 津守	戦国	道の辻に石塔が組まれているが、本来の組み合わせではない。				44 E-8
80	曲石仏	曲 森岡	平安～戦国	4か所に石窟があり、1号石窟は入口部に多聞天と持国天を刻み、奥に丸彫りの如来坐像（伝釈迦如来）を安置する。釈迦像の前に大型の五輪塔水輪が残されている。2号石窟は阿彌陀三尊が半肉彫りされているが、風化が著しい。この石窟の西に別の2ヶ所の仏龕があり、向かって右の仏龕には左右の壁に2基ずつの五輪塔が浮き彫りされ、向かって左の仏龕には6連の線刻版碑が刻まれている。		県史跡	5・29	44 E-8
81	曲石塔群	曲	戦国～近世初頭	曲石仏参道の集落内の道の辻に、近世以降の石造物とともに中世石塔の部材が置かれている。				44 E-8
82	吉祥寺石塔群	光吉	鎌倉～南北朝	歴代住職墓地の一角に五輪塔残欠があるが、いずれも径40cmを越える大型塔であり、水輪にはいずれも納骨穴がみられる。				44 F-7
83	雄城公民館石塔群	玉沢	南北朝～戦国	公民館の敷地の一角に近世以降の石塔・石仏が集められており、その中に中世の石塔部材がみられる。				44 F-6
84	下組石塔群	光吉 下組	鎌倉～戦国	近世の巨大な石幢の上や周囲に石塔部材が集められている。特に、石幢の上に載る五輪塔空風輪は総高40cmにも及び巨大なものである。				44 F-7
85	ゼンショウ寺跡石塔群	宮崎	南北朝～室町	畑の端に2基の大型宝篋印塔が並んで立てられている。2基とも型式が異なるが、1基は玄正系のものである。このほかに五輪塔空風輪がみられる。				44 F-7
86	宮崎宝塔	宮崎	南北朝	小堂の前に同規模同規格の2基の宝塔部材がみられる。双塔として立てられたものである。塔身の四方には舟形彫り沈め内に尊像を彫刻している。				44 F-7
87	大友頼泰墓	岡川	鎌倉、戦国	塚の横に立てられている完形の大型五輪塔があり、大友頼泰も墓と伝えられている。この五輪塔の周囲に石積みがあり、その中に石塔部材がみられる。		市史跡 (五輪塔)	5	44 H-6
88	不動堂宝塔	田尻	南北朝	不動堂の前に近世以降の石造物があり、その中に宝塔笠が転用されている。				44 H-7
89	常楽寺石塔群	岡川	南北朝～戦国	本堂横の墓地中や庭の中に石塔部材がみられる。				44 H-6
90	岡川石塔群	岡川	南北朝～戦国	人家横に近世墓とともに整理されて並べられている。五輪塔水輪のひとつに墨書銘が残る。	明応2 (1493)			44 H-6
91	高瀬石仏	高瀬	平安	丘陵の露岩に刻まれる石窟形式の磨崖仏であり、左から馬頭観音坐像、如意輪観音坐像、大日如来像、大威徳明王坐像、深沙大将立像の五体が刻まれている。		国史跡	5・29	44 H-6
92	梅林寺跡石塔群	巨野原	戦国～近世初頭	小堂前に近世の石幢をはじめ石塔が並べられているが、その中に中世の石塔部材が残存する。				44 H-8
93	清泰寺墓地石塔群	鷺野	戦国末～近世初頭	墓地の最高所にある住職墓地に最も大きい宝篋印塔が無縫塔群の中に並べられており、このほかにも本来の組み合わせではない小さい石塔群が墓地の端にみられる。				44 G-8
94	敷戸石仏	鷺野 坂津免	戦国～近世初頭	養徳庵（清泰寺奥の院）と呼ばれる角礫凝灰岩の崖面に磨崖石仏と磨崖石塔がある。磨崖石塔は8基の五輪塔からなり2基1対で刻まれたものであろう。磨崖仏は阿彌陀三尊とされる3体に立像の横にさらに小さい立像がみられる。二十五菩薩とされるが25体もなく、ほとんど風化して個体数も明らかでない。			5	44 G-8
95	清泰寺石塔群	鷺野	鎌倉～近世初頭	本堂横の石仏群中に石塔部材があり、鎌倉末～南北朝の五輪塔水輪や地輪がみられる。				44 G-8
96	脇部蔵公民館石塔群	賀来	鎌倉末～近世初	近世以降の石造物群中に中世の石塔部材が置かれている。無縫塔は基礎のみ、石幢は竈部のみである。				44 E-5
97	西光寺石塔群	下郡	南北朝～戦国	境内の一角に石造物が集められている。いずれも五輪塔であり、組合せは当初のものではないであろう。水輪や地輪には種子を薬研彫りするものがある。				45 B-2
98	妙観寺墓地無縫塔	牧	戦国	歴代住職墓地中にある重制の無縫塔で塔身は別個体のものだが、重制無縫塔の塔身で間違いはない。中台・竿・基壇はセットのものであろう。竿に刻銘がみられる。	明応6 (1497)			45 B-2
99	高城観音石塔群	千歳 岡	戦国	裏の前庭に相輪の一部を欠失するのみの完存の宝篋印塔と庫裏横の近世以降の石造物群中に宝篋印塔笠がみられる。				45 B-2
100	大分社宝塔	羽田	南北朝	境内に単独で建てられている。相輪を失っている以外は完存である。塔身を丸く面取した形態が特徴的である。	康永4 (1345)		5・49	45 D-1
101	真光寺石塔群	千歳	南北朝～戦国	本堂前に石塔部材が組まれている。宝塔は塔身と基礎が同一個体であり、大分社の宝塔と同一工人の手によるものである。				45 B-3
102	長勝禅寺石塔群	三川 下	南北朝～戦国	境内に石塔部材が重ねられている。				45 A-4
103	安養寺墓地石塔群	海原	戦国	墓地中に近世墓が集められている一角があり、その中に近世の石幢が3基ある。中央の石幢の笠上に宝珠の代用品として中世の五輪塔の空風輪と水輪が置かれている。				45 A-4
104	葛木公民館横石塔群	葛木 仲村	戦国	公民館横に近世の墓石が集められているが、その中に中世の石塔部材がみられる。				45 C-4
105	葛木石塔群	葛木	戦国	道路際の竹藪中に組合せの異なる五輪塔部材が3基組まれている。				45 D-4
106	常妙寺石塔群	葛木	南北朝～戦国	山門横に五輪塔火輪などの石塔部材を積み上げている。本堂に向かって右前に塔身を欠く宝篋印塔と宝篋印塔基礎からなる部材が組まれている。向かって左前には基礎に銘がある完存の宝篋印塔がみられる。	永徳2 (1382)			45 D-4
107	法雲寺墓地石塔群	横尾 寺ノ下	南北朝～近世初頭	墓地の入口の石祠内に宝塔相輪があり、墓地中に大分社宝塔と同型式の角宝塔がみられる。このほかに石塔部材があり、五輪塔水輪のひとつに銘がみられる。	明応3 (1494)			45 E-4
108	岡原石塔群	横尾 岡原	戦国	小堂前に石塔部材が重ねられている。				45 E-4
109	門前石塔群	松岡 門前	戦国～近世初頭	近世墓地中に五輪塔部材や相輪がみられる。				45 G-3
110	長興寺石塔群	松岡	南北朝～室町	境内の山門横と墓地内に石塔部材がみられる。				45 G-3
111	戸無瀬石塔群	下判田 戸無瀬	戦国	公民館裏の露岩に龕を3箇所設けており、そのうち1か所に五輪塔水輪を置いている。他所から持ち込まれたものであろう。				45 H-2
112	浄雲寺石塔群	松岡 菰田	南北朝～近世初頭	境内の一角に石塔が並べられているが、部材の組合せは本来のものではない。				45 H-3
113	薬師堂跡石塔群	松岡	南北朝～戦国	宝篋印塔笠と月輪内に金剛界四仏を薬研彫りする磨崖塔身が重ねられている				45 H-3
114	龍興寺墓地宝篋印塔	鶴崎 徳島	戦国	完存の宝篋印塔あり。大野郡に特徴的な玄正系の宝篋印塔であり、塔身に南北朝期の紀年銘があるが、各部位の特徴は戦国期のものである。	延文3 (1358)			45 A-5
115	剣八幡宮	東鶴崎	戦国	剣八幡裏の石碑横に1基の石塔が置かれているが、組み合わせは本来のものではない。明らかに他所から移されたものである。				45 B-5
116	東蔵寺墓地石塔群	鶴崎	戦国末～近世初	墓地中に2基の五輪塔が並んでおり、2基とも完存であるが、各部材が入れ替わっている可能性も残る。				45 B-5
117	首藤家石塔群	須賀	戦国	人家の庭に石塔残欠が置かれている。移動させられたものであろう。				45 A-6

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
118	角子原石塔群	角子原	戦国	コンクリートの小堂内に石祠とともに五輪塔部材が置かれている。				45 A-6
119	丹生家前石塔群	関園 堂園	戦国	小堂前に石塔部材が重ねられている。				45 D-5
120	首藤アバト横 五輪塔	常行 関門	戦国	近世墓地中に五輪塔火輪が置かれている。				45 D-5
121	仲摩家墓地石塔群	常行 関門	南北朝～戦国	近世墓地中に置かれている石塔部材である。火輪の一つには大きな月輪内に梵字種子が裏彫りされている。				45 D-5
122	常仙寺墓地石塔群	常行	戦国	常仙寺境内に近世墓が集められており、その中に五輪塔部材がみられる。				45 D-5
123	忠願寺家前墓地 石塔群	常行	戦国～ 近世初頭	近世墓地中に近世初頭の完形の五輪塔2基が並立して建てられている。地輪に「宗哲」「妙哲」の銘がそれぞれある。このほかにも石塔の部材がみられる。				45 D-5
124	中山家横石塔群	常行	南北朝～戦国	中山家の一角に中世の石塔を集めている。特に宝塔塔身は角宝塔であり、梵字種子もしっかりしている。				45 D-5
125	首藤家前墓地石塔群	常行	南北朝～戦国	首藤家前の近世墓地中に石塔部材がみられる。相輪は南北朝～室町期のものであろう。				45 D-5
126	安藤家裏墓地石塔群	常行	戦国	安藤家裏近世墓地に石塔部材が残されている。				45 D-5
127	毛利空桑郎横墓地 石塔群	常行	戦国～ 近世初頭	毛利空桑郎横の墓地に石塔部材が散在している。				45 D-5
128	森氏宅横墓地石塔群	常行	戦国	森家横の辻の墓地に石塔部材が散在している。				45 D-5
129	渡辺家墓地石塔群	関園	南北朝～近世初	補陀寺の住職墓がある渡辺氏の墓地中に石塔部材が残されている。				45 D-5
130	補陀寺石塔群	関園	戦国	補陀寺の南に「大乗妙典一字一石塔」があり、その周辺に石塔部材が住職墓に集められているが、その中に五輪塔火輪がみられる。				45 D-5
131	三重野家墓地 五輪塔群	下徳丸	戦国	コンクリートで墓地を整地している上に石塔部材が置かれている。				45 E-5
132	下徳丸公民館北 墓地石塔群	下徳丸	南北朝～戦国	近世墓地中に石塔部材が散在する。				45 E-5
133	淵家墓地石塔群	下徳丸	戦国	近世墓地中に石塔部材が置かれている。				45 E-5
134	筒井家墓地石塔群	下徳丸	南北朝～ 近世初頭	近世墓地中に夫婦墓と考えられる宝篋印塔2基があり、それぞれの基礎に紀年銘がみられる。宝篋印塔の各部位には「妙」「法」「蓮」「華」「経」の銘が中央に陰刻されている。このほかにも石塔部材がみられる。	寛永4(1627) 慶安元(1648)			45 E-5
135	徳丸家墓地石塔群	下徳丸	戦国～ 近世初頭	板石を組み合わせて石屋形をつくり、その中に墓碑をおさめているものが2基あり、紀年銘がみられる。このほかにも石塔部材が散在している。	寛永16(1639) 明暦4(1658)			45 E-5
136	中村家墓地五輪塔群	丸亀 上徳丸	室町～戦国	近世墓地中に五輪塔部材が組み合わされて置かれている。				45 E-5
137	得丸家墓地五輪塔群	丸亀 上徳丸	戦国	近世墓地中に五輪塔部材が組み合わされて置かれている。				45 E-5
138	岡松家墓地五輪塔	丸亀 上徳丸	戦国	近世墓地中に五輪塔火輪が1点置かれている。				45 E-5
139	得丸家墓地石塔群	丸亀 上徳丸	戦国	得丸式部大輔の墓と伝えられる石塔部材の組合せである。				45 E-5
140	亀甲公民館裏墓地 五輪塔群	丸亀	戦国	コンクリートで固められた近世墓地中に五輪塔部材が積み重ねて置かれている。				45 E-5
141	小崎家墓地石塔群	丸亀	戦国	近世墓地中に石塔部材が散在して置かれている。				45 E-5
142	御手洗家宝塔	迫	戦国	御手洗家先祖墓とされている宝塔である。相輪に「空風水火地」の銘があり、笠に「光〇〇〇」、塔身に紀年銘があるが、製作時期はこの時期よりも新しいと思える。	天文7 (1538)			45 D-5
143	蓮華寺墓地石塔群	種具	南北朝～近世初	整理された墓がコンクリートの上に並べられているが、その中に相輪がみられる。				45 D-5
144	百堂集会所前石塔群	種具 百堂	戦国	百堂集会所前に近世の墓地があり、その中に五輪塔の部材がみられる。				45 E-5
145	磐津地神社参道横 石塔群	種具 百堂	南北朝～戦国	他所から移転されたと伝えられており、旧在地は川添小の体育館とされている。石塔の組み合わせも本来のものではなく、無縫塔が多い。無縫塔の個体数は部材数である。五輪塔の地輪の一面に紀年銘がみられる。	明徳2 (1391)			45 E-5
146	阿蘇神社五輪塔群	高河内 迫阿蘇入	戦国	阿蘇神社前に五輪塔部材が集積されている。				45 G-5
147	堂銘寺跡一石五輪塔	丹生 岡	戦国	一石五輪塔が社殿後に近世の石塔群と並んで立っている				45 D-6
148	中原観音堂石塔群	一木 中原	戦国	観音堂の横に石塔が組まれている。宝篋印塔の2組は完存である。				45 C-7
149	今宮石塔群	丹生 中下	戦国	凝灰岩製の石祠の中に神像があり、その後ろに石塔部材を置いている。				45 D-6
150	太田家墓地五輪塔群	丹生 中下	戦国	五輪塔部材が近世墓地の一角に整理されて積まれている。				45 D-6
151	里石塔群	里	南北朝～戦国	近世墓地中に中世の石塔部材が組まれている。このうち宝篋印塔塔身には四面にそれぞれ尊像が陽刻され、一面には銘がみられる。石幢は竈部のみである。				45 B-8
152	下久所石塔群	丹川 下久所	戦国	畑の一角に石塔部材が散乱している。				45 E-6
153	下久所前田家石塔群	丹川 下久所	室町～戦国	石塔部材がみられ、無縫塔については組み合わせが異なるものが重ねられている。				45 D-7
154	佐々木家墓地 五輪塔群	丹川 上久所	戦国	佐々木家墓地は累代墓化されているが、その裏に石塔部材が集積されている。				45 E-6
155	上久所宝塔	丹川 上久所	鎌倉後葉～ 南北朝	屋敷地の一角に完存の宝塔が存在する。塔身には首があり、隅丸方形の塔身の各面に光背を彫りくほめ、如来座像を陽刻し、下には蓮華座を持つ。				45 E-6
156	延命寺石塔群	丹川 延命寺	鎌倉後葉～ 戦国	畑の一角に石塔部材が集められている。宝篋印塔は相輪を欠き、笠は破損しており、塔身・基礎が残されている。無縫塔等のみには紀年銘が残されている。	貞治6 (1367)			45 E-6
157	延命寺公民館石塔群	丹川 延命寺	室町、戦国	延命寺公民館の茂みの中に石塔部材が残る。無縫塔は中台のみである。				45 F-6
158	延命寺集落墓地 五輪塔群	丹川 延命寺	戦国	集落墓地の一角に累代墓があり、その中に五輪塔部材が置かれている。				45 F-6

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
159	直野家墓地石塔群	佐野 馬場	戦国末～近世初頭	累代墓の横に近世墓碑とともに五輪塔の部材が置かれている。				45 E-6
160	釘宮家横五輪塔	屋山	戦国	石祠の裏に五輪塔火輪が置かれている。				45 D-8
161	杉原家墓地	屋山	戦国	累代墓化された墓の一角に石塔が集積されている。				45 D-8
162	当陽寺墓地石塔群	屋山	戦国	墓地に石塔部材が残されている。				45 D-8
163	扶間家墓地石塔群	久原	戦国～近世初頭	当初、扶間家が祀る弁天庵に置かれていたものを、区画整理のために扶間家墓地にまとめて移されたとされている。無縫塔は中台のみである。				46 B-2
164	延命寺墓地五輪塔群	細	戦国	整理された墓地中に五輪塔残欠がある。				46 B-2
165	木佐上無縫塔	木佐上	戦国	小さい社の横に完存の無縫塔が存在する。				46 C-4
166	佐藤家墓地五輪塔群	木佐上	戦国	丘陵尾根上に存在する近世墓地の各配石墓上に五輪塔の部材を置いている。				46 D-4
167	宝蔵寺五輪塔群	木佐上	南北朝～戦国	本堂前に五輪塔残欠が置かれている。				46 D-4
168	河内五輪塔群	神崎 河内	戦国	個人墓地の各配石墓上に五輪塔の部材が散在している。				46 B-4
169	永泉寺跡石塔群	神崎 河内	南北朝～戦国	永泉寺跡と伝えられる個人宅裏の丘陵斜面に石塔がみられる。宝篋印塔は塔身が後補であり、無縫塔は塔身と基礎のみが残る。				46 C-4
170	大師堂石塔群	志生木	南北朝～戦国	コンクリートの小堂内に石塔の部材が置かれている。石幢は麓部のみである。				46 B-6
171	正願寺石塔群	志生木	戦国～近世初頭	門前一角に石塔部材が集められているほか、境内に散在する。				46 B-6
172	志生木五輪塔群	志生木	戦国	丘陵急斜面に平坦地を造成し、五輪塔10数基を置いているが、組合せは本来のものではないであろう。				46 A-7
173	志生木宝篋印塔	志生木	南北朝	満願寺跡と伝えられる丘陵の斜面部に建てられている。銘文が残る結衆銘であると考えられるが、このほかにも判読できない六名以上の交名がみられるため、この宝篋印塔は結衆の塔婆であることがわかる。	応安6 (1373)	具有形		46 C-6
174	東漸寺五輪塔群	佐賀関 古宮	戦国	東漸寺境内に五輪塔部材が組まれている。				46 A-8
175	定思庵(仏門寺跡)石塔群	佐賀関 古宮	南北朝	倒壊した小堂前に石造物が集められており、その前に大型の相輪残欠がある。				46 A-8
176	古宮石塔群	佐賀関 古宮	南北朝～近世初頭	丘陵斜面に平坦地を造成し、墓地を営んでおり、その中に中世の石塔が並べられている。宝篋印塔は大型で、これと仏門寺跡の相輪が組み合わさるものと思える。一石五輪塔は砂岩製であり、関西からの搬入品であろう。				46 A-8
177	法華経塚石塔群	一尺屋	戦国	個人宅裏の丘陵斜面に自然石塔婆とともに五輪塔がみられる。自然石塔婆は近世のものであろう。五輪塔は完存であるが、組合せは危うい。				46 F-8
178	錦江寺墓地石塔群	佐賀関	南北朝～近世初頭	墓中に石塔が散在する。中に和泉砂岩製一石五輪塔や豊島石製ラントウの中に一石五輪塔3基が納められているものがある。相輪は南北朝のものであろう。				47 E-1
179	地藏寺墓地石塔群	佐賀関	戦国～近世初頭	墓中に補陀落山渡海の自然石塔婆がみられ、紀年銘をもつ。このほかにも石塔が散在し、なかには和泉砂岩製一石五輪塔や豊島石製ラントウの中に一石五輪塔3基が納められているものがある。	寛永14 (1637)			47 E-1
180	福正寺墓地五輪塔	佐賀関	戦国	門前の墓地に五輪塔水輪がみられる。				47 E-1
181	済度寺跡石塔群	佐賀関	南北朝～戦国	コンクリートの小祠の横に石塔残欠が集められている。				47 E-1
182	玉井集落墓地五輪塔	白木 玉井	戦国	集落墓地中に配石墓があり、その上に五輪塔空風輪がみられる。				47 G-1
183	地福寺宝塔と周辺石塔群	福宗 籠の台	戦国～近世初	山門前に市指定の完存宝塔2基と石塔部材がみられる。		市有形(宝塔)		53 A-8
184	練迫宝塔	今市 練迫	戦国末～近世初頭	水田の畦に宝塔が2基あるが、1基は完存、他の1基は笠と塔身のみである。				53 D-5
185	小野家石塔群	上誌 瀧水	戦国	個人宅の道に面した一角に近世以降の石仏と五輪塔火輪が残されている。				53 D-7
186	鶴迫磨崖連碑と周辺石塔群	太田 鶴迫	戦国	凝灰岩の岩面に15基の磨崖碑を彫っている。墨書銘があり、上方に五輪種子がみられ、下にも銘がある。かつて判読できていたとされるが、現在では判読不能である。	永禄2 (1559)	市史跡		53 C-8
187	摺石幢と周辺石塔群	今市 摺	室町～戦国	棚田の端に市有形の石幢が1基みられ、その周辺に石塔部材が散在する。石幢は基礎から宝珠までが完存し、基礎は四角、竿～宝珠は八角形である。		市有形(石幢)		53 E-6
188	石合石塔群	今市 石合	戦国	丘陵の先端に、完存の角宝塔のほか、五輪塔・一石五輪塔・宝篋印塔・宝塔の部材が数の中に10基程度ある。				53 F-6
189	石合宝塔	今市 石合	戦国末～近世初頭	谷城地形の水田の端に2基の宝塔が置かれている。相輪宝珠を欠く以外は完存である。				53 F-6
190	秋吉家墓地石塔群	今市 石合	戦国	谷部にひろがる水田中の高所に5×15mの塚状の地形がある。石幢・宝篋印塔・宝塔・五輪塔などがみられる。石幢は完存である。				53 G-6
191	石合公民館下石塔群	今市 石合	戦国	丘陵谷部を見下ろす高台の水田横に3基の石塔が並んで立っている。2基は宝篋印塔であり、1基は角宝塔である。中央の宝篋印塔は完存であり、基礎には銘文がみえる。	元亀元 (1570)			53 G-6
192	佐藤家古墓五輪塔群	福宗 籠の台	室町～戦国	佐藤家累代墓の裏に一段高い平地があり、そこに五輪塔の部材がある。				54 A-1
193	佐藤家旧先祖墓石塔群	福宗 岩下	戦国	近世墓地中に五輪塔部材10基程度と宝篋印塔相輪・笠がみられる。				54 A-1
194	福宗神社石塔群	福宗	鎌倉末～戦国	神社の社殿の礎石や石垣に五輪塔の部材を転用し、また、石祠群の横に石塔部材が散在する。総計30基程度であろうか。				54 A-1
195	阿弥陀堂石塔群	福宗 迫	戦国～近世初	小堂横に五輪塔部材と画像板碑を積み重ねている。総計10～20基程度の部材である。				54 A-1
196	佐藤家古墓石塔群	福宗 迫	戦国～近世初	人家の裏の急峻な岩屋に横穴状の窟を穿ち板碑状の線刻をしている。その中に一石五輪塔・五輪塔空風輪・相輪・板碑などが置かれている。				54 A-1
197	佐藤家墓地五輪塔群	太田 前田	戦国	丘陵裾の畑地を望む近世以降の墓地中に石造物が並べられている。整然と並べられているが、組合せは本来のものではないと思える。		市史跡		54 C-1
198	彦森家五輪塔	竹矢 岡	戦国	集落端の水田に面した道の辻に近世以降の石祠・石仏とともに五輪塔水輪が置かれている。				54 B-1
199	岡平石幢	竹矢 岡	戦国	水田中の大木下に単独で立っている。竿・中台・幢身は八角形で六地蔵と二王が陽刻されている。笠は破損が著しく、宝珠の代わりに五輪塔水輪が載せられている。				54 B-1

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
	3	1	1	1																		
		1																				
	2	1	3				1															
	4																					
	2	4	5	6		2	5	3	2									1				
		3	2															1				
	2	3	2	3																		
	5	1	1																			
		4	3																			
			1		1													1				
	1	1		1															1			
	1	2			1						1	2										
	15	14	11	13																		
					1																	
	1	2	2	1																		
						1																
	14	16	9	17		1	1											1				
	1	1	1	1			1															
		4	3								2	1						7	ラントウ1			
		5		1							1							3	ラントウ1、自然石塔婆1			
			1																			
	1					1																
	1																					
	3	7	2	5							2	2		2								
											1		1	1								
			2																			
1																			磨崖碑			
	1	1																	1			
											2											
	1	1	5	5			1	1	4			1	3						1			
					2						1											
	5	7	7	5														1				
	1											1						1	1			
	35	37	36	39	1													1				
			1																			
			1																1			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
200	三浦家墓地石塔群	竹矢 矢貴	戦国末～近世初	近世墓地中に一石五輪塔が建てられている。				54 B-2
201	竹ノ内神社石塔群	竹矢 竹ノ内	南北朝末～戦国初	社殿前の石鳥居が存在するが、柱が八角形を呈しており、南北朝末～戦国初頭のものであろう。境内にも石塔部材が残されている。				54 B-2
202	田原家石塔群	竹矢 竹ノ内	戦国	観音堂前に石塔部材が散在し、田原家の庭にも石塔が組まれているが本来の組み合わせではない。				54 B-2
203	立川家墓地石塔群	竹矢 宮の脇	戦国末～近世初	丘陵裾の竹藪中にある墓地中に中世の石塔群がみられる。				54 B-2
204	宝師庵石塔群	下原 雨川	南北朝～近世初頭	狭い谷を見下ろすやせ尾根の先端の平場に宝師庵の小堂があり、その周辺に石塔が散在する。宝塔は完存であり、中台・笠は円形、竿は方形、幢身には十王を彫刻している。				54 C-1
205	河野家墓地五輪塔	下原 塩手野	戦国末～近世初頭	近世墓地中に径3m、高さ50cm程度の塚が並んであり、それぞれの上に空風輪が欠損する一石五輪塔が置かれている。				54 D-1
206	原村五輪塔群	下原 原村	戦国末～近世初頭	痩せ尾根頂部に所在する近世以降の石造物群の中に石造部材が組まれている。				54 D-1
207	原村宝篋印塔	下原 原村	近世初頭	集落墓地の中に完存の宝篋印塔が残されている。				54 D-1
208	原村石幢	下原 原村	戦国	笠の一部が破損しているのみで完存の石幢である。火焰宝珠下に六角の笠があり、幢身は十二面に地藏1体と十一王が彫刻されている特異なものである。		市有形		54 D-1
209	後藤家墓地宝塔	下原 原村	近世初頭	現代の累代墓の周りに近世以降の石造物があるが、その中に相輪を欠く小型の角宝塔がある。				54 D-1
210	原村石塔群	下原 原村	戦国末～近世初頭	集落背後の水田から山林に移る地点と近接する墓地中に五輪塔の部材が組まれている。				54 D-1
211	福城寺石幢・宝塔と周辺石塔群	野津原 本町		境内山門横に石造物が集められており、板碑の2例に天正14年と文禄3年の紀年銘がみられる。また、本堂裏にも市有形の石幢と宝塔があり、石幢には大永6年銘がみられる。	大永6(1526) 天正14(1586) 文禄3(1594)	市有形 (石幢) (宝塔)		54 A-2
212	家鳴り止め地藏石塔群	野津原 本町	戦国	お堂横に近世の石塔が集積されている所あり、その中に中世の石塔が組まれている。				54 A-3
213	西福寺宝篋印塔と周辺石塔群	野津原 恵良	室町～戦国初	市有形に指定された完存の宝篋印塔が西福寺の境内にある。ほかに境内とその周辺に石塔残欠があり、また、寺の前の墓地にも残欠がみられる。無縫塔は部材数である。		市有形 (宝篋印塔)		54 A-3
214	恵良石塔群	野津原 恵良	戦国	近世墓地中に石塔部材が散在してみられる。				54 A-3
215	恵良宝篋印塔	野津原 恵良	戦国	近世墓地中に宝篋印塔の笠、塔身、基礎がセットになったものがみられる。				54 A-3
216	恵良一石五輪塔	野津原 恵良	戦国	水田中の畦に空風輪を欠く一石五輪塔が単独で建てられている。				54 A-3
217	廻栖野石塔群	廻栖野	戦国	近世墓地中に中世の石塔が置かれている。				54 A-3
218	廻栖石塔群	廻栖野 廻栖	戦国	近世墓地中に石塔部材が散在する。				54 A-4
219	入蔵五輪塔群	入蔵	戦国	畑の端に石塔の部材が散在している。これ以外にも埋もれたものが数基ある。				54 B-3
220	平原家先祖墓	入蔵	戦国末	平原家の裏の竹藪内の急斜面に単独で立てられている画像板碑である。画像板碑には2体の像容を彫刻している。				54 B-3
221	三ヶ尻家墓地石塔群	入蔵 下谷	戦国末～近世初頭	近世墓地中に碑身に2体の像容を彫刻する画像板碑がある。このほかに永禄銘の石幢があるが、近世中葉のものであろう。しかし、墓地中に戦国期の石幢のものと思える火焰宝珠がみられ、旧来の石幢が破損したため、再建されたものかもしれない。				54 A-3
222	三ヶ尻家石塔群	入蔵 下谷	南北朝～戦国	谷間の集落の背後にある凝灰岩の崖下に、完存の宝篋印塔4基と基礎と塔身のみ残る1基を加える宝塔7基の他に、石塔部材が残されている。				54 B-3
223	大塚家石塔群	入蔵 一木	戦国	個人宅の裏に中世の石塔部材がみられる。				54 B-3
224	東光寺石塔群	木上 内植田	南北朝～戦国	お堂の横に完存の宝塔と宝篋印塔2基がある。このほかに境内に石塔部材が残されている。				54 A-4
225	小野家墓地石塔群	辻原 辻原	戦国	近世墓地中に五輪塔部材が混じる。				54 B-2
226	上村石幢	辻原 辻原	戦国末～近世初頭	谷水田に面した痩せ尾根の先端に単独で立てられている。竿・中台・笠とも八角形で幢身のみ七角形である。十王1体と六地藏が刻まれている。宝珠は後補か。				54 C-2
227	辻原神社五輪塔	辻原 辻原	南北朝	社殿横の石祠中に水・地輪のみが残る一石彫成の五輪塔がある。両輪とも線刻月輪中に輪字彫りの梵字種子を入れる珍しいものである。南北朝期のものであろう。				54 C-2
228	表鶴神社五輪塔	辻原 岡倉	戦国	神社の鳥居の横に一石彫成の宝篋印塔がある。神社前の道路拡張工事の際に出土したものをここに移したと伝えられている。				54 C-2
229	願成寺跡石塔群	辻原 岡倉	戦国	ヤセ尾根上の平坦地に石塔残欠がみられる。				54 C-2
230	川田家五輪塔	入蔵 吉熊	戦国	個人宅の北東隅に立てられており、先祖墓と伝えられている。				54 C-3
231	小野家石塔群	入蔵 吉熊	南北朝～近世初頭	近世以降まで続く墓地中に中世の石塔部材がある。特に宝篋印塔2基については組合せが正しいものと思える。宝塔は一石角宝塔である。				54 C-3
232	法釈寺石塔群	入蔵 吉熊	室町～戦国	境内の端に近世以降の石造物群とともに並べられている。中でも、宝塔は完存であり、室町期の優品である。				54 C-3
233	山の川宝塔・宝篋印塔と周辺石塔群	入蔵 羽原	室町～戦国	丘陵中の杉林に10m四方程度の平坦地を造成し、その上に径5m、高さ1m程度の塚を設け、頂部に大きめの宝塔を置き、裾部にやや小さめの宝篋印塔を置いている。この両者は完存で室町期に属するものと考えられる。宝塔の裾には石塔部材が散在する。		市有形 (宝塔) (宝篋印塔)		54 C-3
234	橋本家墓地石塔群	入蔵 羽原	戦国	見晴らしのきわめてよい丘陵尾根頂部に近世墓地が営まれており、その中に水輪が方形を呈する一石五輪塔がある。また、墓地に向かう途中の尾根上の平地に完存の五輪塔がある。				54 D-2
235	羽原石塔群	入蔵 羽原	戦国	庵跡と伝えられる道路に面した一角に石塔の部材が残されている。				54 D-2
236	日方石塔群	入蔵 日方	戦国	本来はここより南側の後藤家にあつたものを近世墓地ごと現在地に移転したものである。				54 E-2
237	原田家宝篋印塔と周辺石塔群	福宗 本福宗	南北朝～戦国	痩せ尾根の杉林中の墓地に中世の石塔部材がある。宝篋印塔は完存のものか?2基あるが、1基は市有形である。地中に埋もれたものも多いものと思える。		市有形 (宝篋印塔)		54 B-1
238	本福宗石塔群	福宗 本福宗	戦国	高台にある柿・みかん畑の端に石塔が並べて立てられている。2基の宝篋印塔は高さ80cmであり、同規模・同型式であるため、双塔として建てられたものであろう。				54 B-1
239	霊山寺石塔群	岡川 蔵野	鎌倉～南北朝	本堂が位置する境内の一角に九重塔1基とその後ろに宝塔塔身があり、その周辺に五輪塔火輪がひとつずつ転がっている。宝塔塔身は茶筒形で四方に月輪を設けて金剛界四仏を薬研彫りしている。				54 A-6

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
240	桑家裏五輪塔	上判田 米良	戦国	桑家の裏に戦国期の五輪塔火輪が置かれている。				54 A-8
241	大原庵跡石塔群	上判田 大原	戦国	小野家累代墓の前に中世の石塔が置かれている。				54 A-8
242	檜原神社石塔群	河原内 檜原	戦国	神社の社殿に隣接する丘陵斜面に戦国期の五輪塔部材が組み込まれている。組合せは本来のものではなく、部材のみのもみられる。				54 D-6
243	弓立五輪塔	河原内 弓立	戦国	近世の石造地蔵の前に戦国期の五輪塔火輪が1点置かれている。他所から持ち込まれたものであろう。				54 E-5
244	平原観音堂石塔群	河原内 平原	鎌倉末～戦国	観音堂横に石塔部材が並べられているが、重ねられているものも本来のセットではない。このうち宝塔立と塔身の組合せがあり、これについては本来のものと思われる。				54 F-7
245	古屋園石塔群	河原内 古屋園	戦国	県道上の急斜面に設けられた平坦面の杉林中に石造物が集められている。完存の宝塔は組合せも良好だが、その他の石塔は組み合わせが本来のものではない。				54 F-7
246	高城分校跡地石塔群	河原内 大津	戦国	近世以降の石祠部中のひとつに戦国期の一石五輪塔が納められている。後世に持ち込まれたものであろう。				54 E-8
247	建礼門院之塔	上判田 米良	戦国	3基の集石があり、手前の径1mをこえる円形の集石上に五輪塔空風輪と五輪塔火輪が1点ずつ置かれ、一番奥の集石には五輪塔空風輪が2点置かれている。				55 A-1
248	庄屋村集落墓地石塔群	中判田 庄屋村	戦国	墓地の一角に石造阿彌陀を祀る小堂があり、その横や後ろに石塔部材が置かれている。				55 A-1
249	安部家墓地石塔群	下戸次 釜場	戦国	安部家の累代墓の裏に置かれている。				55 A-3
250	広瀬家横石塔群	下戸次	戦国	民家の間に石碑があり、その裏に石塔部材が重ねられている。				55 A-3
251	首藤家墓地石塔群	下戸次	近世初頭	畑の中に首藤家の近世墓があり、その中に近世初頭の石塔部材が散在する。				55 A-3
252	川床東石塔群	中戸次 川床東	戦国	人家の横の竹藪中に五輪塔空風輪をはじめとして石塔部材が散在する。ほとんど埋もれており、その詳細は不明だが、10基程度はあろう。				55 A-3
253	板井家宝塔	中戸次 川床	近世初頭	民家の庭の一角に完存の角宝塔が2基並べて建てられている。うち一つの塔身に「俗名□□」の刻銘がみられるが、後世のものかもしれない。				55 B-3
254	楠木生五重塔	下戸次 楠木生	南北朝	相輪を欠く五重塔である。塔身の梵字は金剛界四仏を刻み、基礎の四面に銘文を刻んでいる。	延文5 (1360)	県史跡 (五重塔)	5	55 B-3
255	大内公民館石塔群	下戸次 大内	戦国	石祠の中に石幢龕部と五輪塔水輪が重ねられて納められている。このほかに五輪塔水輪がその横に置かれている。				55 A-4
256	阿南家墓地石塔群	下戸次 船戸	戦国	阿南家墓地の累代墓の裏に近世の石塔があり、その中に五輪塔空風輪が置かれている。				55 A-4
257	けやき台下石塔群	下戸次	戦国	丘陵斜面を平坦にカットして近世の石幢を建てているが、その周辺に石塔残欠が散在している。				55 B-4
258	玉井家裏石塔群	下戸次 上大内	戦国	民家の裏に5×15m程度の平地を丘陵斜面に造成し、完存の宝篋印塔とともに石塔部材をおいている。				55 A-5
259	上大内石塔群	下戸次 上大内	南北朝～戦国	石塔が2基立っているが、その部材の組合せは本来のものではない。				55 A-5
260	専念寺石塔群	中戸次	近世初頭	境内の一角に住職墓地があり、その中に中世の石塔も集められている。笠・塔身・基礎が1対の宝篋印塔が2基あり、1基は室町期に属するものと思われる。他の1基は近世初頭に属するものであり、塔身に紀年銘がみえる。このほかに石塔部材がみられる。	寛永16 (1639)			55 B-3
261	生善寺裏墓地石塔群	中戸次	戦国	生善寺裏の畑中の墓地にある近世の無縫塔群に中世のものがある。組合せは本来のものではない。無縫塔の数は塔身・中台・竿・基礎の個体数である。				55 B-3
262	願行寺墓地宝塔	中戸次	近世初頭	梅岩禅師塔と伝えられる完存の角宝塔が1基存在する。塔身に「梅岩和尚」の銘がみられる。				55 B-3
263	般若寺石塔群	中戸次 般若寺	戦国	般若寺の一角に石塔残欠が集められている。無縫塔は塔身・竿・基礎がみられる。				55 B-3
264	衛藤家横石塔群	中戸次 般若寺	戦国	民家の北東の一角に石塔残欠が集められている。				55 B-3
265	那須家先祖墓石塔群	中戸次 佐柳	戦国	那須家の先祖墓の横に石塔部材が重ねられている。				55 B-4
266	江藤家横石塔群	中戸次 般若寺	戦国	民家の一角に近世の笠塔婆・石仏とともに石塔残欠がある。無縫塔は部材数である。				55 C-3
267	床浦神社石塔群	中戸次	南北朝～戦国	神社の御神体として祭られている。宝篋印塔と五輪塔空風輪はきわめて大型である。				55 C-3
268	天神社石塔群	上戸次	戦国	社殿の裏に石塔部材を集積している。無縫塔は竿と中台のみである。				55 C-3
269	上戸次石塔群	上戸次	戦国～ 近世初頭	竿だけ別に置かれている石幢がみられる。このほかにも五輪塔水輪が残されている。				55 D-3
270	八幡神社前石塔群	竹中 中冬田	鎌倉末～南北朝	八幡神社の鳥居前に鎌倉末～南北朝初期の宝塔塔身と基礎がみられる。塔身は首をもち、基礎には格狭間がみられる。このほかに南北朝期の五輪塔空風輪がみられる。				55 C-4
271	玉泉寺石塔群	竹中 玉泉寺	戦国	境内に石塔残欠が散在する。ほとんど部材のみだが、宝塔だけは笠～基礎の組合せが良好に残っている。				55 D-2
272	宮崎家墓地石塔群	竹中 下竹中	戦国	墓地の一角に石塔残欠が置かれている。				55 D-2
273	由布家墓地石塔群	竹中 上竹中	南北朝～戦国	墓地中に相輪を失っている完存の宝篋印塔があり、基礎の四面に格狭間の両側に陰刻銘がある。このほかに墓地中に石塔残欠がある。	応安7 (1374)			55 D-2
274	勝光寺石塔群	竹中 中竹中	鎌倉末～戦国	境内に石塔の部材が置かれている。石幢は各面の下部に銘文がみられ永徳3年の紀年銘が残されている。また、コンクリートで固められた駐車場の一角に石塔の部材が置かれている。竿のみの無縫塔には天文24年の銘がみられる。近世以降に営まれた歴代住職の墓標に中世の石塔部材が組み込まれている。	永徳3 (1383) 天文24 (1555)		5	55 D-3
275	竹中公民館石塔群	竹中 中竹中	南北朝～戦国	竹中公民館の一角に近世以降の石塔群が集められている箇所がある。その中に中世の石塔部材がみられる。				55 D-3
276	斎藤家石塔群	上戸次 利光	南北朝～戦国	庭に石塔部材が散在する。五輪塔空風・火輪に大日心身・報身・法身の三真言と、金剛界五仏と思われる種子を薬彫彫りしているものがみられる。				55 D-3
277	成大寺石塔群	上戸次 利光	南北朝～戦国	寺の前に石塔部材が組み込まれているが、本来の組み合わせではない。			5・45	55 D-3
278	嶋田家石塔群	上戸次 利光	南北朝～戦国	民家の裏に水輪のみを積み重ねている。				55 E-3
279	佐藤家横石塔群	河原内 大洲	戦国	佐藤家横にわずかに盛り上がった土地があり、中央に近世の石幢の残欠がみられ、その周辺に完存の宝篋印塔と組み合わせが本来のものではない五輪塔群がある。				55 E-1
280	五柱神社石塔群	端登 伊与床	戦国	本殿裏に一石五輪塔と宝篋印塔が置かれている。宝篋印塔のセット関係はよいか、塔身が失われている。両方とも戦国期のものであろう。				55 G-1

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
		1																				
	8	5	11	10																		
		1																				
	1	1	4								1		4		1							
	4	5	2	3							1		1									
																			1			
	5	3																				
		3	8	2																		
	1																		1			
	1	3	3																			
	9	2	4									2		4								
											2											
																						層塔1
			2																		1	
	2																					
	4	1	2																			
	2	4	5	3	1									1								
	1	1												1						1		
	1	1			2	3		1														
	1						1														17	
											1											
	7	2	3	1			1														3	
	1	2	2			1																
	1		2											1								
			1																		3	
	1					1	1															
	10	5	2	1		1															3	
			1																			1
	3													1	1							
	6	7	2	7							1											
		1	4																			
	4	1	2	1	1																	
	4	2	3			2		2			1		1							1		1
	2							1														
	4	1	6	1			1							1								1
	1	1	2				1	1						3						1		1
			4																			
	1	3	5	2	1																	
						1																
																					1	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
281	渡辺家墓地石塔群	端登 伊与床	近世初期	渡辺家墓地中に板碑型墓碑がある。山型下に帯状の隆帯があり、その下の陰刻線による月輪内には梵字種子を刻んでおり、その下に陰刻による銘文がみられる。	寛永19 (1642)			55 H-1
282	伊東家寺院石塔群	端登 田原	鎌倉末～戦国	本堂の斜め後に中近世の石造物が集められている。				55 H-2
283	上ノ原千人塚石塔群	端登 鳥巢	戦国	大友氏の戦没者を葬ったと伝えられる塚が壊されており、五輪塔空風輪が1点残されている。				55 H-2
284	鳥巢石塔群	端登 鳥巢	戦国	山道横の丘陵斜面に画像板碑と板碑が置かれている。画像板碑は下に陰刻銘あり。このほかに五輪塔水輪が1点置かれている。	永禄8 (1565)			55 H-2
285	一万田家墓地石塔群	端登 伊与床	戦国	墓地の一角に五輪塔の部材が置かれていたり、組み合わせが違うものが組まれている。				55 H-1
286	安達家供養塔裏五輪塔	上戸次 上り尾	戦国	民家横の近年建てられた供養塔の裏に五輪塔部材が重ねられている。				55 G-2
287	宮崎家横石塔群	上戸次 影ノ木	戦国	個人宅の横に五輪塔空風輪～水輪がみられるが、本来の組み合わせではないであろう。				55 G-3
288	安藤家横石塔群	上戸次 影ノ木	戦国	石祠内に納められた五輪塔1基と五輪塔部材がその横に置かれている。				55 G-3
289	影ノ木公民館石塔群	上戸次 影ノ木	南北朝	別々の宝塔の部材が組み合わされているが、塔身は角宝塔の形式をもつ。				55 G-3
290	川原石塔群	上戸次 川原	南北朝～戦国	コンクリートで固められた一角に五輪塔・宝塔・石幢・一石五輪塔等を置いている。宝塔1基と石幢1基は組合せが良好である。その他の宝塔と五輪塔は組合せは危うい。完形の宝塔は室町、五輪塔は南北朝～戦国である。				55 H-2
291	三宅家墓地石塔群	上戸次 川原	戦国	累代墓の裏に石塔部材が本来の組み合わせと異なり組まれ、また、部材のみが置かれている。				55 H-2
292	河原山観音堂下五輪塔	上戸次 川原	戦国	観音堂下の畑の高い畦に五輪塔空風輪・火輪・水輪が置かれている。				55 H-2
293	川原五輪塔	上戸次 川原	戦国	近世以降の石祠に納められた地蔵の横に五輪塔火輪が置かれている。				55 H-2
294	桑津留石塔群	萩尾 桑津留	鎌倉末～戦国	人家の横に近世以降の石祠が置かれている小さい塚があり、石祠の周辺に石塔残欠が残されている。				55 F-4
295	油布家横石塔群	萩尾 萩尾	南北朝～戦国	畑の畦に比較的大きな南北朝期の五輪塔空風輪～水輪がみられる。水輪には梵字種子を葉研彫りしている。このほかに戦国期の宝篋印塔塔身がある。				55 F-4
296	平山家横石塔群	萩尾 萩尾	戦国	畑の畦に近世の墓碑と中世の石塔部材が集められている。				55 F-4
297	三浦家石塔群	萩尾 奥	戦国	個人宅の庭先に近世以降の石造物を集めているところがあり、その中に中世の石塔部材が数点存在する。				55 F-4
298	萩尾石幢・角柱塔婆	萩尾 萩尾	戦国	石幢は竈部の上に戦国期の五輪塔火輪をのせており、笠は横に置かれているが、完存である。角柱塔婆は上部に二条の陰刻線があり、西面に刻字銘が残る。				55 F-4
299	諏訪家裏石塔群	志津留 高須	戦国	小さな石祠の周りに石塔部材が散在する				55 G-4
300	竹尾家横五輪塔	志津留 高須	戦国	「剛鏝」と書かれた現代の石殿の横に一石五輪塔がある。各輪に墨書があるが判読不能である。				55 G-4
301	堂山石塔群	杉原 碓尾	南北朝～戦国	小堂の周囲に宝篋印塔1基、層塔2基と石塔残欠がみられる。宝篋印塔は銘文から応永4年のものと考えられる。入口付近に置かれている層塔は相輪が失われており、5層で組まれているが、このほかに同じ型式をもつ笠が4点横まれており、軒幅を計測すると漸減率がうまくいき、本来は九重塔であったことが想定できる。塔身には「宗□□七」の刻銘がみられる。奥に置かれている層塔は完存であり、玄正の作と考えられる。	応永4 (1397)	5・45		55 E-5
302	碓尾石塔群	杉原 碓尾	戦国	道路横に石塔部材が積まれている。無縫塔は中台・基礎・塔身の部材が残されている。				55 F-5
303	小園宝篋印塔	志津留 小園	南北朝	道路横に単独で立てられている完存の宝篋印塔である。				55 G-5
304	寺板碑	志津留 寺	戦国	人家の横に単独で立てられている板碑である。正面と両側面を加工し、4本の横線を引いているが、五輪を表現したものであろうか。				55 G-5
305	寺石幢	志津留 寺	戦国	村はずれの山道横の岩上に単独で立てられている。。屋根は上面を丸く仕上げ、下面には放射状の割付陰刻線を彫り、墨書で戒名を数十名刻んでいる。竈は八角形で各面を方形に彫り沈め、像像を薄く隠刻する。				55 G-5
306	安位石塔群	志津留 安位	戦国	山林の端に石塔が集められている場所があり、組み合わせられているものも本来のものではない。				55 G-2
307	屋形川石塔群	志津留 屋形川	戦国	薬師如来を祀る小堂の裏に石塔残欠が埋もれている。五輪塔・板碑・宝篋印塔などが存在すると思われ、総数10～20基を数えるものであろう。				55 G-4
308	中間石幢	志津留 上志津留 中間	戦国	路肩に単独で存在する完存の石幢であり、竿から笠まで円形に成形されている。笠の裏面に交名銘と紀年銘がみられる。	応永6 (1399)		県史跡	55 G-3
309	上志津留五輪塔	志津留 上志津留	戦国	地藏堂の上段の畑に五輪塔が単独で立てられている。五輪塔空風輪・火輪・水輪が残る比較的大型の良品であり、組合せも良いものと思える。				55 H-5
310	角石石塔群	志津留 角石	戦国	民家の横の丘陵を段々に削平し、石塔部材を集積している。				55 H-5
311	油布家宝塔	辻 辻平	南北朝	油布氏宅裏に単独で置かれている。相輪上半を欠く以外は完存の宝塔であり、良品である。				55 F-5
312	安東家横石塔群	辻 辻平	戦国	安東氏宅端の凝灰岩の露岩上に石塔部材を積み重ねている。				55 E-5
313	前原石塔群	辻 前原	戦国	個人宅の中庭に石塔残欠がみられる。				55 F-5
314	蔵野五輪塔群	宮尾 蔵野	南北朝～戦国	畑の横に五輪塔が2基組まれている。火輪と水輪は1対のものであり、他は組合せが異なる。				55 E-6
315	儀徳角柱塔婆	宮尾 儀徳	南北朝	谷合の水田中に単独で立てられている。各面の調整は粗く、彫らむ面もみられる。頂部は裁頭角錐状を呈している。西面には梵字種子を葉研彫りしている。				55 D-6
316	地藏堂石塔群	宮尾 儀徳	室町～戦国	細い丘陵尾根先端に平地をつくり、地藏堂を営む。その横の尾根上に石塔が近世の無縫塔とともにある。応永31年銘をもつ宝篋印塔や、元亀2年銘をもつ無縫塔、および宝塔は完存である。	応永31 (1424) 元亀2 (1571)			55 D-6
317	光照庵石塔群	福良 上馬ノ	戦国～近世初頭	境内の一角に石塔部材が重ねられている。				55 D-6
318	円通寺石塔群	広内 九六位	戦国	境内に石塔部材が残されている。				55 A-7
319	中畑石塔群	志津留 中畑	近世初期	人家の裏山に一定の範囲を掘り下げ石塔を並べている。組合せは本来のものではなく、埋もれているものも数基分あると思える。墓碑には紀年銘がある。	寛永21 (1644)			64 A-5

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	ドヤシキ北石塔群	目明 藤ノ尾	戦国	丘陵斜面に狭い平坦地があり、20～30基からなる五輪塔が散在する。本来は部材が散在していたものを、近年組み合わせたものである。				46 G-4
2	ドヤシキ南石塔群	目明 藤ノ尾	戦国	幅1.5mの方形石横上に石祠があり、その周辺に石塔部材がみられる。				46 G-4
3	目明石塔群	佐志生 目明	南北朝～戦国	300mほど南方の丘陵上から現在地に移されたものである。				46 H-5
4	目明石塔群旧在地	佐志生 目明	南北朝～戦国	ここから現在地に移されている。				46 H-5
5	光照寺石塔群	佐志生 尾本	南北朝～近世初期	参道及び本堂横に並べられる石仏の間に一石五輪塔と無縫塔塔身がある。また、本堂裏の石仏群中に宝篋印塔笠・塔身が見られる。塔身のひとつにはユ(弥勒)とサ(観音)を置き換える願教四仏の梵字種子がみられ、また銘文も刻まれている。	嘉慶2 (1388)			46 H-6
6	上通宝篋印塔	田尻 上通	室町～戦国	人家裏に2基の宝篋印塔と五輪塔水輪がみられる。室町期の宝篋印塔は塔身が失われ、基礎に銘文がみられる。戦国期の小型の宝篋印塔は相輪を失っている。	明徳4 (1393)			55 C-8
7	向山三重石塔	田尻 向山	南北朝	丘陵尾根上に単独で立つ三重塔である。相輪を欠くのみで完存である。第1層の塔身に刻銘がみられる。		市有形 (層塔)		55 C-8
8	久木小野のマンダラ石	久木小野	室町	凝灰岩の岩肌を利用し、胎蔵界大日如来を中心とする種子マンガラをはじめとして、色々な彫刻が施されている。この中に刻銘が認められる。	文安4 (1447)	県史跡	5	55 E-8
9	吉小野の宝塔	吉小野	近世初期	集落入口の水田に面した丘陵裾に凝灰岩の露岩があり、近世の石碑2基とともに、角宝塔がおかれている。角宝塔の基礎の前面のみ輪郭を囲み、中に塔婆形を線刻する。そこには刻銘があるが、雑で判読しにくい。				55 E-7
10	延福寺跡石塔群	吉小野 板川野	鎌倉後期～近世初期	延福寺跡と伝えられる場所に五輪塔・宝塔などの石塔部材が組まれている。板碑のひとつには紀年銘がみられる。	寛永17 (1640)			55 E-8
11	板川野石幢と周辺石塔群	吉小野 板川野	戦国	石幢と板碑のほか、五輪塔部材がみられる。石幢は宝珠を欠く以外は完存であり、板碑には紀年銘がみられる。	天正2 (1574)			55 E-8
12	王座石幢と周辺石塔群	王座	南北朝～室町	小さい独立丘陵に石幢と南北朝期のものと思える五輪塔部材がみられる。石幢は火災宝珠を四角に作る以外は円形で完存。竿に銘文がみられる。	応永33 (1426)	県有形 (石幢)	29	55 E-8
13	正願不動堂石塔群	武山 正願	戦国	お堂の前に石塔の部材が組まれているが、本来に組み合わせではない。				55 G-7
14	半三石幢	中臼井 半三	戦国	観音堂前に完存の石幢あり、宝珠と基礎が方形であるほかはすべて円形である。幢身には8区画の彫り沈め内に地藏6体と二王2体を陽刻している。一部に彩色が残り、作りもよい。		市有形 (石幢)		55 G-8
15	香宝宝篋印塔	上末広	南北朝	集落内の道路横に単独で立てられている完存の宝篋印塔であり、石大工玄正の手によるものと考えられる。			45	56 D-1
16	平宝塔	末広 上末広	南北朝	丘陵裾の狭い平坦地に2基の宝塔が立てられている。2基とも同規模同型式に造られ、1基は九輪を失い、もう1基は九輪の宝珠のみを失っている。南北朝後半の秀作である。		市有形 (宝塔)		56 D-1
17	妙音寺宝篋印塔と周辺石塔群	藤河内 平原	南北朝～戦国	妙音寺本堂に向かって左側に石造物群があり、その中に市有形の宝篋印塔があるが、宝篋印塔の裏に五輪塔部材が10基程度と石幢竿と宝塔笠が散在する。		市有形 (宝篋印塔)		56 A-3
18	小出石塔群	藤河内 小出	南北朝～戦国	観音堂の前に五輪塔をはじめとした石塔が並べられている。五輪塔は組み合わせは本来のものではないであろうが、宝塔のみは組み合わせが本来のものと思える。地藏碑は地藏3体が四角を彫り沈めた中に陽刻されている。				56 A-3
19	足立家裏石塔群	藤河内	南北朝～近世初頭	個人住宅の近世墓地があり、その中に中世の石塔が混在する。完存の角宝塔2基のほか、墓地中に石塔部材が散在する。				56 A-3
20	中野家前石塔群	藤河内	鎌倉～戦国	個人住宅の前に石幢と折損した板碑が置かれている。板碑は大型でバーンク(五点大臼)の梵字種子を大きく葉研彫りしている。				56 B-3
21	田ノ口公民館石塔群	稲田 田ノ口	南北朝	公民館前に石塔部材が置かれている。				56 C-2
22	田井宝篋印塔	田井 田井	戦国	畑中に方柱石及び円礎と重ねられている宝篋印塔の笠である。				56 B-5
23	田井石塔群	田井 田井	戦国	畑中に宝篋印塔笠と五輪塔空風輪が他の石の上に重ねられている。				56 B-5
24	平尾宝篋印塔・石幢と周辺石塔群	田井 平尾	南北朝～戦国	宝篋印塔は相輪を欠き戦国期の空風輪をのせた宝篋印塔。露盤に基礎と同じ格狭間を刻む。塔身の梵字は金剛界四仏を刻む。基礎の裏面に銘文を刻んでいる。石幢は宝珠を欠き南北朝期のものと思える空風輪をのせている。	応永32 (1425)	市有形 (宝篋印塔・石幢)		56 B-5
25	平尾一石五輪塔	田井 平尾	鎌倉	板碑残欠等と並んで立てられている空風輪を欠く一石五輪塔である。各面に五輪四方門の梵字種子を大きく平彫りしており、中尾五輪塔に類する特徴をもつ。		市有形 (五輪塔)		56 B-5
26	念声寺宝篋印塔	下ノ江 大間	鎌倉	本堂裏に完存の宝篋印塔がある。部材の組み合わせも本来のものであろう。				56 B-6
27	寺尾石塔婆	大野 松ノ木	戦国	業師堂境内に高さ65cm、横幅150cm、厚さ15cmの板状の石造物がある。3つに折れているが、表面に幅5cmの五輪塔婆を陽刻し、その間に幅2.5cmの49本の五輪塔婆を陽刻する。左端に銘がみられる。	長祿3 (1459)	市有形 (石塔婆)		56 B-4
28	松ノ木権現堂五輪塔群	大野 松ノ木	戦国	堂外に13基の五輪塔、堂内に4基の五輪塔が置かれている。また石祠内に五輪塔空風輪(2、戦国、凝灰岩)が置かれている。				56 B-4
29	大野神社板碑	大野 大野	室町～戦国	社殿横に石祠群とともにあり、梵字種子は大きく刻まれている。				56 B-4
30	大野石幢と周辺石塔群	大野 大野	戦国	旧街道に面した一角に立てられている。笠の一部が破損しているほかは完存の石幢である。石幢の周辺にも石塔部材が置かれている。				56 B-4
31	高倉石塔群	大野 高倉	南北朝～戦国	水田に面した丘陵裾の凝灰岩の露岩に石造地藏を祀っており、その周辺に石塔部材がある。石幢部材は竿のみが残る。				56 B-3
32	三重町石塔群	稲田 三重町	南北朝	公民館前の築山に2基の五輪塔がみられ、各輪にはキャカラバアの四方門が大きく葉研彫りされている。				56 C-3
33	臼杵神社石塔群	稲田 三重町	鎌倉～戦国	国指定の古墳時代の石甲の横に石塔部材が置かれている。			29	56 C-3
34	稲田石塔群	稲田	南北朝	丘陵裾の道路横に石祠があり、その横に石塔部材が置かれている。				56 C-2
35	泉人寺九重塔と周辺石塔群	末広	鎌倉後期～近世初頭	堂前に完存の九重塔と石幢がみられる。		市有形 (層塔)		56 D-2
36	戸室一石五輪塔	戸室 戸室8-1組	南北朝	民家横の畑中に一石五輪塔が2基並んで立てられている。1基は完存、もう1基は水・地輪のみ残る。		市有形		56 E-3
37	心源寺石塔群	戸室	戦国～近世初頭	心源寺堂内に大友親繁公無縫塔がある。基礎・基礎・竿は一具のものと思えるが、他の部材は後補の可能性が高い。竿に紀年銘がある。また、心源寺本堂前に石幢があり、笠は後補だが、他は当初から一具のものである。竿に非常に細かい刻銘がある。	明応2 (1493)			56 E-3
38	大友政親公廨所石塔群	戸室 戸室7組		石幢で囲まれた一角に大友政親の墓塔(近世以降)と中世の石塔部材が見られる。無縫塔竿のひとつに天文年銘、宝篋印塔基礎に永正年銘がみられる。	天文7(1538) 永正15(1518)			56 E-3
39	上市浜石塔群	市浜 上市浜13組	南北朝～戦国	累代墓地中に石塔の部材がおかれている。				56 F-3

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
40	延鏡寺一石五輪塔	市浜 上市浜	戦国	門前の石仏・石塔群の中に戦国期の一石五輪塔がある				56 F-3
41	白杵石仏(大日石仏)と周辺石塔群	前田 大日 1651	平安～戦国	7体からなる層崖仏であり、丸彫りされている。左から4体は平安期末の作であり、風化が著しく、右の3体は鎌倉期のものである。このほかに中世の五輪塔水輪が覆屋の外に置かれている。		国定・国特別史跡(層崖仏)	5・29	56 F-2
42	播磨キリシタン墓	播磨 西ノ平	鎌倉～近世初期	覆屋の中にキリシタン墓と考えられる異指定の扁形、方形のほか、加工の粗い長方形の加工石2基がある。このほかに覆屋内や周辺の墓地中に石塔部材がみられる。		県史跡(キリシタン墓)	29	56 H-1
43	観音堂石塔群	播磨	南北朝～戦国	観音堂前の2体の地蔵の裏に石塔部材が集積されている。				56 H-1
44	深田の鳥居	深田	中世	深田の入口近くの田んぼの中に単独で立てられている。この鳥居は、柱が二つの石を積み重ねており、白杵石仏とかかわりを持つ日吉神社の鳥居といわれている。		県有形(鳥居)	5・29	56 H-1
45	下中尾石塔群	中尾 下中尾	鎌倉～戦国	近世の弘法大師像群の横に中世の石遺物が集められている。				56 H-1
46	白杵石仏ホキ石仏第二群	深田 ホキ	平安	2龕からなり、第1龕に阿彌陀三尊像が大きく、第2龕に九品の阿彌陀と観音菩薩立像が比較的小さく彫られている。覆屋前には五輪塔が並べられているが、部材の組合せは本来のものではない。		国宝・国特別史跡(石仏)	5・29	56 H-1
47	中尾五輪塔	中尾 堂ヶ迫	平安	嘉応年銘をもつ五輪塔は空輪と風輪の一部が欠失しているが、比較的大きく、地輪が大きな台形状を呈する形態的特徴をもち、重厚な印象を受ける。承安年銘をもつ五輪塔は比較的小さい。	嘉応2(1170) 承安2(1172)	国重文・国特別史跡(五輪塔)	5・29	56 H-1
48	白杵石仏ホキ石仏第一群	深田 ホキ	平安	4つの龕からなり、第1龕は、如来坐像3体と菩薩立像2体、第2龕は3体、第3龕は大日如来像ほか4体、第4龕は11体が覆屋の中に刻まれている。覆屋前には20基を超える五輪塔が並べられているが、部材の組合せは本来のものではない。		国宝・国特別史跡(石仏)	5・29	56 H-1
49	白杵石仏山王山石仏	深田 山王山	平安	三体の如来像で構成されており、右から薬師如来、釈迦如来、阿彌陀如来と伝えられている。中尊には丈六の大きな如来坐像をすえ、その左右には脇尊としての如来坐像を配している。		国宝・国特別史跡(石仏)	5・29	56 H-1
50	日吉社五輪塔	深田 山王山	平安	日吉神社裏の小さな塚に隣接して立つ一石彫成の五輪塔であり、各輪とも調整が粗く、細かい鑿痕がひじょうに多く残る。中尾五輪塔と同一工人の作であろう。		県有形(五輪塔)	5・29	56 H-1
51	白杵石仏古園石仏	深田 古園	平安	金剛界大日如来坐像を中心に、その左右にそれぞれ如来像2軀、菩薩像2軀、明王像1軀、天部像1軀を配し、金剛界曼荼羅を表したものとみられている。修復工事により中尊の大日如来の仏頭が復位され、昔日の姿に戻っている。		国宝・国特別史跡(石仏)	5・29	56 H-2
52	薬師堂一石五輪塔	深田	戦国	堂前に隅切一石五輪塔が1基あり。				56 H-2
53	宝篋印塔(日吉塔)	深田	鎌倉・室町	復元高4.2mを測る完存の宝篋印塔である。塔身は、正面が深くえぐられた厨子形を呈することや、笠の隅飾が別石でつくられていることなど、特徴的である。本塔横に室町期の宝篋印塔基礎が置かれている。		国重文・国特別史跡(宝篋印塔)	54	56 H-2
54	木原石仏と周辺石塔群	深田 木原	鎌倉～戦国	満月寺の入口に立てられている2体の丸彫りの仁王であり、阿形が2.4m、吽形が2.2mを測る。吽形の裏に石塔部材が置かれている。		国特別史跡(石仏)	29	56 H-2
55	後楽一石五輪塔	深田 後楽	鎌倉～戦国	丘陵の南面する端に3基並んで立てられている。				56 H-2
56	下中尾一石五輪塔	中尾 下中尾	室町～戦国	一石五輪塔や五輪塔部材が集められている。				56 H-1
57	岩ノ下石塔群	深田 岩ノ下	鎌倉～戦国	深田地下式塙の近くに石塔残欠が集められている。				56 H-2
58	野路一石五輪塔	深田 野路	鎌倉	一石五輪塔で隅切りに近い様相をもつ。一部に墨書梵字種子が残る。		市有形(一石五輪塔)		56 H-2
59	満月寺層塔と周辺石塔群	深田	鎌倉～戦国	満月寺境内の2基の石造層塔の残欠を使用し、現在の石造五重塔を修理したと伝えられている。塔身に紀年銘がみられる。周辺に石塔部材がある。	正和4(1315)	市有形(層塔)		56 H-2
60	岡山一石五輪塔	深田 岡山	鎌倉～戦国	一石五輪塔で隅切りに近い様相をもつ。一部に墨書梵字種子が残る。				56 H-2
61	白杵城石塔群	白杵	鎌倉	白杵城山の発掘調査により出土したもので銘文がみられる。また、石垣中にも石塔部材がみられる。	貞永元(1232)		48	56 E-4
62	恵良天神社石塔群	福良	鎌倉～戦国	社殿横の林の中に石塔部材が積み重ねられており、宝塔塔身と石幢産部がみられる。宝塔塔身は鎌倉期にも遡るものであり、四面に梵字種子が大きく業研彫りされている。				56 F-3
63	塩田六地藏	二王座 上塩田	戦国	幢身のみが石殿内に安置され、堂内に納められている。				56 F-4
64	泉入寺石塔群	海添 北海道1-2組	南北朝～戦国	庭に石塔の部材が積まれている。				56 F-4
65	秋葉稲荷社石塔群	海添	南北朝～戦国	境内地に石塔部材がみられる。石幢は笠と塔身がみられ、層塔は三重の屋根瓦・鬼瓦を表現した特異なものである。				56 F-4
66	常照院石塔群	風成1組	戦国	境内に石塔部材が散在する。また、寺の裏の高台に並べてたてられている。無縫塔は良品だが竿を欠いている。				56 F-7
67	風成石幢	風成12組	戦国	完存の石幢が覆い屋の中にある。				56 F-7
68	泊ヶ内石塔群	泊ヶ内	南北朝～戦国	泊ヶ内集落の奥に小堂あり、その中に石塔部材が積まれている。五輪塔火輪の中に柱があるものがあり、南北朝～戦国のものと思われる。				57 E-2
69	御霊園クルスバ遺跡石塔群	野津町 西寒田	鎌倉～戦国	丘陵の尾根を25m四方程度、平坦に造成した中や周辺に破損した石塔や石塔部材が散在し、キリシタン墓碑と考えられるものもみられる。	正和3(1314)			64 A-3
70	平野集落墓地五輪塔群	野津町 千塚 平野	戦国	近世墓地中に整理された五輪塔部材がみられる。				64 B-3
71	平野五輪塔群	野津町 千塚 平野	鎌倉～戦国	道路横の畑の中に五輪塔部材が置かれている。空風輪と水輪の1例は大型のもので、鎌倉期に遡るものであろう。			33	64 B-4
72	平野宝篋印塔	野津町 千塚 平野	戦国	畑に面した林の端に完存の宝篋印塔が単独で立てられている。		市有形(宝篋印塔)	33	64 B-4
73	鍋田キリシタン墓群	野津町 西寒田 鍋田	戦国～近世初期	近世墓地の一角に屋根形のキリシタン墓が2基並んで置かれている。その横に五輪塔部材がみられる。		市有形(キリシタン墓)	33 45	64 C-3
74	藤小野一石五輪塔	野津町 藤小野	戦国	道路横に空風輪を欠く一石五輪塔が1基置かれている。				64 C-3
75	波津久クルス場石塔群	野津町 烏塚 波津久	戦国	近世以降の空塔婆の周辺に五輪塔部材がみられるが、このほかにも石塔部材が埋もれているものと思われる。		市史跡		64 C-4

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
76	下藤地区共有墓地石塔群	野津町 原 下藤	南北朝～戦国	中世の石塔は部材が散在したり、集石墓の石材として利用されている。キリシタン墓のほかに屋根状に加工された石造物があり、人為的に破壊されている。		市有形(キリシタン墓)		64 D-4
77	大友義鑑墓と周辺石塔群	野津町 宮原 寺小路	戦国	大友義鑑墓と伝えられる紀年銘のある重制無縫塔が覆い屋の中に置かれている。周辺には石塔部材が散在する。	天文19 (1550)	市有形(無縫塔)		64 D-5
78	寺小路磨崖クルス	野津町 宮原 寺小路	戦国	大きさ2.2×1.1mの岩の平らな面に径60cmの陰刻円があり、その中に十字架を浮き彫りする。岩の上には十字架の上部に小さな穿孔が2カ所認められる。		市有形(磨崖碑)		64 D-5
79	熊野神社石塔群	野津町 原 下藤	南北朝～戦国	熊野神社参道脇に近世の石塔とともに五輪塔残欠が置かれている。				64 D-5
80	大西角塔婆	野津町 原 大西	近世初期	紀年銘の残る角柱塔婆である。一面に陰刻による月輪を刻み、月輪のある面にのみ銘文を刻んでいる。	寛永16 (1639)			64 D-5
81	妙楽寺跡石塔群	野津町 都原 筒井	南北朝～戦国	妙楽寺跡の地蔵堂には媽祖像がある。人家の敷地の一角に石造物が集積されている。				64 C-6
82	菅無田角塔婆	野津町 都原 菅無田	南北朝	単独で存在する角柱塔婆である。山型の下につきかりとした2条切込みがみられる。4面には金剛界四仏の種子が薬研彫りされており、ウーンの下には刻字がみえる。		市有形(角塔婆)		64 B-6
83	寺田角塔婆	野津町 都原 寺田	南北朝	愛宕神社内に2基の角柱塔婆があり、高さが違っても同規模であり、刻銘がある。	永徳2 (1382)	市有形(角塔婆)		64 C-6
84	武山宝塔	野津町 都原 武山	南北朝	丘陵尾根を20～30m四方の範囲で平坦にし、中央に径7～8m、高さ1mの塚を設け、その上に宝塔を単独で立てている。相輪の宝珠と笠の一部を欠く以外は完存である。		市有形(宝塔)		64 B-6
85	生野原石幢	野津町 都原 生野原	近世初期	細い谷水田に面した尾根にある神社の入口に立てられている。完存の石幢で大岩を基礎にし、幢身が六角である以外はすべて円形に成形している。竿に銘がある。	寛永15 (1638)	市有形(石幢)		64 B-6
86	生野原石塔群	野津町 都原 生野原	戦国	道路脇に石塔部材が集積されている。無縫塔は中台のみ残されている。				64 B-6
87	芝尾板碑	野津町 老松 芝尾	南北朝	旧街道から丘陵尾根を少し入ったところに単独で立つ。扁平な自然石の表面を平らに加工し、上部に大きく阿彌陀三尊に種子を薬研彫りしている。その下には、刻銘がみえる。	康永2 (1343)	県有形(板碑)	36	64 B-7
88	柱松石幢	野津町 老松 芝尾	戦国	尾根道が走る丘陵上側の径10mの平地に単独でみられる。完存の石幢で幢身が六角である以外は、竿が方形、その他は円形に成形している。基礎は自然石である。		市有形(石幢)		64 B-7
89	芝尾一乗妙典一万部塔	野津町 老松 芝尾	南北朝	尾根道が走る丘陵上の径7～8mの平地にある笠塔婆である。宝珠・笠・塔身・基礎からなる。塔身には四面の上部に梵字種子を薬研彫りし、その下に銘文を刻んでいる。	永徳3 (1383)	県有形(笠塔婆)	29	64 B-7
90	芝尾観音堂石塔群	野津町 老松 芝尾	南北朝～戦国	境内に基礎～笠が残る南北朝期の宝塔と基壇～笠が残る宝篋印塔のほかに石塔部材がみられる。		市有形(石幢)		64 B-7
91	芝尾笠塔婆・表平石幢	野津町 老松 芝尾	室町～戦国	笠塔婆は塔身に金剛界四仏の梵字種子を薬研彫りし、アクの下に刻銘がある。塔身上的空風輪と笠は形はよいが、当初のものかは不明。笠の下には枿穴があるが、塔身に枿はない。石幢は自然石の基礎に円形の竿・中台・笠を載せ、宝珠は丸い。	明徳5 (1394)	市有形(笠塔婆・石幢)		64 B-7
92	花原石塔群	野津町 老松 花原	戦国	墓地中に石塔部材がある。中には、基礎・竿・中台の組み合わせの揃った無縫塔が2基みられる。				64 B-7
93	老松花原石幢と周辺石塔群	野津町 老松 花原	戦国	民家の一角にある石幢である。基礎は自然の凝灰岩の露岩を方形に薄く2段に加工し、竿には梵字種子と刻銘がみられる。笠・中台は円形、幢身は八角形で六地蔵と二王を薄く彫刻している。その周辺には石塔部材がみられる。	明心7 (1498)	県有形(石幢)	29	64 B-7
94	持田神社板碑	野津町 老松 持田	戦国～近世初期	神社の境内に戦国期の画像板碑が1基あり。				64 C-6
95	中山板碑	野津町 宮原 中山	鎌倉	丘陵斜面に単独で建てられているが、周辺に石塔や地下式墓が存在し、寺院伝承地でもある。梵字種子は大にかつ丁寧に薬研彫りされ、中には墨が入れられており、銘文は比較的大きい。	元徳2 (1330)	県有形(板碑)	36	64 D-6
96	追石塔群	野津町 宮原 追	南北朝～戦国	林およびその横に石塔部材がみられる。板碑の内、1基は2体の地蔵を浮き彫りしている。				64 D-6
97	日平板碑と周辺石塔群	野津町 乙見 日平	戦国	石塔部材が集積されているが、そのうち1基の板碑は市有形である。		市有形(板碑)		64 B-8
98	名塚宝塔	野津町 八里合 名塚	室町	林中に単独で建てられている完存の宝塔であり、3段の基壇上に掲げられている。基礎の方形輪郭に銘文が刻まれている。	文安6 (1449)	県有形(宝塔)	26	64 C-8
99	名塚板碑・名塚石造物	野津町 八里合 名塚	戦国～近世初期	薬師堂裏に石塔部材が並べられている。このうち板碑は県有形であり、銘文が見られる。	永正2 (1505)	県有形(板碑) 市有形(石塔群)	29 36	64 C-8
100	名塚五輪塔と周辺石塔群	野津町 八里合 名塚	鎌倉～戦国	寺の石段横に石塔部材がある。内1基は火輪～地輪まで揃っており、市有形に指定されている。火輪には銘がみられる。このほかに戦国期の火輪が1基ある。	延慶3 (1310)	市有形(五輪塔)		64 D-8
101	一石五輪塔	野津町 八里合 備後尾	鎌倉	竹林中の覆屋にある一石彫成の五輪塔である。風輪が火輪に食い込む特徴をもつ適合式五輪塔である。修復に伴う発掘調査において、短刀、刀子、土師器、磁石、鉄釘などが出土している。	弘安8 (1285)	国重文(一石五輪塔)	29	64 D-8
102	備後尾板碑	野津町 八里合 備後尾	鎌倉	台地縁辺の斜面に斜めに寝せられている。銘文があつたとされているが、現在では確認できない。	元応元 (1319)	県有形(板碑)		64 D-8
103	小屋川石塔群	野津町 八里合 小屋川	南北朝～戦国	台地上の水田の一角に近世以降の墓があり、その中に中世石塔が集められている。				64 D-8
104	熊野神社石幢	野津町 亀甲 塚田	戦国	社殿前に石祠が並べられているが、その中に六地蔵と二王を刻む八角形の石幢幢身がみられる。				64 E-7
105	八坂神社石塔群	野津町 亀甲 才原	南北朝～戦国	社殿前に舟形を彫り沈めた中に彌教四仏を彫刻した宝塔塔身と五輪塔空風輪が置かれている。				64 E-6
106	松尾公民館五輪塔	野津町 亀甲 松尾	南北朝	公民館前に近世以降の石祠があり、その前に五輪塔四方門の梵字種子を刻む地輪があり、手水鉢として再利用されている。				64 E-7
107	松尾五輪塔と周辺石塔群	野津町 亀甲 松尾	鎌倉～戦国	鎌倉期にさかのぼる大型五輪塔の優品である。各面の円相内にキャカラバアの四方門の種子を大きく薬研彫りしている。このほかに神社の石段横に石塔部材がみられる。		県有形(五輪塔)	29	64 E-7
108	門信寺石塔群	野津町 王子 大内	南北朝～戦国	境内の前庭に組み合わせの異なる石塔が組まれている。				64 E-6
109	薬師如来五輪塔	野津町 山頭 持丸	戦国	石祠が数基みられる中に一石五輪塔がみられる。				64 E-5
110	持丸石塔群	野津町 山頭 持丸	室町～戦国	公民館の敷地内に石塔残欠がある。昔は桑畑だったが、位置は動いていないとされる。				64 E-5
111	水地九重塔と周辺石塔群	野津町 王子 水地	鎌倉～南北朝	延萬寺跡と伝えられる水田の一区画に、鎌倉時代末～南北朝時代のものと考えられる大型の宝塔残欠とともに紀年銘をもつ層塔が置かれている。	文永4 (1267)	国重文(層塔)	29	64 F-7
112	極楽寺跡石塔群	野津町 岩瀬 岩瀬	南北朝～近世初期	小堂の境内に銘文をもつ異形角宝塔のほか、板碑を中心に五輪塔部材や無縫塔部材がみられる。	永徳2 (1382)			64 F-7
113	千光寺跡石塔群	野津町 福良木 笠木	南北朝～戦国	門前に石造物が並べられている。その中に完存の無縫塔と竿のみがあり、両者とも竿に銘がみられる。そのほかにも石塔部材が確認できる。	永祿7(1564) 永祿11(1568)			64 E-8
114	一ツ木石塔群	野津町 吉田 一ツ木	戦国	隠れキリシタンの礼拝所(町指定)と伝えられている地下式墓の中に五輪塔部材があり、また、そこへ行く途中の山道にも石塔部材が並べられている。				64 F-4

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
	10	1	3										1							1		
																						唐崖クルス1
	3		2																			
																				1		
	21	14	15	13		2	6	2	1								1	11				
																					1	
																					2	
											1											
						1	1											1		1		
																		1				
																					1	
	3	2	1		1	3					1											
																					1	笠塔婆1
	1	9	3																	3		
	5																		1			
																		1				
																		1				
	1	1	3															2				
	2	7	3	6		1	1											11	1			
											1											
	10	7	6	3		3												3	2		2	
1		1																				
																			1			
		5		1																		
																					1	
	2												1									
				1																		
1	1																	5			2	
	2	1	3	2	1	1												1				
																			1			
	2	1				1	1	1														
											1											層塔1
						1	1						1							2	4	
	5	6	6	6																		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
115	千手観音石塔群	野津町 吉田 一ツ木	南北朝～戦国	車道横に近世以降の石仏・石祠とともに中世の石塔部材が組まれている。				64 F-4
116	南長小野磨崖仏と 周辺石塔群	野津町 秋山 長小野	鎌倉～南北朝	谷に臨む凝灰岩の露岩に高2mをこえる立像があり、光背が火焰であるため、不動明王が想定されている。この像の横の岩面に刻銘がある。周辺に方形の切り石があるため、ここは採石場だったことが想定できる。また、付近に石塔部材が散在している。	元弘3 (1333)	市有形 (磨崖仏)		64 F-2
117	天手板碑	野津町 秋山 天手	戦国	板碑2基が倒されており、大きい方は銘がみられる。小さい方はキリークの梵字種子がみられる。	大永5 (1525)	市有形 (板碑)	36	64 F-1
118	天手石塔群	野津町 秋山	南北朝～戦国	道路横に石塔残欠がみられ、ここからさらに15mほど入ったところにも、近年、石塔を積み重ねられている。				64 F-1
119	風瀬板碑	野津町 西畑 風瀬	南北朝	道路横に単独で建てられている。板碑下には比較的大きな台石がある。修理されて元禄5年に半折したものを補修したと伝えられている。	明徳3 (1392)	県有形 (板碑)	36	64 G-1
120	長小野石塔群	野津町 秋山 長小野	戦国	人家の裏の竹藪中に市指定の宝篋印塔(近世)があり、そのもとに中世の石塔の残欠がみられる。				64 F-3
121	大仏堂石造物	野津町 西畑 東光寺	戦国	近世以降の石祠や灯籠がある10m四方程度の空間に石幢が1基ある。基礎・龕部は円形、竿は八角形、中台は外され、龕部の上に屋根として被されている。		市有形		64 H-2
122	ツルツカ石幢と 周辺石塔群	野津町 西畑	戦国	道路に突出した丘陵尾根先端に石幢と石塔の部材が重ねられている。石幢は宝珠以外は完存であり、各部位ともすべて丸く仕上げられており、龕部のみ八角形である。		市有形 (石幢)		64 H-3
123	オムレ石幢と周辺 石塔群	野津町 西畑 柄原	戦国	丘陵斜面に平地地を設け、石幢と五輪塔の部材が重ねられている。石幢は龕部・中台・竿・基礎とも方形に彫出しているが、笠のみ円形に仕上げ垂木をもつ。		市有形 (石幢)		64 H-3
124	成俊寺石塔群	野津町 西畑	戦国	境内の本堂裏の中庭と本堂西の中庭にそれぞれ石塔の部材が置かれているが、明らかに整理されたものであることがわかる。				64 H-3
125	尾原庵石塔群	野津町 西畑 尾原	戦国	前庭に石塔部材が組まれている。				64 H-3
126	尾原供養塔	野津町 西畑 尾原	近世初期	人家横の畑中に近世墓とともにある。大きな自然石塔婆であり、正面のみ平らに加工している。銘の彫りも粗い。	天正14 (1586)	市有形 (板碑)		64 H-4
127	黒土三重塔と周辺 石塔群	野津町 落合 黒土	南北朝～戦国	三重塔は宝篋印塔・層塔の部材が組み合わされたものである。このほかにも石塔が組まれているが、本来の組合せではない。	応永4 (1397)	市有形 (層塔)		64 H-6
128	白山権現社石造物群	野津町 内平	戦国	鐘乳洞奥の石造物群とは別に、社殿横の鐘乳洞入口に相輪を欠く完存の宝篋印塔が岩上に単独で置かれている。		市有形(宝 篋印塔)		64 H-8
129	慈航庵跡石塔群	中尾 丸山	室町～戦国	境内に石塔部材が散在する。		市史跡		65 A-1
130	弘川石幢	中尾 弘川	戦国	個人宅の庭に単独で存在する石幢である。この屋敷の裏に街道が通っており、その横にあったものと伝えられている。龕部は円形で六地藏と二王をあらわしており、各像様間には刻銘がみえる。笠は後補であろう。	天文24 (1555)	市有形 (石幢)		65 A-1
131	乙見石幢	乙見 尾畑	戦国	畑地から神社の森に入る入口に単独で立っている。宝珠は火焰部を欠失している。笠は深い照起りで軒下に極をもち、竿は中太で刻銘をもつ。	天文元 (1532)	市有形 (石幢)		65 C-1
132	上宮本五輪塔	東神野 上宮本	鎌倉末～ 南北朝	車道横の石祠の下に五輪塔水輪と地輪を置いている。それぞれ約60cmの大型品である。				65 E-2
133	高橋家墓地五輪塔群	東神野 上宮本	戦国	近世墓地中に五輪塔部材が散在する。				65 E-2
134	熊野神社石塔群	東神野 上宮本	南北朝～戦国	鳥居の横に石塔部材を重ねている。				65 E-2
135	上宮本宝篋印塔	東神野 上宮本	戦国	笠・塔身・基礎が残る大型の宝篋印塔が集会所横に1基存在する。				65 E-2
136	西神野石幢	野津町 西神野	戦国	10m四方程度の平地に近世以降の石造物群があり、その中に石幢が建てられている。龕部以外はすべて円形に仕上げられた石幢で、石幢の下には折損した地藏陽刻板碑がみられる。		市有形 (石幢)		65 F-1
137	竹脇石幢	野津町 西畑 竹脇	室町	笠の一部が欠損している以外は完存している石幢である。竿の下部が埋まっており、龕部が八角形であるほかはすべて円形に仕上げる。	長禄2 (1458)	市有形 (石幢)		72 A-2
138	臨川庵石幢	野津町 西畑 竹脇	戦国	臨川庵跡と伝えられる一角に住職の墓をはじめとした近世の石塔群中に石幢がある。中世のものはこのほかに戦国期の宝篋印塔の笠が1基ある。笠内に2ヶ所に刻銘があり、興味深い。	天文17 (1548)	県有形 (石幢)		72 B-3
139	細枝石塔群	野津町 東谷 細枝	戦国	集落の道の横に近世の石造物群中に立てられている石幢である。笠が一部破損しているほかは完存である。龕部は八角であり、各面に方形区画を設け、像縁を陽刻する。中台や竿は円形であり、竿は円柱状を呈する。				72 B-4
140	ウサイゼン坊跡 宝篋印塔・五輪塔	野津町 東谷 細枝	戦国	相輪を欠くのみで完存の宝篋印塔である。基礎には正面にのみ二重の方形区画をもち、永正5年の紀年銘を刻んでいる。また、五輪塔は指定名称は五輪塔であるが、宝塔に別材の五輪塔空風輪をのせたものである。笠の柄杓と塔身の首が合わないため、組み合わせが異なるかもしれない。基礎には各面に一重の方形区画を刻み、正面に永禄12年の紀年銘がある。	永正5 (1508) 永禄12 (1569)	市有形 (宝篋 印塔) (宝塔)		72 B-4
141	細枝宝篋印塔	野津町 東谷 細枝	南北朝～室町	丘陵の裾に立つ2基の完存の宝篋印塔である。玄正の系譜を引く宝篋印塔である。			45	72 B-4
142	細枝石幢	野津町 東谷 細枝	戦国	集落の道の横に単独で立てられている石幢である。龕部は八角、中台や竿は円形であり、竿は円柱状を呈する。基礎は扁平な円形の台石である。		市有形 (石幢)		72 A-4
143	細枝石幢と周辺 石塔群	野津町 東谷 細枝	戦国	打睡庵の境内に石幢・板碑・宝篋印塔・五輪塔・宝塔・無縫塔等がみられる。県指定石幢(1572年銘)、1号宝篋印塔(1508年銘)、2号宝篋印塔(1564年銘)にそれぞれ紀年銘がみられる。	正応5(1292) 永正5(1508) 永禄7(1564) 元龜3(1572)	市史跡 県有形 (石幢)		72 A-4
144	椎原石塔群	野津町 椎原	戦国	近世墓地中に石塔残欠がみられる。				72 A-4
145	出羽石塔群	野津町 東谷 出羽	戦国	出羽集落の小堂内に10～20基の五輪塔・宝篋印塔・宝塔の部材が積み重ねられている。埋もれているものが多く、その実数は不明。				72 D-3
146	白岩石塔群	野津町 白岩	戦国	部材の異なる五輪塔が1基みられる。				72 D-5
147	戸屋平石塔群	野津町 戸屋平	戦国	神社前に石祠が並んでおり、その中に四面を円形に彫り込め坐像を陽刻する宝塔塔身が納められている。このほかに戦国期の五輪塔空風輪がある。				72 C-5
148	豊倉神社五輪塔	野津町 豊倉	戦国	社殿横の石祠内に五輪塔空風輪が納められている。				72 B-6
149	日吉神社石塔群	野津町 岩屋	戦国	日吉神社横に洞穴があり、その入口に五輪塔水輪と宝篋印塔笠が置かれている。				72 A-6
150	垣河内五輪塔群	野津町 垣河内	戦国	道路横の杉林内に石塔残欠が集められている。				72 B-8
151	椎福寺跡宝篋印塔と 周辺石塔群	野津町 垣河内 岡の上	戦国～ 近世初期	椎福寺跡と伝えられる丘陵尾根を平坦にした場所に5m四方の石垣で囲み、その中に幢身が残っているが、基壇から宝珠まで残る石幢と石塔部材が集められている。また、少し離れた凝灰岩の露岩上に紀年銘をもつ完存の宝篋印塔と石塔群が残されている。	永正2 (1505)			73 A-1
152	城ヶ平板碑	野津町 宮原 寺小路	鎌倉	宮原の寺小路横にあったものを現在地の城ヶ平公園に移したと伝えられている。三連板碑であり、紀年銘が残る。	元弘3 (1333)	県有形 (板碑)	36	64 D-5

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身									基礎	基壇
													1	1					1	2		4		
		1											1	1	1					1				磨崖仏1
																			2					
	2	2	7	4									1											
																			1					
	2	3					1																	
																							1	
		1		3			1																1	
	1	3																					1	
	1	1	3				2	2	1															
	12	8	1					1						1					1					
																								自然石塔婆1
	10	10	10	3			1	1		1														層塔
						1																		
	19	34	25	12						2				1										
																							1	
																							1	
			1	1																				
		5	7																					
			1											1										
						1																		
	1					1						1												
																							2	
																								1
	1	1				2				1			1						1	1	1		1	
			2					2	2															
		1	1	1																				
	1													1										
	1																							
			1					1																
		5	4	4																				
	9	14	9	6		1	4	2												1			1	
																								1

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図号
1	仁田尾宝篋印塔群	大野町 安藤 仁田尾	戦国	宝篋印塔2(1基に天文9:1581の紀年銘あり)が確認できる。寺窪橋北東側の墓地内にあり。	天正9 (1581)			54 G-4
2	小川野磨崖仏	朝地町 梨小 小川野	戦国	磨崖仏1躯が確認できる。小川野集落西南の山中の谷部にある。大永4(1524)の紀年銘が確認できる。当該地点は堂本と呼称される。	大永4 (1524)	市有形 (磨崖仏)	32	62 A-5
3	堂本石幢及び石塔群	朝地町 梨小 小川野	戦国	石幢1・宝篋印塔1・五輪塔空風9・火7・水9・地2が確認できる。小川野集落西南、小川野磨崖仏西側の丘陵状の山林中にある。石幢に天文18(1549)の紀年銘あり。石塔の周田には部分的に土塁状の高まりがある。当該地点は堂本と呼称されている。	天文18 (1549)	市有形 (石幢)	32	62 A-5
4	梨小の神社南側五輪塔水輪	朝地町 梨小	戦国	五輪塔水1が確認できる。志賀集落北側にある荒廃した神社南側の広場にある。集積した近世の墓石と共にある。				62 C-4
5	神角寺北ノ坊跡宝篋印塔基礎・五輪塔及び石塔群	朝地町 鳥田 神角寺	南北朝～戦国	一石五輪2基、五輪塔5基(文明18(1486)・永正16(1519)・天文11(1542)・応永24(1417)以上紀年銘は市指定、応永3(1370)紀年銘は無指定)、五輪塔空風輪2・火輪10・水輪5・地輪4、宝篋印塔基礎7(文和3(1354)・嘉吉(1441)・文明3(1471)・永正3(1506)・永正11(1514)・天文15(1546)・永祿5(1562)以上紀年銘は市指定、宝篋印塔笠1・宝篋印塔身2、神角寺北ノ坊跡は荒廃著しく、土中に埋没する石塔も数多い。	応永3(1370) 文和3(1354) 応永24(1417) 嘉吉(1441) 文明3(1471) 文明18(1486) 永正3(1506) 永正11(1514) 天文15(1546) 永祿5(1562)	市有形 (五輪塔4) (宝篋印塔1)		62 C-6
6	神角寺本堂隣の宝篋印塔・五輪塔空風輪	朝地町 鳥田 神角寺	戦国	宝篋印塔1・五輪塔空風2が確認できる。神角寺本堂隣にある。紀年銘等は確認できない。				62 D-6
7	平良平宝篋印塔	朝地町 栗林 中熊	戦国	宝篋印塔3(2基に永祿3:1560)・宝塔1(永祿3:1560)が確認できる。石塔は集落北側の放牧地内にあり、牛が石塔を掘り起こし何度か倒壊したことを聴取した。	永祿3 (1560)	市有形 (宝篋印塔2) (宝塔1)	32	62 D-3
8	城ノ久保石幢及び板碑	朝地町 栗林 柳井	戦国	石幢1(天文18:1549)・板碑1が確認できる。白木公民館北側の丘陵状の墓地内にある。	天文18 (1549)	市有形 (石幢)	32	62 F-4
9	岳川五輪塔地輪	朝地町 綿田 岳川	戦国	五輪塔地輪1が確認できる。市指定岳川板碑につながる里道中にある。大部分が埋没している。土中には他の石塔が埋もれている可能性が高い。				62 F-3
10	岳川地藏堂板碑及び石塔群	朝地町 綿田 岳川	鎌倉	板碑1(正慶元:1332)・磨崖1、五輪塔空風12・火5・水9・地7、一石五輪2、宝篋印塔笠3・塔身1・基礎1が確認できる。宮入口バス停西側200m程の山中にある。	正慶元 (1332)	市有形 (板碑)	36	62 F-3
11	西蓮寺宝塔塔身	朝地町 朝地 和原	戦国	宝塔塔身1が確認できる。境内東側の山門階にある。塔身・基礎を残すのみで、大永7(1527)の紀年銘が確認できる。	大永7 (1527)	市有形 (宝塔)	32	62 H-4
12	サヤノ木宝塔・サヤノ木宝篋印塔及び石塔群	朝地町 池田 サヤノキ	室町	市指定宝塔1(応永21:1414)、市指定宝篋印塔1(応永21:1414)・宝篋印塔1・相輪5・基礎2、五輪塔空風4・火2・水4・地3が確認できる。朝倉文夫記念公園北側の丘陵上にある。	応永 21(1414)	市有形 (宝篋印塔1) (板碑1)	32 45	62 F-5
13	塚ノ元板碑	大野町 北園 古殿塚ノ元	戦国	板碑2が確認できる。古殿集落東側100m程の水田中にある。板碑2基には、天文7(1538)と天文19(1550)の紀年銘がそれぞれ残る。	天文7(1538) 天文19(1550)	市有形 (板碑2)	36	62 F-6
14	池田石幢	朝地町 池田 谷窪	室町	石幢1が確認できる。一万田跡跡北側、旧朝地町と旧大野町との町境付近の墓地内にある。笠は一部欠損している。一万田直能の供養塔と伝えられている。応永17(1410)の紀年銘あり。	応永17 (1410)	県有形 (石幢)	29	62 F-6
15	御廟様の石幢	朝地町 池田 館 オヤシキ	戦国	石幢1が確認できる。一万田跡跡西側200m程の山中にある。大永8(1528)の紀年銘あり。	大永8 (1528)	市有形 (石幢)	32	62 G-6
16	瀬口の板碑	朝地町 池田 瀬口	戦国	板碑1が確認できる。瀬口公民館の北側にある。延徳2(1490)の紀年銘あり。	延徳2 (1490)	市有形 (板碑)	36	62 G-6
17	一萬田氏一族墓碑供養塔	朝地町 池田 井上	室町～戦国	市指定宝塔3(応永29:1422・応永31:1424・永正元:1505)、市指定宝篋印塔1(天文24:1555)が確認できる。井上集落北側50m程の山中にある。	応永29(1422) 応永31(1424) 永正元(1505)	市有形 (宝塔3) (宝篋印塔1)	32	62 G-6
18	大恩寺五輪塔台座(地輪)及び石塔群	朝地町 板井迫	室町	五輪塔空風7・火10・水11・地3(市指定1基に応永13:1406)、宝篋印塔1(永祿9:1566)・笠7・塔身9・相輪6が確認できる。石塔は大恩寺(大恩寺奥の院)に散在する。	応永13 (1406)	市有形 (五輪塔)		62 H-5
19	平井板碑型庚申供養塔及び石塔群	朝地町 下野 平井	戦国	板碑2、宝篋印塔笠1・塔身1、五輪塔空風輪1が確認できる。平井集落センター北隣の広場内(観音堂と呼ばれている)にある。板碑1基には天正6(1587)の紀年銘あり。	天正6 (1587)	市有形 (板碑)	36	62 H-6
20	戸崎石幢	朝地町 市万田 戸崎	室町	石幢1が確認できる。一万田郵便局南西の戸崎大師堂(地藏堂)と呼ばれる場所にある。文安5(1448)の墨書の紀年銘が僅かに判読できる。	文安5 (1448)	県有形 (石幢)	29	62 G-7
21	和田墓地石塔群	朝地町 市万田 和田	戦国・江戸	宝篋印塔3(1基に天文2:1533・1基に慶長18:1613)・笠1、五輪塔空風輪4・火輪3が確認できる。和田集落西方の墓地内に集積されている。道路拡幅に伴い、整備されている。	天文2(1533) 慶長18(1613)			62 H-7
22	深山八幡石鳥居額	朝地町 市万田	室町	鳥居(鳥居額)1が確認できる。深山八幡参道にある。応永20(1413)の紀年銘あり。	応永20 (1413)		32	62 H-7
23	和田の大日堂宝篋印塔塔身・大日種子円形碑	朝地町 市万田 和田	室町・戦国	宝篋印塔塔身1(応永26:1429)・大日種子円形碑1(文禄4:1595)が確認できる。和田集落南西側の大日堂に所在する。	応永26(1429) 文禄4(1595)			62 H-7
24	和田公民館宝塔	朝地町 市万田 和田	室町～戦国前葉	宝塔1が確認できる。和田公民館の北端にある。紀年銘等は確認できない。				62 H-7
25	桑原宝篋印塔・五輪塔	大野町 桑原	戦国	宝篋印塔笠2・塔身2、五輪塔空風輪3・火輪1・水輪1が確認できる。桑原地区集会所南側神社境内に集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				62 F-7
26	神松虎ヶ追石幢及び五輪塔	大野町 大原 住吉	戦国	石幢1、五輪塔火輪2が確認できる。神松バス停前の墓地内(神松虎ヶ追と呼称)にある。石幢には享祿5(1532)の紀年銘あり。	享祿5 (1532)			62 G-8
27	落水磨崖石仏五輪塔・一石五輪塔	大野町 大原	戦国	五輪塔1、一石五輪1が確認できる。落水磨崖石仏周辺に散在する。				62 F-8
28	醍醐寺宝篋印塔群	大野町 酒井寺	南北朝	宝篋印塔基礎2(正平19:1364・至徳4:1387)が確認できる。醍醐寺本堂前の庭に置かれている。	正平19(1364) 至徳4(1364)		45	62 E-8
29	若宮神社前宝塔塔身・基礎	大野町 田中	戦国	宝塔塔身1・基礎1が確認できる。若宮神社西南側の道路脇にある。紀年銘等は確認できない。				62 E-8
30	若宮神社石塔群	大野町 田中	南北朝末～室町	宝塔1、五輪塔1・水輪1が確認できる。若宮神社境内北東側に集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				62 E-8
31	常忠寺能直塔(五輪塔)及び石塔群	大野町 藤北 常忠寺	戦国	五輪塔3(1基が市指定常忠寺能直塔)、宝篋印塔8(市指定4基:元龜2(1571)・天正4(1576)・天正7(1579)・天正16(1588)紀年銘)、五輪塔空風輪9・火輪13・水輪10・地輪7、宝篋印塔相輪4が確認できる。常忠寺跡に設けられたお堂西側に集積・整備している。	元龜2(1571) 天正4(1576) 天正7(1579) 天正16(1588)	市有形 (五輪塔) (宝篋印塔4)	5 45	63 D-1
32	勝光寺石塔群	大野町 藤北 木原	南北朝～戦国	宝篋印塔1[明徳□□(139□□)の紀年銘、石幢1(延徳3:1491)、五輪塔1が確認できる。勝光寺境内に散在し、整備されている。	明徳□□(139□□) 延徳3(1488)		45	63 D-1

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
					2																		
																							隠屋仏1
	9	7	9	2	1																	1	
			1																				
5	2	10	5	4			1	2	7										2				
	2				1																		
					3						1												
																		1				1	
				1																			
	12	5	9	7			3	1	1									1	2				高塔1
													1										
	4	2	4	3	2	5			2		1												
																			2				
																						1	
																						1	
					1						3												
	7	10	11	3	1	6	7	9															
	1						1	1											2				
																						1	
	4	3			3		1																
																							鳥居額1
								1															円形碑1
											1												
	3	1	1				2	2															
		2																				1	
1																				1			
									2														
													1	1									
1			1								1												
3	9	13	10	7	8	4																	
1					1																	1	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在籍資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番
33	妙勝庵石塔群	大野町 田中	南北朝～戦国	宝篋印塔3(天正2:1574・天正13:1585・康正2:1456の紀年銘)・塔身1・五輪塔8(2基に文和3:1354の紀年銘)・空風輪10・火輪8・水輪11・地輪8が確認できる。妙勝庵と呼ばれる地点にある。妙勝庵には現在、若衆館という公民館施設がある。施設の西側に簡素な神社があり、その周辺に石塔が散在している。	文和3(1354) 康正2(1456) 天正2(1574) 天正13(1585)		10 45	63 E-1
34	旧大野町中央公民館石塔群	大野町 田中	南北朝・戦国	五輪塔4、板碑2(1基に建徳3:1372の紀年銘)・宝塔1(文明14:1482)が確認できる。旧大野町中央公民館西側にある。旧大野町内の調査等で集積・整備されたものである。	建徳3(1372) 文明14(1482)		36	63 E-1
35	山下橋南五輪塔 火輪・水輪・地輪	大野町 宮迫	戦国	五輪塔火輪1・水輪1・地輪1が確認できる。山下橋東南の道路脇崖面にある。道路拡幅によって移築されたようである。				63 D-2
36	宮迫石幢	大野町 宮迫	戦国	石幢1が確認できる。国道57号浅草橋から北西300m程の道路脇にある。石幢は空が落下しており、紀年銘等は確認できない。				63 D-2
37	西ヶ迫石幢幢身	大野町 西ヶ迫	室町	石幢竿1が確認できる。大山集落北西端の作業小屋東側にある。石幢竿のみで、文安2(1445)の紀年銘が残る。	文安2 (1445)			63 E-2
38	池迫墓地石幢及び五輪塔	大野町 中原	戦国	石幢1、五輪塔空風輪2・水輪2が確認できる。池迫集落北側の墓所内に集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				63 G-1
39	郡山公民館前石塔群	大野町 郡山	戦国	板碑1、五輪塔空風輪1・火輪1が確認できる。郡山公民館前十字路北東側にある。板碑には永正13(1516)の紀年銘がある。	永正13 (1516)			63 H-1
40	塔ノ平五輪塔及び石塔群	大野町 郡山 塔ノ平	戦国	五輪塔1(天正5:1577)・空風輪3・火輪5、宝篋印塔2(1基に正平11:1356)・相輪1・塔身1・基礎7、宝塔1・笠1・塔身1が確認できる。郡山公民館東側100m程の尾根筋上の墓所内に石塔が集積されている。	天正5(1577) 正平11(1577)			63 H-1
41	木下観音堂石塔群 及び磨崖仏群	大野町 十時 谷	南北朝	石幢1、宝篋印塔塔身1(永和元:1375紀年銘)・笠1、五輪塔空風輪2・火輪3・水輪2、磨崖仏10が確認できる。大字十時の折戸橋東側、木下観音堂にある。お堂等は無く、崖面に磨崖仏、岩陰に石塔部材が散在する。	永和元 (1375)		10	63 D-3
42	光昌寺石幢及び五輪塔群	大野町 十時 光昌寺	戦国	石幢1(享禄元:1528)、五輪塔火輪2・水輪2が確認できる。光昌寺集落北側の民家脇に集積されている。	享禄元 (1528)			63 D-3
43	上津神社本殿西側 鳥居	大野町 片島	南北朝	鳥居1が確認できる。上津神社本殿西側にあり、元中3(1386)の紀年銘が残る。本殿の東側には県指定鳥居(寛正3:1462)がある。	元中3 (1386)			63 H-3
44	上津神社一ノ鳥居	大野町 片島	室町	県指定鳥居1が確認できる。上津神社本殿東側にあり、寛正3(1462)の紀年銘が残る。本殿西側には元中3(1386)の鳥居がある。	寛正3 (1462)	県有形 (鳥居)	29	63 H-3
45	代三五一石五輪塔	大野町 代三 五	戦国	一石五輪塔1が確認できる。代三五集落の南方300m程の民家前道路脇にある。道路拡幅に伴い移築したようである。				63 G-3
46	代三五公民館石幢 及び石塔群	大野町 代三 五	室町 近世初頭	板碑1(慶長6:1601)、石幢竿1(文安6:1449)・籠1・笠3、五輪塔空風輪5・火輪3・水輪3が確認できる。代三五公民館西側に石塔が集積・整備されている。	文安6(1449) 慶長6(1601)		36	63 G-4
47	表宝篋印塔	大野町 中土 師 河面 表	南北朝	宝篋印塔3(県指定の貞和2(1346)・県指定の建徳2(1371)・無銘の計3基)が確認できる。農免河面橋南西300m程の山中にある。宝篋印塔周辺には一字一石經の河原石が散在している。	貞和2(1346) 建徳2(1371)	県形 (宝篋印塔)	45	63 B-4
48	表五輪塔	大野町 中土 師 河面 表	南北朝	五輪塔5(内2基が県指定)・宝篋印塔2・宝塔4・宝塔笠1・五輪塔水輪1・宝篋印塔基礎1が確認できる。農免河面橋南西150m程の山中にある。県指定表宝篋印塔に進入路途中にある。周辺樹木は伐採が進んでおり、石材が集積されている。五輪塔1基に正平2(1368)の紀年銘あり。	正平23 (1368)	県有形 (五輪塔)	29	63 B-4
49	長寿庵五輪塔及び石塔群	大野町 長畑 小切畑	南北朝 戦国	五輪塔2(県指定に正平11:1356、他1基に文明12:1480の紀年銘)・空風輪3・石幢1、宝篋印塔笠3、墓碑1(1基市指定で天文24:1555の紀年銘)が確認できる。もう1基墓碑があるはずであるが確認できない。小切畑集落北側山中の長寿庵墓地と呼ばれる地点にある。	正平11(1356) 文明12(1480) 天文24(1555)	県有形 (五輪塔) 市有形 (墓碑)	10 29	63 C-4
50	長畑神社板碑	大野町 長畑 長小野	戦国末～ 近世初頭	板碑1が確認できる。長畑神社北側の空き地にある。紀年銘等は確認できない。				63 C-4
51	長小野石塔群	大野町 長畑 長小野	戦国	宝篋印塔2・五輪塔空風4・水1が確認できる。長畑生活改善センター敷地内に整備されて置かれている。紀年銘等は確認できない。				63 C-4
52	地藏ノ本六地藏幢	大野町 栗ヶ畑 地藏ノ本	戦国	石幢1が確認できる。栗の木バス停の南側100m程の所にある。永正17(1520)の紀年銘が残る。	永正17 (1520)			63 A-5
53	九品寺跡石幢・ 五輪塔群	大野町 栗ヶ畑 栗ノ木	室町 戦国	板碑1・角塔婆2・宝篋印塔笠2・宝篋印塔基礎4・不明相輪1・五輪塔空風29・火58・水33・地37・石幢竿1が確認できる。寒浪橋東側の山中斜面に散在している。市指定石幢竿には文安2(1445)の紀年銘が残る。市指定五輪塔群中の地輪1基に永正16(1515)の紀年銘が残る。	文安2 (1445) 永正16 (1515)	市有形 (石幢) 市有形 (五輪塔群)		63 B-5
54	山内石塔群	大野町 山内	南北朝末～室町 戦国	宝篋印塔2・一石五輪1・五輪塔空風14・火13・水18・地5が確認できる。山内集会所玄関付近と南側にあり、石塔は集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				63 B-5
55	山内一石五輪塔	大野町 山内	戦国	一石五輪塔1が確認できる。山内橋の東側100m程の道路脇にある。				63 B-5
56	牧原東五輪塔空風 輪・火輪・水輪	大野町 後田 牧原東	戦国	五輪塔空風輪3・火輪3・水輪1が確認できる。牧原東の市道高無礼線の終点集落内の倉庫前に集積されている。				63 C-5
57	牧原東の神社の 五輪塔水輪	大野町 後田 牧原東	戦国	五輪塔水輪4が確認できる。牧原東の市道高無礼線の終点集落内の神社内に埋没した状態である。				63 D-5
58	落合橋石塔群	大野町 山内 落合	戦国	五輪塔空風2・宝塔笠2・不明基礎3が確認できる。落合橋の東側に集積・整備されている。				63 C-5
59	岡神社石塔群	大野町 後田	戦国	宝篋印塔笠1・塔身1・基礎2、五輪塔空風輪1・火輪1が確認できる。岡神社境内、市指定岡ナマコ墓の隣接地にあり。紀年銘等は確認できない。				63 E-5
60	千束石幢	大野町 黒松	戦国	石幢1が確認できる。千束集落北側200m程の山中にある。紀年銘等は確認できない。				63 B-6
61	松蔵寺石幢群	大野町 黒松	戦国	石幢2が確認できる。松蔵寺山門脇にある。紀年銘等は確認できない。				63 B-6
62	黒松五輪塔	大野町 黒松	戦国	五輪塔空風3・火1が確認できる。黒松生活改善センターの建物玄関脇にある。				63 B-7
63	新飼宝塔	大野町 黒松	南北朝	県指定宝塔2基が確認できる。新飼バス停前の正福寺裏山にある。石塔は整備され、宝塔1基には貞治6(1367)の紀年銘がある。	貞治6 (1367)	県有形 (宝塔)	29	63 B-6
64	黒松宝篋印塔及び石塔群	大野町 黒松	室町	宝篋印塔1・石幢籠1・五輪塔空風1・火1が確認できる。新飼バス停前の正福寺跡南側に集積されている。紀年銘等は確認できない。		市有形 (宝篋印塔)	45	63 B-7
65	宮脇宝塔及び石塔群	大野町 黒松	南北朝	県指定宝塔1・五輪塔12・五輪塔空風1・火1・板碑3が確認できる。阿蘇社境内北西側にあり、県指定宝塔を中心に石塔が集積・整備されている。宝塔には貞和4(1348)の紀年銘が残る。	貞和4 (1348)	県有形 (宝塔)	29	63 B-7
66	金倉寺跡石塔群	大野町 三の岳	南北朝～戦国	宝塔1・笠1、宝篋印塔1・笠2・基礎1、五輪塔空風輪13・火輪34・水輪16・地輪10が確認できる。三の岳頂上南方に1km程の所にある。堂宇の一部が残存しており、境内に石塔が集積されている。宝篋印塔1基に建徳3(1372)の紀年銘あり。	建徳3 (1372)			63 A-6
67	虎御前宝篋印塔	大野町 山田	南北朝	宝篋印塔1(文和3:1354)が確認できる。山田集落北側300m程の山中にある。	文和3 (1354)	市有形 (宝篋印塔)	45	63 B-7
68	黒松阿蘇社鳥居	大野町 黒松	南北朝	鳥居1が確認できる。阿蘇社南側の道路脇にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (鳥居)		63 B-7

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
8	10	8	11	8	3		1															
4											1							2				
		1	1	1																		
																			1			
																			1			
	2		2																1			
	1	1															1					
1	3	5			2	1	1	7			1	1	1									
	2	3	2				1	1											1			
		2	2																1			
																			鳥居1			
																			鳥居1			
																	1					
	5	3	3														1		3			
					3																	
5			1		2			1			4	1										
2	3						3												1			
																	1					
	4		1		2																	
																			1			
	29	58	33	37		1	2	4									1		1			
	14	13	18	5	2																	
																		1				
	3	3	1																			
			4																			
	2							3				2										
	1	1				1	1	2														
																			1			
																			2			
	3	1																				
											2											
	1	1			1														1			
12	1	1									1						3					
	13	34	16	10	1	2		1			1	1										
					1																	
																			鳥居1			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
69	大聖寺宝篋印塔・親綱宝篋印塔・大聖寺五輪塔・大聖寺五輪塔群及びその他の石塔群	犬飼町 柴北	南北朝	宝篋印塔3・五輪塔1・五輪塔空風130以上・火130以上・水130以上・地130以上・一石五輪3・板碑2・不明相輪2が確認できる。樋口樋西側の大聖寺境内にある。県指定大聖寺宝篋印塔1基には貞治5(1366)、市指定親綱宝篋印塔1基には長祿3(1459)、市指定大聖寺五輪塔には正中2(1325)の紀年銘を残す。市指定大聖寺五輪塔群にも石塔があるが、大部分が園場整備時に集積・整備されたようである。五輪塔の一部は園場整備事業中に土中より出土した事を聴取した。	正中2(1325) 貞治5(1366) 長祿2(1459)	市形(宝篋印塔) 市形(宝篋印塔) 五輪塔群	45	63 B-7
70	高津原石幢及び石塔群	犬飼町 高津原	戦国	石幢1・一石五輪1・宝篋印塔3・五輪塔火2・水4・無縫塔身1・不明基礎10が確認できる。高津原集落北側のお室前に石幢がある。他の石塔はお室前に集積されている。石幢には天文18(1549)の紀年銘が残る。	天文18(1549)	市有形(石幢)		63 B-8
71	藤ノ木石幢及び宝篋印塔	犬飼町 高津原	南北朝・室町	宝篋印塔1・県指定石幢1が確認できる。高津原生活改善センター西側の墓地内にある。県指定宝篋印塔には応永12(1405)の紀年銘が確認できる。	応永12(1405)	県有形(石幢)	29	63 B-8
72	畑ヶ川五輪塔空風輪	犬飼町 畑ヶ川	戦国	五輪塔空風1が確認できる。高津原生活改善センター北隣にある。				63 B-8
73	畑ヶ川石塔群	犬飼町 畑ヶ川	戦国	宝塔2・宝塔笠5・五輪塔空風1・水1が確認できる。高津原集落南側の民家庭先にある。元は敷地内の別の場所にあった石塔を移築してきたと聴取した。民家周辺には土塁状の高まりが残存する。				63 B-8
74	樋の口五輪塔水輪	犬飼町 樋の口	戦国	五輪塔水1が確認できる。樋の口集落南側の道路脇にある。				63 C-7
75	畑ヶ川宝塔群	犬飼町 畑ヶ川	中世末～近世初頭	宝塔2が確認できる。高津原集落の南側、民家進入路入口にある。屋根が付設され、整備されている。				63 B-8
76	柴北五輪塔水輪・地輪	犬飼町 柴北	戦国	五輪塔水1・地1が確認できる。樋の口集落南側の道路脇にある。				63 C-8
77	名本五輪塔火輪・水輪	犬飼町 名本	戦国	五輪塔火3・水1が確認できる。両村橋西側の民家庭先にある。				63 C-8
78	愛宕石幢	犬飼町 柴北	戦国	石幢1が確認できる。柴北浄水場東側の山林中にある。永祿4(1561)の紀年銘が残る。	永祿4(1561)	市有形(石幢)		63 C-8
79	柴北石塔群	犬飼町 柴北	戦国	宝塔笠1・五輪塔空風3・火1・水2が確認できる。市指定愛宕石幢東側の墓所内にある。				63 C-8
80	六ツ子石幢	犬飼町 柴北	室町	石幢1が確認できる。円行寺境内西側の庭先にあり、整備されている。		市有形(石幢)		63 C-8
81	高添石幢及び石塔群	千歳町 高添	戦国	石幢1・五輪塔空風1・宝塔笠2・五輪塔1・不明相輪1・不明基礎1が確認できる。高添集落北側の林の中にあり、整備され祀られている。石幢に永祿4(1561)の紀年銘あり。	永祿4(1561)	県有形(石幢)	29	63 C-8
82	熊野神社石鳥居	犬飼町 柴北	南北朝	鳥居1が確認できる。本殿裏に解体した状態である。正平12(1357)の紀年銘が残る。				63 C-8
83	釈迦堂宝篋印塔・石井宝篋印塔及び石塔群	犬飼町 石井	室町	宝篋印塔2・五輪塔空風18・水2・不明相輪1が確認できる。石井集落東端の釈迦堂と呼ばれる地点にあり、紀年銘等は確認できない。市指定釈迦堂宝篋印塔と市指定石井宝篋印塔は隣接地にある。石井宝篋印塔には康暦3(1381)の紀年銘が残る。	康暦3(1381)	市形(宝篋印塔)	45	63 D-8
84	高添上板碑	千歳町 長峰	戦国	板碑3が確認できる。大迫集落の民家の間にあり、整備されている。板碑1基には天文8(1539)の紀年銘あり。板碑は高添アタゴと呼ばれる地点にある。	天文8(1539)	市有形(板碑2)	36	63 C-8
85	治康庵供養塔・角塔婆及び石塔群	千歳町 大迫	南北朝	市指定供養塔1(康安元・1361)・角塔婆塔身1(永祿10・1567)・石幢龕1・五輪塔空風4・水2が確認できる。大迫集落東側の尾平治康庵にある。石塔は集積・整備されている。	康安元(1361) 永祿10(1567)	市有形(供養塔)	36	63 D-8
86	高添五輪塔群	千歳町 高添	戦国	五輪塔空風25・火7・水8・地8が確認できる。光林寺南側の畑地に集積されている。園場整備に伴い集められたようである。				63 C-8
87	石五道石幢及び石塔群	千歳町 高添	戦国	石幢1・五輪塔空風13・火9・水13・地3・一石五輪5・宝塔笠4・宝塔身3・不明相輪3が確認できる。高添集落西方の石五道権現と称される地点にある。石幢に大永6(1526)の紀年銘あり。石塔が畑地に集積され、石幢以外は荒廃が顕著である。	大永6(1526)	市有形(石幢)		63 C-8
88	石五道板碑	千歳町 高添	南北朝	市指定板碑2(市指定の1基に貞和5(1349)紀年銘あり)が確認できる。高添集落西側200m程の耕作地内にある。保存状況は良い。	貞和5(1349)	市有形(板碑2)		63 C-8
89	高添一石五輪塔群	千歳町 高添	戦国	一石五輪2が確認できる。市指定石五道板碑南西の民家庭先にある。所有者より山中から移築してきたと聴取した。				63 D-8
90	久保山宝篋印塔及び五輪塔	千歳町 久保山	南北朝末～室町	宝篋印塔1・五輪塔空風1・水1が確認できる。久保山集落東南の豊地前のお室裏にある。移築・整備されている。		市形(宝篋印塔)	45	63 C-7
91	楠宝塔	千歳町 石田	室町～戦国前葉	宝塔1が確認できる。楠神社社務所横にあり、移築され整備されているようである。		市有形(宝塔)		63 D-7
92	長慶寺跡地八仏笠地蔵及び騎乗軍	千歳町 大迫	室町	石幢1・宝塔笠1・宝塔身1が確認できる。大迫集落北側の山腹にあり。石幢に長祿4(1460)の紀年銘あり。	長祿4(1460)	市有形(石幢)		63 D-7
93	大迫五輪塔水輪	千歳町 大迫	南北朝	五輪塔水1が確認できる。大迫唐崖西100m程の民家進入路入口にある。僅かに墨書が残るが、判読できない。				63 D-8
94	大迫唐崖仏及び石塔群	千歳町 大迫	室町	唐崖仏1・五輪塔3・宝篋印塔1・板碑4が確認できる。大迫地区の稲荷社隣接地にある。凝灰岩の崖面に龕を設け、大日如来坐像を彫っている。お堂があり周辺に石塔が集積・整備されている。		県有形(唐崖仏)	29	63 D-8
95	石田宝篋印塔・五輪塔	千歳町 石田	戦国	五輪塔2・五輪塔空風1・宝篋印塔笠1・不明相輪1が確認できる。石田集落南側の墓地内にあり、集積・整備され祀られている。紀年銘等は確認できない。				63 D-7
96	五郎丸板碑	千歳町 五郎丸	戦国	板碑1(明応2:1493)が確認できる。新殿交差点北側50m程の道路脇にあり。整備され保存状態良好である。	明応2(1493)	市有形(板碑)	36	63 D-7
97	上ノ久保石幢	千歳町 舟木	戦国	石幢1が確認できる。舟木集落の北側山中にある。石幢には弘治3(1557)の紀年銘あり。	弘治3(1557)	市有形(石幢)		63 D-6
98	舟木五輪塔群	千歳町 舟木	戦国	五輪塔17・不明相輪1が確認できる。園通ら5号除木バス停より舟木集落に向かう道路脇にある。道路開削に伴い、集積・整備されている。				63 E-6
99	舟木五輪塔空風輪	千歳町 舟木	戦国	五輪塔空風1が確認できる。部材は舟木社南方の墓地にある。				63 E-6
100	舟木石塔群	千歳町 舟木	戦国～近世初頭	五輪塔2・不明相輪1・五輪塔空風4・火2・水2・板碑1が確認できる。舟木社東南の道路脇にある。道路拡幅に伴い集積・整備された可能性がある。				63 E-6
101	米山笠塔婆及び石塔群	千歳町 舟木	戦国	五輪塔空風・水2・地1・板碑4・宝塔身1・笠塔婆1・宝塔笠2が確認できる。米山集落の南側の道路脇に集積・整備されている。笠塔婆に永祿3(1560)の紀年銘あり。	永祿3(1560)	市有形(笠塔婆)		63 E-6
102	岡笠塔婆及び石塔群	千歳町 岡	戦国	笠塔婆2・五輪塔空風15・火18・水14・地9が確認できる。岡集落の北側にあり。中九州道建設に伴い整備された可能性がある。笠塔婆1基には永祿4(1561)の紀年銘あり。	永祿4(1561)	市有形(笠塔婆)		63 E-7
103	植木野五輪塔・宝篋印塔及び石塔群	千歳町 植木野	南北朝	県指定五輪塔2(貞和3:1347・延文5:1360)・市指定宝篋印塔2(1基に至徳2:1385)・五輪塔空風2・火1・水2・宝塔身1・宝篋印塔身1・一石五輪1が確認できる。新殿集落センター(大乗寺跡)南西の尾根筋先端部にある。	貞和3(1347) 延文5(1360) 至徳2(1385)	市形(宝篋印塔) 宝篋印塔2	45	63 D-7
104	漆生笠塔婆及び石塔群	千歳町 漆生	戦国	笠塔婆1・不明相輪1・五輪塔空風4・火6・水2・地3・宝塔笠2・宝塔基礎2が確認できる。化学工場北側の山頂部にあり。山頂部は墓地となっており、石塔は整備されている。笠塔婆には永祿4(1561)の紀年銘あり。	永祿4(1561)	市有形(笠塔婆)		63 E-7
105	平尾社石造宝塔	千歳町 新殿岡	南北朝	宝塔1(暦応3:1340)が確認できる。平尾社境内西南に整備してある。	暦応3(1340)	県有形(宝塔)	29	63 E-7

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
1	130	130	130	130	3	2												2	3				
		2	4		3				10										1	1		1	
					1																	1	
1																							
1		1									2	5											
		1									2												
			1	1																			
		3	1																				
																							1
	3	1	2									1											1
1	1					1			1			2											1
																							鳥居1
	18	2			2	1																	
																		3					
	4		2																			1	供養塔1 角塔婆塔身1
	25	7	8	8																			
	13	9	13	3		3						4	3						5			1	
																			2				
																			2				
	1	1			1																		
											1												
			1									1	1									1	
			1																				
3					1														4				磨崖仏1
2	1					1	1																
																			1				
																						1	
17						1																	
	1																						
2	4	2	2			1													1				
	5		2	1								2	1						4				笠塔婆1
	15	18	14	9																			笠塔婆2
2	2	1	2		2			1					1						1				
	4	6	2	3		1							2	2									笠塔婆1
											1												

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
106	漆生の宝篋印塔	千歳町 下山 漆生	戦国	宝篋印塔1が確認できる。漆生集落内の妙音寺跡内に所在する。紀年銘等は確認できない。			45	63 E-6
107	長峰の天満宮五輪塔空風輪・水輪	千歳町 長峰	戦国	五輪塔空風2・水2が確認できる。長峰集落北西側の天満宮本殿周りに部材が散在する。				63 D-7
108	平尾社鳥居	千歳町 横尾	南北朝	鳥居1が確認できる。平尾神社東方約600mの台地上にある。鳥居には観応2(1351)の紀年銘あり。	観応2(1351)	県有形(鳥居)	29	63 E-7
109	神明社石塔群	千歳町 前田 田原園	鎌倉～戦国	五輪塔空風8・火6・水7・地2・不明相輪1・宝塔身2が確認できる。神明社内に散在する。				63 F-5
110	倉波五輪塔空風輪・火輪	千歳町 前田 倉波	戦国	五輪塔空風3・火1・不明笠1が確認できる。倉波集落の民家にある。				63 G-6
111	倉波農業研修センター五輪塔空風輪・水輪	千歳町 前田 倉波	戦国	五輪塔空風1・水4が確認できる。倉波農業研修センター前に集積・整備されている。				63 G-6
112	大木五輪塔空風輪・火輪・水輪	千歳町 下山 大木	戦国	五輪塔空風1・火1・水1確認できる。大木集落の南側にあり、集積・整備されている。				63 G-6
113	大木公民館五輪塔水輪	千歳町 下山 大木	戦国	五輪塔水4が確認できる。大木公民館入り口付近にあるお堂横に積み上げている。				63 F-7
114	上津留石幢及び五輪塔	千歳町 下山 大木	戦国	石幢1・五輪塔空風1が確認できる。大木集落の民家の間にある。整備されている。法興寺と伝承される地点にある。		市有形(石幢)		63 F-6
115	大木宝塔及び石塔群	千歳町 下山 漆生	戦国	板碑6・宝塔4(内3基に紀年銘有り)・五輪塔空風3・火4・水3・地1が確認できる。大木集落西方の崖面にある。住民の話によると、崖下に落下していた石塔を集積・整備したと聴取した。宝塔3基に永禄5(1562)・永禄6(1563)・天正6(1578)の紀年銘あり。	永禄5(1562) 永禄6(1562) 天正6(1578)	市有形(宝塔3)		63 F-6
116	宮田笠塔婆	千歳町 柴山	戦国	笠塔婆1が確認できる。宮田集落の北側にあり、整備され祀られている。笠塔婆には天文9(1540)の紀年銘あり。	天文9(1540)	市有形(笠塔婆)		63 E-8
117	柴山公民館西石幢竿	千歳町 柴山	戦国	石幢竿1・五輪塔空風1が確認できる。柴山公民館西200m程の用水路横にある。				63 F-8
118	柴山八幡社裏の石幢及び五輪塔	千歳町 柴山	戦国	石幢1・五輪塔空風1が確認できる。柴山八幡社北西裏にある石幢で、整備され祀られている。紀年銘等は確認できない。				63 F-8
119	柴山八幡社参道五輪塔空風輪	千歳町 柴山	戦国	五輪塔空風1が確認できる。柴山八幡社参道入口脇にある。				63 F-8
120	柴山石幢及び石塔群	千歳町 柴山	戦国	石幢1・板碑1・宝篋印塔1が確認できる。柴山集落内の民家庭先にあり、整備されている。石幢には天文2(1533)の紀年銘あり。	天文2(1533)	県有形(石幢)	29	63 F-8
121	杉ノ本宝塔	千歳町 柴山	南北朝	宝塔1が確認できる。柴山公民館東方100m程の墓地内にある。宝塔の下部はセメントで固められている。		市有形(宝塔)		63 F-8
122	柴山公民館東石幢	千歳町 柴山	戦国	石幢1が確認できる。柴山公民館東にある石幢で、整備されている。紀年銘等は確認できない。				63 F-8
123	柴山一石五輪塔群	千歳町 柴山	戦国	一石五輪3・五輪塔火1・水1が確認できる。県指定柴山石幢西側の道路脇に埋没した状態である。				63 F-8
124	柴山五輪塔空風輪・水輪	千歳町 柴山	南北朝	五輪塔空風1・水1が確認できる。柴山集落の民家進入路入口に集積している。				63 E-8
125	峯笠塔婆及び石塔群	千歳町 柴山	戦国	笠塔婆1・五輪塔空風1・火1・不明基礎1が確認できる。柴山集落北側の丘陵上にある。笠塔婆に永禄6(1563)の紀年銘あり。笠塔婆は方形の土壘の中にある。	永禄6(1563)	市有形(笠塔婆)		63 E-8
126	鹿合田笠塔婆及び石塔群	千歳町 柴山 鹿合田	戦国	笠塔婆1(天文3:1534)・不明笠3が確認できる。柴山集落東側の崖下にある。大部分が埋没している。	天文3(1534)	市有形(笠塔婆)		63 E-8
127	藤原板碑	千歳町 柴山	戦国	板碑1が確認できる。鹿道原遺跡南側の藤原墓地内にある。板碑には永正9(1512)の紀年銘あり。	永正9(1512)	市有形(板碑)		63 E-8
128	日向久保五輪塔火輪・水輪	千歳町 柴山 日向久保	戦国	五輪塔空火輪1・水輪1が確認できる。石塔は白鹿山山頂部の妙覚寺境内に散在する。				63 E-8
129	新福寺石塔群	千歳町 前田 原田	室町・戦国	五輪塔2・空風1・火2・水3・地1・宝篋印塔笠1・宝塔身1・宝塔身1・不明相輪2が確認できる。新福寺境内に散在する。五輪塔に2基には応永20(1413)・明応7(1498)の紀年銘あり。	応永20(1413) 明応7(1498)			63 G-6
130	新福寺前五輪塔・宝塔群	千歳町 前田 原田	戦国	五輪塔1・空風2・火3・水20・地3・宝塔身2・不明相輪1が確認できる。新福寺前に部材を集めセメントで固めている。				63 G-6
131	新福寺北東石塔群	千歳町 前田 原田	戦国	五輪塔空風2・火3・宝塔笠1・宝塔身1・石幢籠1・無縫塔中台1が確認できる。新福寺北東の河川南岸に集積されている。園場整備等によって集められた可能性がある。				63 G-6
132	福生寺業師堂境内宝篋印塔及び五輪塔	千歳町 前田 原田	南北朝	宝篋印塔1(正平18:1363)・五輪塔空風2・火3が確認できる。新福寺業師堂前に整備してある。	正平18(1363)	市有形(宝篋印塔)	45	63 G-6
133	和田石幢	三重町 西京 和田	戦国	石幢1が確認できる。水田中に近現代の墓石等と共に集積されている。園場整備に伴い移築された可能性がある。				63 H-5
134	馬場石幢	三重町 上田原 馬場921	戦国	石幢1(天文5:1536)が確認できる。大師堂の南側にあり、整備されている。	天文5(1536)	県有形(石幢)	29	63 H-6
135	黒木石幢	三重町 上田原 馬場	室町	石幢1が確認できる。御手洗神社前にある。紀年銘等は確認できない。		市有形(石幢)		63 H-6
136	下津留墓碑群(宝塔)(板碑)及び石塔群	三重町 上田原 下津留	戦国 近世初頭	五輪塔4・空風2・火2・水1・宝塔10(2基市指定で天文13:1544・天文15:1546の紀年銘)・宝篋印塔4・板碑6(1基市指定で慶長17:1612の紀年銘)が確認できる。下津留集落南側の崖面に所在する。	天文13(1544) 天文15(1546) 慶長17(1612)	市指定(宝塔2)(板碑)	36	63 G-6
137	上田原の五輪塔空風輪	三重町 上田原 野中	戦国	市指定下津留宝塔南側にいる近世の石幢周辺に五輪塔空風輪1が確認できる。				63 G-6
138	円福寺前石塔群	三重町 上田原 立野	戦国	宝篋印塔3(2基に天正3:1575・1基に天正4:1576)・板碑2・宝塔1(永禄8:1565)・不明笠1・不明基礎5・五輪塔空風3が確認できる。円福寺前の畑地の中に、集積・整備されている。	永禄8(1565) 天正3(1575) 天正4(1576)			63 H-6
139	円福寺石幢及び石塔群	三重町 上田原	戦国	石幢1(明応3:1494の紀年銘あり)・宝篋印塔1・五輪塔20以上が確認できる。円福寺跡に散在しており保存状態は悪い。	明応3(1494)	市有形(石幢)		63 H-7
140	農蚕神社前石塔群	三重町 上田原 牟礼	戦国	五輪塔空風輪・火輪・水輪・地輪各15以上、笠塔婆1が確認できる。農蚕神社前に集積・整備されている。				63 H-7
141	正福寺天文宝篋印塔及び石塔群	三重町 上田原 牟礼	室町 戦国	五輪塔28・宝篋印塔4(1基が天正8:1580・1基が市指定正福寺天文宝篋印塔の天文15:1546・1基が市指定で紀年銘無し)が確認できる。正福寺境内にあり、整備されている。	天文15(1546) 天文8(1580)	市有形(宝篋印塔2)	45	63 H-7
142	大辻山(石塔群)	三重町 井迫 大辻47	戦国	石塔等22基(角塔婆14・石幢1・板碑1が市指定)が確認できる。市指定角塔婆には文禄5(1596)・慶長3(1598)・慶長4(1599)・慶長8(1603)・市指定石幢には慶長7(1602)・市指定板碑には文禄5(1596)の紀年銘あり。大辻山山頂の広範囲に点在する。石塔周辺には塚状の高まりが複数確認できる。	文禄5(1596) 慶長3(1598) 慶長4(1599) 慶長7(1602) 慶長8(1603)	市有形(角塔婆14)(石幢)(板碑)	36 47	63 G-7
143	又井五輪塔	三重町 井迫 又井	戦国	五輪塔1・火1・水1・地1が確認できる。又井集落北側の道路脇に集積されている。				63 H-7

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇						
					1																	
	2	2																				
														2								鳥居1
	8	6	7	2		1																
	3	1					1															
	1		4																			
	1	1	1																			
			4																			
	1																				1	
	3	4	3	1							4							6				
																						笠塔婆1
	1																				1	
	1																				1	
	1																					
					1													1			1	
											1											
																					1	
		1	1																3			
	1		1																			
	1	1						1														笠塔婆1
							3															笠塔婆1
																		1				
		1	1																			
2	1	2	3	1		2	1						1	1								
1	2	3	20	3		1								2								
	2	3											1	1						1	1	
	2	3			1																	
																						1
																						1
																						1
4	2	2	1		4						10							6				
	1																					
	3				3	1		5		1								2				
20					1																	1
	15	15	15	15																		笠塔婆1
28					4																	
																			1		20	1
1		1	1	1																		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番
144	森迫石幢及び森迫回春庵墓地石塔群	三重町 井迫 森迫回春庵	室町 戦国	市指定森迫石幢1(天正9:1581)。他に市指定無縫塔1(永正3:1506)・市指定宝塔3(長祿4:1458・天文10:1541・永祿10:1567)・市指定宝篋印塔11(永享6:1434・文亀1:1501・永正3:1506・享祿4:1531・天文3:1534・永祿4:1561・永祿10:1567・天正6:1578・天正7:1579・天正16:1588)・板碑1及び紀年銘が確認できる。共に森迫公民館西の森迫回春庵に整備してある	永享6(1434) 長祿4(1458) 文亀1(1501) 永正3(1506) 享祿4(1531) 天文3(1534) 天文10(1541) 永祿4(1561) 永祿10(1567) 天正6(1578) 天正7(1579) 天正9(1581) 天正16(1588)	市有形 (石幢) (無縫塔) (無縫塔) (宝篋印塔11)	36	63 G-8
145	智福寺跡石塔群	三重町 浅瀬 岩尾迫	南北朝～戦国	宝塔3(建徳元:1370・延徳4:1492・文亀元:1501紀年の紀年銘)・五輪塔9・火1が確認できる。宇対瀬集落南方の山中にあり。石塔は集積・整備されている。	建徳元(1370) 延徳4(1492) 文亀元(1501)	市有形 (宝塔3)		63 G-8
146	菅尾石仏	三重町 浅瀬 乙黒	平安	凝灰岩の自然窟の中に、仏龕をつくり、その中に阿弥陀如来・薬師如来・千手観音・十一面観音・毘沙門天の仏像を刻んでいる。		国史跡 (窟窟仏)	29	63 F-8
147	脇清水石幢	三重町 宮野 脇清水4352	室町	石幢1が確認できる。脇清水集落の南西端にある。紀年銘等は確認できない		市有形 (石幢)		63 G-8
148	間所石幢及び石塔群	三重町 井迫 間所	室町	石幢1・五輪塔火1・水2が確認できる。菅生神社西の崖面に所在する。		市有形 (石幢)		63 G-8
149	下野熊笹社鳥居及び下野宝篋印塔	犬飼町 下津尾	戦国 室町	市指定鳥居1が確認できる。熊野神社参道にあり。天文7(1538)の紀年銘が残る。境内には他に市指定宝篋印塔2基がある。	天文7 (1538)	市有形 (宝篋印塔) (鳥居)	45	64 A-1
150	内河一石五輪塔群	犬飼町 下津尾 内河	戦国	一石五輪3が確認できる。内河集会所南西端に散在する。				64 A-1
151	久原五輪塔	犬飼町 久原	戦国	五輪塔火1・水2が確認できる。大字久原の八幡宮本殿裏にある。				64 B-2
152	上重宝篋印塔及び石塔群	犬飼町 田原 上重	南北朝末	宝篋印塔2・一石五輪1・五輪塔空風1・火2・水1が確認できる。上重集落北側の観音堂周辺に散在する。紀年銘等は確認できない。		市有形 (宝篋印塔)	45	64 C-1
153	犬飼石仏及び周辺石塔群	犬飼町 田原 渡無瀬	鎌倉 南北朝	磨崖仏1躯が確認できる。不動堂と呼ばれる岩陰の奥壁に不動明王が刻まれている。製作時期は鎌倉時代後期と考えられている。国指定犬飼石仏周辺には、国指定五輪塔1(永徳2:1382)・五輪塔5・板碑2(1基は連碑)・宝塔1・宝篋印塔1(康暦2:1380)が確認できる。	康暦2 (1380) 永徳2 (1382)	国史跡 (磨崖仏) 県有形 (五輪塔)	29 45	64 D-1
154	戸ノ上宝篋印塔	犬飼町 大寒 戸ノ上	室町	宝篋印塔1が確認できる。戸上公民館南側100m程の崖下にある。塔身に文明2(1470)の墨書が残るが、笠・基礎とは別個体と考えられる。				64 C-2
155	高松五輪塔空風輪	犬飼町 大寒 高松	戦国	高松集落東北側山腹にある近世の石幢周辺に五輪塔空風輪1がある。				64 D-2
156	佐土原石幢	犬飼町 大寒 下山奥	戦国	石幢1が確認できる。長念寺東側の水田中にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (石幢)		64 E-1
157	日向久保宝篋印塔	千歳町 柴山 日向久保	南北朝	宝篋印塔基礎1が確認できる。日向久保集落東方の道路脇にある。日向久保天神と称されるが遺跡範囲に伴い、整備された可能性がある。基礎のみを残し永徳2(1382)の紀年銘がある。	永徳2 (1382)	市有形 (宝篋印塔)		64 D-1
158	深野集会所南西宝篋印塔・五輪塔	三重町 宮野 深野	戦国	宝篋印塔笠1・五輪塔火2・水2が確認できる。深野集会所南西側に集積・整備されている				64 E-1
159	深野神社五輪塔群	三重町 宮野 宮尾	戦国	五輪塔4が確認できる。深野神社境内に集積・整備されている。				64 E-1
160	大宮橋層塔	三重町 宮野 横畑	近世前葉	層塔1が確認できる。国道326号の大宮橋下にある。紀年銘等は確認できない。				64 E-1
161	宮尾五輪塔	三重町 宮野 宮尾	室町～戦国	五輪塔1が確認できる。民家北側の崖面にある。保存状態は良好である。				64 F-1
162	有田石幢	三重町 宮野 有田1738	戦国	石幢1が確認できる。有田集落の西にある。明応2(1493)の紀年銘あり。	明応2 (1493)	県有形 (石幢)	29	64 F-1
163	宮尾原墓地石塔群	三重町 宮野 宮尾原	戦国	宝篋印塔1(天正8:1580)・宝篋印塔身1・板碑1が確認できる。宮尾原墓地内に集積されている。	天正8 (1580)			64 F-1
164	中ノ原石幢	三重町 宮野 中ノ原	戦国	石幢1が確認できる。中ノ原集落東端の緑地帯内に整備されている。笠は消失している。				64 G-1
165	的場石幢	三重町 宮野 中園3253	戦国	石幢1が確認できる。了因寺東の山中にある。明応2(1493)の紀年銘あり。	明応2 (1493)	県有形 (石幢)	29	64 F-1
166	坪泉御霊八幡社境内方碑	朝地町 坪泉	戦国	笠塔婆1が確認できる。御霊八幡社南端に整備して置かれている。大永5(1525)の紀年銘が確認できる。	大永5 (1525)	市有形 (笠塔婆)	32	70 A-4
167	有縁寺五輪塔	朝地町 上尾 塚 中尾塚	戦国	五輪塔1・空風輪1が確認できる。有縁寺本堂周辺に石塔部材が散在する。				70 B-4
168	早尾原石幢	朝地町 上尾 塚 早尾原	南北朝	石幢1(暦応3:1339)が確認できる。中尾塚集落南端の舌状丘陵上にある。	暦応3 (1339)	県有形 (石幢)	29	70 B-4
169	普光寺磨崖仏	朝地町 上尾 塚	平安	磨崖仏1躯が確認できる。普光寺北東側100m程の所にあり、高さ20m程の凝灰岩の壁面に、不動明王が彫られている。不動明王の高さは11.3mである。		県有形 (磨崖仏)	29	70 B-4
170	明専寺五輪塔	朝地町 上尾 塚 井ノ向	戦国	五輪塔火輪1・水輪1が確認できる。明専寺境内南側の墓地周辺に散在する。				70 C-4
171	小野五輪塔	朝地町 上尾 塚 小野	戦国	五輪塔2(2基に文明8:1476の紀年銘)・空風輪1・火輪2が確認できる。小野集落西側の民家庭先にあり、整備されている。	文明8 (1476)	市有形 (五輪塔2)	32	70 B-5
172	樋口宝篋印塔・五輪塔	朝地町 下野 樋口	南北朝	宝篋印塔2基以上・五輪塔2基以上が確認できる。樋口集落北方の山中にある。樹木が繁茂しており石塔の正確な数を把握できない。宝篋印塔1基に至徳4(1387)の紀年銘が残る。	至徳4 (1387)	市有形 (宝篋印塔)		70 A-6
173	樋口五輪塔火輪・地輪	朝地町 下野 樋口	戦国	五輪塔火輪4・地輪3が確認できる。倉元集落西側の山中の墓地内に集められている。				70 A-7
174	志賀公民館五輪塔空風輪・火輪	朝地町 志賀	戦国	五輪塔空風輪1・火輪1が確認できる。志賀公民館入口付近に整備して並べられている。				70 B-6
175	姫塚板碑	朝地町 志賀 志賀迫	戦国	角塔婆1が確認できる。上志賀集落北側の山中にある。当該地点は姫塚と呼称される。石塔は倒れており、永正7(1570)の紀年銘が残る。	永正7 (1570)	市有形 (角塔婆)	32	70 B-6
176	軸丸磨崖仏不動尊	緒方町 軸丸 松ヶ迫	鎌倉	磨崖仏1躯が確認できる。田向集落北側300m程の谷筋にある。凝灰岩崖面に彫られている。		市有形 (磨崖仏)	36	70 B-6
177	軸丸南公民館前石幢龕・五輪塔水輪	緒方町 軸丸 板屋	戦国	石幢龕1・五輪塔水輪1が確認できる。軸丸南公民館前の広場に集積されている。				70 C-5
178	高牟礼の地藏堂宝篋印塔相輪・五輪塔空風輪	緒方町 高牟礼	戦国	宝篋印塔相輪2・五輪塔空風輪2が確認できる。高牟礼集落西側の地藏堂に部材が散在している。				70 B-6

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図号
179	高牟礼五輪塔空風輪	緒方町 高牟礼	戦国	五輪塔空風輪1が確認できる。高牟礼集落内ポンプ小屋北側の民家裏の墓地内にある。				70 C-6
180	古畑宝篋印塔笠・石幢龕・五輪塔火輪	緒方町 草深野古畑	戦国	宝篋印塔笠1、石幢龕1、五輪塔火輪2が確認できる。古畑集落東側の水田中の丘陵上にある。				70 D-5
181	古畑宝篋印塔相輪	緒方町 草深野古畑	戦国	宝篋印塔相輪1が確認できる。古畑集落南側の道路脇にある。				70 D-5
182	寺原の薬師堂石塔群	緒方町 寺原	戦国末～近世初頭	宝篋印塔1・相輪1・塔身1、板碑1、五輪塔空風輪12・火輪2が確認できる。寺山集落北側にあり、園地整備に伴い集積したようである。樹木等が繁茂し石造物の個数は不正確である。土中に埋没している個体もあると考えられる。薬師堂と呼称されている。				70 F-4
183	寺原五輪塔空風輪・火輪・水輪	緒方町 寺原	戦国	五輪塔空風輪4・火輪2・水輪2が確認できる。寺山集落内の道路脇に集積・整備されて置かれている。				70 F-4
184	鹿山神社宝篋印塔	緒方町 寺原	戦国	鹿山神社境内に宝篋印塔1が確認できる。紀年銘等は確認できない。				70 F-4
185	寺原宝篋印塔	緒方町 寺原	戦国	宝篋印塔1が確認できる。所有者によれば、墓地にはもともと宝篋印塔が2基あったが、1基を東京に移築したと聴取した。紀年銘等は確認できない。		36		70 F-4
186	寺原五輪塔空風輪・火輪	緒方町 寺原	戦国	五輪塔空風輪1・火輪1が確認できる。寺原公民館南側の道路脇にある。				70 F-4
187	上年野の薬師堂五輪塔火輪・水輪・地輪	緒方町 上年野	戦国	五輪塔火輪1・水輪2・地輪1が確認できる。平瀬集落東側の丘陵中腹にある薬師堂敷地内に集積されている。				70 F-5
188	辻河原石風呂横宝塔群	緒方町 辻	近世初頭	宝塔2が確認できる。隣接地に県指定辻河原石風呂あり。				70 E-5
189	普濟寺跡やぐらの宝篋印塔	緒方町 平田	戦国	宝篋印塔3（1基に永正4（1507））が確認できる。辻河原公園北側の斜面にあり、整備されている。当該地点は普濟寺跡と伝承されている。	永正4（1507）		28	70 E-5
190	久土知宝篋印塔笠・塔身・五輪塔空風輪・火輪	緒方町 久土知	戦国	宝篋印塔笠1・塔身1、五輪塔空風輪2・火輪4が確認できる。久土知集落東側の水田内の丘陵上にある。紀年銘等は確認できない。				70 F-6
191	弥陀堂（原尻簡易郵便局前）石塔群	緒方町 野付	戦国	五輪塔空風輪2・火輪2・水輪1、宝塔塔身1が確認できる。原尻簡易郵便局前のお堂（阿弥陀堂）周辺にある。石塔は周辺から集められたようである。				70 E-6
192	緒方宮迫西石仏	緒方町 宮迫	平安～鎌倉	磨崖仏3躯が確認できる。か確認できる。凝灰岩の崖面に仏龕が設けられ、その中に阿弥陀如来・釈迦如来・薬師如来が刻まれている。	国史跡（磨崖仏3）		29	70 E-6
193	緒方宮迫東石仏	緒方町 宮迫	南北朝	磨崖仏5躯が確認できる。凝灰岩の崖面に仏龕が設けられ、その中に尊名不詳の立像・不動明王立像・如来形坐像・持国天立像・多聞天立像が刻まれている。	国史跡（磨崖仏5）		29	70 D-6
194	観音堂五輪塔火輪・水輪	緒方町 火ノ口	戦国	五輪塔火輪1・水輪1が確認できる。火ノ口集落西側の観音堂前に集積している。				70 D-6
195	火ノ口宝篋印塔相輪・笠	緒方町 火ノ口	戦国	宝篋印塔相輪1・笠1が確認できる。上自在公民館西隣の民家の庭先に集積・整備されている。				70 D-6
196	三反畑板碑	緒方町 三反畑	南北朝	板碑1（天授3（1377））が確認できる。上自在公民館南東の水田中にある。	天授3（1377）	県有形（板碑）	5・36	70 D-6
197	緒方氏館跡石塔群	緒方町 下自在	戦国	五輪塔空風輪2・水輪3、宝篋印塔相輪1・笠1が確認できる。緒方氏館跡内に整備されて置かれている。				70 D-6
198	上自在宝塔・宝篋印塔	緒方町 上自在	戦国末～近世初頭	宝塔1・宝篋印塔1が確認できる。上自在の三の丸八幡宮に至る道沿斜面にある。石幢は竿のみである。				70 C-6
199	金刀比羅社五輪塔空風輪	緒方町 下自在	戦国	五輪塔空風輪1が確認できる。金刀比羅社内にある。境内には近世のものと考えられる石幢1基がある。				70 C-6
200	下自在五輪塔水輪	緒方町 下自在	戦国	五輪塔水輪1が確認できる。市指定下自在石風呂南側の宅地内に水輪がある。				70 C-6
201	千人塚遺跡五輪塔群	緒方町 下自在	南北朝 戦国	千人塚遺跡発掘調査時に約50基分の五輪塔が出土している。一部は豊後大野市立歴史民俗資料館内に展示されており、五輪塔1基に康永2（1343）の紀年銘が残る。遺跡周辺にはその他の五輪塔部材が散在していたが現在は確認できない。	康永2（1343）			70 C-7
202	豊後大野市立歴史民俗資料館五輪塔群	緒方町 下自在	南北朝 戦国	豊後大野市立歴史民俗資料館内外に五輪塔15基が確認できる。館内の五輪塔1基に康永2（1343）の紀年銘が残る。館内展示の五輪塔は千人塚遺跡より移築したものである。館外の五輪塔は旧緒方町内の調査等で集積・整備されたものである。	康永2（1343）		36	70 C-7
203	小野崎板碑	緒方町 小野崎	戦国	板碑1（元龜2（1571））が確認できる。大渡橋西側100m程の山中にあり。	元龜2（1571）	市有形（板碑）	36	70 C-8
204	大渡石造地藏菩薩像	緒方町 大渡	室町	地藏1（永享2（1430））が確認できる。大渡橋北側、大渡集落東の崖面下にある。	永享2（1430）	県有形（地藏）	29	70 C-8
205	門板碑	大野町 津留門	戦国	板碑1が確認できる。津留集落中央部にある神社裏山にある。板碑には天文3（1534）の紀年銘が残る。	天文3（1534）	市有形（板碑）	36	70 B-8
206	三徳石幢及び五輪塔	大野町 津留三徳	戦国	石幢1・五輪塔火輪1が確認できる。津留公民館南側の山中頂上にある。石幢には享祿3（1530）の紀年銘が残る。	享祿3（1530）	県有形（石幢）	29	70 B-8
207	城山石幢	緒方町 城山	戦国	石幢1（元龜2（1571））が確認できる。城山集落東側の山中にあり。	元龜2（1571）	市有形（石幢）	36	70 C-8
208	井上宝篋印塔	緒方町 井上	戦国	宝篋印塔2（大永7（1527）が市指定、永正6（1509）は指定無し）が確認できる。大福寺西北側にあり。	永正6（1509） 大永7（1527）	市有形（宝篋印塔）	36	70 D-8
209	井上原板碑	緒方町 井上原	戦国	板碑1（天正3（1575））が確認できる。井上原墓地内にセメントで固められ整備されている。	天正3（1575）		36	70 D-8
210	東仙寺跡の五輪塔地輪	緒方町 東仙寺	鎌倉	五輪塔空風輪3・水輪1・地輪1（元亨2（1322））、宝篋印塔相輪2が確認できる。国道205号沿い東仙寺橋北側の東仙寺跡に集積されている。	元亨2（1322）		36	70 D-7
211	小野五輪塔及び宝篋印塔相輪	緒方町（小野） 粟下	南北朝	五輪塔1、宝篋印塔相輪1が確認できる。生目神社北側に整備されている。紀年銘等は確認できない。		市有形（五輪塔）	36	70 E-7
212	大化トウノ元石幢	緒方町 大化田黒田	室町	石幢1（寛正3（1462））が確認できる。戸元橋西南100m程の山中にあり。	寛正3（1462）		36	70 E-8
213	大化板碑・五輪塔火輪・地輪	緒方町 大化	戦国	板碑1、五輪塔火輪2・地輪1が確認できる。大久保集落北側の墓地内に集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				70 F-7
214	大化の今山宝篋印塔	緒方町 今山	近世初頭	宝篋印塔1が確認できる。今山集落東側の墓地内にある。紀年銘等は確認できない。				70 F-7
215	大化宝篋印塔及び石塔群	緒方町 大化中犬塚	南北朝	宝篋印塔1（市指定大化宝篋印塔・文和2（1353））・相輪1・笠1・塔身1・基礎2、五輪塔空風輪1が確認できる。今宮神社と称されるが、神社施設は朽ち果て山林となっている。	文和2（1353）	市有形（宝篋印塔）	35	70 F-7
216	加賀知観音堂石塔群	緒方町 加賀知	戦国	宝篋印塔4（1基に元龜4（1573）・1基に天正5（1577））・笠3・塔身4、五輪塔火輪1が確認できる。加賀知集落の観音堂敷地内に整備されて置かれている。	元龜4（1573） 天正5（1577）			70 H-6
217	平石板碑	緒方町 平石	近世前葉	板碑2が確認できる。広石集落内の水田頭をはしる道路脇にある。板碑の下半分は埋没している。				70 H-7
218	広石石幢及び五輪塔	緒方町 広石	戦国	石幢1（大永5（1525））、五輪塔1・空風輪1が確認できる。広石集落北側の神社跡にある。	大永5（1525）		35	70 H-7

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
219	八ヶ塔 (はちがとう) 宝篋印塔	緒方町 馬背畑	戦国	宝篋印塔1が確認できる。辻集落西方の山中にある。周辺住民は八ヶ塔 (はちがとう) と呼んでいる。紀年銘等は確認できない。				70 F-8
220	塔の元宝塔	緒方町 馬背畑	室町	宝塔1 (文安2:1445) が確認できる。下馬背畑公民館 (塔の元と呼称される) 東側の広場内にある。	文安2 (1445)		36	70 F-8
221	キリシタン洞窟 礼拝堂隣宝篋印塔	緒方町 馬背畑	戦国末～ 近世初頭	宝篋印塔1が確認できる。市指定キリシタン洞窟礼拝堂周辺にある。紀年銘等は確認できない。				70 F-8
222	馬背畑宝塔	緒方町 馬背畑 宮元	鎌倉	宝塔1 (文保2:1318) が確認できる。御霊八社本殿北側の斜面上にある。	文保2 (1318)	市有形 (宝塔)	36	70 F-8
223	馬背畑宝篋印塔笠 及び相輪	緒方町 馬背畑	戦国	宝篋印塔笠1・相輪1が確認できる。湯上集落の商店南側の道路脇にある。				70 F-8
224	小畑薬師堂宝篋印塔 及び石塔群	緒方町 馬背畑	室町	宝塔1、宝篋印塔2 (1基に文安元:1444)・塔身5・相輪1、五輪塔空風輪4・火輪6・水輪3・地輪2が確認できる。馬背戸川中流西岸の小畑薬師堂周辺に石塔が散在する。	文安元 (1444)		36	70 G-8
225	馬背畑宝篋印塔	緒方町 馬背畑 延命寺	戦国	宝篋印塔1が確認できる。馬背戸川中流西岸の段丘上にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (宝篋印塔)	45	70 G-8
226	平石大無礼の板碑	緒方町 大無礼 平石	戦国	板碑1 (大永6:1526) が確認できる。神屋敷集落東方の道路脇の山林中にある。	大永6 (1526)		36	70 H-8
227	足立家宝塔及び 五輪塔	清川町 六種 中泉	鎌倉	宝塔1・五輪塔空風輪3・火2が確認できる。馬背戸川東岸の民家西側の急斜面にある。嘉暦口 (1326～28) の紀年銘が残る。	嘉暦口 (1326～28)	県有形 (宝塔)	29	70 F-8
228	石源寺石仏	清川町 丸小野	室町後期	崖崖仏4躯が確認できる。丸小野集落西側の崖面下の岩陰にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (崖崖仏)		70 H-8
229	妙見宝篋印塔	大野町 妙見	南北朝	宝篋印塔1 (正平12:1368) が確認できる。下原集落の南方500m程の台地縁辺部雑木林中にある。	正平23 (1368)	市有形 (宝篋印塔)	45	71 A-1
230	荻迫宝塔及び 石塔群	大野町 荻迫	室町	宝塔1 (宝徳4:1452)、五輪塔火輪1・水輪4が確認できる。原集落北側の墓地内に集積・整備され置かれている。	宝徳4 (1452)			71 B-1
231	荻迫石幢及び 宝篋印塔	大野町 荻迫 原 塔ノ平	室町 戦国	宝篋印塔塔身1 (嘉吉2:1442)、石幢1 (市指定荻迫石幢) が確認できる。原集落北方の山中にあり、石幢に紀年銘等は確認できない。隣接地には宝篋印塔塔身がある。	嘉吉2 (1442)	市有形 (石幢)		71 B-1
232	東平宝篋印塔	大野町 小倉木 徳尾東平	南北朝	宝篋印塔1 (永和2:1376) が確認できる。徳尾集落内にあり、近世の石塔等と混在する。当該地点は南光庵と呼称される。	永和2 (1376)	市有形 (宝篋印塔)		71 B-4
233	西白寺石塔群	緒方町 野尻 西白寺	室町 戦国	五輪塔1 (大永4:1524)・宝篋印塔1 (応永17:1420)、その他の石造物あり、西白寺観音堂内施錠の為、個数を確認できず。	応永17(1420) 大永4(1524)		45	71 C-1
234	後藤家石幢	清川町 天神	室町	石幢1が確認できる。共栄橋北側の民家東側崖面にある。整備されており、康正3 (1457) の紀年銘が残る。	康正3 (1457)	県有形 (石幢)	45	71 C-1
235	宮津留石幢及び 五輪塔	清川町 六種	戦国	石幢1・五輪塔空風輪2が確認できる。宮津留公民館北側にある。石塔が集積・整備されている。石幢に紀年銘等は確認できない。		市有形 (石幢)	29	71 F-1
236	野仲家石幢	清川町 左右知 小鶴	戦国	石幢1が確認できる。弁天橋北側300m程の民家裏にある。永正6 (1509) の紀年銘が残る。	永正6 (1509)	市有形 (石幢)		71 H-1
237	内平五輪塔	清川町 内平 伏野	戦国	五輪塔空風輪1・水1が確認できる。白山老人会作業所南西方向にある荒廃した神社祠前にある。				71 H-3
238	内平宝篋印塔群 及び石塔群	清川町 内平 伏野	戦国	宝篋印塔2 (2基に永正16 (1519) の紀年銘)・宝篋印塔笠2・五輪塔空風輪1・板碑1・不明基礎1・不明相輪3が確認できる。白山老人会作業所西方200m程の山中にある。昭和初期まで使われていた里道沿いの岩陰に集積されている。宝篋印塔は豊後大野市三重町大白谷周辺で見られる、笠が上下に間延びしたタイプのものである。	永正16 (1519)	市有形 (宝篋印塔群)		71 H-3
239	中野石幢	清川町 中野 伏野	戦国	石幢1が確認できる。中宮社から東方150m程の崖上にある。紀年銘等は確認できない。笠・竈が近世、竿が戦国時代のものと考えられる。				71 G-2
240	宝生寺宝篋印塔 及び石塔群	清川町 宇田枝	南北朝 室町	宝篋印塔2・五輪塔1・不明相輪1・宝塔身1 (径50cm:本堂前に有)・板碑1 (近世初頭) が確認できる。宝生寺本堂前に市指定宝篋印塔 (永徳4:1384)・宝篋印塔 (応永14:1407) がある。宝塔身は本堂の階段横にある。	永徳4(1384) 応永14(1407)	市有形 (宝篋印塔)	45	71 F-1
241	宝生寺石幢	清川町 宇田枝	戦国	石幢1が確認できる。宝生寺参道脇の池の横にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (石幢)		71 F-1
242	板井家石幢	清川町 宇田枝	戦国	石幢1が確認できる。宇田枝農業研修所西南の水田中にある。永正13 (1516) の紀年銘が確認できる。	永正13 (1516)	県有形 (石幢)	29	71 F-1
243	中村五輪塔空風輪	清川町 六種 中村	戦国	五輪塔空風輪1が確認できる。中村集落南端の民家前の道路脇にある。集積された近現代の石造物の中にある。				71 F-1
244	宇田枝石幢	清川町 宇田枝	戦国	石幢1が確認できる。宇田枝バス停北側の道路脇に整備されて置かれている。紀年銘等は確認できない。		市有形 (石幢)		71 F-1
245	中ノ原石幢	清川町 三玉 中原	室町	石幢1が確認できる。中原集落から東側200m程の山中にある。紀年銘等は確認できない。		市有形 (石幢)		71 E-1
246	市指定萩田家五輪塔・ 宝篋印塔周辺五輪塔水輪	清川町 宇田枝	戦国	市指定萩田家五輪塔・宝篋印塔周辺に五輪塔水輪1が確認できる。宇田枝集落の東南端の民家庭先にある。				71 F-2
247	萩塚様五輪塔	清川町 宇田枝	戦国	五輪塔空風輪3・水2が確認できる。市指定萩塚様の祠の前にある。				71 E-2
248	柿ノ木石幢	清川町 柿ノ木 白尾	戦国	石幢竿1が確認できる。柿ノ木集落西側の雑木林中にある。石幢竿のみで、紀年銘等は確認できない。				71 C-3
249	後藤家板碑及び 五輪塔	清川町 柿ノ木 白尾	近世初頭	板碑6・五輪塔火2が確認できる。柿ノ木集落内の民家庭先にあり、整備されている。紀年銘等は確認できない。		市有形 (板碑)		71 C-3
250	大平石塔群	清川町 柿ノ木 白尾	近世初頭	宝篋印塔7が確認できる。岩戸橋から西南方向600m程の凝灰岩の崖下にある。宝篋印塔1基に慶長15 (1610) の紀年銘が残る。	慶長15 (1610)	市有形 (宝篋印塔群)		71 C-3
251	中尾石塔群	清川町 雨堤	近世初頭	宝塔8・宝塔相輪2・宝塔身5・板碑1・五輪塔5・五輪塔空風輪3・火5・水3・地3が確認できる。豊後清川駅南側200m程の山中にある。宝塔1基に慶長19 (1614) の紀年銘が残る。	慶長19 (1614)	市有形 (宝塔)		71 D-2
252	観音堂石塔群	清川町 白尾 柚ノ木	戦国	五輪塔空風輪2・火1・水3・地1・不明相輪1が確認できる。下辻バス停西側山中の市指定観音堂石仏群周辺にある。お堂の隣に石塔部材が散在する。				71 C-3
253	岩戸五輪塔	清川町 岩戸 白尾	戦国	五輪塔1が確認できる。岩戸集落西南端の民家入口付近にある。				71 C-4
254	岩戸公民館石塔群	清川町 岩戸 白尾	戦国	石幢竈1・五輪塔空風輪1・一石五輪1が確認できる。岩戸公民館敷地内南東隅に集積・整備している。				71 C-4
255	辻宝塔及び五輪塔群	三重町 向野 辻	室町	宝塔1・五輪塔4が確認できる。辻集落の西南にある。石塔を集積している。		市有形 (宝塔)		71 A-4
256	平野神社石塔群	三重町 向野 鎌倉末	戦国	宝篋印塔1・五輪塔空風輪1・火3・水1が確認できる。平野神社境内に集積・整備されている。				71 A-5
257	川辺石幢	三重町 川辺 下原	室町	石幢1が確認できる。川辺集落の北方、大野川を臨む位置に所在する。		市有形 (石幢)		71 A-4
258	石造五重塔 (川辺五重塔)	三重町 川辺 中原2110	戦国	五重塔1が確認できる。川辺集落の西側、水田畔上に所在し、文明元 (1469) の紀年銘あり。	文明元 (1469)	県有形 (五重塔)	29	71 B-4

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
					1																	
												1										
					1																	
						1	1															
	4	6	3	2	2	1		5				1										
					1																	
																	1					
	3	2										1										
																			磨崖仏4			
					1																	
		1	4									1										
								1										1				
					1																	
1					1																	
																			1			
	2																		1			
																			1			
	1		1																			
	1				2	3	2		1								1					
																			1			
1					2	1							1				1					
																			1			
																			1			
	1																					
																			1			
			1																			
	3		2																			
																			1			
		2															6					
					7																	
5	3	5	3	3							8	2		5			1					
	2	1	3	1		1																
1																						
	1																1		1			
4											1											
	1	3	1		1																	
																			1			
																			層塔1			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載図番号
259	石造宝塔(川辺宝塔)及び石塔群	三重町 川辺上下田	南北朝	宝塔1(明徳4:1393)・五輪塔空風4・火3・水3・地1が確認できる。川辺ダム入口バス停東南にあり、正明寺跡と伝承されている。	明徳4(1393)	県有形(宝塔)		71 B-5
260	恵良地藏菩薩石塔群	三重町 玉田恵良前	戦国	石幢半1(天文□:15□□)・宝篋印塔身3・不明基礎1・五輪塔空風2・火1が確認できる。恵良地藏菩薩のお堂周辺に集積している。	天文□(15□□)			71 C-4
261	水田石幢	三重町 玉田水田	戦国	石幢1が確認できる。大字玉田字水田の根根筋先端部にある。道路開削のため四方が削られ、石塔までたどり着けない。				71 C-5
262	植松石幢(笠塔婆である)	三重町 久田植松	戦国	笠塔婆1(永禄13:1570)が確認できる。神目寺跡に進入路入口にある。植松石幢は実際は笠塔婆である。	永禄13(1570)	市有形(笠塔婆)		71 D-4
263	不二庵宝塔及び五輪塔	三重町 本城上久保1497	南北朝	宝塔1(高応3:1340)・五輪塔空風2が確認できる。熊野社西北側150m程の山中にあり、整備されている。不二庵(養学院)跡と伝承されている。	高応3(1340)	県有形(宝塔)	29	71 D-5
264	渡瀬元の石幢	三重町 本城渡瀬元	戦国	石幢1が確認できる。県道718号沿いの深田バス停側の路肩部分にある。				71 D-5
265	地藏院石幢及び石塔群	三重町 秋葉日向3643	室町	石幢1・不明笠2・五輪塔空風4・火1・水1・地1・板碑1・宝塔身1・不明相輪1・笠塔婆1(天文16:1547)が確認できる。県道717号から南に20m程の山林中にあり、残存状況は悪い。地藏院跡と伝承される。	天文16(1547)	県有形(石幢)	29	71 E-5
266	神目寺石幢(笠塔婆である)及び石塔群	三重町 久田神目寺2572	室町戦国	石幢1・笠塔婆1(永禄7:1564)・石幢半1・石幢笠1・不明相輪3・不明笠1・宝塔身1・宝篋印塔身12(応永30:1423)・宝篋印塔笠1・不明基礎1・五輪塔空風2・水1が確認できる。県指定を除き、石塔が散在している。県指定石幢は実際は笠塔婆である。	応永30(1423) 永禄7(1564)	県有形(笠塔婆)	29	71 D-4
267	久田石幢	三重町 久田小高野	戦国	石幢1が確認できる。小高野集落南側にある。整備されている。敷地内には瓦が散在しており、神社などの施設があったようである。				71 D-3
268	大楽寺石幢・大楽寺宝塔及び石塔群	三重町 久田大楽寺3194	室町戦国	県指定石幢1(大永8:1528)・宝塔2(市指定大楽寺宝塔2)・無縫塔1・笠塔婆1・五輪塔空風2・火1・水1が確認できる。中尾集落の南西の大楽寺跡にある。山中にあるが、整備はいきとどいている。	大永8(1528)	県有形(石幢) 市有形(宝塔2)	29	71 E-4
269	久田中尾の釈迦堂宝塔	三重町 久田	近世初頭	宝塔1が確認できる。中尾集落西南200m程の釈迦堂敷地内に整備されている。				71 E-4
270	中尾五輪塔	三重町 久田名入	南北朝	五輪塔1(康暦3:1381)が確認できる。中尾集落南方300m程の崖面上にあり、納骨堂裏に整備されている。	康暦3(1381)	県有形(五輪塔)	29	71 E-4
271	西岸寺宝篋印塔・西岸寺石幢及び石塔群	三重町 久田津留4241	南北朝室町～戦国	宝篋印塔1(県指定)・石幢1(市指定)・宝塔身1・五輪塔空風2・火3・水3・地1が確認できる。宝篋印塔に建徳元(1370)の紀年銘あり。石塔類は寺の南側に整備されており、移築された可能性が高い。	建徳元(1370)	県有形(宝篋印塔) 市有形(石幢)	29 45	71 E-3
272	千人塚宝塔及び石塔群	三重町 小田浦久保	戦国	宝塔2・不明相輪1・一石五輪1・五輪塔空風5・火3・水4が確認できる。浦久保集落北側の作業小屋北隣にある。石塔は塚の高まりの上にある。		市有形(宝塔)		71 F-3
273	地藏原石幢(実際は笠塔婆である)	三重町 小田上ノ田	戦国	笠塔婆1(永禄9:1566)が確認できる。浦久保集落南方の山中の納骨堂北側にある。市指定地藏原石幢となっているが、実際は笠塔婆である。	永禄9(1566)	市有形(笠塔婆)		71 G-4
274	平野石幢	三重町 伏野平野	戦国	石幢半1が確認できる。伏野集落から南東500m程の民家倉庫前にあり、笠は欠損している。保存状態は悪い。墨書が僅かに残る。		市有形(石幢)		71 H-3
275	愛宕地藏尊五輪塔火輪・水輪	三重町 伏野大無礼	戦国	五輪塔火1・水1が確認できる。奥畑川中流、松代橋南方の山頂に所在する愛宕地藏尊にある。				71 H-4
276	大無礼板碑	三重町 伏野小津留	戦国	板碑1(大永8:1528)が確認できる。奥畑川中流の松代橋南方500m程の山腹にある。荒廃著し。	大永8(1528)	市有形(板碑)		71 H-4
277	竹脇石造多層塔(代多層塔)	三重町 奥畑竹脇	室町	層塔1が確認できる。奥畑川上流の荒谷橋北にある。護岸工事により、整備されている。		市有形(層塔)		71 H-5
278	荒谷石幢	三重町 奥畑荒谷	室町	石幢1が確認できる。竹脇石造多層塔(代多層塔)北方100m程の山中にある。保存状態は良い。		市有形(石幢)		71 H-5
279	松谷公民館石幢	三重町 内山ハキ	戦国	石幢1(永正5:1508)が確認できる。松谷公民館西隣にある。剥落著しく保存状況は悪い。				71 F-6
280	並石石幢及び笠塔婆	三重町 上簷谷 並石	戦国	石幢1(永正14:1517)・笠塔婆1が確認できる。並石川上流の山中にある。三国峠につながる林道沿いにあり、整備されている。	永正14(1517)	市有形(石幢)		71 F-7
281	文中宝塔及び石塔群	三重町 内山櫻城	鎌倉南北朝室町戦国	県指定宝塔1基を確認できる。蓮城寺境内にある。文中4(1375)の紀年銘を残す。他に市指定五重塔1が蓮城寺境内にあるが、紀年銘等は確認できない。さらに、板碑1(慶長4:1599)・五輪塔1(文保3:1319)が確認できる。	文保3(1319) 文中4(1375) 慶長4(1599)	県有形(宝塔) 市有形(石幢) 層塔	29 36	71 E-6
282	永仁宝塔及び石幢	三重町 内山櫻城	鎌倉戦国	蓮城寺薬師堂敷地内に宝塔2基がある。1基の宝塔身に銘文があり、年号については永仁4(1296)と推測されている。その他に石幢1(永正16:1519)が確認できる。	永仁4(1296) 永正16(1519)	県有形(宝塔2)	29	71 E-6
283	慈雲庵石幢1号慈雲庵石幢2号及び石塔群	三重町 秋葉上羽飛3153	室町戦国	石幢2(県指定慈雲庵石幢1号に永正元(1504)の紀年銘、市指定慈雲庵石幢2号は無銘)・宝篋印塔1・五輪塔1が確認できる。慈雲庵敷地内に所在し、石塔を集積・整備している。	永正元(1504)	県有形(石幢) 市有形(石幢)	29 47	71 D-5
284	平野石幢1号平野石幢2号(笠塔婆である)	三重町 秋葉平野3381	室町	市指定石幢1・笠塔婆1(市指定平野石幢2号は笠塔婆である)が確認できる。羽飛集落東側の内山観音にぬける、林道入口に所在する。		市有形(石幢) 笠塔婆		71 D-6
285	浄運寺宝篋印塔・浄運寺一石五輪塔及び石塔群	三重町 内田岩崎	南北朝南北朝～室町	県指定宝篋印塔1(文中4:1375)・一石五輪塔1(市指定)・宝篋印塔笠18・宝篋印塔基礎2・宝篋印塔身25・宝篋印塔相輪5・五輪塔空風1・水1・不明笠1・板碑1が確認できる。石塔は浄運寺境内に散在する。	文中4(1375)	県有形(宝篋印塔) 市有形(一石五輪塔)	29	71 D-6
286	秋葉五輪塔空風輪	三重町 秋葉	戦国	近世の宝篋印塔周辺に五輪塔空風輪1が確認できる。愛宕地藏尊北側墓境内に集積・整備されている。				71 C-5
287	田踏切北石幢	三重町 玉田尾迫	戦国	石幢1(宝珠と龍は戦国時代のものと考えられる)・五輪塔空風1・火1・水1が確認できる。玉田踏切北側にあり、石塔は道路脇に併集・整備されている。				71 C-5
288	百枝公民館東石幢	三重町 百枝柿ノ木平	戦国	石幢1(永禄元:1558)が確認できる。百枝公民館東側100m程の崖面にある。保存状態は悪い。	永禄元(1558)			71 A-6
289	三社大権現五輪塔空風輪・火輪	三重町 西泉	戦国	五輪塔空風5・火1が確認できる。西泉集落の西端にある。三社大権現境内に集積・整備されている。				71 A-5
290	石造宝篋印塔(法泉庵宝篋印塔)及び石塔群	三重町 西和泉 石田	南北朝戦国	県指定宝篋印塔1(正平25:1370)・宝篋印塔10以上(1基に永禄8:1565)・五輪塔20以上が確認できる。西泉集落の南西にある。多数の石塔を集積し、観音堂と通称されている。	正平25(1370) 永禄8(1565)	県有形(宝篋印塔)	29	71 A-5
291	宮山石幢及び石塔群	三重町 百枝宮山	戦国	石幢1(元龜3:1572)・不明笠1・不明宝珠1が確認できる。牟礼集会所前にあり、道路脇に併集・整備・移築した可能性がある。	元龜3(1572)	市有形(石幢)		71 A-6
292	宝光寺五輪塔水輪及び石塔群	三重町 内田宝心	南北朝	五輪塔火1・水1(正平21:1366)・不明相輪4・宝篋印塔笠7・宝篋印塔身2・板碑4が確認できる。宝光寺旧境内本堂裏にあり、荒廃著し。	正平21(1366)			71 C-6
293	宝光寺お堂石塔群	三重町 内田宝心	鎌倉	笠塔婆身1・角塔婆2・板碑12・五輪塔空風1・水1(元徳3:1331)が確認できる。宝光寺南東のお堂南側にある。整備されておらず、保存状態は悪い。	元徳3(1331)			71 C-6
294	高野六地藏	三重町 内田高野	戦国	石幢半1(天文24:1555)が確認できる。高野墓境内に整備して置かれている。笠は残存していない。	天文24(1555)			71 D-7
295	石造宝塔(下赤嶺宝塔)・石造多層塔(下赤嶺多層塔)・舍利塔及び石塔群	三重町 赤嶺宮畑1461	鎌倉南北朝	多層塔基礎1(文永2:1265)・宝塔1(康永4:1345)・石幢1・石幢龍1・五輪塔空風1・水1・舍利塔1(文永12:1275)が確認できる。市辺田八幡本殿東側にある。移築され並べられている。	文永2(1265) 文永12(1275) 康永4(1345)	市有形(宝塔) 層塔		71 B-7

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地番
296	明照院宝篋印塔及び石塔群	三重町 下赤嶺 角神	戦国	宝篋印塔1・角塔婆1(永禄10:1567)・不明基礎1が確認できる。開削された畑地の東端にある。移築された可能性がある。明照院跡と伝承される。	永禄10(1567)	市有形(宝篋印塔)		71 B-7
297	石造五輪塔(下赤嶺五輪塔)及び板碑群	三重町 赤嶺 道ノ上799	鎌倉 戦国 近世初頭	県指定五輪塔1(正安2:1300)が確認できる。奥史跡道ノ上古墳の後円部に所在する。後円部東方には板碑3(大永2:1522・慶長3:1598・慶長8:1603)が確認できる。	正安2(1300) 大永2(1522) 慶長3(1598) 慶長8(1603)	県有形(五輪塔)	29	71 C-7
298	下赤嶺石幢及び石塔群	三重町 赤嶺 垣内726	戦国	市指定石幢1(永正10:1513)・無縫塔1(永正17:1520)・宝篋印塔相輪7・宝篋印塔笠5・宝篋印塔身6・宝篋印塔1(永正17:1520)・五輪塔空風9・火4・水4が確認できる。下赤嶺下区集落の北側崖面上に所在し、地藏堂周辺に石塔が散在する。	永正10(1513) 永正17(1520)	市有形(石幢)		71 C-7
299	慈現庵石幢及び石塔群	三重町 小坂 小広瀬3015	室町 戦国	石幢1・宝篋印塔身4(1基に永禄9:1566)・宝篋印塔笠4・宝篋印塔基礎7・五輪塔水1・板碑2・不明笠3が確認できる。三重川東岸の段丘上に所在し、石幢は整備されているが、他の石塔は荒廃著しい。土中に埋没する石材もある。当該地点は慈現庵(自源寺)跡と伝承されている。	永禄9(1566)	市有形(石幢)		71 B-8
300	小坂川橋梁上笠塔婆笠・塔身	三重町 小坂 中ノ原	戦国	笠塔婆笠1・笠塔婆塔身1(天文18:1549)が確認できる。笠と塔身は同一個体と考えられる。小坂川にかかる農業用コンクリート橋梁上にある。農業利水に使用している模様である。	天文18(1549)			71 B-8
301	中ノ原石塔群	三重町 小坂 中ノ原	戦国	宝篋印塔1(大永3:1523)・宝塔3(大永6:1526・天文4:1535・天文22:1553)・宝篋印塔身8・宝篋印塔笠4・五輪塔水1・板碑3が確認できる。小坂川東岸の宅地北側にある崖面に集積している。	大永3(1523) 大永6(1526) 天文4(1535) 天文22(1553)			71 B-8
302	吉祥寺北五輪塔空風輪・火輪・水輪	三重町 松尾 大門瀬	戦国	五輪塔空風1・火1・水1が確認できる。吉祥寺北方50m程の崖面に集積している。				71 C-8
303	吉祥寺石塔群	三重町 松尾 大門瀬	戦国	五輪塔1・火3・水2・地2が確認できる。吉祥寺境内南東側に集積・整備してある。				71 C-8
304	瀬戸谷宝塔	三重町 松尾 城山	南北朝	宝塔1(応安6:1373)が確認できる。高屋川下流北岸の巨石上にある。	応安6(1373)	市有形(宝塔)		71 C-8
305	松尾公民館裏石塔群	三重町 松尾 辻	戦国	宝篋印塔身3(1基に大永4:1524)・宝篋印塔笠3・宝篋印塔相輪3・五輪塔空風1・宝塔身1・五輪塔水2・不明基礎1が確認できる。松尾公民館裏山にある。開削された平地山にあり整備されている。	大永4(1524)			71 D-8
306	神山石幢	三重町 小坂 雪場1177	戦国	石幢1が確認できる。下小坂集落の中央の山林内にあるが、整備されている。永正4(1507)の紀年銘が残る。	永正4(1507)	県有形(石幢)	29	72 B-1
307	中小坂石幢及び石塔群	三重町 小坂 中通道	室町 近世初頭	石幢1・角塔婆1(慶長9:1604)・宝篋印塔3・二連板碑1が確認できる。中小坂集落北端の山林中にあり整備されている。	慶長9(1604)	市有形(石幢)	47	72 B-1
308	中小坂無縫塔及び石塔群	三重町 小坂 山の神2498	室町	無縫塔1・五輪塔2・五輪塔火2・板碑2が確認できる。中小坂集落南方の山中にあり、荒廃著しい。確認された石塔以外にも、土中に埋没する石材を確認できる。		市有形(無縫塔)		72 C-1
309	大石の鍛屋宝篋印塔・五輪塔	緒方町 大石 鍛屋	中世末～近世初頭	五輪塔火輪1・地輪1・宝篋印塔笠1・相輪1が確認できる。大石公民館東側の民地内納骨堂前にあり。				77 B-2
310	大石の鍛屋宝篋印塔	緒方町 大石 鍛屋	中世末～近世初頭	宝篋印塔1が確認できる。市指定大石遺跡西隣の山林中にある。紀年銘等は確認できない。				77 B-3
311	地藏原石幢	緒方町 地藏原	戦国	石幢1(永正5:1508)が確認できる。中野集落西方500m程の雑木林中にある。	永正5(1508)	県有形(石幢)	29	77 B-3
312	無量寺前石幢	緒方町 上畑 中村	戦国	石幢1が確認できる。無量寺前の道路脇にある。紀年銘等は確認できない。				77 E-4
313	上畑の大村石塔群	緒方町 上畑 大村	戦国	石幢2・五輪塔1・空風輪4・火輪1・水輪1が確認できる。大村集落北側のお堂周辺に集積されている。				77 D-4
314	栗林公民館南西石幢	緒方町 栗林 栗林野仲	戦国	石幢1(永正5:1508)が確認できる。栗林公民館南西の道路脇にある。	永正5(1508)			77 D-5
315	堂内宝塔	緒方町 堂内	室町	宝塔1(永享9:1437)が確認できる。堂内公民館(堂内地蔵堂)敷地内にある。永享9(1437)の紀年銘とされるが、現在判読不可能である。石材の剥落劣化が著しい。	永享9(1437)	市有形(宝塔)	36	77 B-5
316	小仲尾宝篋印塔及び石塔群	緒方町 小仲尾	室町	宝篋印塔2(1基に永享27:1420の紀年銘)、五輪塔空風輪3・火輪3・水輪1が確認できる。小仲尾公民館から東南200m程に地藏堂がある。地藏堂周辺に石塔が散在する。	永享27(1420)		36	77 B-5
317	明王寺西板碑群	緒方町 上栗生	戦国	板碑3が確認できる。明王寺西側の三差路脇にある。紀年銘は確認できない。				77 B-5
318	上冬原の姥社石幢竿	緒方町 上冬 原	戦国	石幢竿1が確認できる。姥社境内に石幢竿のみある。				77 A-5
319	明王寺宝篋印塔及び石塔群	緒方町 栗生	室町	宝篋印塔2(1基に永享7:1435の紀年銘)・相輪1・五輪塔4・空風輪1・火輪7・水輪2が確認できる。明王寺南北の入口付近に散在する。	永享7(1435)	市有形(宝篋印塔)	36	77 B-5
320	湯迫石幢及び五輪塔	緒方町 湯迫	戦国	石幢1(享禄5:1532)・五輪塔3・空風輪2・火輪2が確認できる。湯迫集落南側の地藏堂内に石幢があり、鞘堂前に五輪塔等が整備してならべられている。	享禄5(1532)	県有形(石幢)	29	77 B-6
321	ロン地石幢	清川町 ロン地	戦国	石幢1が確認できる。轟集落から西方700m程の山中にある。紀年銘等は確認できない。		市有形(石幢)		77 B-7
322	橋本橋石塔群	清川町 左右知 轟	戦国～近世初頭	宝篋印塔1・五輪塔1が確認できる。坂本橋北側の広場に近現代の石造物と共に集積・整備されている。紀年銘等は確認できない。				77 B-8
323	長小野板碑	清川町 長小野	戦国末～近世初頭	板碑1が確認できる。広バス停東側150m程の荒廃した神社の周辺にある。紀年銘等は確認できない。				77 A-7
324	柏野石仏(周辺五輪塔空風輪)	清川町 柏野	戦国	市指定柏野石仏(近世)周辺に五輪塔空風輪1が確認できる。柏野木南切多目的集会所東側の崖面上にある。				77 A-8
325	下田家五輪塔	清川町 左右知	戦国	五輪塔1が確認できる。左右知多目的集会所から西南方向300m程の丘陵上先端部にあり。近世の墓地内中央部にある。永禄□□(15□□)の紀年銘が残る。	永禄□□(15□□)	市有形(五輪塔)		77 A-8
326	石造宝篋印塔(白台宝篋印塔)及び石塔群	三重町 大白台 松尾2227	戦国	宝篋印塔1(延徳4:1492)・宝篋印塔相輪1・宝篋印塔笠1・宝篋印塔身5・笠塔婆1(文亀2:1502)・石幢1が確認できる。白台集落の北側山頂にある。整備されていないが、保存状態は良好である。	延徳4(1492) 文亀2(1502)	市有形(宝篋印塔)		78 D-1
327	久部層塔及び石塔群	三重町 大白台 久部57	南北朝	三層塔1・宝篋印塔1・宝塔笠2・五輪塔空風1・火1・水2・不明基礎1が確認できる。梅津川中流東岸の道路脇にある。層塔以外は集積されている。		市有形(層塔)		78 D-3
328	久部五輪塔空風輪・火輪・水輪	三重町 久部	戦国	五輪塔空風1・火1・水1が確認できる。市指定久部層塔東側100m程の民家庭先に集積されている。				78 D-3
329	稲積山麓石塔群	三重町 中津留 中津留	近世初頭	不明相輪8・宝篋印塔笠4・宝篋印塔身10・宝篋印塔基礎10・宝塔身1・五輪塔空風1・火1が確認できる。中津留集落西方の稲積山麓にある。宝篋印塔は大白台周辺で見られる、笠が上下に間延びしたタイプのものである。荒廃著しく、石塔が散在している。				78 C-3
330	白泉寺石幢及び石塔群	三重町 中津留 押川	戦国	石幢1(永正12:1515)・不明相輪1・宝篋印塔笠1・宝塔笠2・五輪塔空風3・火1・水6が確認できる。市指定石幢を除き、他の石塔は集積されている。	永正12(1515)	市有形(石幢)		78 B-4
331	内平石塔群	清川町 伏野 犬鳴	戦国末～近世初頭	宝篋印塔2・宝篋印塔笠5・宝篋印塔身5・五輪塔空風1・火7・水6・地1が確認できる。犬鳴集落南側の緩斜面にある。観音堂の横に集積されている。		市有形(宝篋印塔)		78 A-3
332	井ノ尻石塔群	三重町 井ノ尻 奥畑	戦国	石幢2(永正14:1517・天文12:1543)・宝篋印塔3(永正17:1520・天文22:1553・天文7:1579)が確認できる。井ノ尻集落西北200m程の山中にある。泉蔵院跡と伝承される。	永正14(1517) 天文12(1543) 永正17(1520) 天文22(1553) 天文7(1579)			78 A-6
333	井ノ尻五輪塔水輪・地輪	三重町 井ノ尻 奥畑	戦国	五輪塔水1・地1が確認できる。井ノ尻集落内民家進入路の途中の崖面に祀られている。				78 A-6

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	薬師寺家墓地	徳浦宮町	近世初期	墓地中に宝篋印塔の笠に方柱状の塔身をもつ3基の石塔が並べられている。塔身が風化しているか戒名の痕跡がみえる。				56 H-7
2	海岸寺石塔群	堅浦 尾崎	南北朝～戦国	境内の庭の中に石塔部材が集められている。本堂裏の岩山にある大師堂に登る参道わきに石塔およびその部材が散在する。このほかに宍存の宝篋印塔と角宝塔がある。				56 H-8
3	根香寺石塔群	長目 浦代	南北朝～戦国	漁村の集落に挟まれた丘陵の頂部に小堂があり、その前に石塔の部材が散在する。組まれているものもみられるが、本来の組み合わせではなく、埋もれているものも多く、左記の実数よりは3割増の個体数であろう。				57 G-1
4	浦代石塔群	長目 浦代	戦国	みかん畑の中に石塔が集められている箇所あり。宍存であれば総高150cm程度の宝篋印塔を中心に石塔部材が散在する。				57 G-1
5	村上神社宝篋印塔	上青江 桐山	室町～戦国	基礎2点と笠・相輪からなる宝篋印塔である。笠・相輪は同一のものであろうが、基礎2点は笠・相輪とは別材のものであろう。塔身に再利用されている基礎には、交名と思われる墨書がみられるが、判読不能である。左端には刻銘がみられる。	文安6 (1449)	市有形 (宝篋 印塔)		65 A-5
6	二村家石塔群	上青江 畑	戦国	民家の裏に五輪塔が3基分積まれている。二村家の先祖の供養塔と伝えられている。				65 A-5
7	畑集落墓地	上青江 畑	戦国～近世初期	近世墓地中に宝塔塔身と五輪塔火輪が置かれている。かつてはもつとたくさん置かれていたとのことである。宝塔塔身には銘がある。				65 A-5
8	夕顔の塔	上青江	戦国	日露戦争の紀年碑の横に石塔部材が集められている。				65 A-5
9	川内石塔群	上青江 川内	戦国～ 近世初期	川と山に挟まれた狭い平地地に五輪塔が組合せが異なる状態で組まれている。				65 A-5
10	弁治口石塔群	上青江 弁治口	戦国	畑中のコンクリートの小さな祠の中に五輪塔空風輪がみられる。				65 B-5
11	五兵堂石塔群	上青江 川内	戦国～近世初期	丘陵斜面に上下2段、横並びに水輪が方形の異形五輪塔を並べており、下段のひとつに墨書銘が塔身にみえる。このほかに石塔部材がみられる。	寛永19 (1642)			65 B-5
12	川内集落墓地石塔群	上青江 川内	戦国～近世初期	集落墓地に石塔を集積している箇所がある。水輪が方形を呈する異形五輪塔をはじめ五輪塔の部材や無縫塔中台がみられる。				65 B-5
13	川内石幢	上青江	室町	公民館の横に宍存の石幢が1基あり、円形で幢身も円形、8区画を作り地蔵6体と二主体を陽刻している。		市有形 (石幢)		65 B-5
14	円明寺跡石塔群	上青江 川内	戦国	コンクリートの小堂横に五輪塔部材が散在する。				65 B-5
15	津久見狐山上石塔群	上青江	戦国～ 近世初期	丘陵斜面に平坦地を造成し、小堂を営んでいる。その横や参道に石塔部材を組んでいる。五輪塔の水輪には丸と方形がある。無縫塔は塔身と中台がみられる。				65 B-5
16	石井家上墓地石塔群	上青江	戦国～ 近世初期	近世墓地を囲む細い丘陵尾根先端に凝灰岩の露頭があり、磨崖石塔や石塔部材がある。五輪塔が多く、水輪を丸と方柱および面取りした方柱を用いている。方柱の塔身のひとつに墨書銘がみられる。	天正18 (1590)			65 A-6
17	鬼丸板碑	上青江 鬼丸	近世初期	道路横に大型の板碑が単独で立てられている。	元和10 (1624)	市有形 (板碑)	36	65 A-6
18	垣笥磨崖碑	上青江 垣笥	近世初期	寺院伝承地である。個人宅の裏に凝灰岩の露頭があり、3基の磨崖石塔が刻まれている。内2基は対になっており、刻銘がある。かつてこの周辺には大量の石塔残欠があったと伝えられているが、すべて移設されたと伝えられている。	寛文10 (1670)			65 A-6
19	原墓地石塔群	上青江 原	戦国～ 近世初期	近世墓地中に五輪塔部材や無縫塔塔身・中台がみられる。				65 A-6
20	蔵富石幢	上青江 蔵富	戦国	丘陵尾根のみかん園の端に単独で立てられている。基礎・竿・中台・笠とも四面体であるが宝珠のみ円形を呈する。幢身には像痕がみられないが、白色の顔料が残るため彫られたものでなく、描かれていたものかもしれない。				65 A-6
21	道尾石幢	上青江 道尾	戦国	民家の庭に単独で立てられている。基礎・竿・中台・笠とも四面体である。宝珠の形は火焔宝珠。中台の下に蓮弁を線刻している。露頭は6体の地蔵と2体の二王を配置している。正面に銘を大きく刻むが、後刻であろう。	文明9 (1477)	市有形 (石幢)		65 A-6
22	道尾磨崖碑	上青江 道尾	近世初期	空風輪をのせる笠に方柱状の塔身をもつ磨崖石塔が2基1対になるものを含め、合計8基が凝灰岩の露頭に陽刻されている。				65 A-6
23	八坂寺石塔群	上青江 小園町	戦国	参道石段下に石祠群を祀る一角があり、その中に石塔部材がみられる。石幢は幢身のみが残る。				65 A-7
24	地蔵町石塔群	地蔵町	室町～戦国	覆屋の中に石塔部材が重ねられ、地蔵として祀られている。その中に無縫塔竿がみられる。				65 A-7
25	長泉寺墓地石塔群	上宮本町	戦国	累代墓化された墓地の中に石塔の残欠がある。中でも浅香家墓地周辺に集中する。				65 B-8
26	解脱庵寺石塔群	下青江	南北朝～戦国	参道横と南側墓地と北側墓地に石塔部材が置かれている。このうち北側墓地にみられる五重層塔は石英や大粒の黒い角粒を多く含む石材を使っている。				65 B-7
27	成松家前石塔群	井無田	戦国	集落内の道のコーナーに井戸があり、その横に石仏を置き、その周辺に五輪塔空風輪が置かれている。				65 B-7
28	大野家裏山石塔群	下青江	室町～戦国	民家の裏山の急峻な斜面を平坦にしてミカン園にしている。その中に五輪塔が並べられている。組合せは本来のものとは言えない。				65 B-7
29	世尊寺五重塔	下青江	南北朝	屋根と相輪は本来のものであろう。その下に石幢幢身と中台を逆さにして配置している。基礎は戦国期の宝篋印塔基礎を転用している。この層塔の隣に石造地蔵の台にしている塔身がある。これが、本来、この層塔の塔身であったと考えられる。		市有形 (層塔)		65 B-7
30	井無田石塔群	井無田	南北朝～戦国	ミカン園の中に石造物を集めている一角がある。相輪を欠くものの宍存の宝篋印塔と五輪塔の部材がある。				65 B-7
31	門前道跡石塔群	下青江 門前	南北朝～戦国	高速道路に用地に所在した門前道跡の石塔群を発掘調査終了後に移転した。五輪塔を中心に無縫塔・宝塔・宝篋印塔が100基前後の部材が積まれている。				65 B-7
32	成守石塔群	津久見 成守	戦国～ 近世初期	薬師を祀った小堂内とその横に石塔部材が納められている。五輪塔火輪としたものは、宝塔笠であるかもしれない。また、宝塔塔身は方形を呈する。				65 C-8
33	鍛冶屋無縫塔	津久見 鍛冶屋	戦国	中島氏宅の横の丘陵に2基の宍存の無縫塔が並べられている。両方とも竿の正面に銘文がみられる。竿の両側に開蓮華の陽刻が、また、四面に金剛界四仏の種子がある。	天正3 (1575) 天正6 (1578)			65 C-8
34	寺屋敷跡石塔群	津久見 彦之内	戦国	丘陵尾根に2×3mの範囲に五輪塔の部材を積み上げている。20～30基はあったものと思われる。				65 C-8
35	千怒越石塔群	津久見 千怒越	戦国	公民館横の近世墓地中に石塔部材が散在する。				65 C-8
36	路木迫集落墓地石塔群	津久見 路木迫	戦国	近世墓地の景観を比較的によく残している一角に五輪塔部材が集積されている。				65 C-8
37	彦之内石塔群	津久見	戦国	畑の中に1.5m四方の石積みがあり、その上に五輪塔部材が積まれている。				65 C-8
38	山口家裏石塔群	津久見	戦国	人家裏の畑の石垣に五輪塔部材が集められている。				65 C-8

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
					3																	
	5	6	6	3	1						1							3				
	7	31	30				1		1				1									
	2	2	4		1													1				
						1	1		2													
	3	3	2	3																		
		1											1									
	1	2					1										1		1			
	8	17	17	15																		
	1																					
7	3	1																1				
	8	5	6															3				
																			1			
	22	13	18	7																		
	8	14	10	9														2				
	21	34	23	26													1		磨崖五輪塔4			
																			磨崖石塔3			
	5	5		4														2				
																			1			
																			1			
																			磨崖石塔8			
	4	1	1																1			
																		1				
	5	2	4																			
	7	5	10	1			1											2	磨崖1			
	6																					
	5	6	7	5																		
								1											1			
	4	6	2	2	2														磨崖1			
	60	9	5	12							4		9									
																		2				
	3		3																			
	4		4																			
			4	1																		
	11	2	5																			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地番号
39	武速神社下石塔群	八戸 大村	戦国	武速神社に向かう道路横にコンクリートで固めた一角を設け、その上に組合せが異なる五輪塔を4基と、その横に1基、隣接する林中に部材が散乱して確認できる。				65 E-4
40	岡田家横墓地五輪塔群	千怒 久保	戦国	岡田篤郎邸の横の壁地は累代墓化されているが、五輪塔部材が散在する。				66 B-1
41	千怒石幢	千怒 鍛冶屋	室町～戦国	天神様と呼ばれる社の前の平地に単独で立てられている。屋根の一部が欠損しているのみではほぼ完存している。銘文は竿に「庚申」と小さく刻まれているのみであるが、永祿3（1560）年の可能性が高い。				66 B-1
42	千怒塔ノ元宝篋印塔	千怒 鍛冶屋	室町～戦国	区画整理された一角に単独で立てられている。塔身と相輪の一部を欠く。基礎の格狭間は彫り沈めた方形区画内に陽刻している。全体的に風化が著しい。				66 B-1
43	福勝寺墓地五輪塔群	日見 日見	南北朝～戦国	墓地中に五輪塔火輪が散在する。				66 B-3
44	日見集落東部墓地五輪塔	日見 日見	戦国	累代墓化された墓地中に五輪塔水輪がみられる。				66 B-3
45	福良西集落墓地石塔群	網代 福良	戦国	集落墓地中に石塔部材が散在する。				66 B-3
46	福良東集落墓地石塔群	網代 福良	戦国	集落墓地中に五輪塔部材が散在する。				66 B-4
47	赤崎集落墓地石塔群	網代 赤崎	戦国	累代墓化した集落墓地の一角に集められている。				57 H-4
48	幸月寺跡石塔群	網代	南北朝～戦国	裏に面する段々畑の奥のコンクリートの覆屋内に五輪塔部材が組まれている。				66 B-4
49	立法寺裏山石塔群	四浦 鳩浦	鎌倉末～戦国	近世墓地横に石塔部材が重ねられている。この周辺や下の人家の中にも部材が見られる。大型五輪塔の火輪に「ラ」の四方門を裏彫りしているものもある。				66 B-6
50	久保泊石幢と周辺石塔群	四浦 久保泊	戦国	集落内に「お地藏さん」と呼ばれる一角があり、この中心に石幢がある。刻銘が竿にみられる。本来、50mほど上流にあったと伝えられているが、明治頃、土石流によって流され、この場所にとどまったものを祀ったと言われている。周辺にも石塔部材がある。				66 C-6
51	深良津集落墓地石塔群	四浦 深良津	室町～戦国	人家裏の近世墓地中に整理され集められている。				66 C-7
52	深良津先祖墓	四浦 深良津	戦国	集落に面する微高地に集落全体の先祖墓と伝えられている石碑があり、その横に五輪塔や宝篋印塔の部材が積まれている。				66 C-7
53	深良津石塔群	四浦 深良津	戦国	集落内に石祠が3基あり、その横に五輪塔火輪1、五輪塔水輪1が積まれている。10m付近から移動させられたと伝えられている。				66 C-7
54	摺木観音堂石塔群	四浦 摺木	室町～戦国	観音堂横に石塔部材が組まれているが、本来の組合せではない。				66 A-8
55	田ノ浦恵比寿堂石塔群	四浦 田ノ浦	南北朝～戦国	田ノ浦恵比寿堂横に石塔部材が組まれているが、本来の組合せではない。				66 A-8
56	七島大明神五輪塔	四浦 落ノ浦	南北朝	七島大明神の石祠横に組まれている石の中に五輪塔火輪が存在する。				66 B-8
57	本教寺石塔群	四浦 落ノ浦	南北朝～戦国	本教寺の境内に石塔部材がみられる。石幢は竿のみである。				66 B-8
58	本教寺上石塔群	四浦 落ノ浦	南北朝～戦国	本教寺の上の道路横の岩上に石塔部材が積まれている。				66 B-8
59	海徳寺石塔群	保戸島	南北朝～戦国	龍神宮の斜め後ろに石幢をはじめ石塔部材が残されている。本堂裏の墓地中にも五輪塔火輪がみられる。				67 C-1
60	虎御前墓	保戸島 串ヶ脇	中世	覆屋の中に近世の墓碑と石祠とともに五輪塔が2基ある。1基は凝灰岩製、もう1基は地輪は凝灰岩で水輪と火輪は花崗岩製である。いずれも風化が著しく、時期は明確にできない。この場所はかつて海岸に面していたと伝えられている。				67 C-1
61	宗麟公園石塔群	津久見 尾畑	戦国	宗麟公園の一角に五輪塔を中心に宝篋印塔や無縫塔を含む石塔部材が散在する。				65 C-8

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
		2	2																			
																			1			
					1																	
		9																				
			1																			
1	7	1															1					
1	7	1																				
3	2	1															1					
8	16	5	9														1					
16	26	21	12																			
1	1	2															1		1			
6	10	2	1									2					1					
	3						1															
	1	1																				
6	13	8	12									1	1									
15	22	16	15									1					4					
	1																					
						1		1											1			
5	2	2	5				1															
	3												2						1			
2																						
	1																					

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	普門庵五輪塔	弥生 床木	中世	普門庵の小堂裏に径40cmをこえる五輪塔水輪（凝灰岩）がみられる。				65 H-8
2	地藏庵石塔群	上浦 鼠勝海浦 大地ヶ浦	戦国～ 近世初頭	地藏庵の前に石塔部材が散在する。				66 C-5
3	夏井集落墓地五輪塔	上浦 夏井	室町～戦国	集落墓地中に火輪・水輪のみの五輪塔が1基ある。組み合わせは良好である。				66 C-5
4	千眼院五輪塔群	上浦 夏井	南北朝～戦国	鐘撞堂横に五輪塔部材が組まれているが、組み合わせは本来のものではない。火輪のひとつには梵字種子が四方に刻まれている。				66 C-5
5	夏井五輪塔群	上浦 夏井	南北朝～戦国	コンクリートの小堂裏に五輪塔火輪が並べられている。				66 C-5
6	十輪寺五輪塔群	上浦 浅海井浦	南北朝～戦国	十輪寺の本堂前の庭園内や墓地中に五輪塔の部材がある。				66 D-3
7	若宮神社五輪塔群	上浦 浅海井浦 浪太	戦国	若宮神社の石祠内や前に五輪塔部材がある。				66 F-3
8	延命庵五輪塔群	二栄 晁千	戦国	延命庵の前に五輪塔部材が散在する。				66 F-3
9	西島家墓地石塔群	狩生 中間	戦国	旧状をよく止める近世墓地の前に石塔部材が散在する。				66 F-2
10	狩生集落墓地五輪塔群	狩生	戦国	整理された累代墓群のなかに散在する。墓地の崖下の海側にある小堂の横にも五輪塔部材が置かれているが、おそらく上部の墓地から落ちたものを集積したものであろう。				66 G-2
11	万休院石塔群	戸穴 中の内	南北朝～戦国	万休院境内に3個の宝塔塔身が組まれているが、うち2基は首をもつ裏形を呈し、舟形の彫り状に仏像を陽刻が四面にある。長方形の塔身は仏像の陽刻が正面にのみある。				66 H-2
12	中川原集落墓地五輪塔群	狩生 中川原	南北朝～戦国	整理された墓地中に五輪塔空風輪が3点散在する。				66 H-2
13	仲矢邸前五輪塔空風輪	狩生 中川原	戦国	五輪塔空風輪がコンクリートの石の祠の中に置かれているが、他所から持ち込まれたものであろう。				66 H-2
14	指夫集落墓地石塔群	護江 指夫	戦国	岡田家累代墓の周辺に石塔部材が集められている。				66 H-2
15	海光庵墓地五輪塔群	護江 指夫	戦国	海光庵境内墓地に整理されている墓があり、石塔部材が集められている。				66 H-2
16	代後東集落墓地五輪塔	鹿ヶ浦 代後東	戦国	整理された墓地中に五輪塔火輪が1点ある。				66 H-2
17	海福庵墓地石塔群	露ヶ浦 代後西	室町～ 近世初期	墓地に集められている。組み合わせは本来のものではない。石幢は塔身のみである。				66 H-2
18	端祥寺石塔群	本匠 因尾 日平	戦国	境内の改修に伴い、本堂東側に整備され集められている。				72 G-6
19	堂ノ間宝塔	本匠 堂ノ間 堂ノ間	戦国	市指定の宝塔であるが、同地区内より移築されている。		市有形 (宝塔)		72 H-6
20	堂ノ間石幢と周辺石塔群	本匠 堂ノ間 堂ノ間	戦国	市有形の石幢の周囲に五輪塔の部材がみられる。		市有形 (石幢)		72 G-6
21	柿ノ木石幢	弥生 床木	近世初期	完存の石幢が単独でみられる。各部材とも方形に仕上げられており、竿に刻銘がみられる。		市有形 (石幢)		73 A-8
22	河野家石幢	弥生 床木	戦国	高速道路の敷地内に存在していたが、集落墓地とともに現在地に移転させられている。石幢は四面体に竿に銘文が見られる。	元亀4 (1573)	市有形 (石幢)	29	73 A-8
23	一瀬家石塔群	弥生 床木	戦国～ 近世初頭	屋敷の一角に石幢（市有形）と板碑（文明7年）と宝塔（寛永年銘）を置いている。石幢は基礎・竿・幢身は一具のものであろうが、他の部材は別個体のものであろう。竿には銘文がみられる。	文明7(1475) 天正7(1579)	市有形 (石幢)	36	73 B-8
24	井崎板碑群	弥生 井崎	戦国～近世初頭	路傍に狭い平坦地をつくり、4基の板碑を並べている。				73 C-6
25	上小倉層崖石塔群	弥生 上小倉	鎌倉～南北朝	南北に延びる東側に向った層崖面に連続して刻まれた宝塔8基、五輪塔34基からなる石塔群である。石塔群全体を通覧すれば大型のものは宝塔であり、それぞれの宝塔間に小型の五輪塔を埋め込む傾向がうかがえる。石塔はほぼ丸彫りに近く、背面のみが崖面につく。なお、岩肌には銘文を刻み、紀年銘もみられる。	嘉暦元 (1326) 嘉暦4 (1329) 康永4 (1345)	県史跡	5・7	73 D-6
26	平井石塔群	弥生 平井	戦国	墓碑を納めた石祠の前に本来の組み合わせではない宝塔が6基並べられている。宝塔部材は近世の物も混じる。左側の2基分は相輪の代わりに空風輪が載せられているが組み合わせは良好だと思える。左側の宝塔の基礎には刻銘が残る。	天文17 (1548)	市有形 (宝塔)		73 D-6
27	白山石塔群	弥生 山梨子 白山	鎌倉～戦国	川に面した畑中に石塔が集められている。板碑のうち1基に銘がある。板碑・連碑は2条切り込みがしっかりしており、南北朝期のものだが、小型であり、作りも雑である。	元徳2 (1330)	市有形 (板碑)	36	73 E-5
28	浄光庵五輪塔群	弥生 平井 細田	南北朝～戦国	小堂裏の小さな木製覆屋中に五輪塔部材が置かれている。				73 E-6
29	白山神社五輪塔群	本匠 三股 下三股	戦国	鳥居の横に集められる。				73 E-4
30	安説（あぜち）石塔群	本匠 三股 下三股	戦国	公民館敷地内に整備して置かれている。				73 F-4
31	番ノ原石塔群	本匠 小川 番ノ原	戦国	お堂脇に整備して置かれている。		市有形 (宝塔)		73 H-2
32	稲荷神社石塔群	直川 下直見 道越	戦国～ 近世初期	小高い丘に稲荷神社が祀られており、社殿の裏に石塔が並べられている。2基の板碑は同型式であり、いずれも天正12年の紀年銘をもつ。宝塔塔身にも天正7年銘がみられる。	天正12 (1584) 天正7 (1579)	市有形 (宝塔) (板碑)	36	73 H-4
33	天神脇石塔群	弥生 堤内 天神脇	室町～戦国	民家の横に小堂があり、その横に石塔が並べられている。その中には紀年銘をもつ市指定の宝篋印塔がある。	応永27 (1420)	市有形 (宝篋 印塔)		73 G-6
34	堤内石塔群	弥生 堤内	戦国	川の横に近世以降の石碑や地蔵が並べられているところがあり、その中に五輪塔の部材がみられる。				73 H-6
35	洞明寺墓地石塔群	弥生 江良	戦国	聖地の一角に石幢と宝篋印塔があり、向かって左のものは組合せは本来のものであるが、中央の宝篋印塔の塔身は石幢幢身である。右側の石幢は組合せがややしい。				73 G-6
36	八坂寺（薬師庵）石塔群	弥生 江良 久土	戦国	前庭に石塔部材が散在する。組まれているものもあるが、セットは本来のものではない。宝塔の笠にはいずれも退化した垂木がみられる。				73 F-6
37	安養寺跡五輪塔群	上岡 櫻野	鎌倉～南北朝	道路に隣接する近世墓地中に塚状の高まりがある。その端に完存の五輪塔が3基あり、そのほかに五輪塔の部材がみられる。				73 F-7

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身								
			1																			
		1	1	1								1										
1																						
		2	3	1																		
		3																				
4		7	8																			
3			2	1																		
2			3	2																		
4	3	2	4									1										
13	3	2																				
													3									
3																						
1																						
13			2									1										
3			1																			
		1																				
3	1	4															1		1			
1	1											1					1					
											1											
1	3	2																	1			
																			1			
											1						1		1			
																	4					
34											8											
	2										6											
4	1	1	1																			
3			2																			
4	3	6										2										
											1						1					
												1	3	2	1			3				
6	3	2	2	1																		
		1	1																			
											1								2			
	13	6	9	4								2										
3	5		3																			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
38	慈濟院石塔群	上岡 檉野	鎌倉～戦国	境内の両側に石塔が並べられているが、ほとんど本来の組み合わせではない。大型の層塔塔身は仏像を彫刻し、上岡十三重塔と同一工人の作であろう。この層塔の部材と思われる層根蓋がみられる。このほかに五輪塔の部材や宝塔塔身・笠がみられる。				73 F-7
39	八戸石塔群	上岡 八戸	鎌倉～戦国	十三重塔（異有形、鎌倉期）から西にいたる丘陵上に近世墓地在り、この墓地中に単むらや土中に石塔部材が散在しており、その数は明らかでない。				73 E-8
40	上岡十三重塔と周辺石塔群	上岡 八戸	鎌倉～戦国	柳牟礼山から伸びた小丘陵の先端に十三重塔（異有形、鎌倉期）が存在していたと伝えられているが、昭和40年代に小丘陵の先端を削平し、新たに組み立てられたとされる。十三重塔に登る階段下に石塔部材が置かれている。		異有形 (層塔)	5・7	73 E-8
41	天満社石塔群	上岡 門前	戦国	天満社の横に石塔が集積されている。				73 D-8
42	門前石塔群	上岡 門前	戦国～ 近世初期	善好堂とされる角塔婆の前に石塔が集積されている。角塔婆には紀年銘がみられる。	大永6 (1526)		47	73 D-8
43	脇集落墓地石塔群	鶴望 脇	南北朝～戦国	整理された集落墓地に五輪塔の部材が集められている。				73 D-8
44	潮谷寺跡石塔群	稲垣 高畠	戦国	本来は丘陵上にあったが、その多くを丘陵下の民家の庭におろし、一部の上に置いている。				73 E-8
45	上ノ城石塔群	長谷 上ノ城	戦国	丘陵の急斜面に狭い平坦地を造成し、2m四方の配石を施し、上に石塔部材を組んでいる。ここは東九州道の用地となり、現在はその道路横に置かれている。				73 G-8
46	上ノ城五輪塔群	長谷 上ノ城	戦国	運動公園に向かう道路横に石塔の部材が集められている。道路建設に際して移設されたものであろう。				73 H-8
47	岸河内五輪塔群	長谷 岸河内	戦国	圃場整備された水田の一角に近世以降の石塔とともに五輪塔の部材が集められている。				73 H-8
48	岸河内石塔群	長谷 岸河内	南北朝～戦国	近世の石造物が水田地帯に突出した丘陵尾根斜面に建てられており、その横に組み込まれている。おそらく他所から持ち込まれたものであろう。				73 H-8
49	毛利家墓所石塔群	城下東町	近世	毛利氏の菩提寺真興寺の裏の墓所に歴代の藩主の墓塔とされる五輪塔と各藩主の縁者の墓が置かれている。				74 D-2
50	善教寺石塔群	城下東町	室町～戦国	境内に石塔部材が置かれているが、おそらく持ち込まれたものであろう。なかでも宝塔の笠の四方に4字の梵字種子がそれぞれ葉彫りされている。				74 E-2
51	西光庵墓地石幢	堅田 泥谷	戦国	近世墓地中に六地藏塔の籠部のみが残されている。				74 H-1
52	福厳寺墓地石塔群	長良 津志河内	南北朝～ 近世初期	近世墓地中に石塔部材が散在する。中でも、歴代住職墓地中に無縫塔3基があり、内1基に紀年銘がみられる。	天正20 (1592)			74 H-2
53	大河浦集落墓地石塔群	鶴見 吹浦 大河浦	戦国～ 近世初期	集落の谷の斜面に集落墓地を営んでおり、石祠の周辺に石塔部材が集められている。				74 E-5
54	阿弥陀庵石塔群	吹浦 浜	南北朝～ 近世初期	庵は取り壊されているが、庵の階段を上った所になてられている。いずれも組み合わせが異なる。このほかに墓地中に五輪塔部材が集められている箇所がある。				74 F-5
55	地藏庵五輪塔群	吹浦 奥	戦国	地藏庵境内の1カ所に近世・近代の石塔とともに集められている。				74 F-5
56	常光庵石塔群	鶴見 地松浦	南北朝～戦国	本堂前及び裏墓地にみられるが、いずれも組み合わせが異なる。本堂前の大型五輪塔には、梵字種子の四方門が葉彫りされている。			15	74 F-6
57	長尾宝塔	鶴見 地松浦 長尾	戦国	同型式の宝塔が2基並んで建てられているが、各部位の組み合わせが確実かどうかは断定できない。内1基には塔身の四方に金剛界四仏の梵字種子があり、「ウーン」の梵字種子の横に紀年銘がみられる。	永禄10 (1567)			74 F-6
58	奥公民館横墓地五輪塔群	鶴見 沖松浦	南北朝～戦国	奥公民館横に累代墓化された墓地在り、そのなかに五輪塔部材が散在する。				74 G-7
59	北ノ浦集落墓地五輪塔群	鶴見 沖松浦 北ノ浦	鎌倉～戦国	集落墓地中に累代墓化されていない一角があり、そこに残欠が散在している。空風輪には非常に形態がよく、鎌倉後葉～南北朝初頭のものがあり、水輪にも大型で「ハ」の四方門の梵字種子を葉彫りしている鎌倉後葉～南北朝初頭のものがある。				74 F-7
60	吉祥寺石塔群	鶴見 沖松浦 北ノ浦	鎌倉～戦国	吉祥寺境内に転用されて横たわっている。層塔笠（鎌倉末～南北朝）は手水鉢に転用されている。				74 F-7
61	常照庵五輪塔群	鶴見 有明浦 日野浦	南北朝～戦国	本堂前の墓地に空風輪が1点みられるほかは、本堂前に積み重ねられている。うち、五輪塔火輪に垂木を彫出するものがある。			15	74 G-8
62	熊野神社石塔群	鶴見 有明浦 日野浦	南北朝～戦国	熊野神社下の急傾斜地での工事の際に出土したものを神社前に持ち上げたものと伝えられている。				74 G-8
63	熊野神社下五輪塔群	鶴見 有明浦 日野浦	南北朝～戦国	熊野神社下の急傾斜地での工事の際に出土したものを県道梶寄浦佐伯線の路傍に重ねたものである。				74 F-8
64	帆波浦集落墓地宝塔	鶴見 有明浦 帆波浦	近世初期	宝塔が単独でみられる。基礎2段。笠は候補かもしれない。				74 F-8
65	養老庵五輪塔	鶴見 有明浦 帆波浦	南北朝	海岸の石積中に入ったものを養老庵の本尊として祀ったと伝えられている。火輪～地輪を一石に造り、火輪上に桁があるため、空風輪のみ別材であったと考えられる。火輪の軒は薄く、地輪には方形孔がみられる。		市有形 (五輪塔)		74 F-8
66	浦代浦石塔群	米水津 浦代浦	戦国～ 江戸初頭	集落北の突出した尾根上に貯水池があり、その前に石造物が散在している。				74 H-7
67	養福寺石塔群	米水津 浦代浦	戦国～江戸初頭	養福寺船岡山上の墓地中に宝塔・五輪塔の部材が残る。				74 H-7
68	養福寺住職墓地石塔群	米水津 浦代浦	戦国～ 江戸初頭	住職墓地には塔身と基礎のみ残る宝塔の上に別材の無縫塔塔身をのせている。側面裏面に細線陰刻の月輪があり、正面には月輪の両側に細線陰刻による短冊形を配置し、中央と短冊形内に銘文を陰刻している。	寛永元 (1624)			74 H-7
69	千人塚五輪塔群	米水津 浦代浦	戦国	通称「千人塚」は5×10×1.5mの石塚であるが、この上に五輪塔残欠がある。かつてはもつとたくさんあったといわれている。				74 H-7
70	潮月禅寺石塔群	米水津 竹野浦	戦国～江戸初頭	歴代住職墓地に宝塔残欠があり、御手洗家墓地に移された石塔の残りと思われる。本堂前には砂岩製の小型一石五輪塔が2基ある。また、歴代住職墓地の中央にある無縫塔塔身の基礎正面に陰刻銘がみられる。	慶長10 (1605)			74 H-8
71	御手洗家墓地石塔群	米水津 竹野浦	室町～江戸初頭	近世墓とともに潮月禅寺から移されたものと伝えられている宝塔群と石幢からなる墓地である。宝塔は組み合わせが本来のものではないと考えられる。宝塔塔身には紀年銘がみられるものがある。	慶長9 (1604) 寛永3 (1626)			74 H-8
72	御手洗家墓地石塔群	米水津 小浦	南北朝～戦国	現在は、近世墓地の一角に石塔部材を整理して横たわっている。かつてはこの石塔群を御手洗一放で輪番制で祀っていたと言われている。				74 H-8
73	西生庵墓地石塔群	鶴見 中越浦 中越	南北朝～戦国	本堂西側墓地の一角に2基の石塔が並べられており、このほかに本堂東側墓地の累代墓中に石塔部材が点在する。五輪塔火輪の一つには下面に垂木を彫出している。				75 G-1
74	寛林庵一石五輪塔	鶴見 丹賀浦	戦国	累代墓化された墓地在り、そのなかに空風輪を欠く一石五輪塔が1基ある。				75 F-4
75	中路家墓地五輪塔群	鶴見 梶寄浦	戦国	墓地の一角に五輪塔部材が整理されて置かれている。				75 F-5

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇							
	1	1		1																			層塔1
	5	4	4	5																			
	15	14	16	12								1	2	2	1						1		
	2	2																					
	30	15	15	10																			
		2				1	1														1		
	4	1	5																				
	5	3	5	5																			
	1	1	1									1											
													1	1								1	
	1		3																		3		
	3		1									2											
2	9	2	2																	2			
	4	1	5	1																			
	6	3	3																	1			
											2												
	3	2	4	1																			
	3	1	4																				
		2																					層塔1
	2	1	2	1																			
	3																				1		
	1		2																				
											1												
1	1																						
			2										1										
	1		1										1										
														1	1						1		
	5	1																					
												1	1								2		
	1											6	13	10	10								
	2	3	5	2								1			1								
	1	3	3									1											層塔1
																					1		
		1	1																				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
76	田原常敬寺宝塔	宇目 南田原 田原	戦国	常敬寺跡の小堂の西側に集積・整備されている。		市有形 (宝塔)		78 H-8
77	田原区第2集会场 石塔群	宇目 南田原 田原	戦国	田原区第2集会场北側に集積・整備されている。				78 H-8
78	上津小野宝塔群	宇目 小野市 上津小野	戦国～ 江戸初頭	旧道から100m程入った山林中の岩陰にある。	天文16 (1547)	市有形 (宝塔)		79 C-1
79	上津小野石幢	宇目 小野市 上津小野	戦国	幢身に金剛界四仏の種子あり。龕部には地藏尊六体と十王二体を彫っている。		市有形 (石幢)		79 D-1
80	河尻補陀羅院石塔群	宇目 千束 河尻	戦国	祠周辺に石材が寄せ集められている。				79 G-2
81	酒利宝塔	宇目 千束 酒利	近世初期	近世墓地の端に宝塔の部材が重ねられている。組み合わせは良いであろう。				79 F-4
82	崇園寺宝篋印塔	宇目 千束 酒利	南北朝	塔身のみ別材の完存宝篋印塔が境内の一角に置かれている。		市有形 (宝篋 印塔)		79 F-4
83	松河内石塔群	宇目 河内 松河内	南北朝～戦国	谷水田に面する丘陵下端に10m四方の平坦地を造成し、石塔を並べている。市有形に指定されている南北朝期の宝塔2基と五輪塔2基が別々に組まれている。このほかにも石塔部材が組まれていたり散在していたりする。		市有形 (宝塔)		79 E-5
84	河内石幢	宇目 河内 下河内	戦国	丘陵裾の民家横に単独で建てられている完存の石幢である。		市有形 (石幢)		79 E-5
85	神田弓場宝篋印塔	宇目 河内 神田	近世初期	完存の3基の宝篋印塔がそれぞれ方形の配石内に建てられている。地元では宇目型宝篋印塔と呼ばれているが、宝塔と宝篋印塔との折衷様式である。		市有形 (宝篋 印塔)		79 E-5
86	河内笠地藏入口 五輪塔群	宇目 河内 神田	戦国	河内笠地藏入口に五輪塔の火輪が置かれている。				79 E-5
87	庵石塔群	宇目 河内 神田	戦国	石塔の部材が並べて組まれているが、本来の組み合わせではない。				79 E-5
88	見明今立板碑	宇目 塩見園 上爪	近世初期	細い丘陵の先端を3×8m程度の平坦地に造作し、立てられている。周辺には近世以降の石祠や石灯籠が見られる。市有形に指定され、銘文が残る。	元和5 (1619)	市有形 (板碑)	36	79 E-6
89	上爪五輪塔	宇目 塩見園 上爪	戦国	路肩に近世以降の石塔群とともに五輪塔火輪が2点置かれている。				79 E-6
90	見明石塔群	宇目 塩見園 見明	戦国～ 近世初期	見明集落の南東側山腹あり、石材を寄せ集めている。		市有形 (板碑)		79 F-5
91	花木五輪塔	宇目 花木	戦国	丘陵斜面に狭い平坦地を造成し、完存の五輪塔を2基並べている。		市有形 (五輪塔)		79 G-5
92	豊藤宝光庵石塔群	宇目 千束 豊藤	戦国	江戸期の血盆塔1基(市有形)のほかにも戦国期の石塔部材がみられる。				79 G-4
93	地藏堂石塔群	宇目 塩見園 塩見	戦国～近世初頭	集落裏の丘陵端部に地藏堂があり、この周辺に石造物が組まれているが、本来の組み合わせではない。				79 G-5
94	大師庵宝塔	宇目 塩見園 塩見	南北朝	大師庵の前に宝塔2基がある。下から反花を刻んだ基壇、壇上積の基礎4面には二重輪郭内に楕円を彫る。露盤は2区に分ち縦連子を入れている。	貞和5 (1349)	県有形 (宝塔)	29	79 G-5
95	市園吉祥寺跡無縫塔	宇目 市園 市園	戦国	細い丘陵の先端を10m四方平坦にして、単制無縫塔を立てている。上部段型3段の基礎上に単制の塔身がのる。塔身下端には蓮弁を彫刻する。頭頂は平頂である。	元亀2 (1571)	市有形 (無縫塔)		79 H-4
96	長昌寺五輪塔	宇目 重岡 重岡	南北朝～戦国	長昌寺進入路の途中に2基並べている。		市有形 (五輪塔)		79 H-4
97	仲江笠塔婆	宇目 重岡 重岡	戦国	近世以降の石造物とともに並べられているが、笠塔婆の笠から上の部材は失われ、塔身のみである。		市有形 (笠塔婆)		79 H-4
98	泰源庵宝篋印塔	宇目 大平 大原	近世初期	泰源庵の横に他の石造物とともに宝篋印塔がある。				79 H-7
99	西光庵石塔群	直川 仁田原 杭ノ内	南北朝～戦国	西光庵の前に石造物が整理される組まれている。この前にひときわ大きな宝篋印塔があり、これは南北朝末～室町期のものであろう。				79 G-8
100	岸の上五輪塔	直川 仁田原 岸の上	南北朝～戦国	人家の跡地の奥付きに2基の五輪塔が並んで立てられている。1基は火輪～地輪からなり南北朝期のものであろうか。本来の組み合わせであろう。もう1基は戦国期のものであろうか、組み合わせがややしい。				80 E-1
101	阿弥陀堂前石塔群	直川 仁田原 岸の上	戦国	阿弥陀堂前に中近世の石造物があり、その中に集積されている。				80 E-1
102	細川内墓地	直川 仁田原 細川内	近世初期	墓地の入口に近世の墓碑が解体されて積まれている中に古式の板碑型墓碑がある。	寛永20 (1643)			80 E-1
103	神内釈迦堂石幢と 周辺石塔群	直川 赤木 屋形	南北朝～戦国	佐伯方面より番匠川に沿って街道があり、各郷に通ずる交通の要衝である。釈迦堂跡に他の中近世の石造とともに並べられている。県指定石幢1基(紀年銘あり)、市指定石幢1基のほかにも石塔部材が並べられている。	天文18 (1549)	県有形 市有形 (石幢)	29	80 C-3
104	栗林五輪塔	直川 赤木 栗林	戦国	ミカン園の中に五輪塔が1基みられる。				80 C-3
105	栗林正明寺跡 石塔群	直川 赤木 栗林	室町～ 近世初頭	層塔は市有形に指定されている。	応永18 (1411)	市有形 (層塔)		80 C-3
106	市屋敷石塔群	直川 赤木 市屋敷	室町～戦国	市屋敷集会所の東側に、整備された状態である。				80 C-3
107	堂師浄光庵石塔群	直川 赤木 堂師	室町～戦国	浄光庵敷地内東側に、寄せ集められている。宝篋印塔1基に墨書銘が残るが判読できない。		市有形 (宝篋 印塔) (宝塔)		80 D-2
108	野々内石塔群	直川 赤木 野々内	戦国	野々内生活改善センター内東側に、寄せ集められている。				80 D-3
109	功休庵跡石塔群	直川 赤木 野々内	戦国～ 近世初頭	宝篋印塔及び宝塔は市有形として指定されている。苔生して紀年銘等は確認できない。		市有形 (宝篋 印塔) (宝塔)		80 D-3
110	天山源光寺跡 石塔群	直川 赤木 野々内	戦国	野々内集落東側の山中斜面にあり、集積・整備されている。		市有形 (五輪塔)		80 D-3
111	海潮山観音寺跡 石塔群	直川 赤木 中津留	戦国～ 近世初頭	中津留集落西側の緩斜面上にある。寺跡の広範囲に石塔が散在している。		市有形 (宝篋 印塔)		80 F-3
112	吹原石塔群	赤木 吹原 ヒグリ	南北朝～戦国	赤木川に沿って走る道路横の崖下に石造物を並べている。五輪塔と石幢は市有形に指定されている。特に五輪塔は大型で組合せも間違いない良品で南北朝期のものとみられる。水輪部に墨書銘があるが判読不能。このほかにも五輪塔部材もみられる。		市有形 (五輪塔) (石幢)		80 F-3

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
113	吹原地蔵院石塔群	赤木吹原 ヤシキ	南北朝～戦国	吹原集落の地蔵院の小堂横に石塔部材が存在する。市指定の層塔・宝篋印塔を含めて組合せは本来のものではない。石塔部材は宝篋印塔・五輪塔・宝塔・層塔などが確認できる。層塔と宝篋印塔は市有形に指定されている。宝篋印塔の塔身には紀年銘がみられる。	永享11 (1439)	市有形 (宝篋 印塔) (層塔)		80 F-3
114	園石塔群	直川 上直見 園	戦国～ 近世初頭	園生活改善センター敷地内に集積している。				80 C-3
115	西光庵石塔群	長谷 岸河内	南北朝～ 近世初頭	西光庵境内に部材が散在するが、元位置を保っていない。				80 A-8
116	園通庵墓地石塔群	堅田 西野	戦国	園通庵の近世墓地中に五輪塔残欠が重ねられている。				80 A-8
117	大川庵板碑群	堅田 府坂	戦国～ 近世初頭	府坂大川庵の周囲に近世墓地あり。その中に戦国～近世初頭の板碑が6基確認できるが、そのうち3基はコンクリートの覆屋の中にあり、中央には銘文が認められる。	文禄4 (1595)		36	80 B-8
118	府坂墓地石塔群	堅田 府坂	戦国	近世墓地の入口に石塔部材があるが、他所から持ち込まれたものであろう。				80 B-8
119	府坂石塔群	堅田 府坂	戦国	県道沿いに石幢とともに戦国～近世初頭の石塔がみられる。石幢の竿の各面に金剛界四仏の梵字種子を陰刻し、キリークの下には銘文を刻んでいる。	天文17 (1548)			80 B-8
120	棚野石塔群	青山 棚野	戦国	近世の石造物がみられる他に五輪塔部材がある。石幢の竿の各面に円形彫り沈めを設け、それぞれに金剛界四仏の梵字種子を陰刻し、キリークの下には銘文を刻んでいる。	天文18 (1549)			80 C-8
121	市福所石塔群	青山 市福所	鎌倉末～戦国	市福所集落裏の丘陵上に並べられている。15～20m離れた所に2群あるが、元は同一群であったと考えられる。組合せは本来のものではない。石塔群の内、角宝塔塔身に銘文が残るものがある。中でも中央に位置している大型五輪塔で、火輪に「潜龍」の刻銘が残る。	永正13 (1516)			80 C-8
122	市福所2号石塔群	青山 市福所	南北朝～戦国	市福所集落の畑中に並べられている。組合せは本来のものではない。				80 C-8
123	小島家石塔群	青山 市福所	近世初頭	個人住宅の庭先に同型式の板碑が4基並んで立っている。内1基は山型部に細線陰刻の月輪を彫り、碑身中央に細線陰刻の月輪、その両側に細線陰刻の短冊形を刻んでいる。				80 D-8
124	伏木川石塔群	青山 伏木川	南北朝～戦国	農家の一角に石造物を集めているところがある。				80 D-8
125	岡ノ谷石塔群	青山 岡ノ谷	近世初頭	山の斜面に5基の角宝塔と1基の板碑、1基の自然石塔婆がとともに建てられている。碑身に銘文があったものと考えられるが、現在は残されていない。基礎から相輪まで完存の宝塔であるが、同様の宝塔と並べられているため、組合せが一致するとは限らない。	寛永7 (1630)			80 E-8
126	阿弥陀堂石塔群	青山 黒沢	鎌倉末～戦国	阿弥陀堂横20mの位置に石塔が積まれている箇所がある。				80 F-8
127	東光庵石塔群	青山 黒沢	戦国	東光庵の境内に持ち込まれたものであろう。				80 F-8
128	万治石塔群	青山 万治	南北朝～戦国	県道に面して小堂があり、その小堂横に置かれている。また、この小堂と道路を挟み、山付きに石壇を築き、上に五輪塔を並べているが、組合せは一致していない。				80 F-8
129	阿弥陀堂跡石塔群	青山 船形	南北朝～戦国	集落の県道横に石造地蔵があり、その周りに石塔部材が集積されている。中に海部型五輪塔火輪がみられる。				80 F-7
130	地蔵ノ本庚申塔	堅田 西野 地蔵ノ本	戦国	西野区の水田中に中近世の石造物がみられる場所があり、その中の石幢他の石造物とともに存在する。碑身に方形彫りしずめがみられ、この中に細線陰刻の銘文がみられる。	天正4 (1576)	市有形 (庚申塔)	36	81 A-1
131	長楽寺石塔群	堅田 波越	戦国～ 近世初頭	境内の一角に石塔部材が散在しており、宝塔が2基組まれているが、組合せは危うい。宝塔は佐伯特有の角宝塔である。2基の宝塔塔身に紀年銘がみられる。	寛永6 (1629) 寛永17 (1640)			81 A-1
132	東輝庵墓地石塔群	堅田 波越	南北朝～戦国	東輝庵の境内墓地に五輪塔部材が散在、あるいは組まれているが、組合せは危うい。2基の大型五輪塔は南北朝まで遡るものであろう。				81 A-1
133	幸田口石幢	堅田 石打 幸田口	戦国	集落内に石祠群がみられる一角があり、その中にあり。宝珠を失っている。窟部には3面に2区画を造り地蔵を薄く板彫りしている。他の1面にのみ1区画にし、二王を2体板彫りしている。竿部には金剛界四仏の梵字種子を刻んでいる。2面に銘文がみられる。	大永4 (1524)	市有形 (石幢)		81 B-1
134	延命庵板碑	堅田 石打	戦国	延命庵横に近世の石造物とともに立てられている。碑身には地蔵菩薩立像を浮き彫りし、この地蔵菩薩立像の両側・下部に銘文を刻んでいる。	天正2 (1574)		36	81 B-1
135	臨川庵石塔群	青山 谷川	戦国	臨川庵の虎屋の周辺に中世の五輪塔部材が組まれて散在する。				81 E-1
136	延命庵墓地石塔群	青山 山口	戦国～ 近世初頭	近世墓地中に、近世初頭の角宝塔が2基並立してみられる。塔身には各面に細線陰刻の月輪を彫り、正面のみ両側に短冊形を刻んでいる。				81 E-1
137	山口石塔群	青山 山口	戦国	山口区の集落より少し上に大木が2本あり、その根元に戦国～近世の石造物が散乱している。				81 E-1
138	棧敷中区前方集落 墓地石塔群	木立 棧敷中 区前方	戦国	墓地中に石塔部材がみられる。				81 A-4
139	地蔵庵石塔群	木立 棧敷中 区前方	鎌倉末～戦国	地蔵庵の一角に石塔部材が集積されている。				81 A-4
140	棧敷中区前方集落 墓地石塔群	木立 棧敷中 区前方	戦国	五輪塔2基が墓地入口に立てられている。組合せは危うい。1基は空風輪を欠く。				81 A-4
141	成迫家墓地	木立	戦国	成迫家墓地に五輪塔火輪が1点置かれている。他所から持ち込まれたものであろう。				81 C-5
142	田鶴音石殿	米水津 浦代浦	近世初期	田鶴音農村公園に近世墓が集積されている場所がみられるが、ここに香川県で流行する豊島石製の「ラントウ」の屋根が1基置かれている				81 A-7
143	奥村家裏墓地石塔群	米水津 色利浦	戦国	近世墓地入口に石造地蔵が2体建っているが、その横に五輪塔部材が集められている。				81 C-8
144	迎接庵墓地石塔群	米水津 宮野浦	戦国～ 江戸初頭	迎接庵に付属する墓地に石塔が整理されて存在する。一石五輪塔は御影石製である。				81 C-8
145	東林庵墓地石塔群	米水津 小浦	戦国	境内墓地に石塔が散在している。五輪塔空風輪・水輪に御影石製のものがみえる。				81 A-8
146	富高家墓地 五輪塔群	蒲江 畑野浦	戦国	富高家墓地の前に組み合わされて建てられている。				81 F-5
147	黒木家石殿	蒲江 畑野浦 寺の下	近世初期	福泉寺墓地中に単独でみられる。香川県で流行する豊島石製の「ラントウ」である。奥壁に五輪塔の浮き彫り、両側壁外側に蓮華文の浮き彫りがそれぞれみられる。床石と屋根に観音開きの扉の枠があり、屋根裏には隈垂木・地垂木・飛檐垂木を彫出している。扉の残欠が周囲にみられる。		市有形 (石殿)	14	81 G-5
148	清水庵五輪塔群	蒲江 畑野浦 福網代	戦国～ 近世初頭	清水庵上の崖に石塔群が組まれている。		市有形 (五輪塔)	14	81 F-6
149	楠本浦五輪塔	蒲江 楠本浦	戦国	国道388号線横に小さな祠があり、その横に御影石製の五輪塔火輪のみがある。				81 H-6

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇								
	7	3	4				6	1	1				1	3										層塔1
	4	6	4																					
	7	1	1					1											4					
	2	2	3	1																				
																		6						
	1		1																					
	2										1													
		1	2																					
	107	58	75	70			8	1	1				3	4	8									
	1	5	5	5															4					
	2		2																					
											5							1						自然石塔婆1
	21	5	16	1							1							1						
	2																							
	3	4	7	3																				
	8	6	5	5								3												
																		1						
	2	5	3									3	2	3	2									
	6	6	4	2																				
																						1		
																		1						
	8	22	15																					
	1										2		1											
	4	1											1											
	3		1																					
	29		11																					
	2																							
		1																						
																								1
	1		2																					
		1	3								1								1					
	2	1	5	2									1											
	3	4	2	1																				
																								1
	13	6	3									2	6					7	2					
		1																						

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
150	楠本浦五輪塔	蒲江 楠本浦	南北朝～戦国	鳥居のある小室内に五輪塔2基が祀られている。昭和以降、他所から持ち込まれたと伝えられている。				81 H-5
151	薬師堂石塔群	蒲江 楠本浦	戦国	薬師堂近くの畑の端に山石が集められている箇所があり、その中に苔生した五輪塔部材が含まれている。				81 H-4
152	重岡キリシタン墓	宇目 重岡	近世初期	凝灰岩の平型の伏墓である。この墓碑は地中深く埋まっていたものが発見されたものである。もともと地上にあったものが、幕府のキリシタン禁教令布告後、弾圧が強化され迫害が激しくなったので、地中に埋められたものであろう。	元和5 (1619)	県有形 (キリシタン墓)	29	86 A-4
153	宇目型宝篋印塔	宇目 重岡	近世初期	近世墓地中に存在する。宝篋印塔とされているが、宝塔との折衷型式である。		市有形 (宝篋印塔)		86 A-4
154	田野石塔群	宇目 田野	近世初期	同規模同型式の完存の角宝塔が2基並べられている。				86 A-3
155	田野磨崖仏石塔群	宇目 田野	近世初頭	田野磨崖物の周辺に石塔部材がみられる。				86 A-3
156	富尾神社宮司墓地	蒲江 丸市尾	戦国～江戸初期	富尾神社横に石祠を主体とした墓地があり、その後ろに石塔残欠を組み合わせたものがある。				87 E-8
157	浦ノ迫石塔群	蒲江 丸市尾 浦ノ迫	南北朝～戦国	丘陵緩斜面の平坦地にコンクリートの覆い屋を造り、その中に集積されている。垂木をもつ五輪塔火輪4点がみられる。大きさからみて2基1対のものが2組あったと考えられよう。		市有形 (石塔群)	14	87 E-8
158	葛原宝篋印塔	蒲江 葛原	南北朝期	相輪欠失。塔身に墨書名が残るが、判読不能。笠・塔身・基礎の組合せの上下に別材の笠と基礎が置かれている。2基分の宝篋印塔の組合せであろう。別材の笠は時期不詳。		市有形 (宝篋印塔)	14	87 C-8
159	西光庵石塔群	蒲江 森崎浦	南北朝～戦国	西光庵の境内及び墓地に部材が散在する。				88 C-1
160	與楽庵石塔群	蒲江 野々河内	戦国～江戸初期	與楽庵の本堂前および墓地中に石塔部材がみられる。				88 C-2
161	與楽庵参道石塔群	蒲江 野々河内	戦国～江戸初期	與楽庵の参道横に近世の地藏座像があり、その周辺に戦国期の五輪塔残欠がある。				88 C-2
162	西川家宝篋印塔	蒲江 猪串浦	江戸初期	西川家の墓地内にある。塔身の中央に月輪が細線陰刻され、正面のみ月輪の両側に短冊形を細線陰刻している。銘文等は確認できないが、墨書があったかもしれない。				88 D-2
163	香積庵石塔群	蒲江 猪串浦	戦国	香積庵の横に近世の石造物が集められており、その中に五輪塔空風輪と五輪塔水輪がみられる。				88 D-3
164	宝光庵石塔群	蒲江 蒲江浦	戦国	墓地横の林中に石塔残欠がみられる。近世墓地の整備に伴い、整理されてしまったのであろう。一角には整然と並べられているところもあるが、上から他の石材を置いているため詳細は分からない。五輪塔の部材が20基以上分あるものと思える。このほかに宝塔の笠が2～3点みられる。			44	88 C-4
165	山後石塔群	蒲江 蒲江浦 山後	戦国	道路横のコンクリートの上に集められている。かつてはこの場所に段々畑が続いていたが、数十年前に道路を通した際に移されたということである。				88 D-4
166	長光寺墓地	蒲江 蒲江浦	鎌倉～江戸初期	長光寺墓地の山本家墓地に石塔残欠が集められている。また、薬師寺家墓地の石垣に「ラントウ」がはめ込まれている。奥壁に五輪塔の浮き彫りがみられ、床石と屋根に観音開きの扉の枘穴がある。				88 D-4
167	長瀬家五輪塔群	蒲江 竹野浦河内 瀬	南北朝～戦国	五輪塔残欠が山の急斜面に平坦地を造成し、4基に組まれている。中でも特に大型の五輪塔(水・地輪)は南北朝期までさかのぼるものであろう。			14	88 A-6
168	楠本浦石殿	蒲江 楠本浦	江戸初頭	集落墓地中に2基の「ラントウ」が並んで立っている。奥壁に2基の板碑形の浮き彫りがみられる。床石と屋根に観音開きの扉の枘穴があり、屋根裏には隅垂木・地垂木を彫出している。側面外側に蓮を浮き彫りしている。				88 A-5
169	向原寺五輪塔	蒲江 竹野浦河内	南北朝～戦国	境内の西に中近世の石造物が集積されており、その中にある。				88 C-7
170	西野浦集落No.2墓地	蒲江 西野浦	戦国～江戸初期	讃岐で「ラントウ」と呼ばれる石殿がある墓地であり、ほとんどが累代墓化されており、五輪塔部材が散在する程度である。「ラントウ」は奥壁に五輪塔の浮き彫りがあつたものと考えられるが、風化が著しく不明。				88 B-8
171	西野浦集落No.1墓地五輪塔群	蒲江 西野浦	戦国	墓地中に五輪塔残欠が散在する。				88 B-8
172	長江寺墓地石塔群	蒲江 西野浦	戦国	長江寺と道を挟んだところにある墓地中に五輪塔残欠が散在する。				88 B-8
173	長江寺跡墓地石塔群	蒲江 西野浦	戦国	本堂が廃絶した長江寺の横にある墓地中に五輪塔残欠が散在する。				88 A-8
174	寺跡石塔群	蒲江 波当津浦	戦国	寺跡の周辺に墓地あり、その前に戦国期の石造物が散在する。周辺に建てられていたものが、墓地の端に追いやられたものであろう。				89 A-8
175	明正神社五輪塔群	蒲江 波当津浦	南北朝～戦国	明正神社参道入り口の露岩の下に五輪塔群がみられる。				89 A-8
176	王子神社五輪塔	蒲江 波当津浦	戦国	王子神社右奥の石祠群の中に五輪塔水輪が1基置かれている。他所から持ち込まれたものであろう。				89 A-8

塔形及び個体数																								
五輪塔				宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇								
	2	1																						
	1	1																						
																								キリシタン墓1
					2																			
											2													
			1									1												
	2	2										1												
	10	17	5	5									1											
					2																			
	9	4	3																1					
	8	7	9	2	3							1	1	1										
	2	3	2																					
					1																			
	1		1																					
		4	1																					
	5	2	3	1									1											1
		4	4	3																				
																								2
		1	1																					
	2	1																						
	6	6	1																					
	1	1																	1					
	20	9	10	4																				
		2	1									1												
	11	8	1	2																				
			1																					

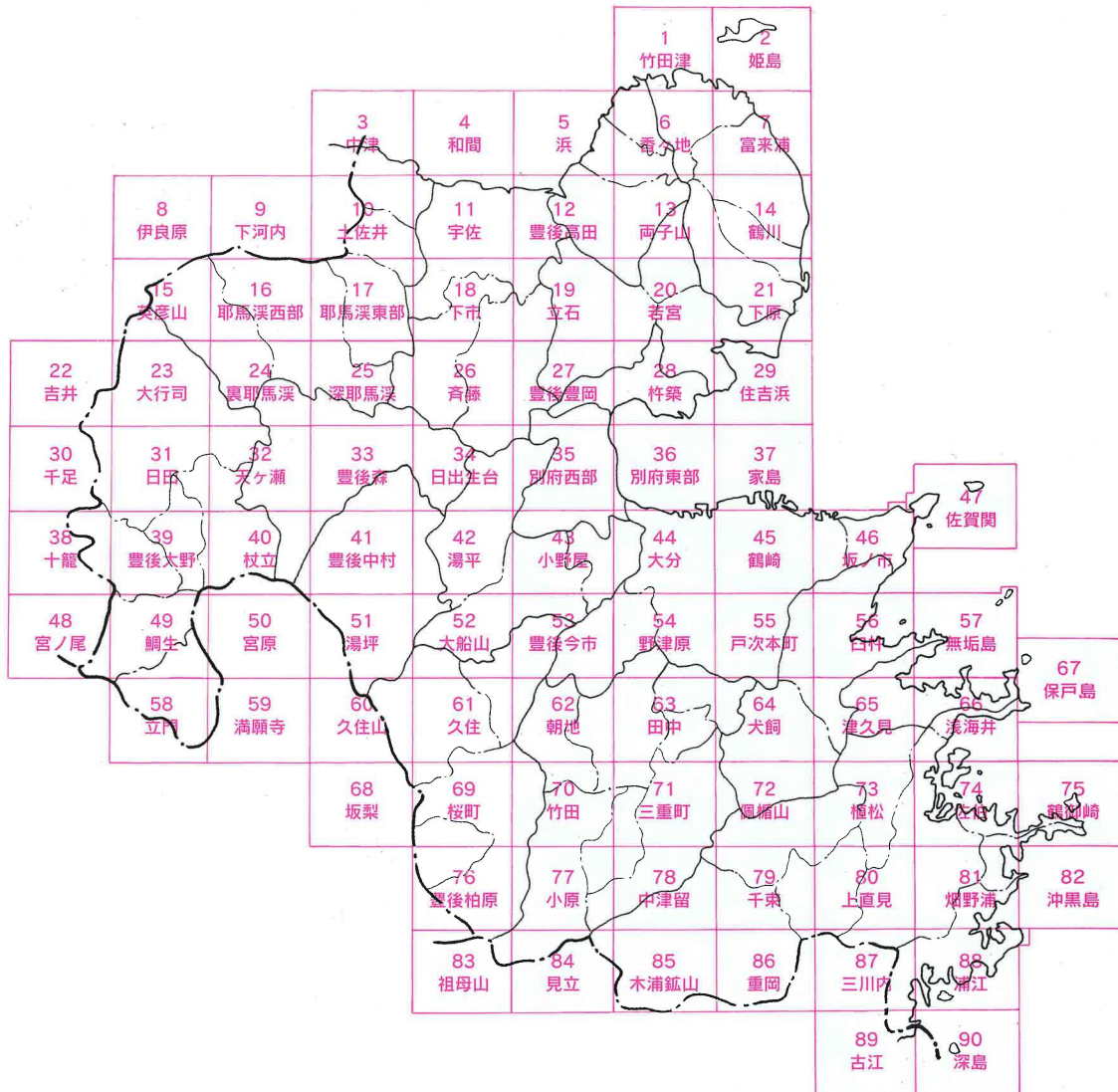
参考文献

- 1 緒方町『緒方町誌』1958
- 2 松本達郎・野田光雄・宮久三千年『日本地方地質誌 九州地方』朝倉書店 1962
- 3 朝地町史刊行会『朝地町史』1968
- 4 千歳村『千歳村誌』1974
- 5 望月友善『大分の石造美術』木耳社 1975
- 6 弥生町文化財保護保存会『弥生町の文化財』1977
- 7 小田富士雄『九州考古学研究 歴史時代篇』学生社 1977
- 8 犬飼町『犬飼町誌』1978
- 9 清川村『清川村誌』1979
- 10 大分県大野町史刊行会『大分県大野町史』1980
- 11 野津原町『郷土史野津原』1980
- 12 野津町教育委員会『重要文化財 五輪塔保存修理工事報告書』1981
- 13 山香町誌刊行会『山香町誌』1982
- 14 蒲江町教育委員会『蒲江町の文化財』1982
- 15 鶴見町教育委員会『鶴見町の文化財』1984
- 16 野津町教育委員会『野津町の文化財』1985
- 17 津久見市誌編さん室『津久見市誌』1985
- 18 三重町『三重町誌』1987
- 19 佐伯市教育委員会『佐伯氏一族の興亡』1989
- 20 佐伯市教育委員会『佐伯市の文化財』1990
- 21 上浦町教育委員会『上浦町の文化財』1990
- 22 大分県教育委員会『大分県の文化財』1991
- 23 白杵市史編さん室『白杵市史』1992
- 24 野津町誌編さん室『野津町誌』1993
- 25 津久見市教育委員会『津久見市の文化財』1993
- 26 芳山泰生・内藤克己・村上久和・江藤真一「大野郡野津町八里合名塚宝塔の調査」『二豊の石造美術』第15号 大分石造美術研究会 1994
- 27 米水津村教育委員会『米水津村の文化財』1995
- 28 渡部幹雄・高野弘之・原田昭一「旧豊後国における「やぐら」の新例－大分県大野郡緒方町大字辻、普濟寺跡「やぐら」について－」『古文化談叢』第35号 九州古文化研究会 1995
- 29 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館『石造文化財の保存対策のための概要調査』1996
- 30 弥生町誌編さん委員会『弥生町誌』1996
- 31 緒方町教育委員会『緒方町の文化財』1998
- 32 朝地町教育委員会『朝地町の文化財』（リーフレット）1998
- 33 大分県教育委員会『千塚西遺跡』2000
- 34 緒方町『地図でたどるおがたの歴史』2001
- 35 緒方町『緒方町誌』（総論編・区誌編）2001
- 36 原田昭一「板碑集成（その1、豊後南部）- 豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について -」『古文化談叢』第48号 九州古文化研究会 2002
- 37 別府市『別府市誌』2003
- 38 原田昭一「板碑集成（その2、豊前）- 豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について -」『古文化談叢』第49号 九州古文化研究会 2003
- 39 原田昭一「板碑集成（その3、豊後北部 附、補遺）- 豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について -」『古文化談叢』第50号 九州古文化研究会 2003
- 40 原田昭一「板碑変遷史- 豊前・豊後における紀年銘板碑を通して -」『古文化談叢』第51号 九州古文化研究会 2004
- 41 山香町教育委員会『山香町の文化財』2005
- 42 杵築市『杵築市誌本編』2005
- 43 杵築市『杵築市誌資料編』2005
- 44 蒲江町誌編さん委員会『蒲江町誌』2005
- 45 原田昭一「中世における石造物流通の様相－「玄正（玄聖）」銘宝篋印塔の流通を通して－」『日引』第7号 石造物研究会 2005
- 46 原田昭一「豊後府内から出土した無縫塔の新例－中世大友府内跡跡9次調査区出土の無縫塔中台の検討－」『考古学に学ぶ（Ⅲ）』同志社大学考古学シリーズⅨ 同志社大学考古学シリーズ刊行会 2007
- 47 原田昭一「角塔婆変遷史－豊前・豊後における紀年銘資料を通して－」『石造文化研究』第27号 おおいた石造文化研究会 2009
- 48 神田 高士「白杵城出土の角柱状石塔」『石造文化研究』第27号 おおいた石造文化研究会 2009
- 49 黒川信義・原田昭一「海を渡った石造物 - 愛媛県西予市神谷神社所在宝塔の紹介を通して -」『石造文化研究』第28号 おおいた石造文化研究会 2010
- 50 杵築市『山香町誌続編』2011
- 51 原田昭一「大分から来た石造物」市村高男・黒川信義・高嶋賢二編『石造物が語る中世の佐田岬半島』岩田書院 2011
- 52 原田昭一・江藤和幸「豊前・豊後における搬入された中世の花崗岩製石塔」『御影石製中世石造物の分布調査とその学際的研究－中四国・九州を中心に－』2008～2010年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書 2011
- 53 大分県埋蔵文化財センター『雄方後遺跡』2012
- 54 原田昭一「九州〈宝篋印塔〉」狭川真一・松井一明編『中世石塔の考古学』高志書院 2012

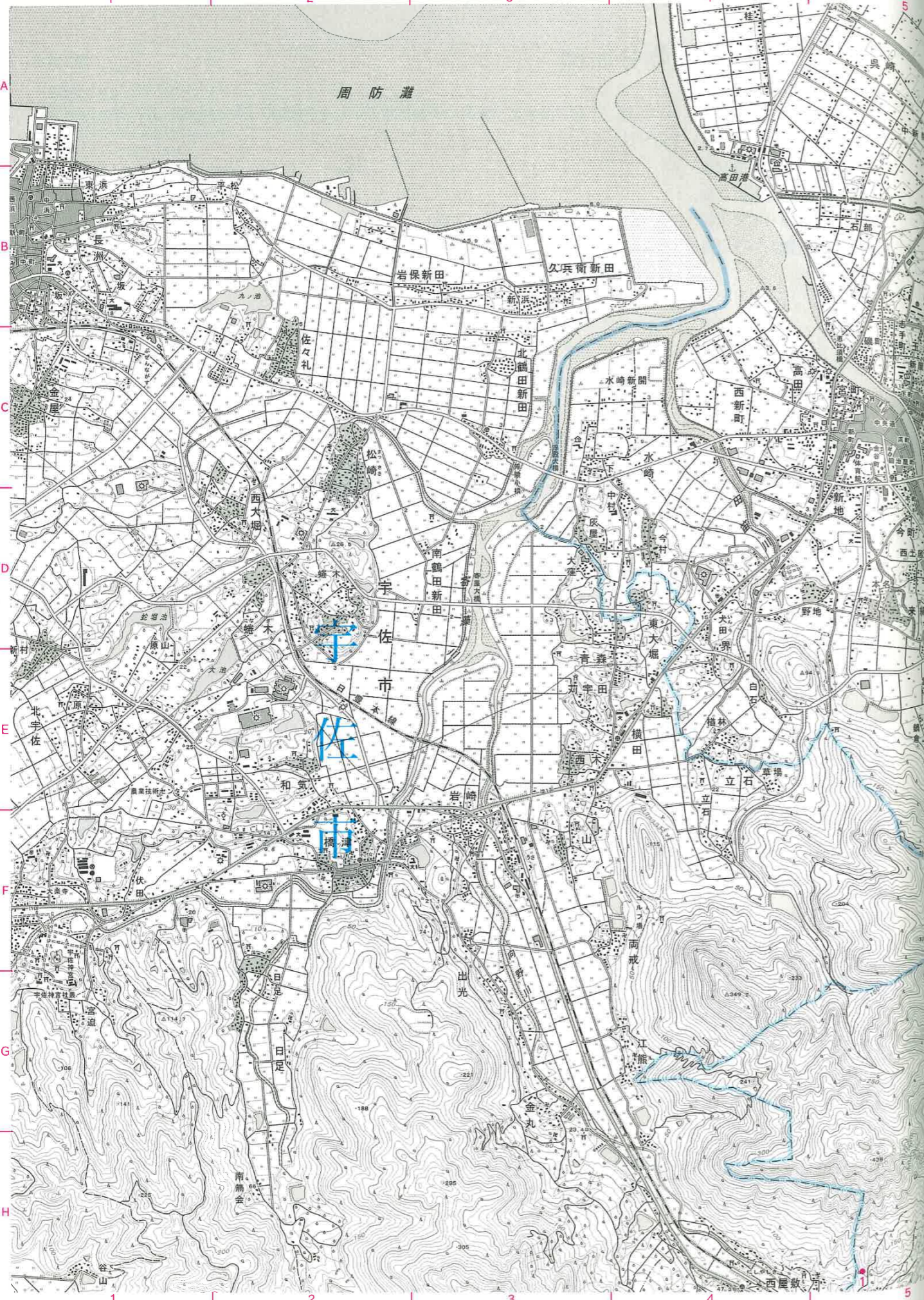
中世石造遺物分布図

1.石造物の位置については、下記の記号及び実線による範囲で示した。なお、赤の記号を一般、青色の記号を指定物件として色分けした。

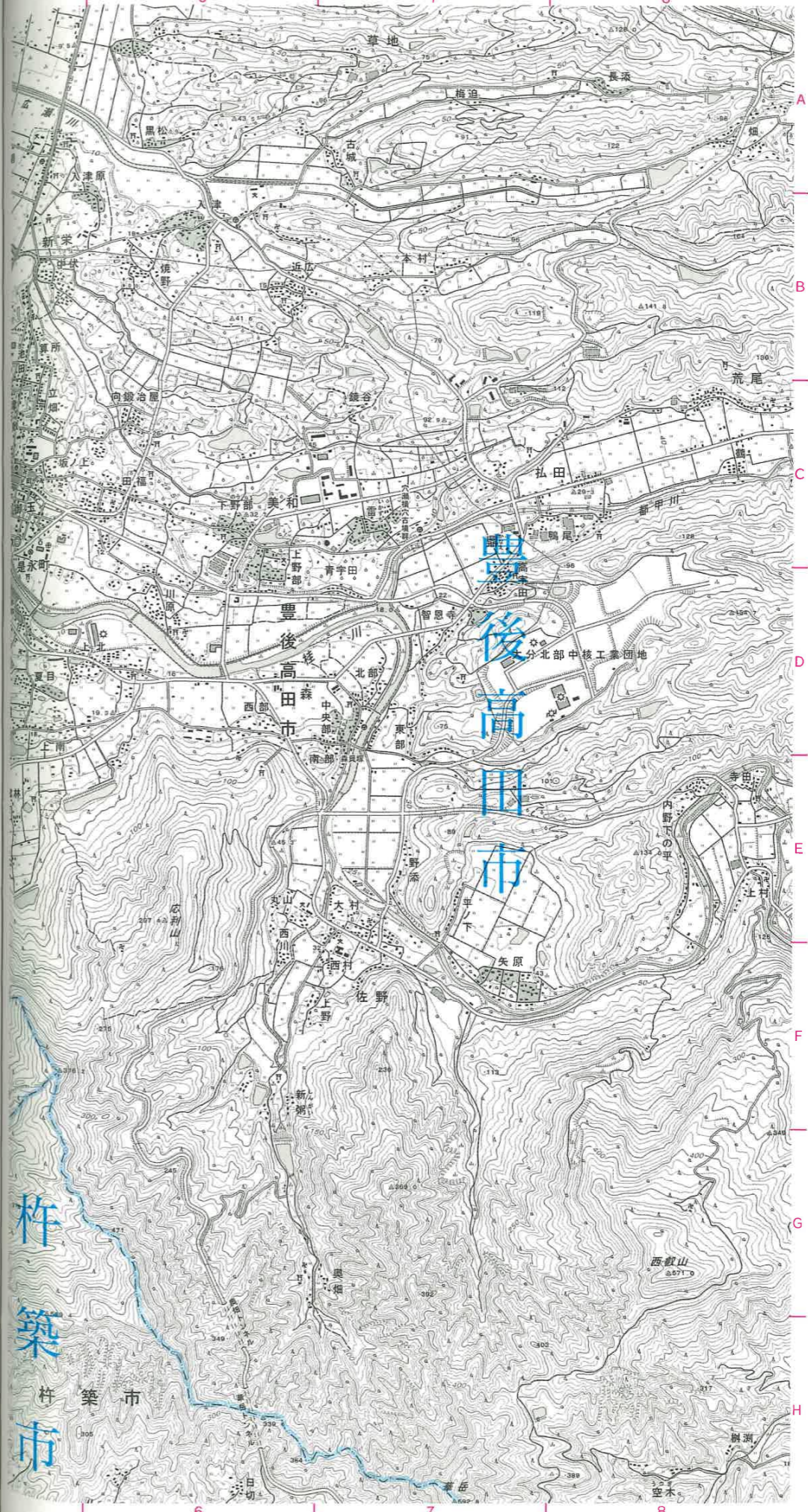
- 石塔所在地
- 石塔旧在地
- 石塔指定物件（有形文化財）をふくむ石塔所在地
- 石塔指定物件（史跡）をふくむ石塔所在地



分布地図配置図



11 宇佐

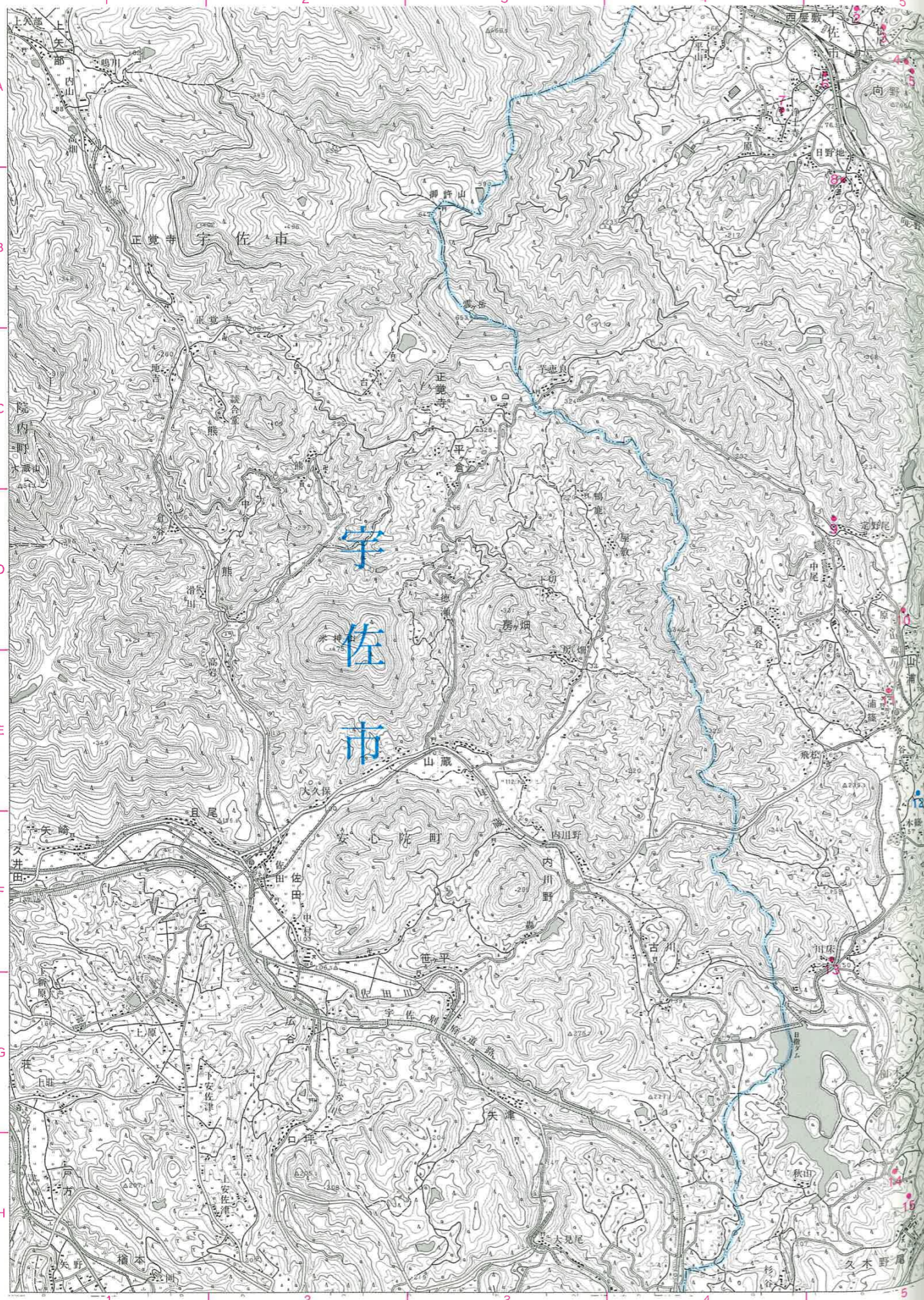


13 両子山

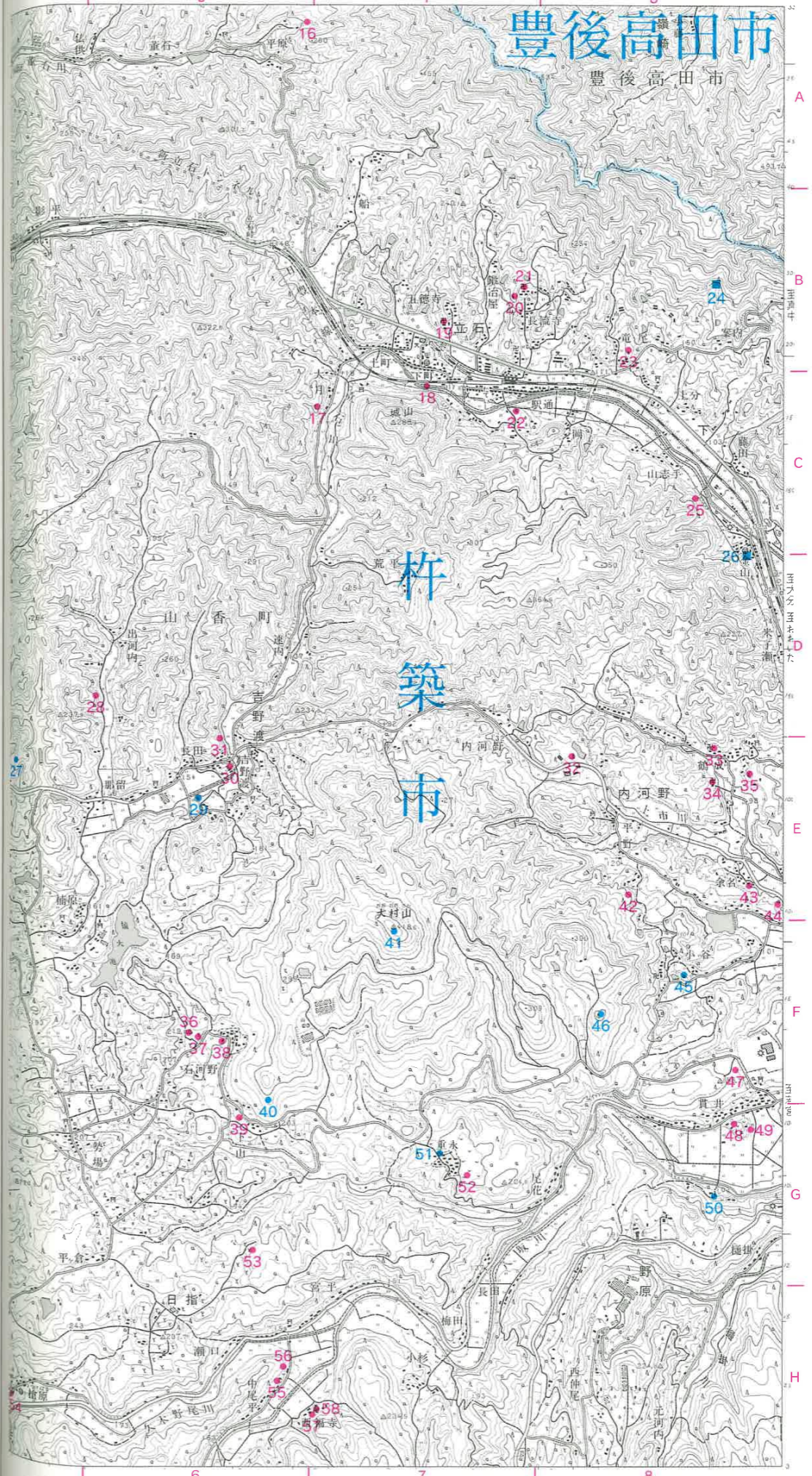
杵築市

4 和間	5 浜	6 南大津
11 宇佐	12 豊後高田	13 両子山
18 下市	19 立石	20 美宮





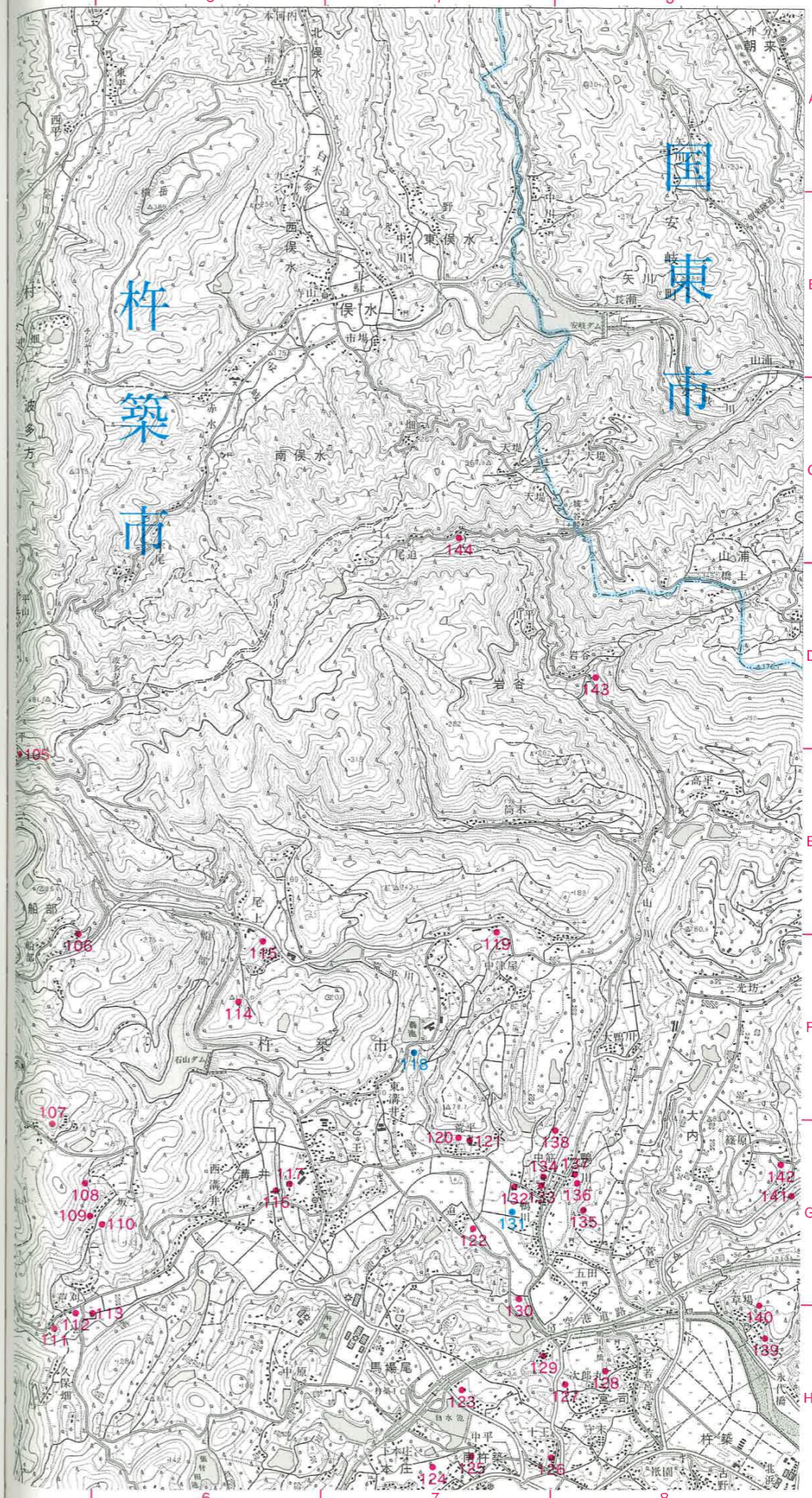
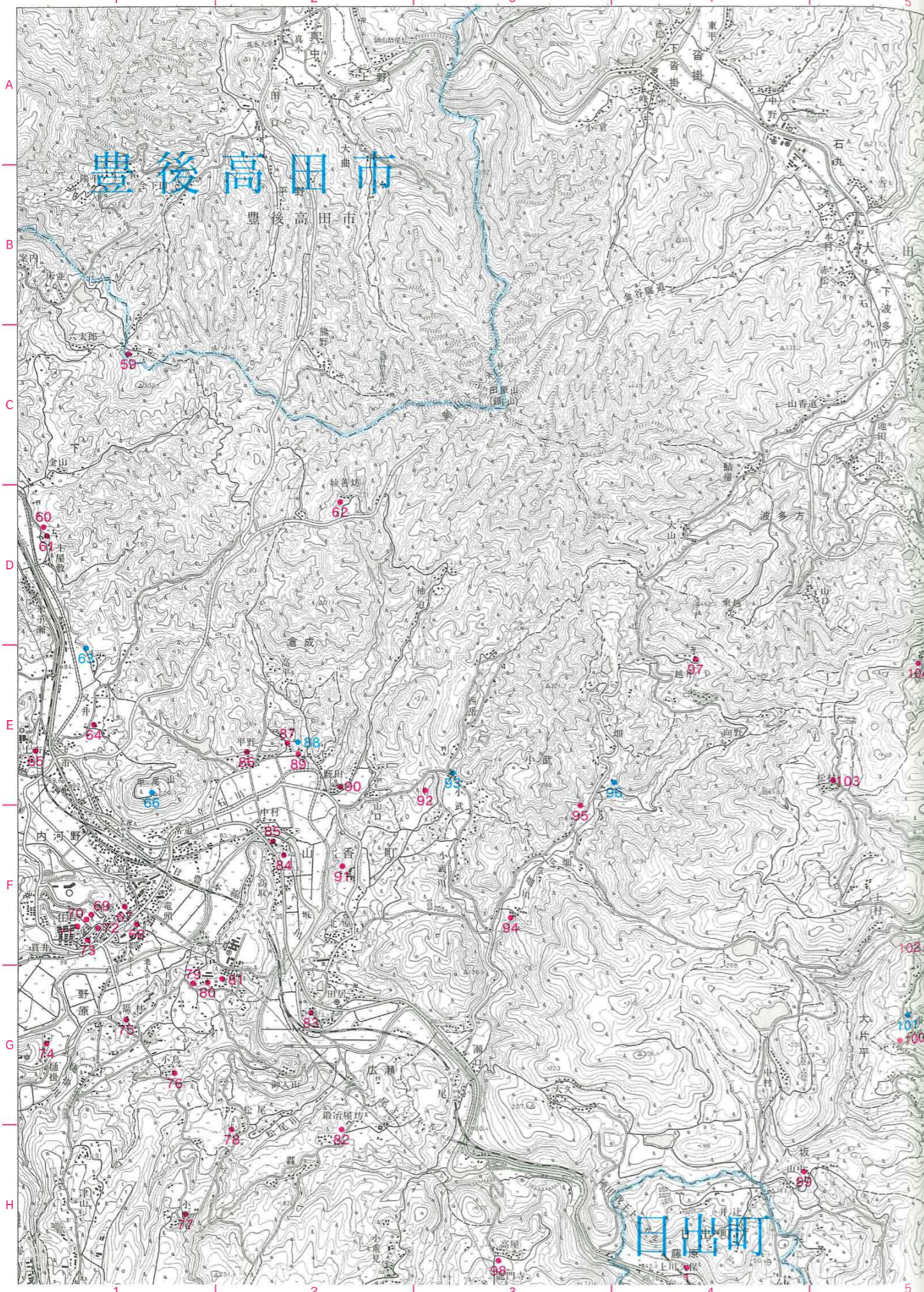
18 下市



20 若宮

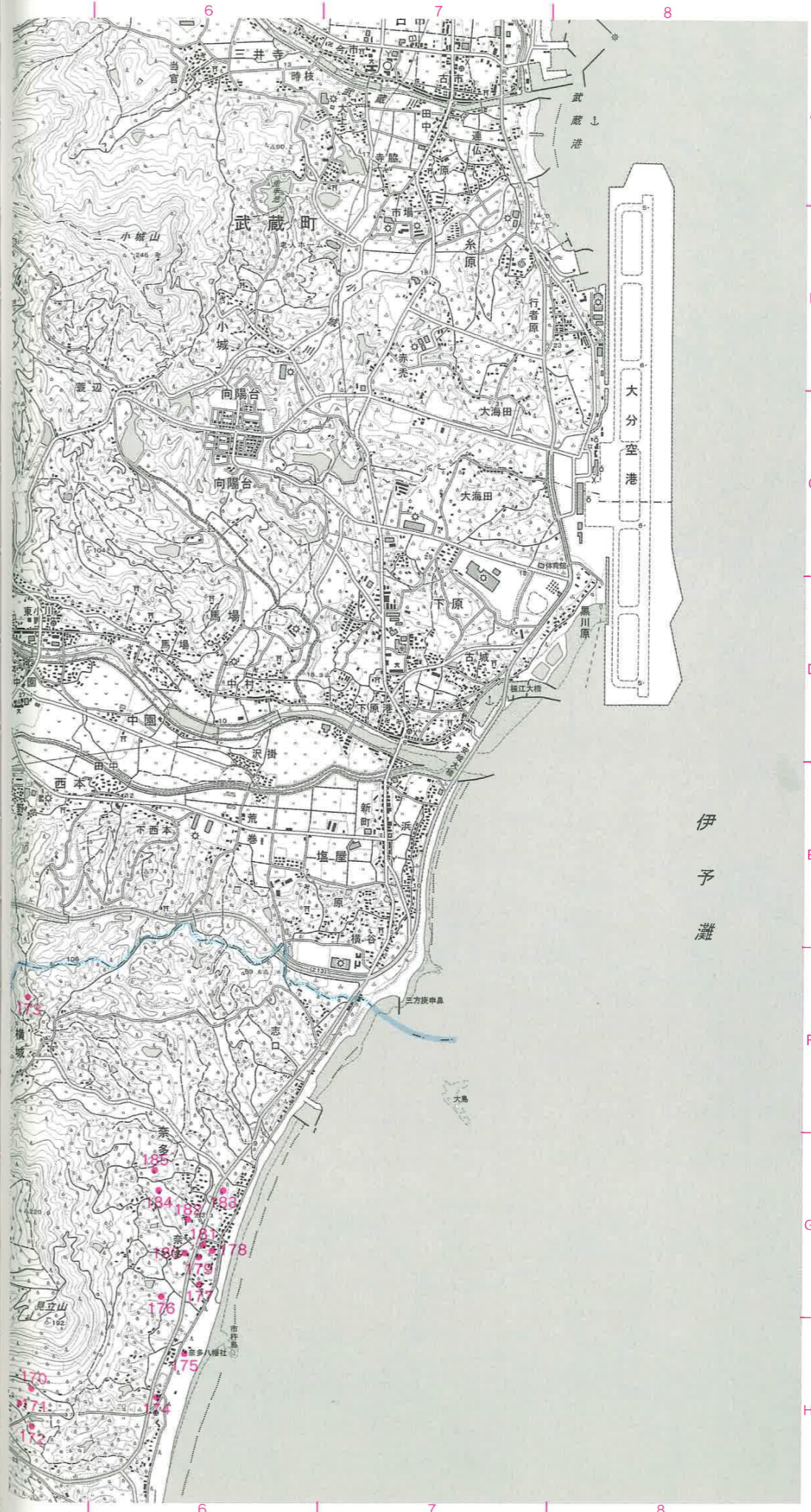
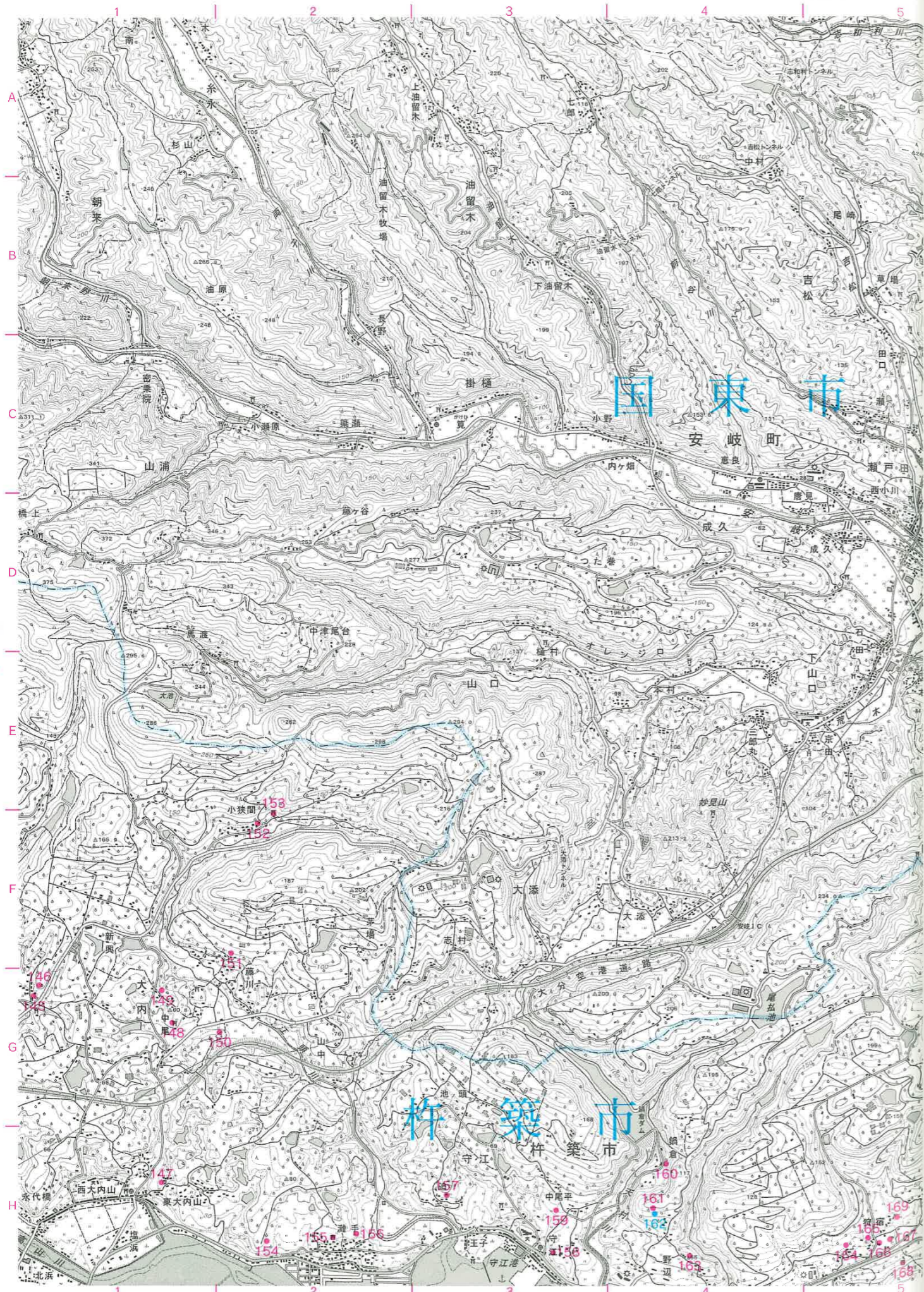
11 宇佐	12 豊後高田	13 西子山
18 下市	19 立石	20 若宮
26 高橋	27 豊後豊岡	28 杵築





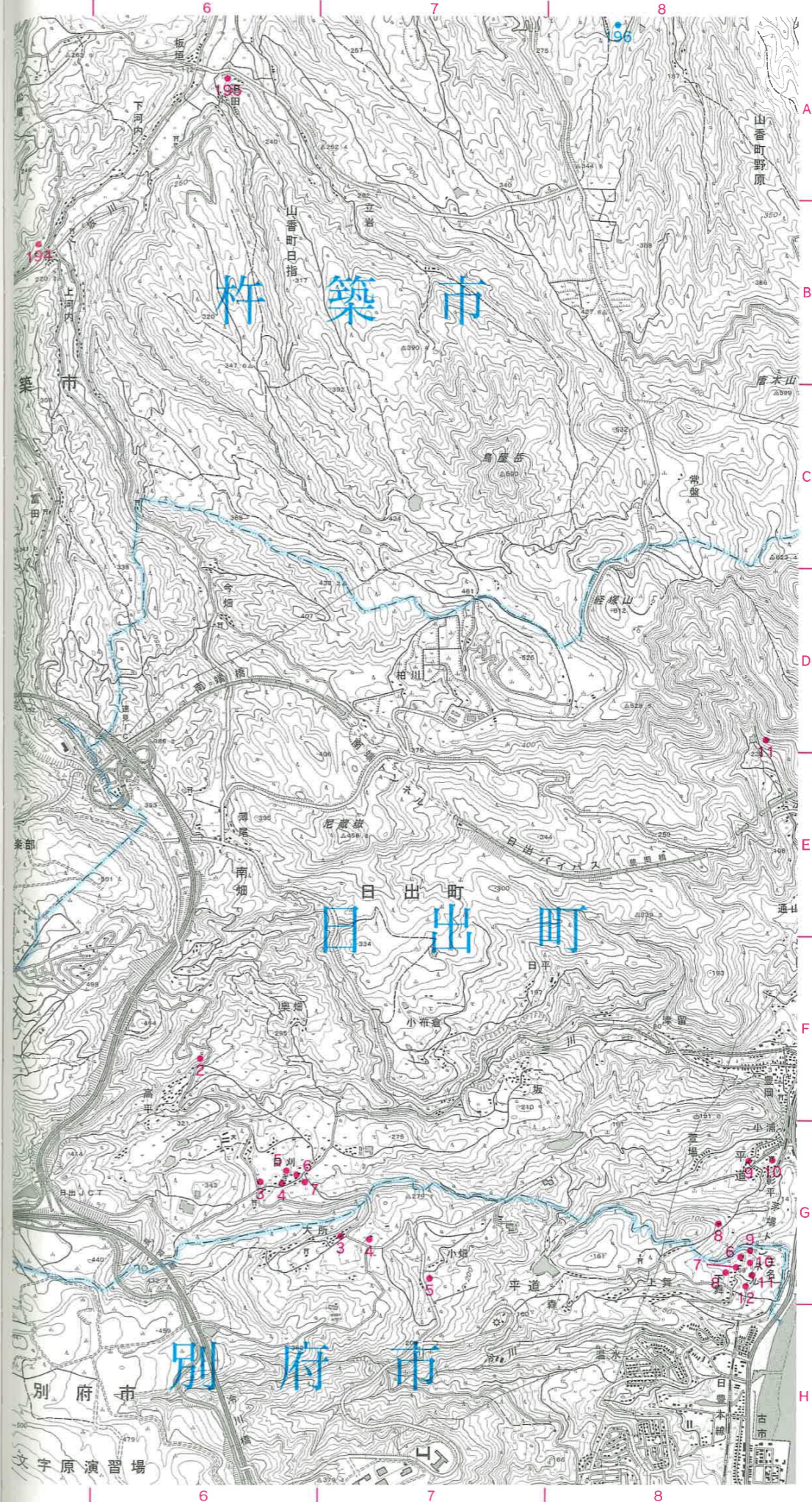
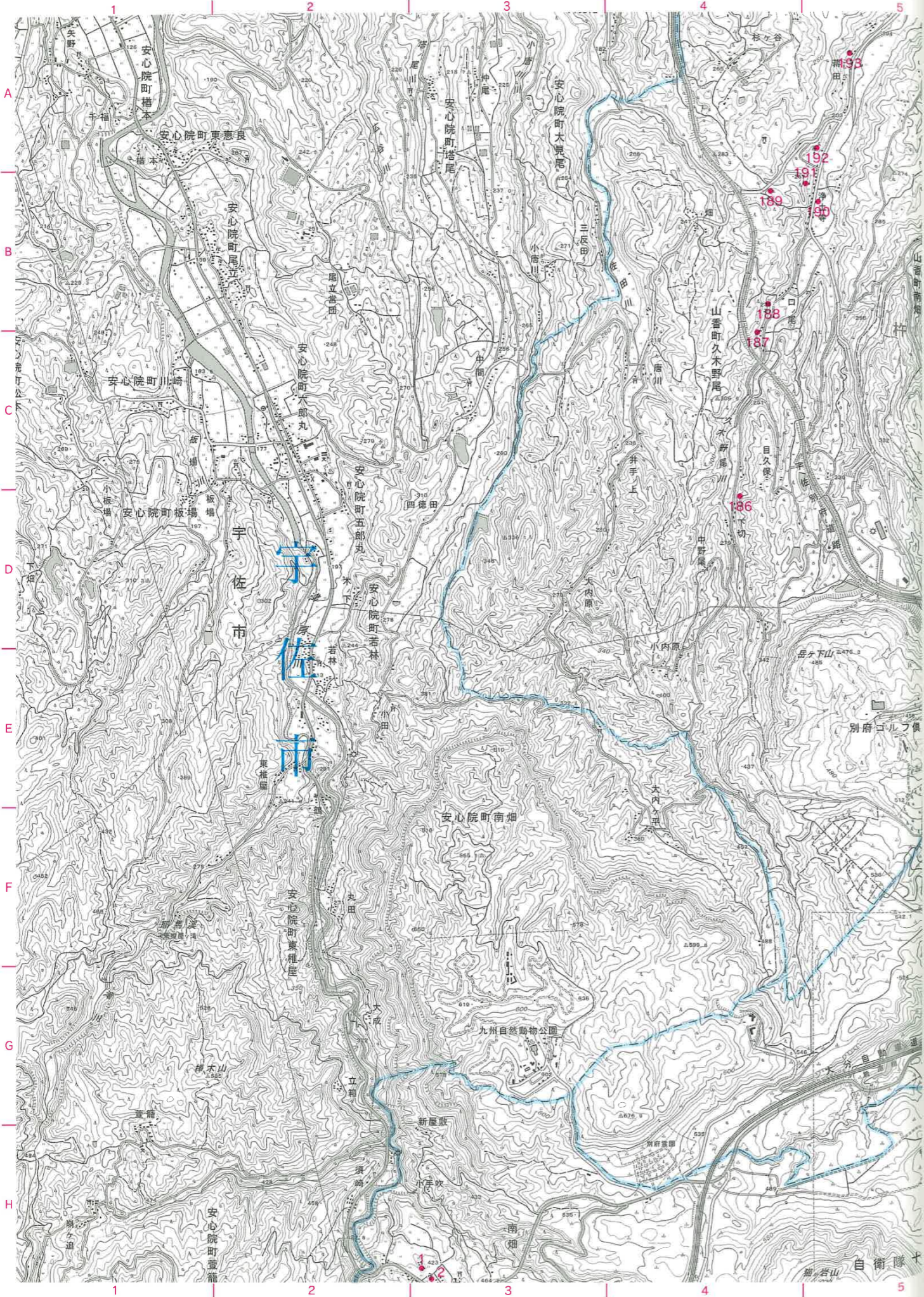
12 豊後高田	13 両子山	14 鶴川
19 立石	20 若宮	21 下原
27 豊後高田	28 杵築	29 住吉浜





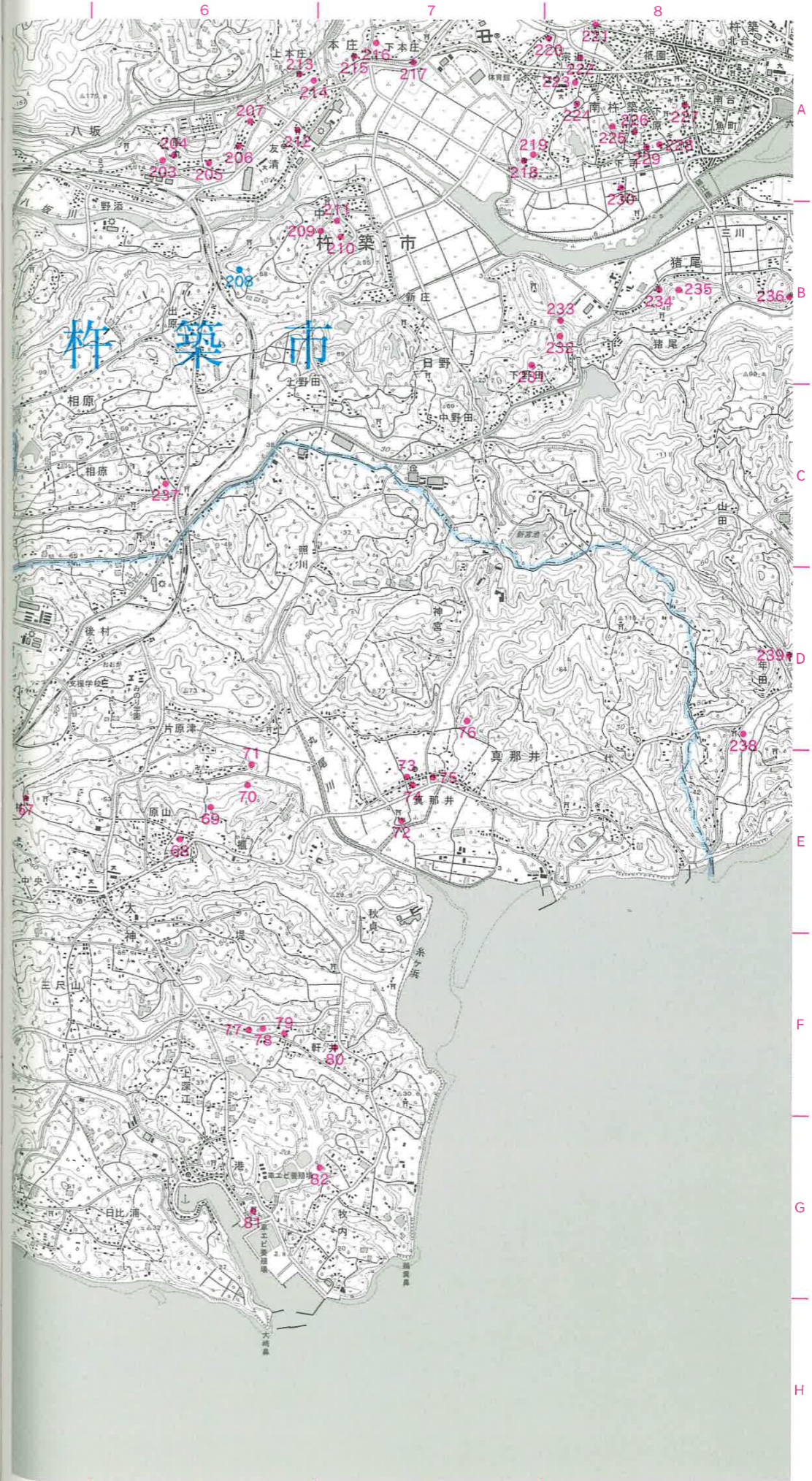
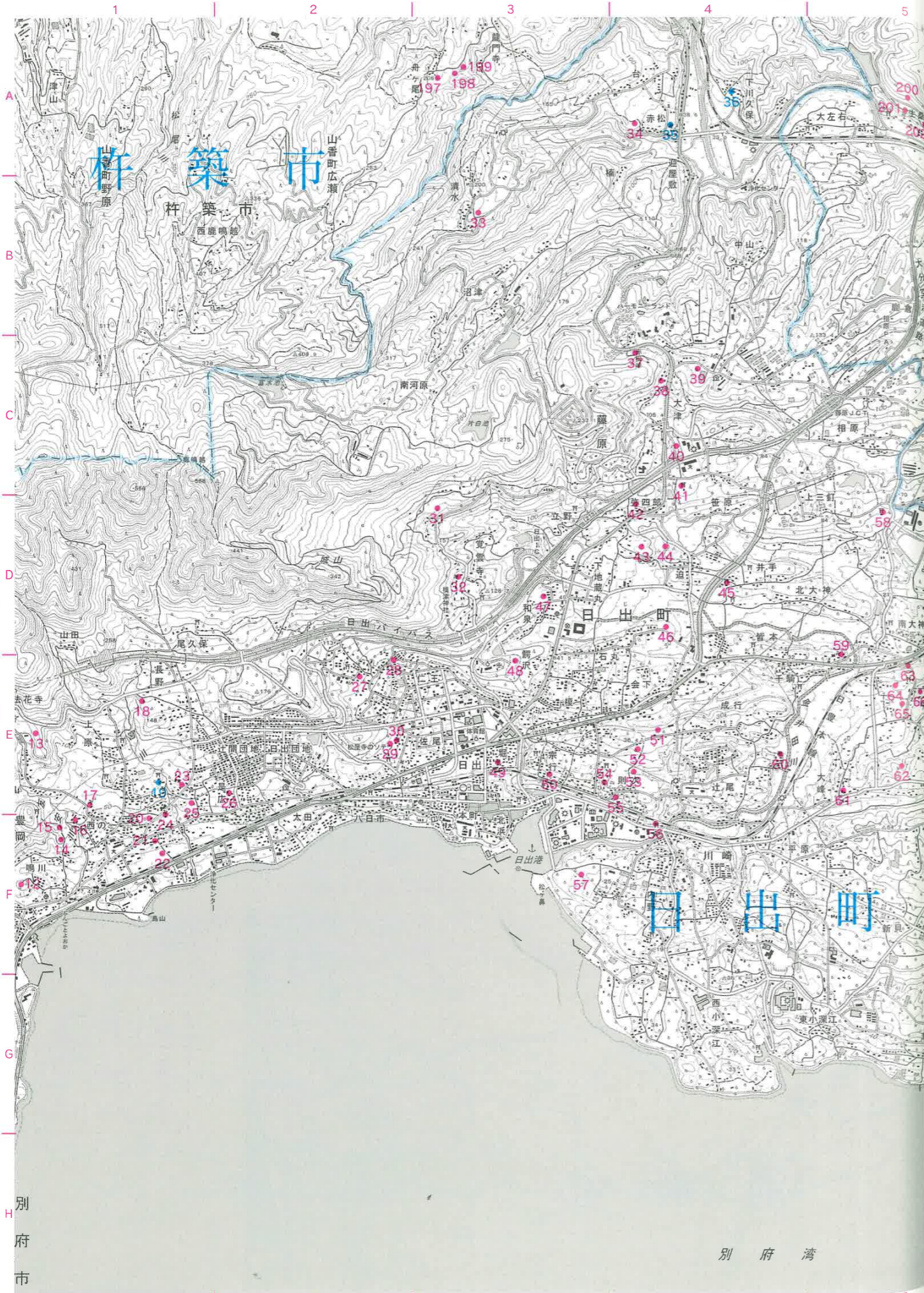
20 若宮

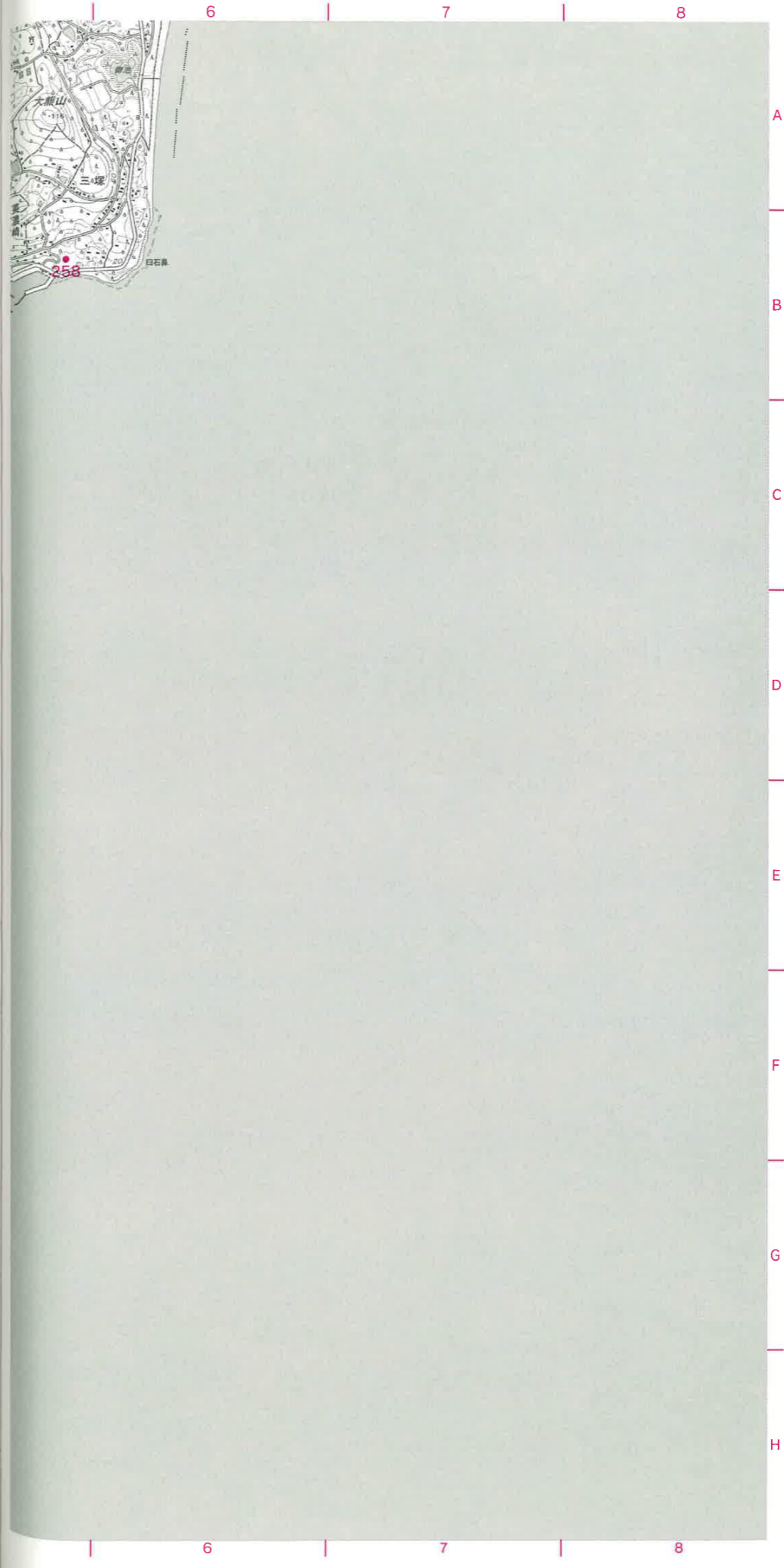
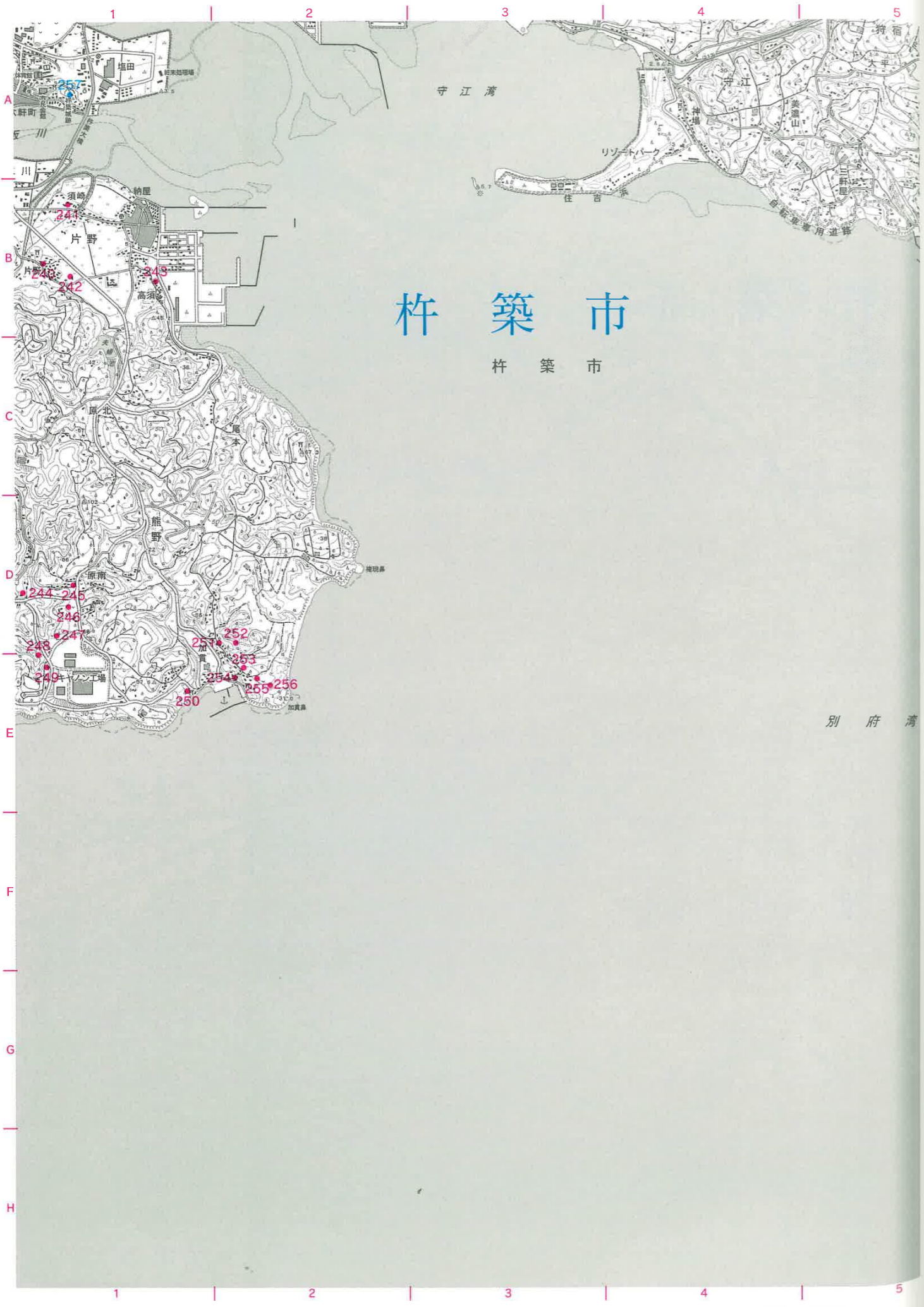
伊予灘

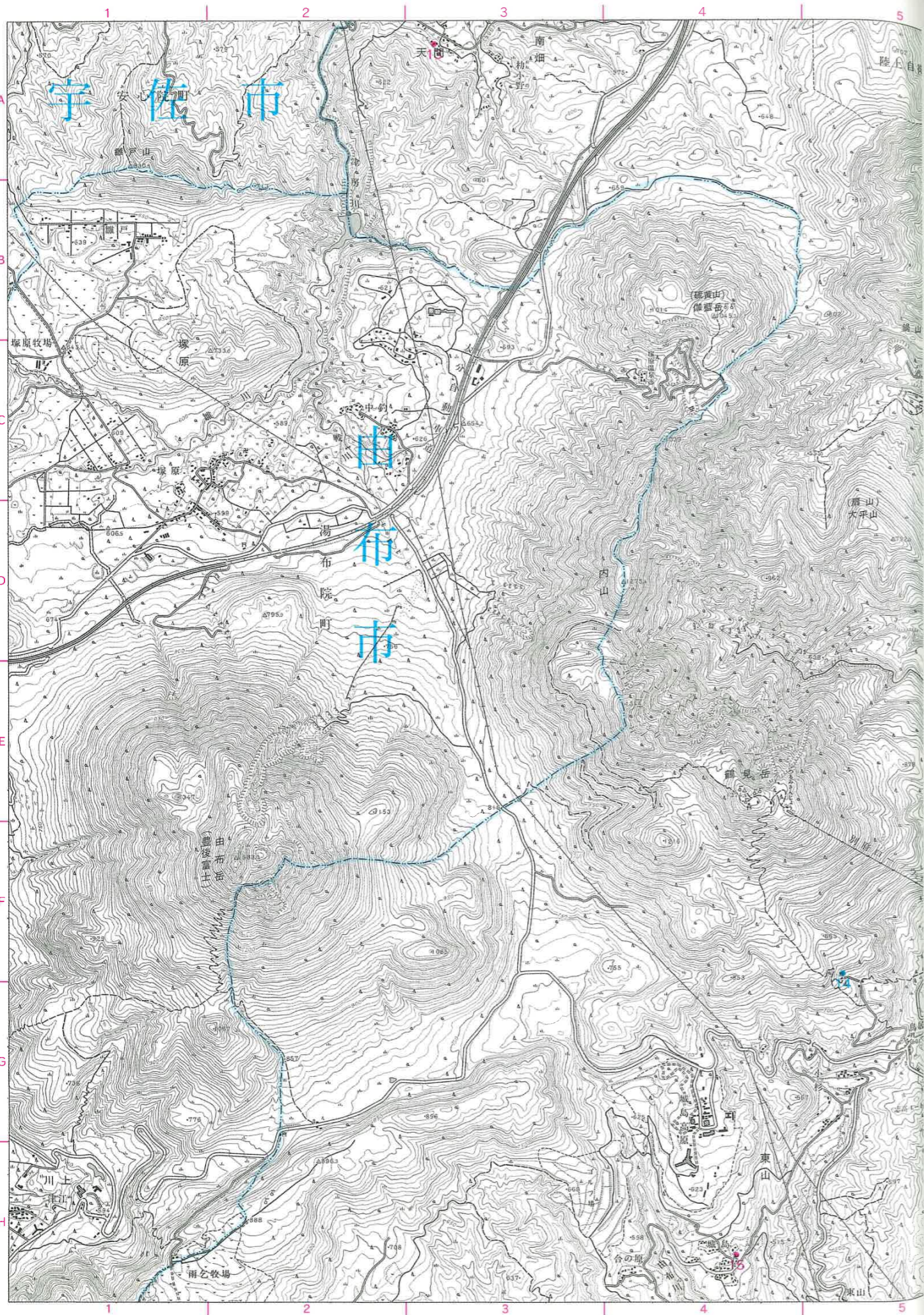


18 下市	19 立石	20 善宮
26 青藤	27 豊後豊岡	28 杵築
34 日出台	35 別府西部	36 別府東部

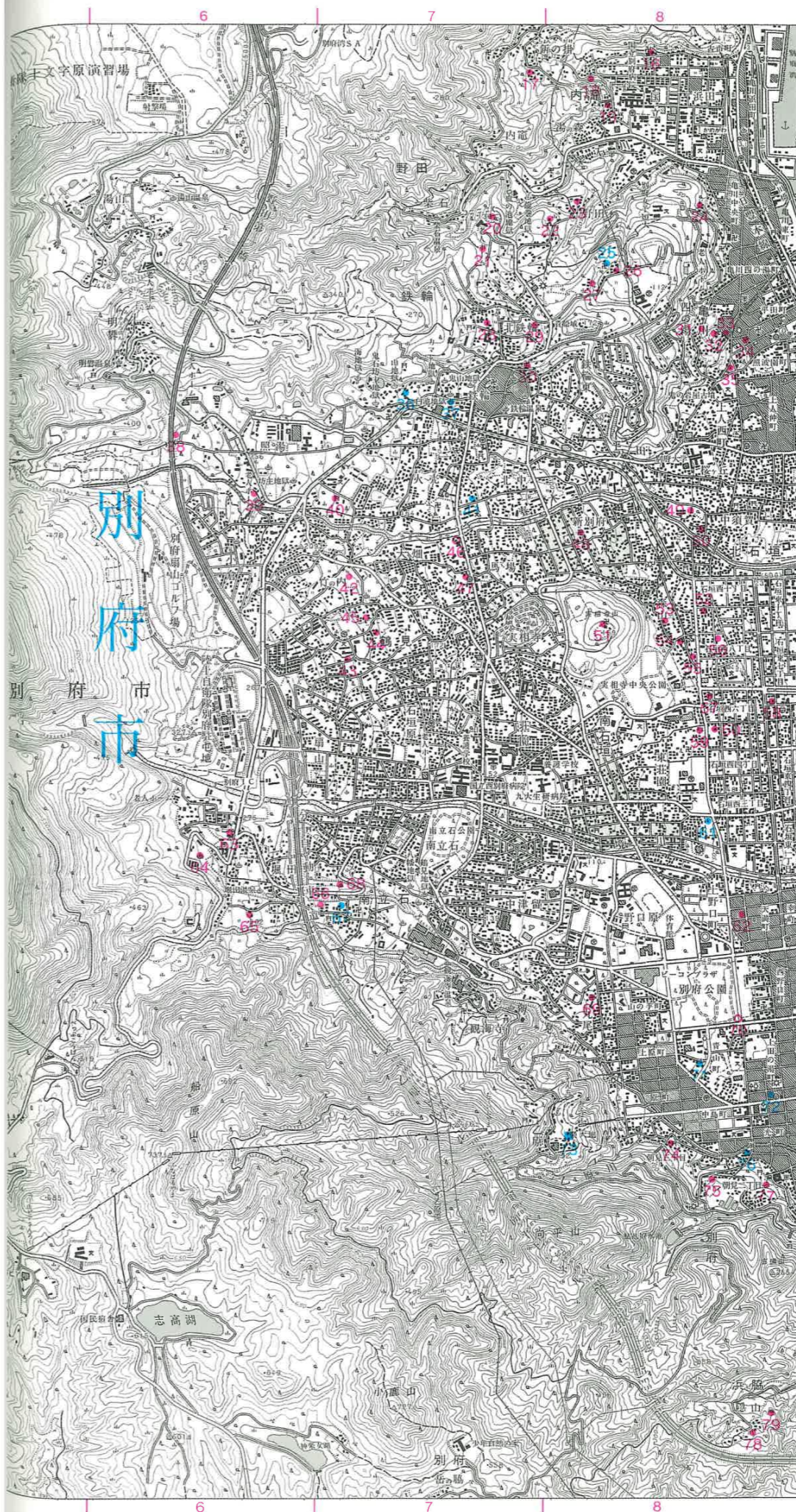








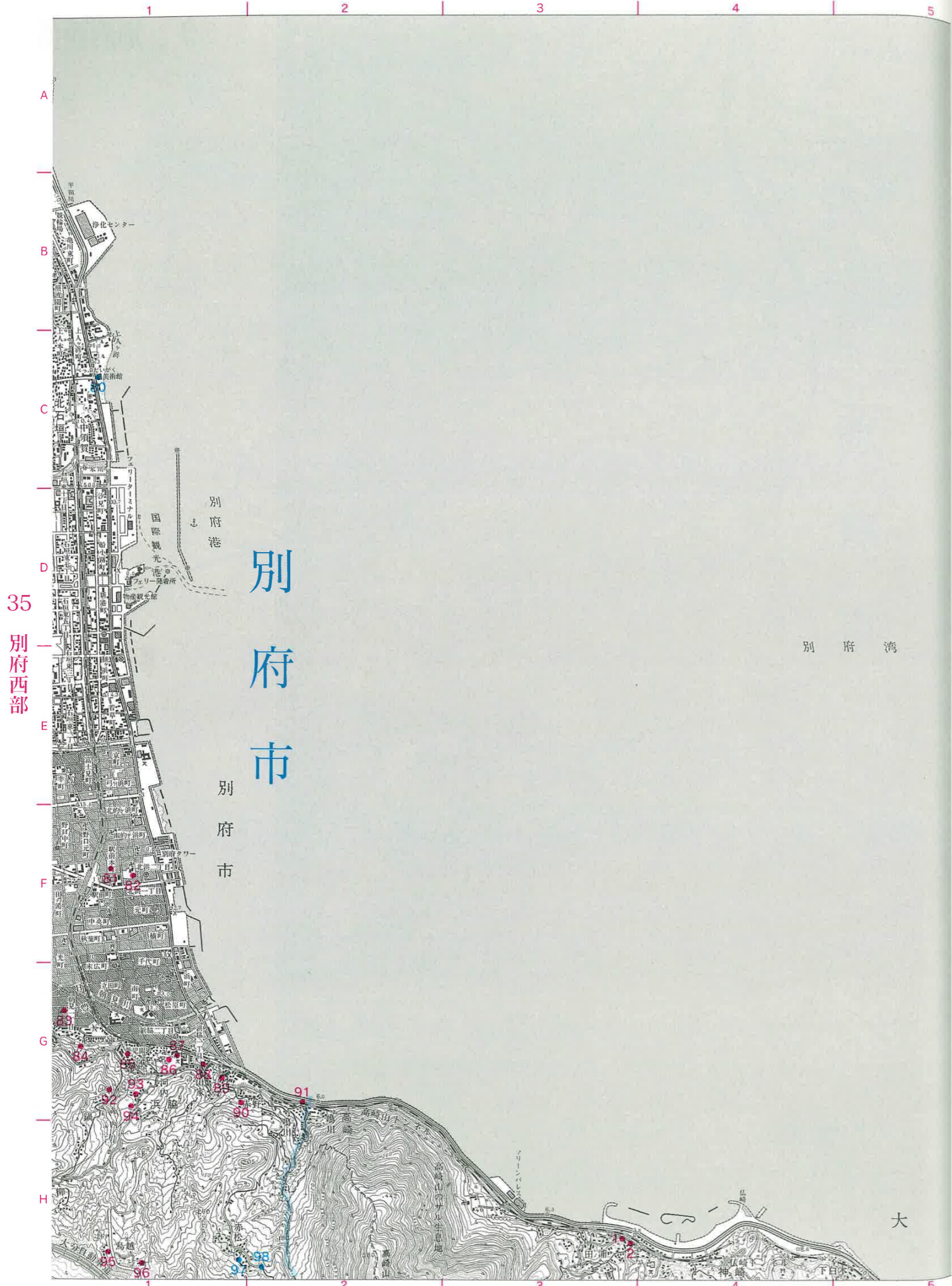
34 日出生台



36 別府東部

26 青森	27 豊後豊岡	28 杵築
37 日出生台	35 別府西部	36 別府東部
42 湯平	43 小野屋	44 大分

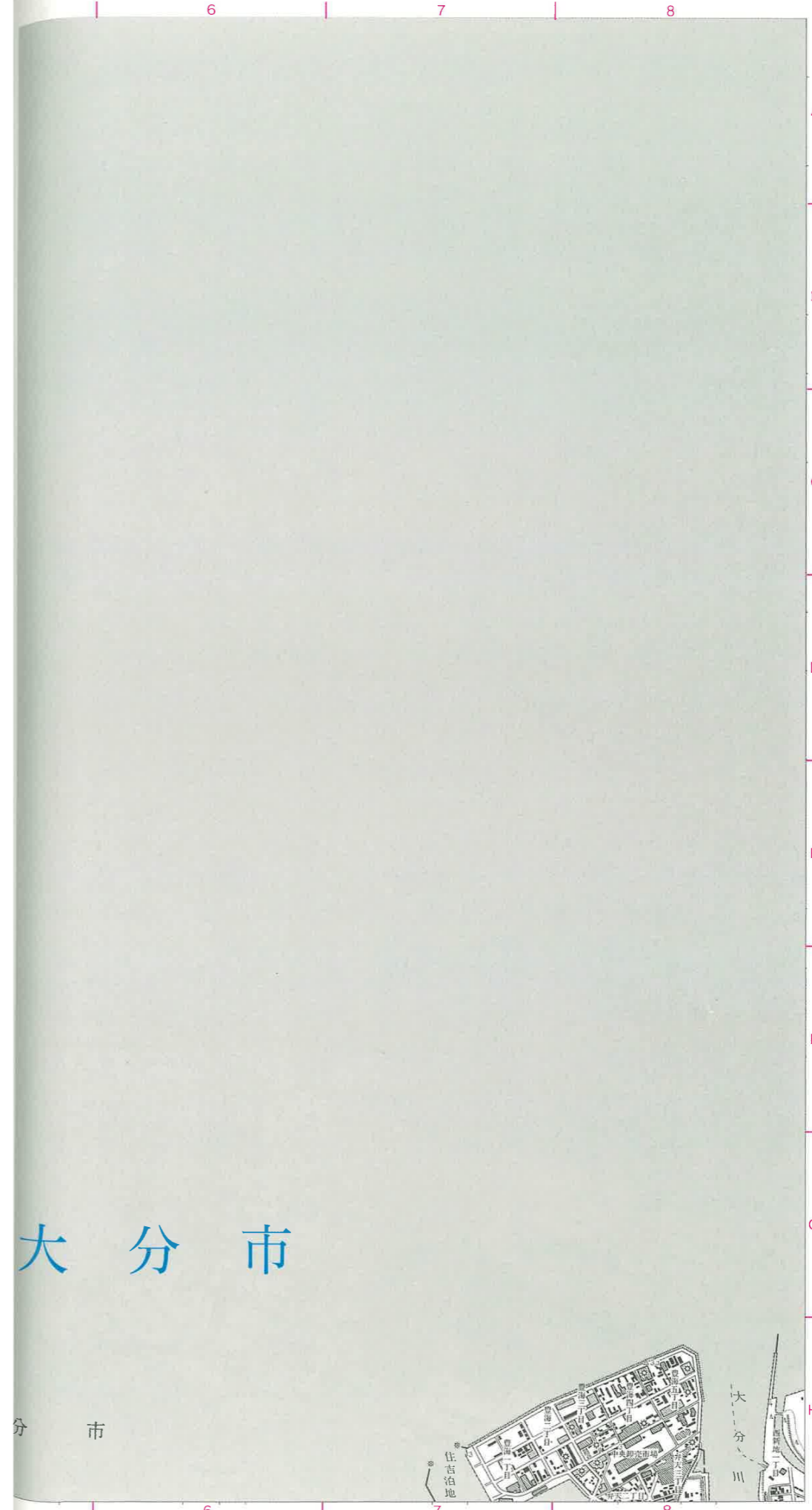




35 別府西部

別府市

別府湾



37 家島

大分市

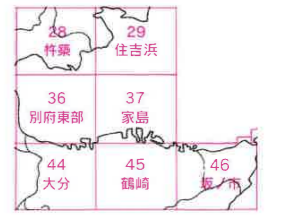
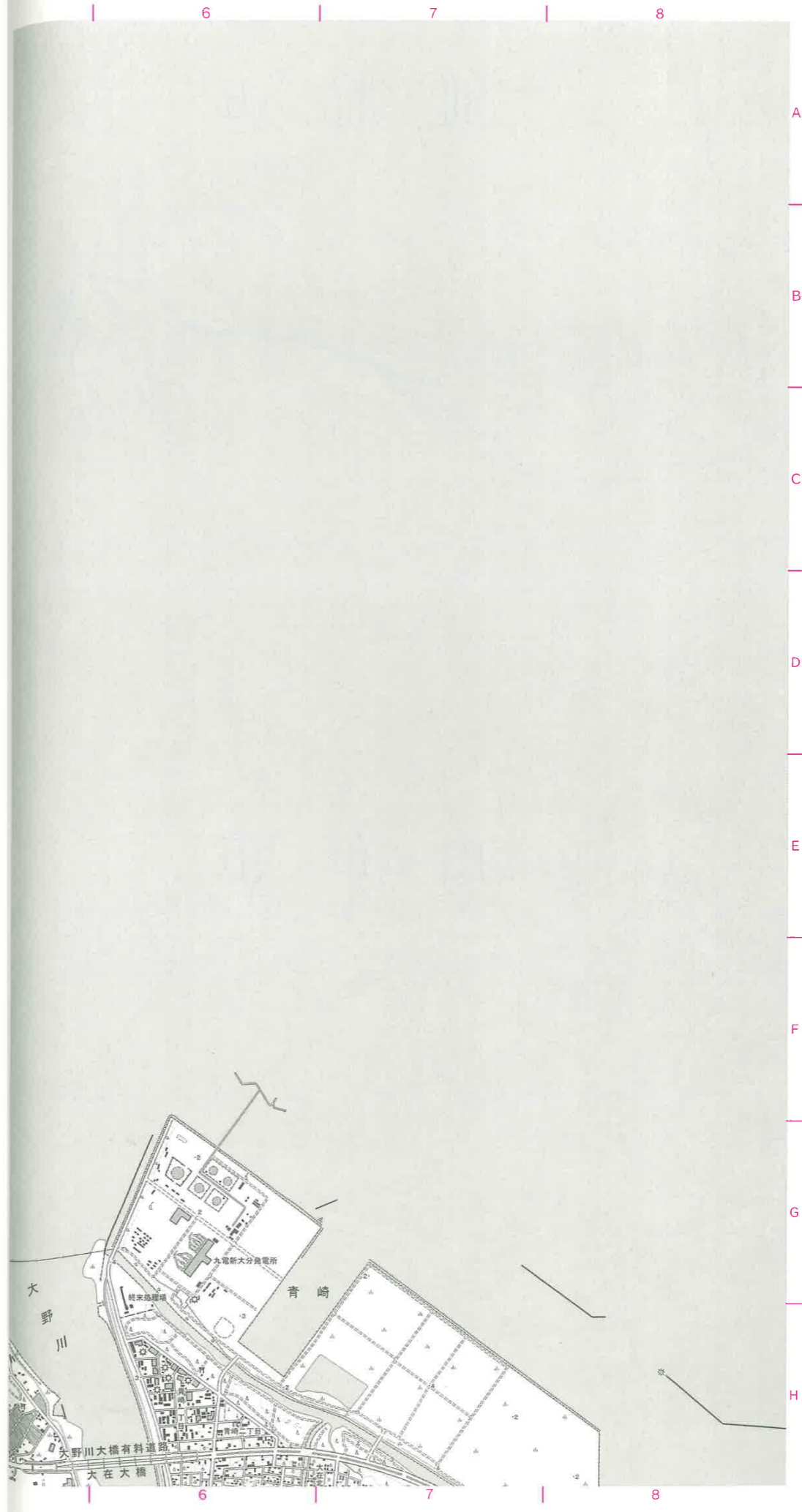
27 豊後国	28 杵築	29 住吉浜
35 別府西部	36 別府東部	37 家島
43 小野原	44 大分	45 鶴崎

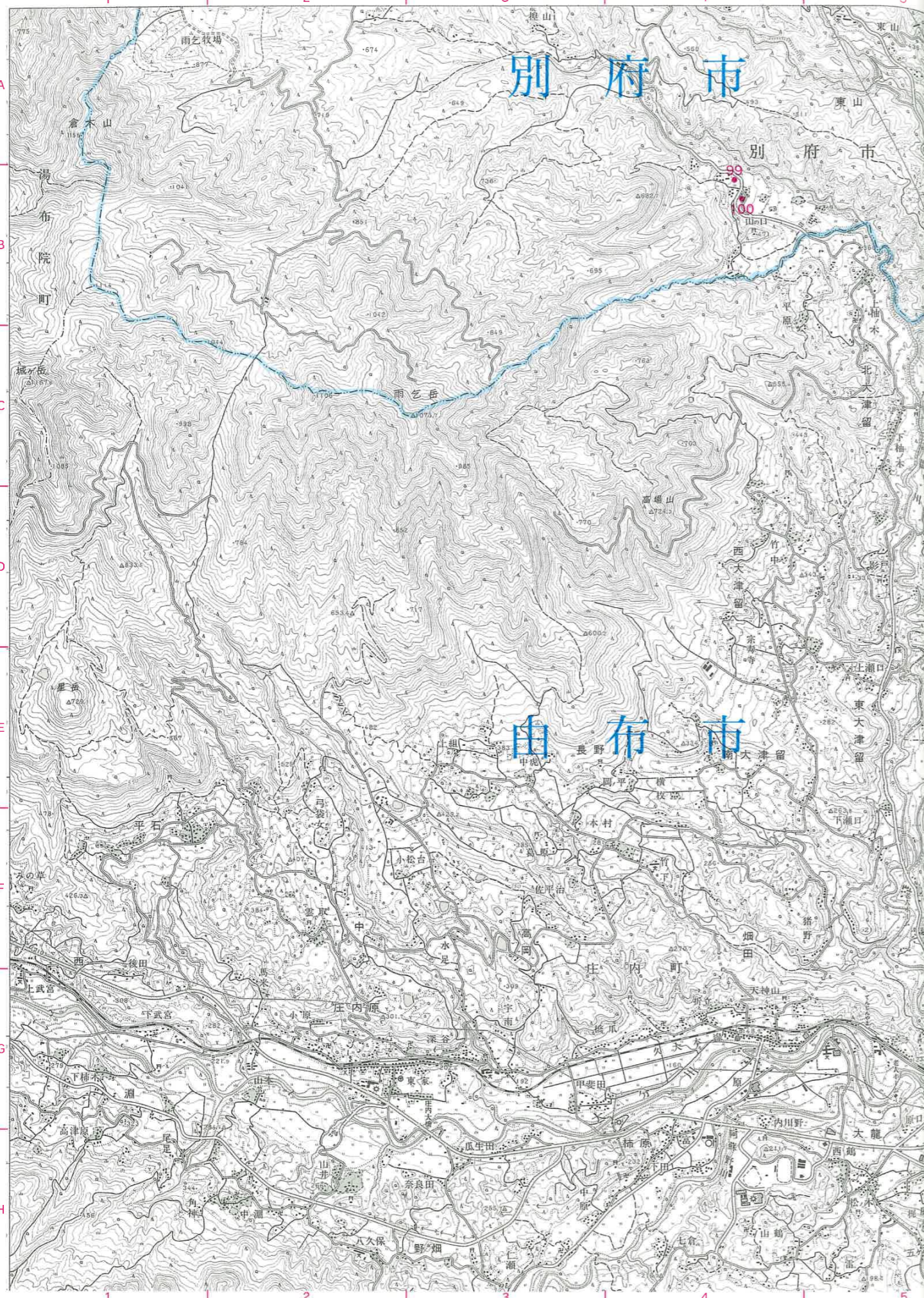
0 1500m

36 別府東部

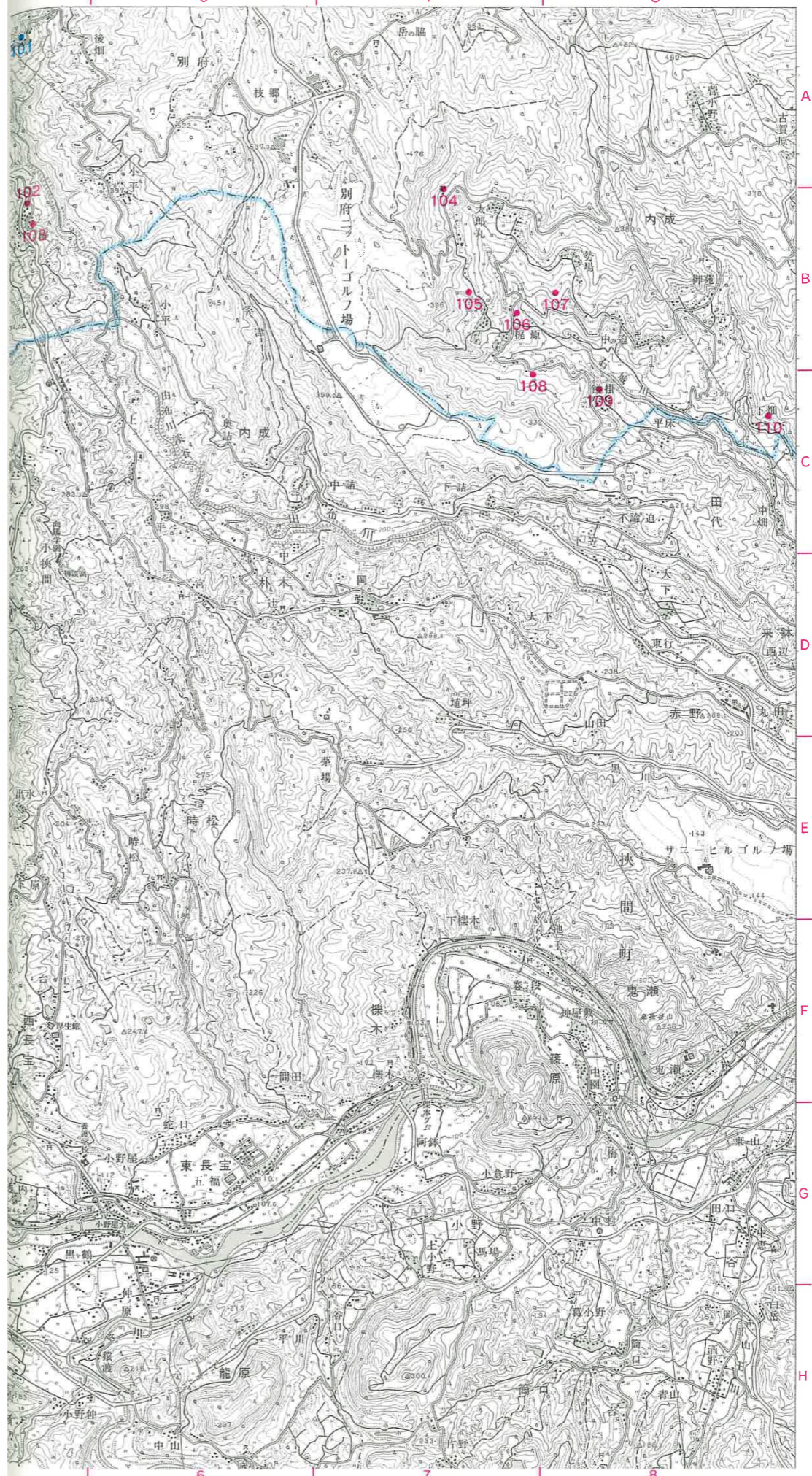


大分市





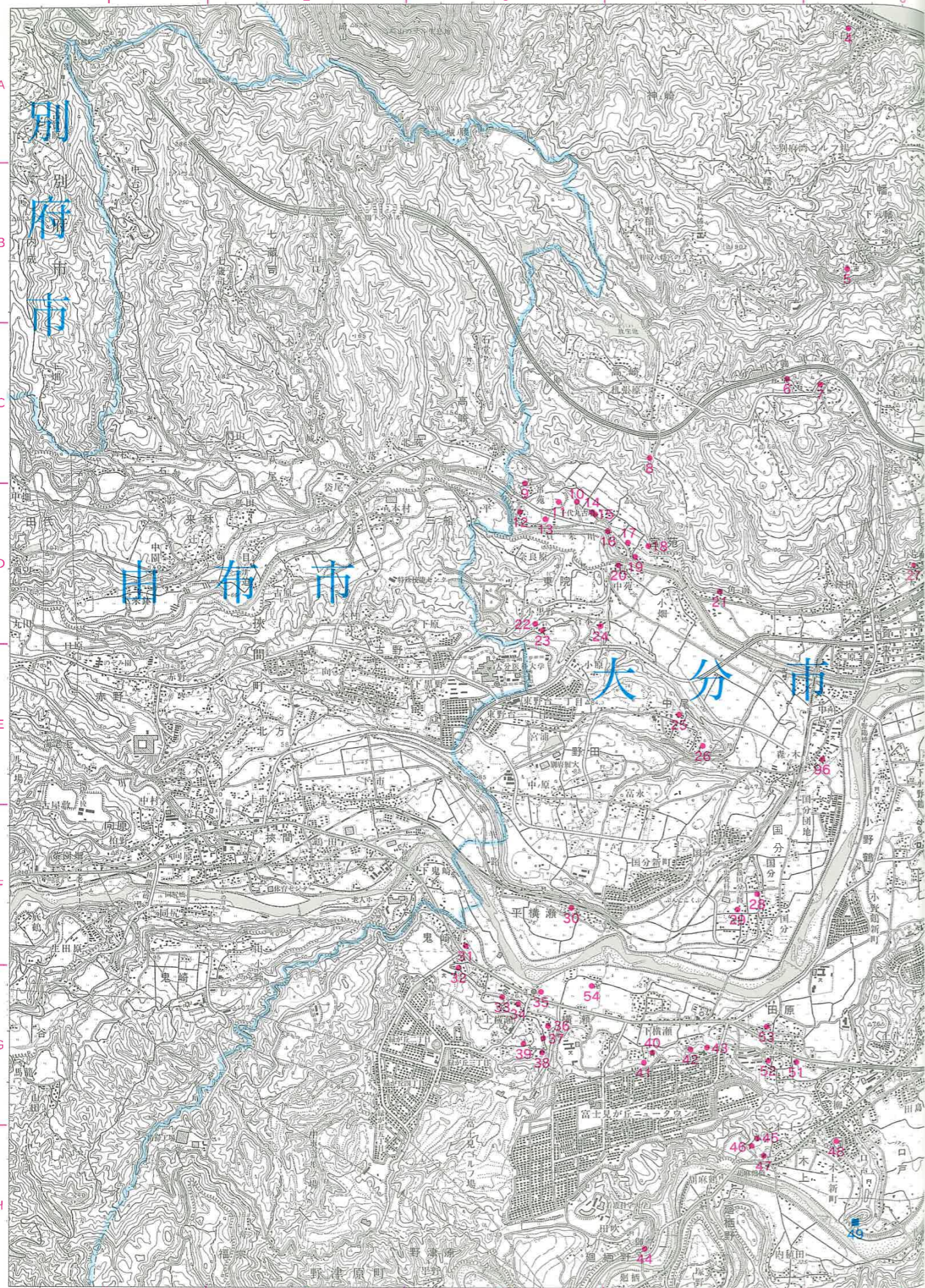
42 湯平



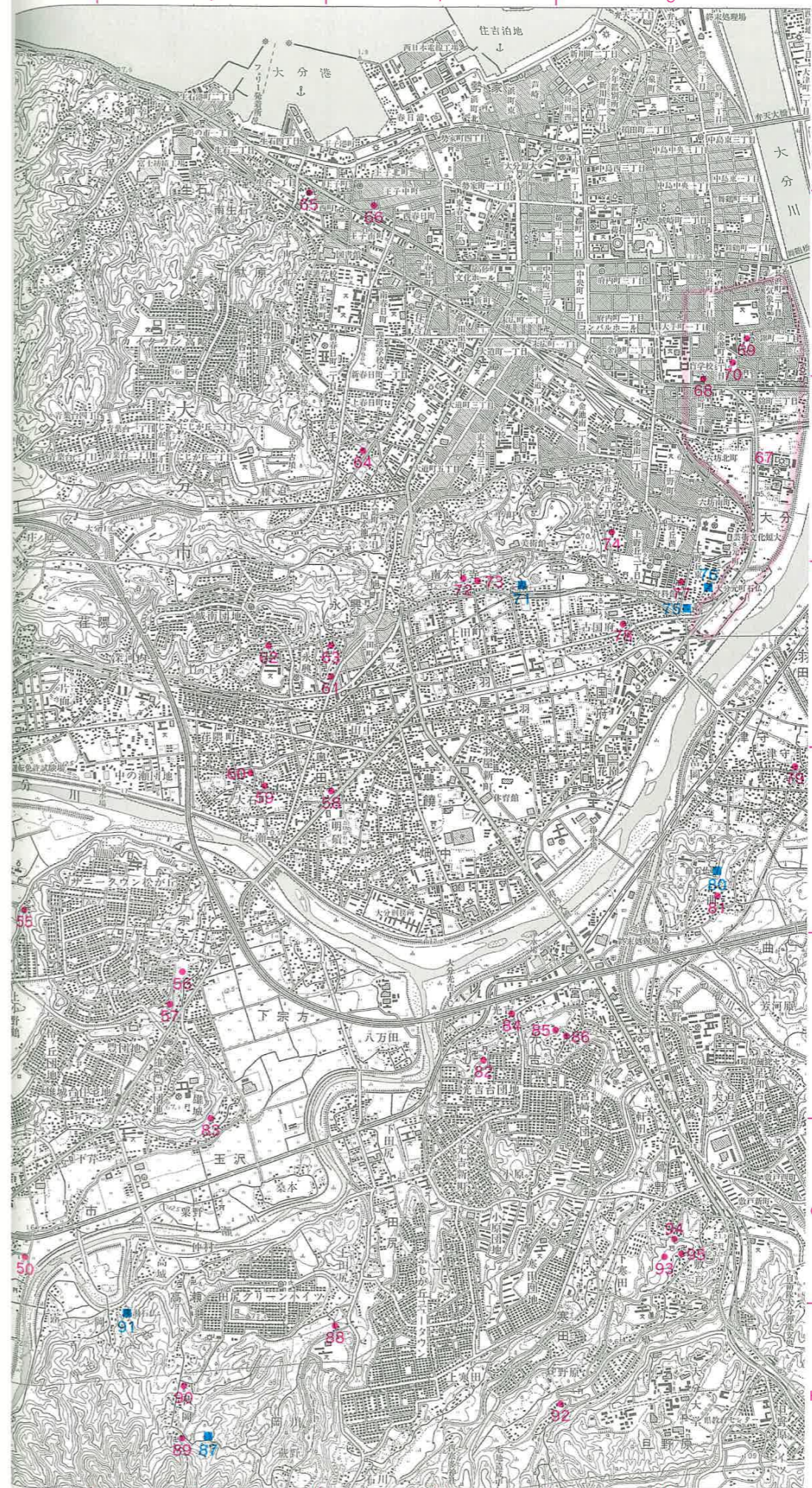
44 大分

37 日出差台	35 別府西部	36 別府東部
42 湯平	43 小野屋	44 大分
52 大船山	53 豊後今市	54 豊後原





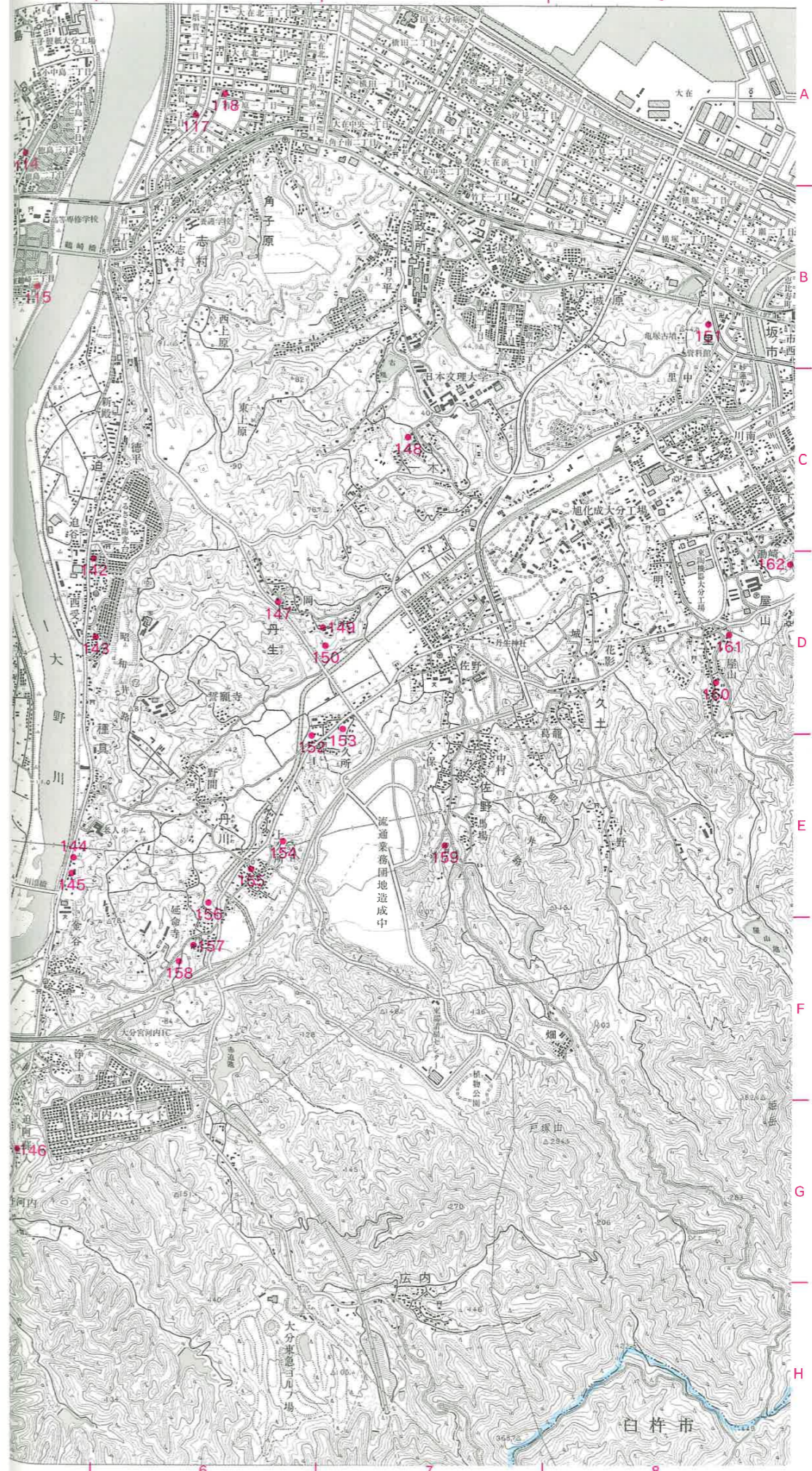
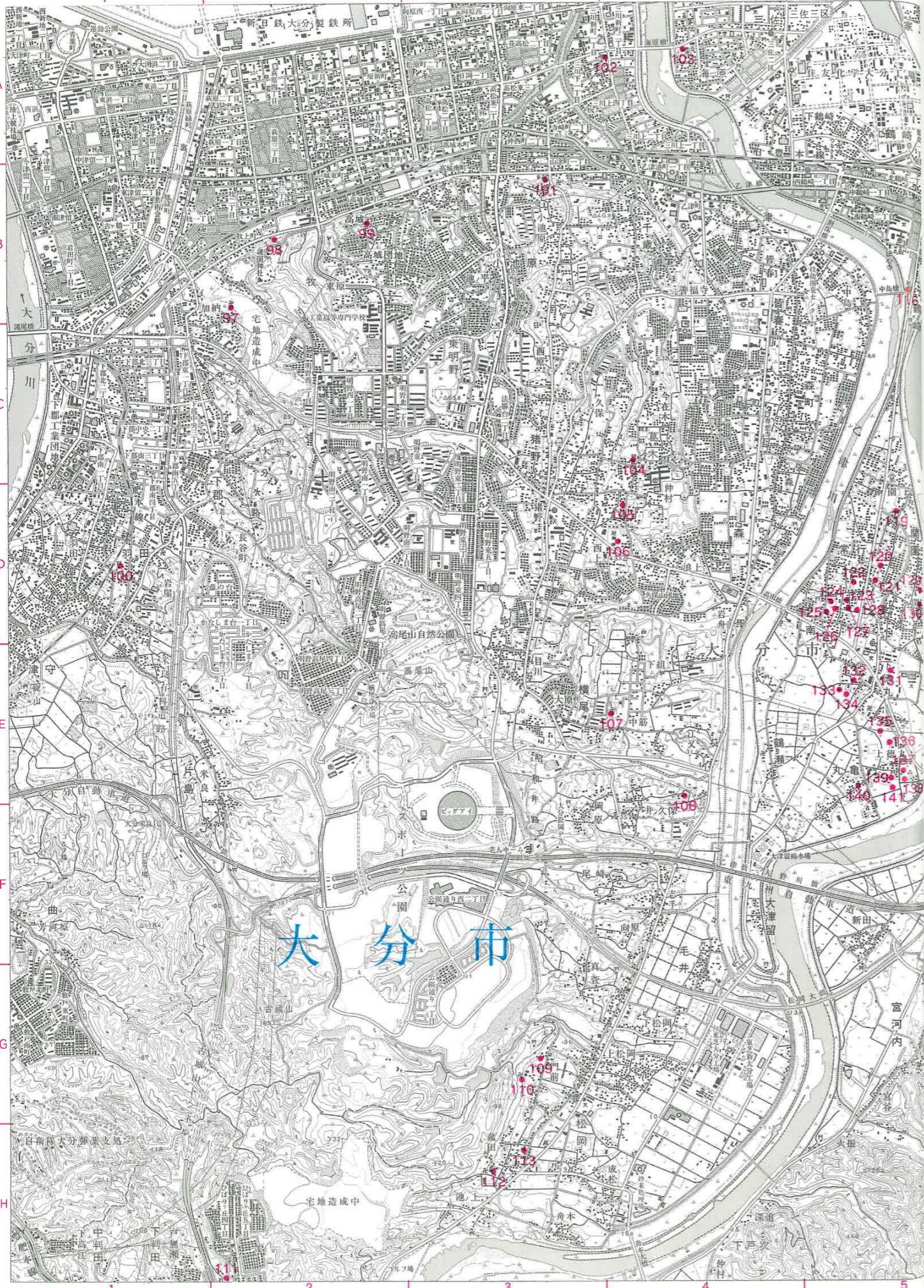
43 小野屋



45 鶴崎

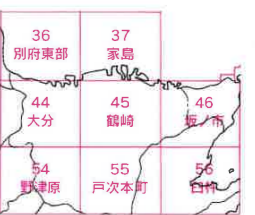
35 別府西部	36 別府東部	37 家島
43 小野屋	44 大分	45 鶴崎
53 豊後今市	54 野津原	55 戸次本町

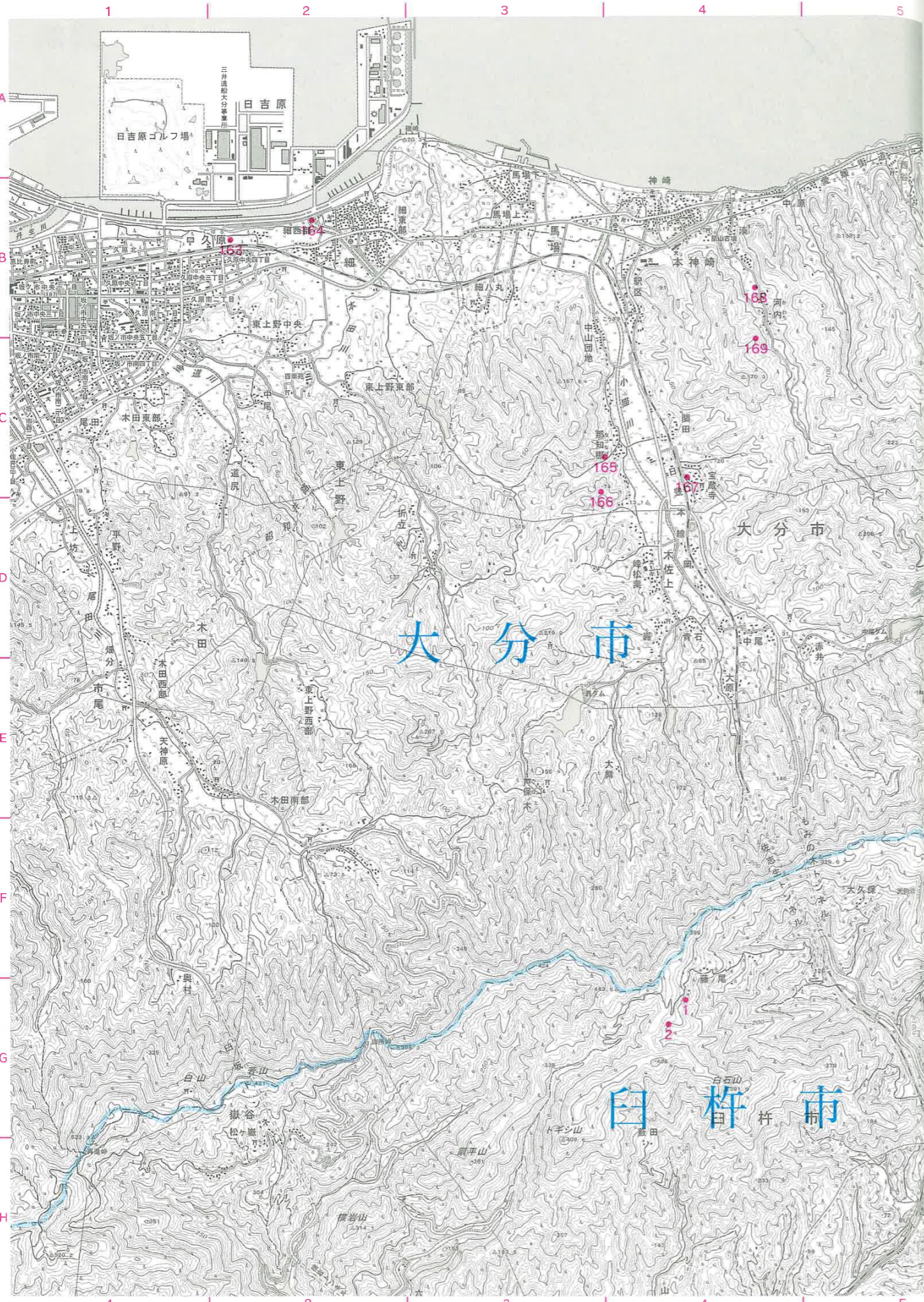




46 坂ノ市

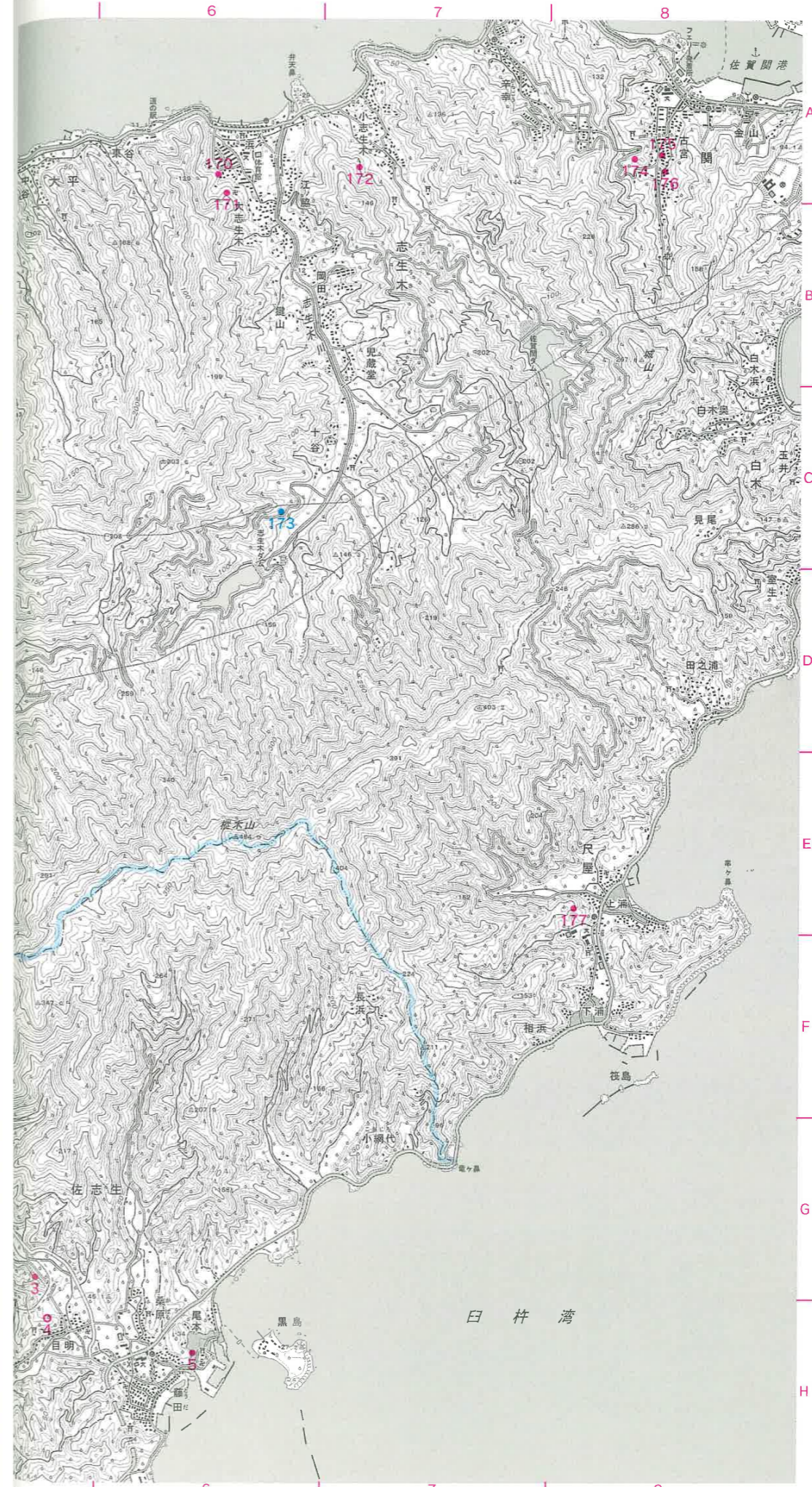
44 大分





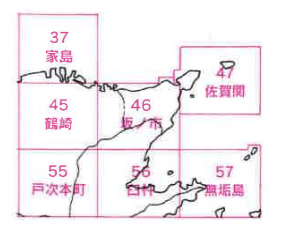
45 鶴崎

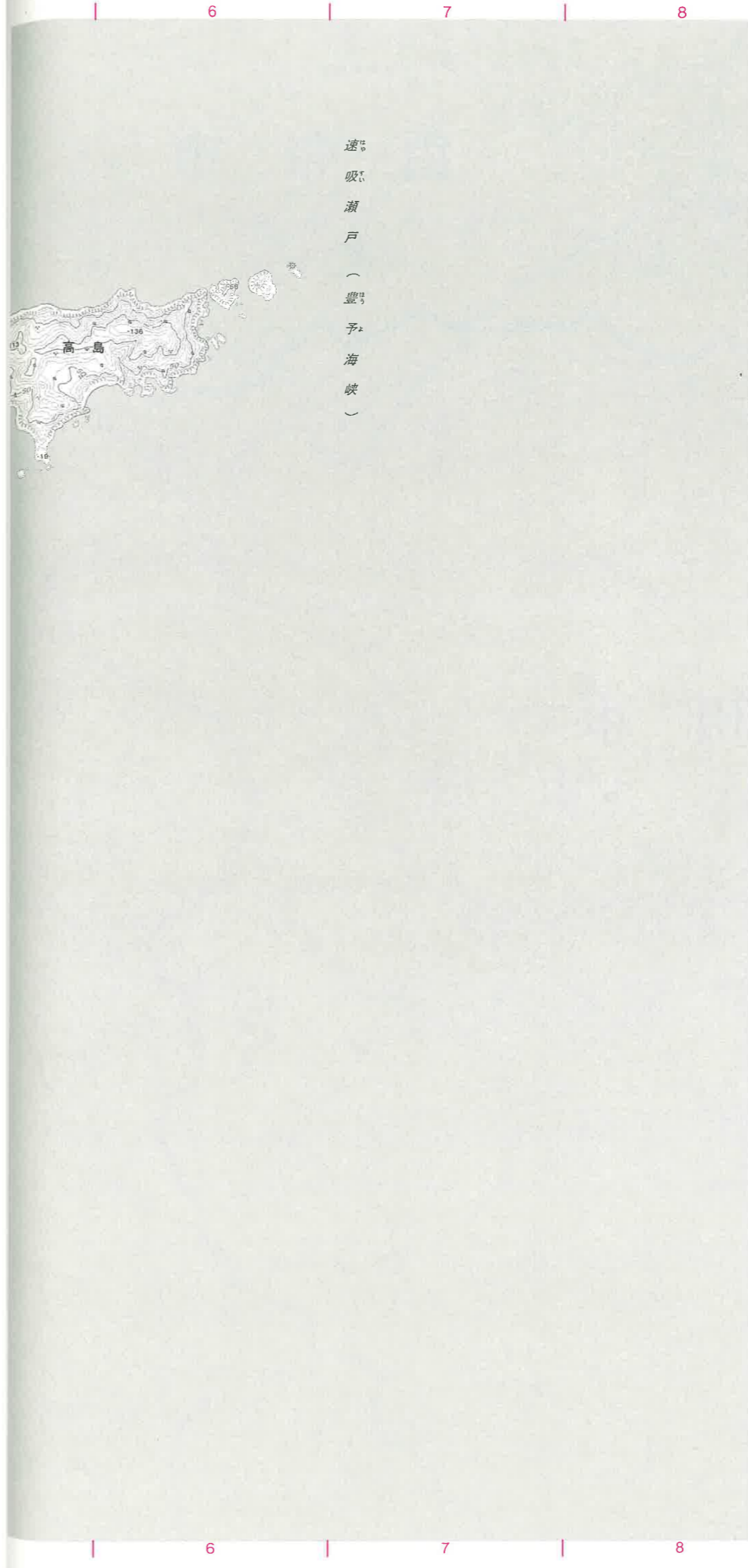
56 臼杵

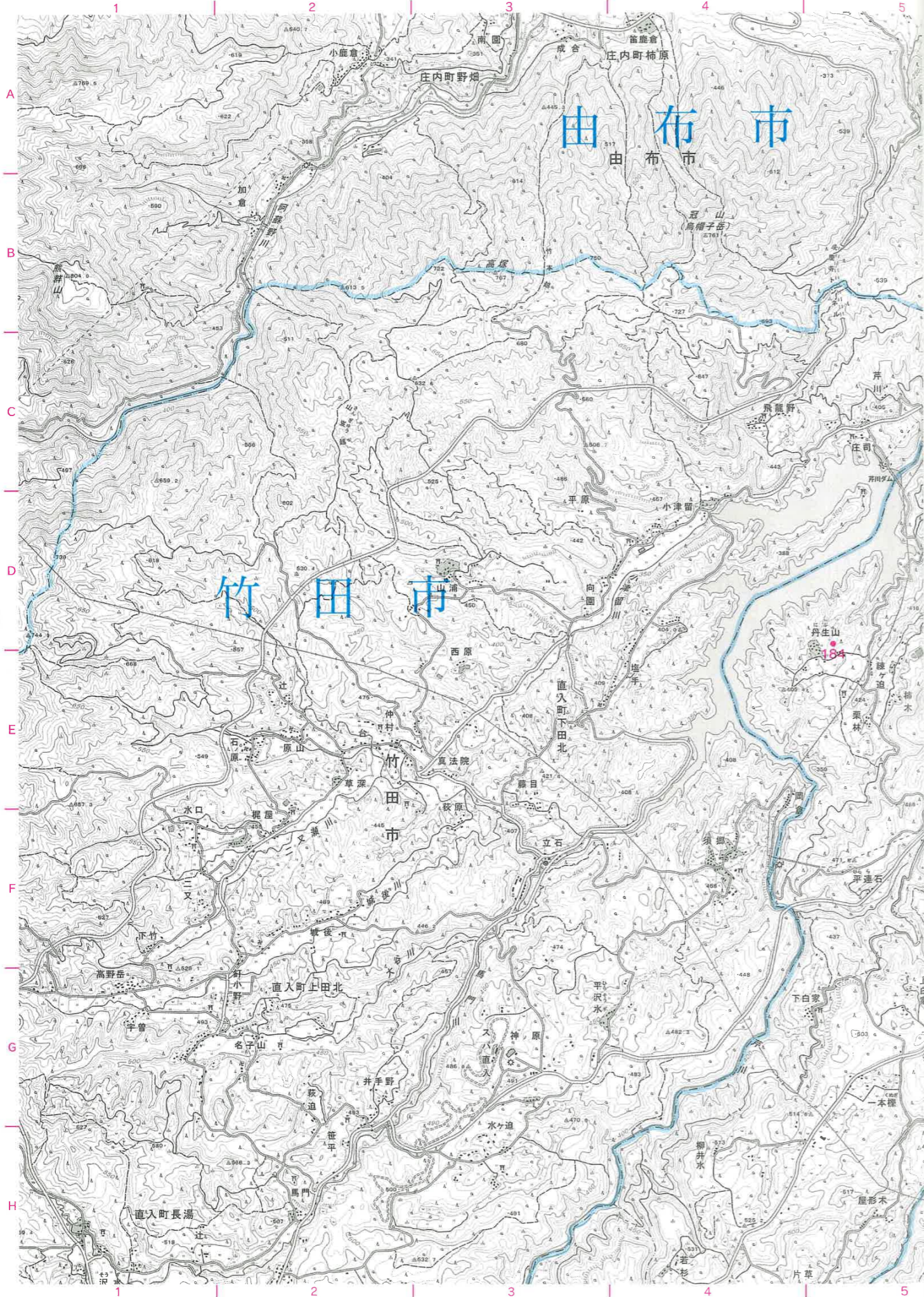


46 坂ノ市

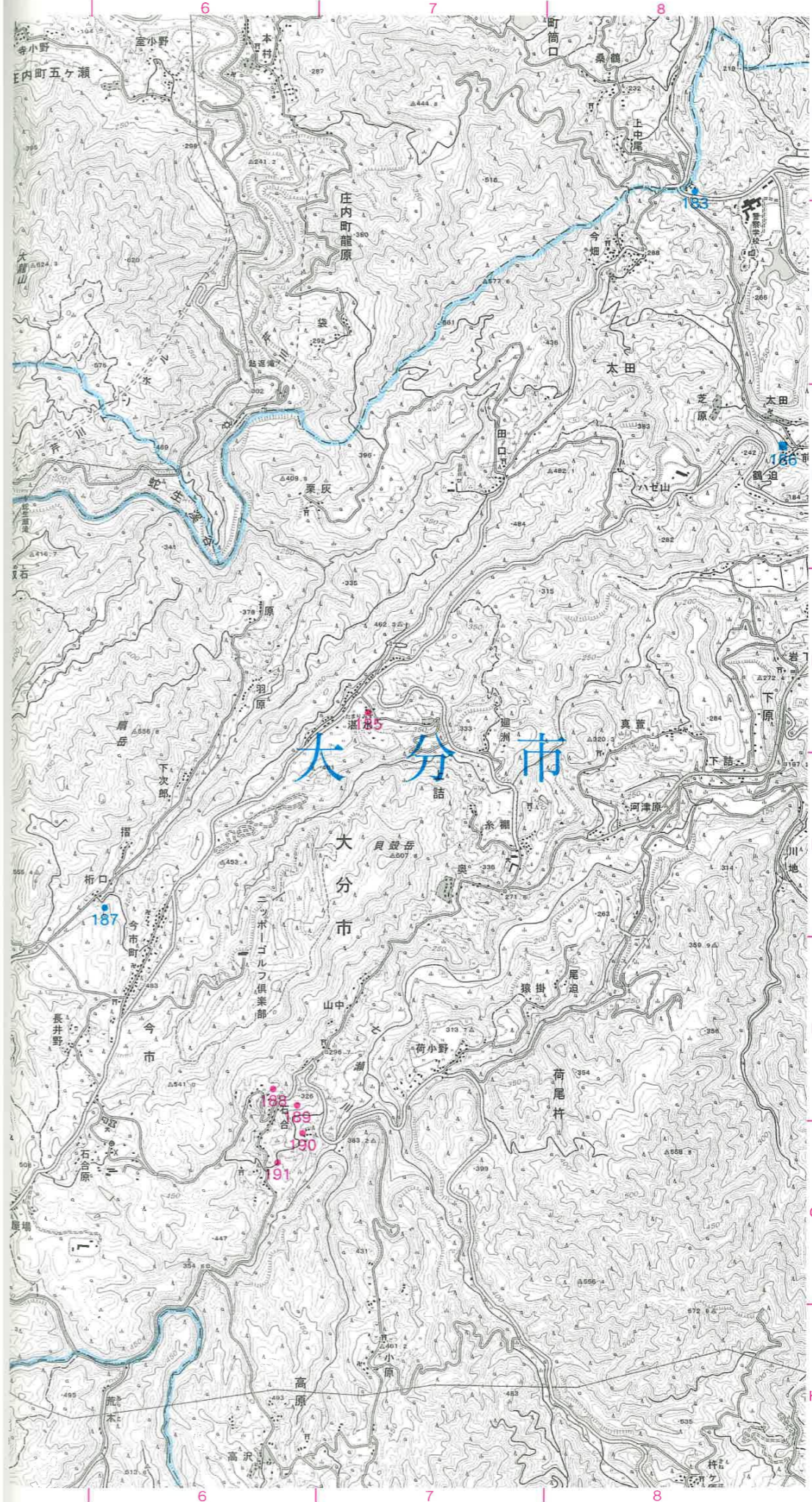
47 佐賀関







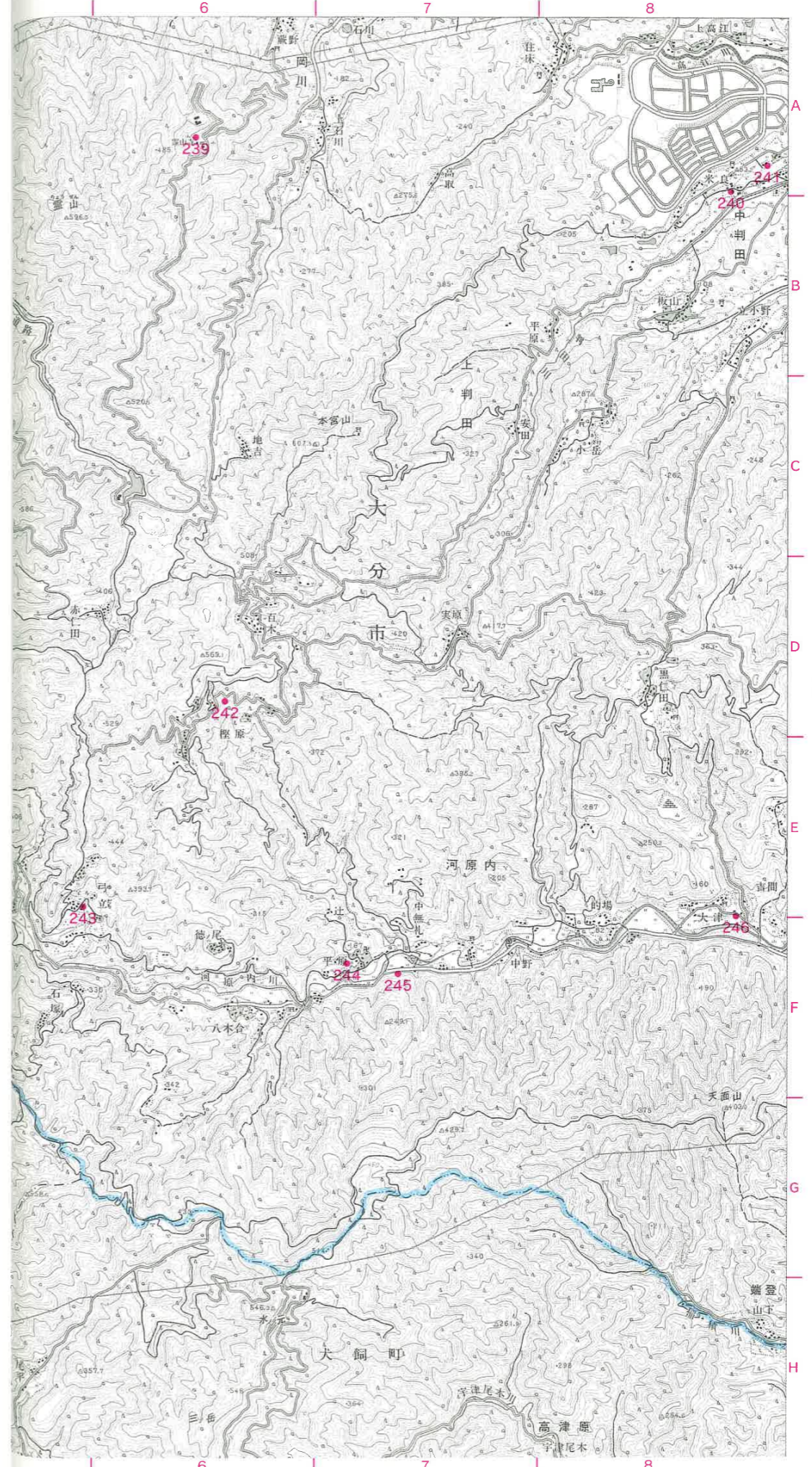
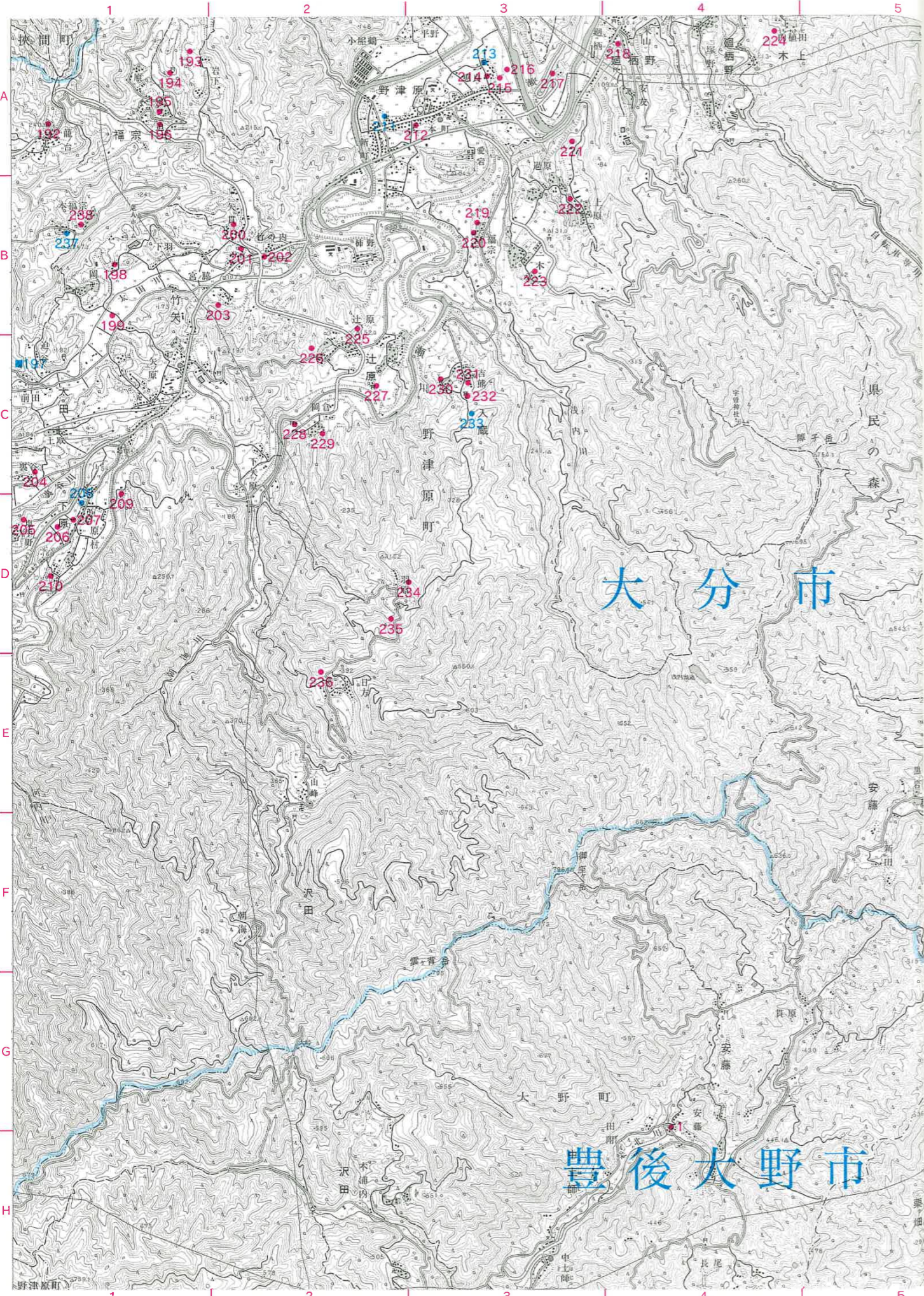
52 大船山



54 野津原

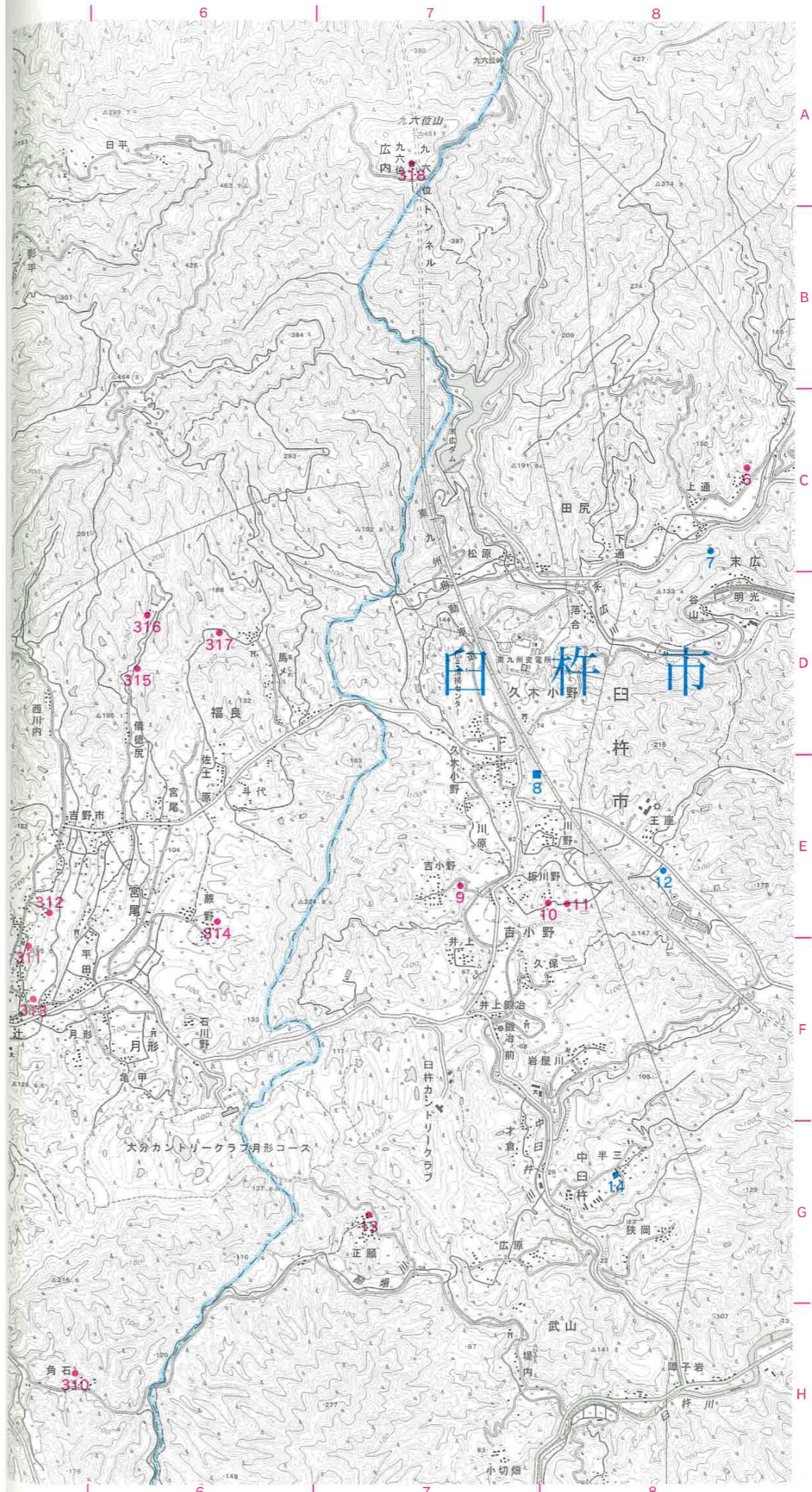
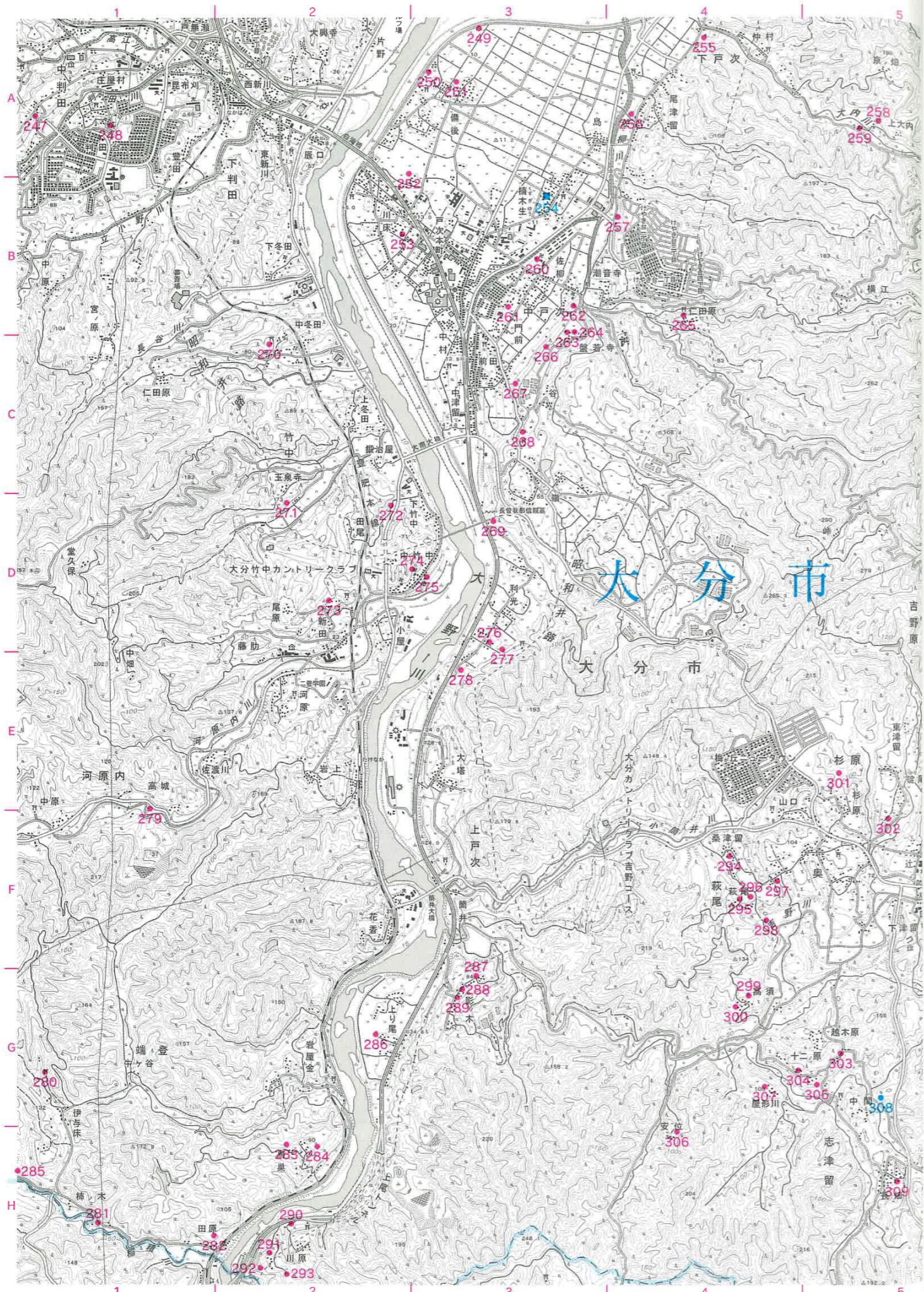
42 湯平	43 小野屋	44 大分
52 大船山	53 豊後今市	54 野津原
61 久住	62 朝地	63 田中





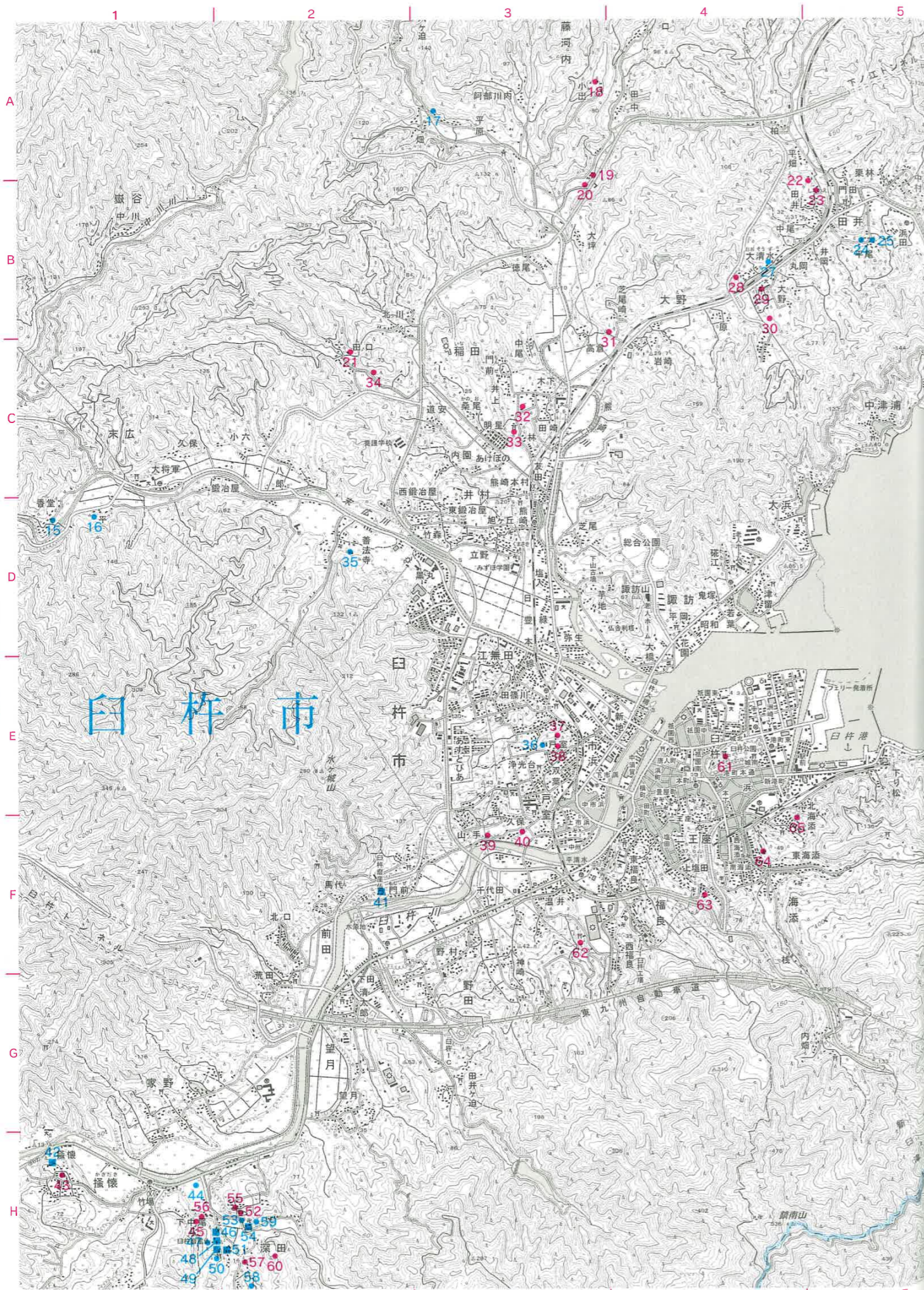
43 小野原	44 大分	45 鶴崎
53 豊後今市	54 野津原	55 戸次本町
62 朝地	63 田中	64 大銅





44 大分	45 鶴崎	46 飯ノ木
54 野津原	55 戸次本町	56 臼杵
63 田中	64 犬飼	65 津久井





55 戸次本町



57 無垢島

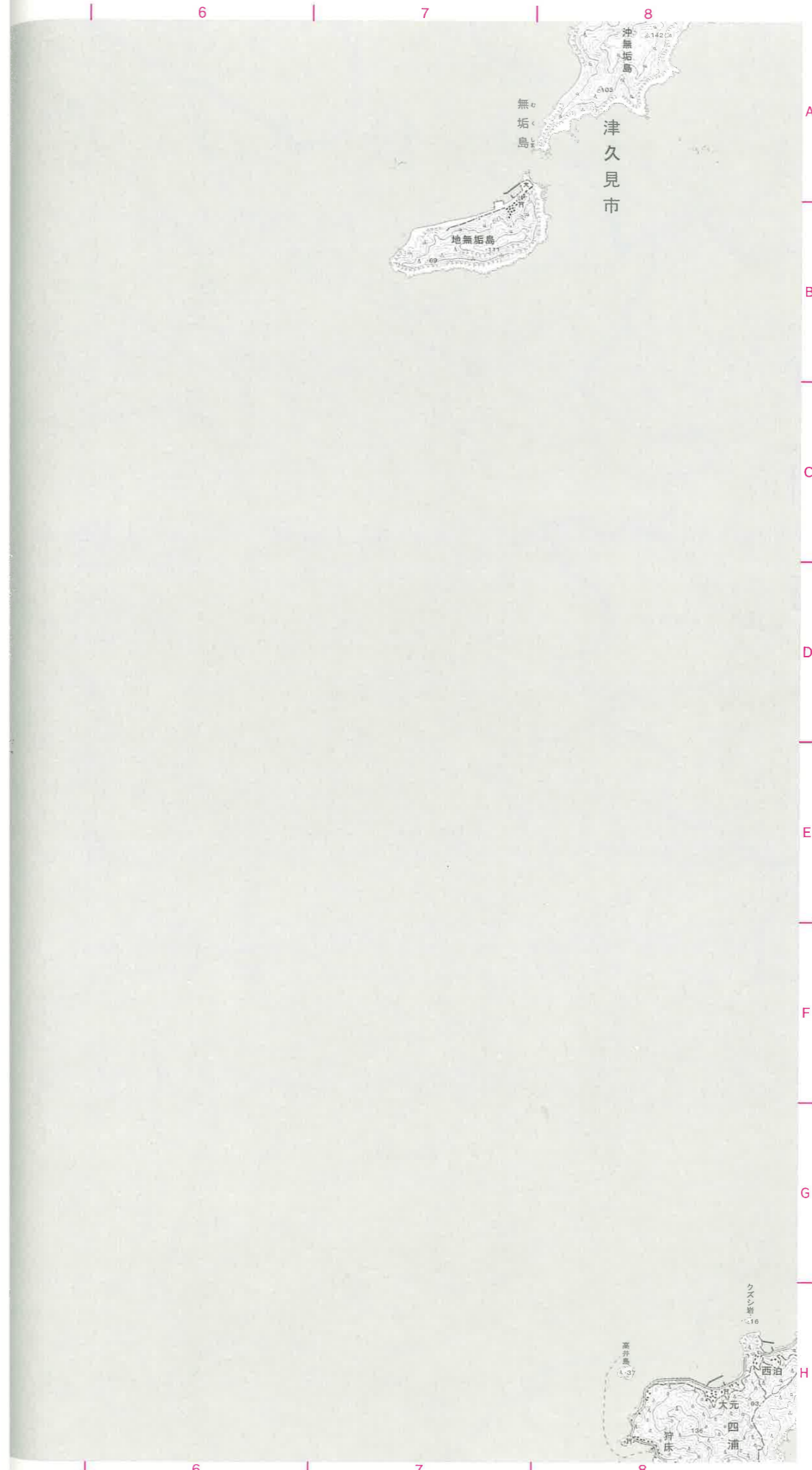




56
白杵

津久見市

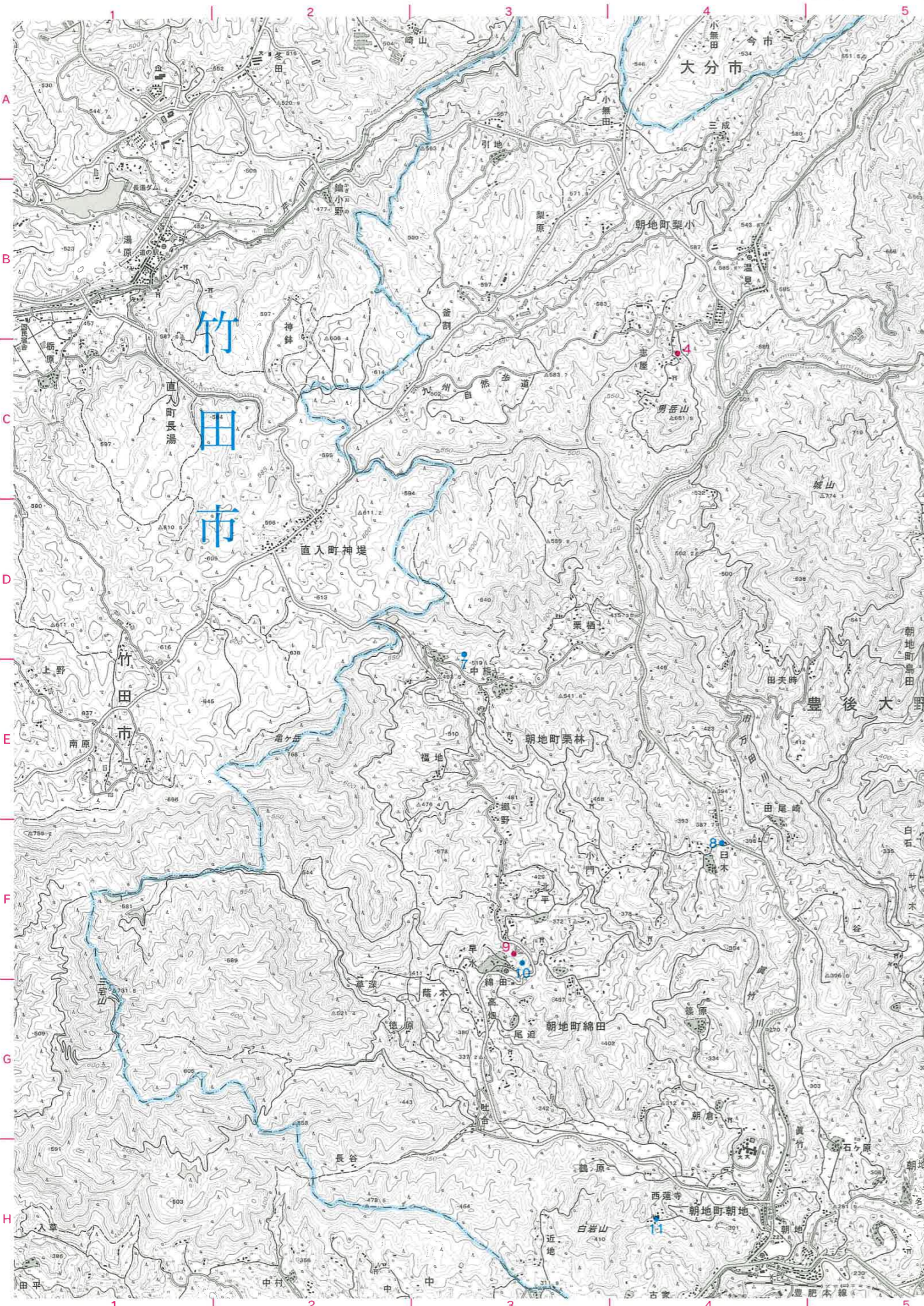
66 浅海井



67
保戸島



0 1500m



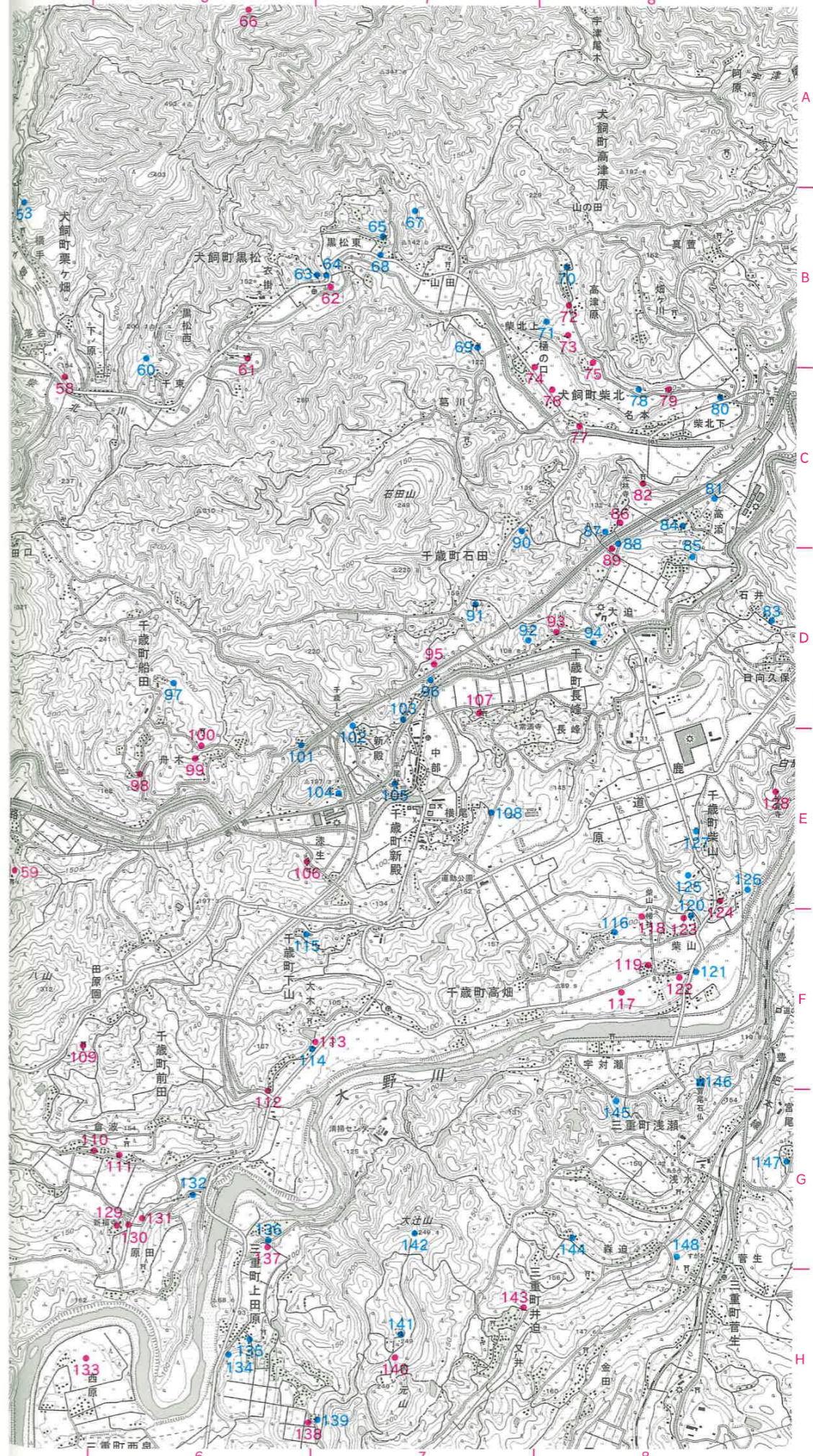
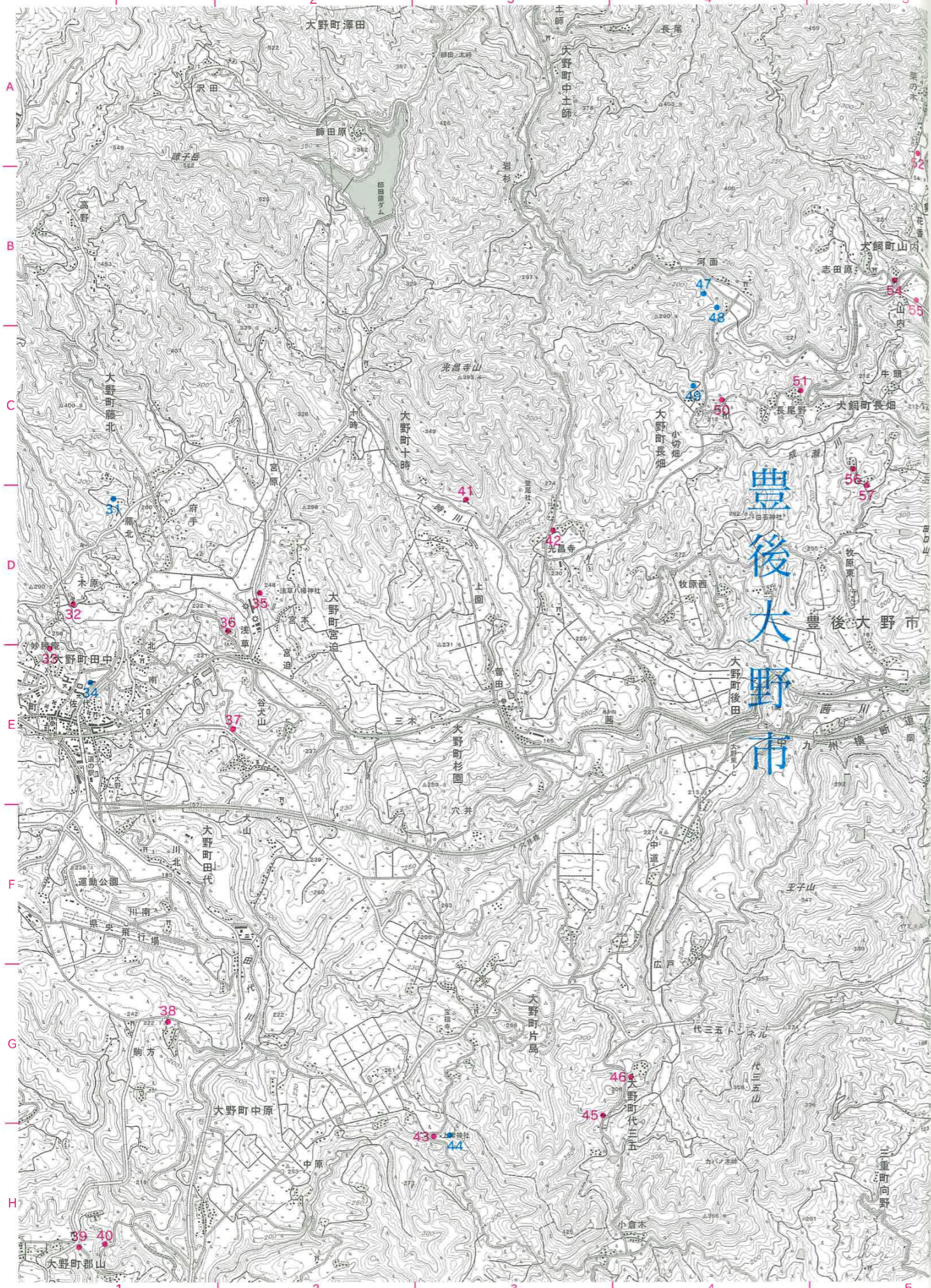
61 久住



63 田中

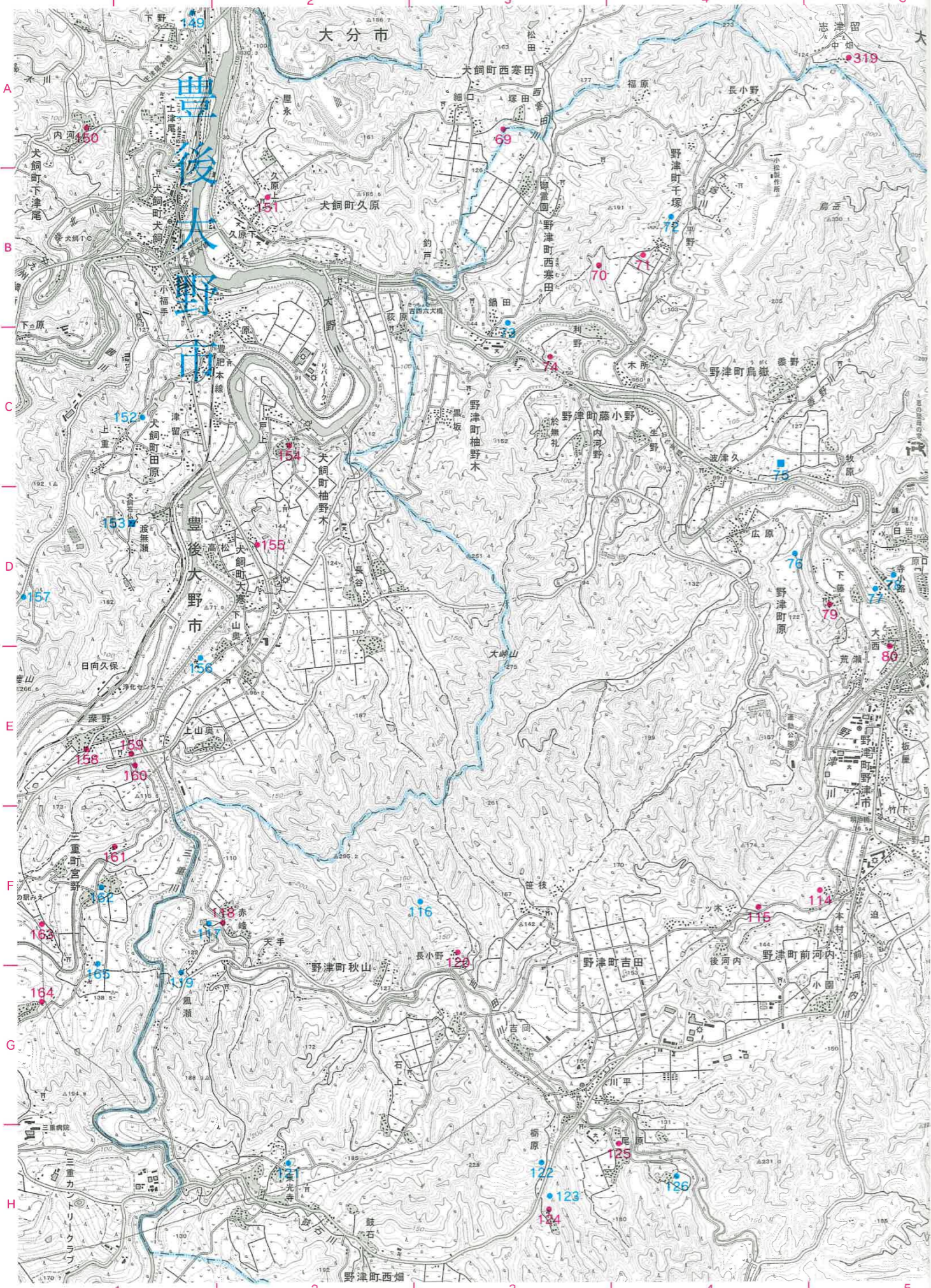
52 大船山	53 豊後今市	54 野津原
61 久住	62 朝地	63 田中
69 桜町	70 竹田	71 三重町



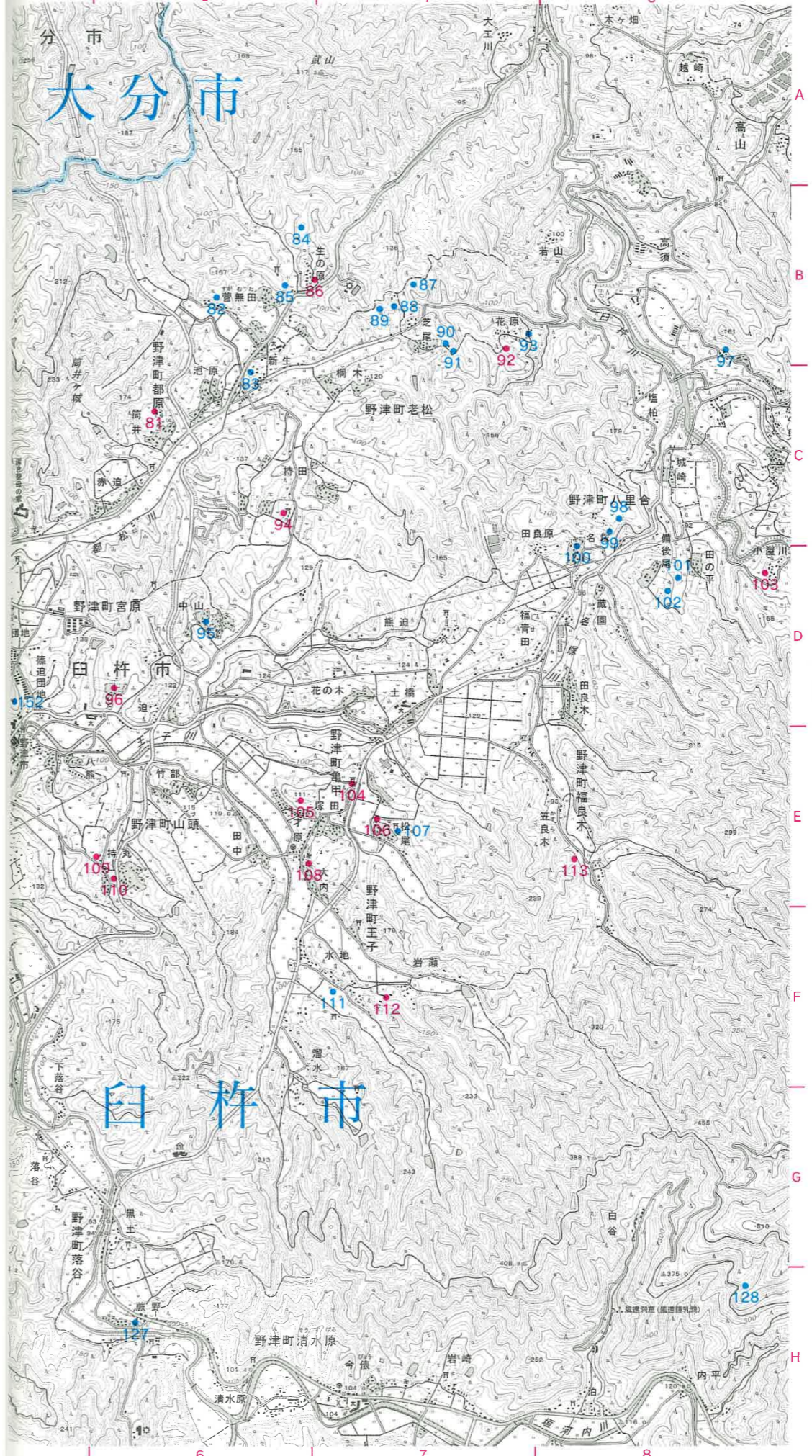


53 豊後今市	54 野津原	55 戸次本町
62 朝地	63 田中	64 犬飼
70 竹田	71 三重町	72 豊後山





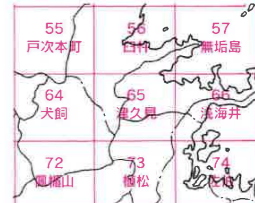
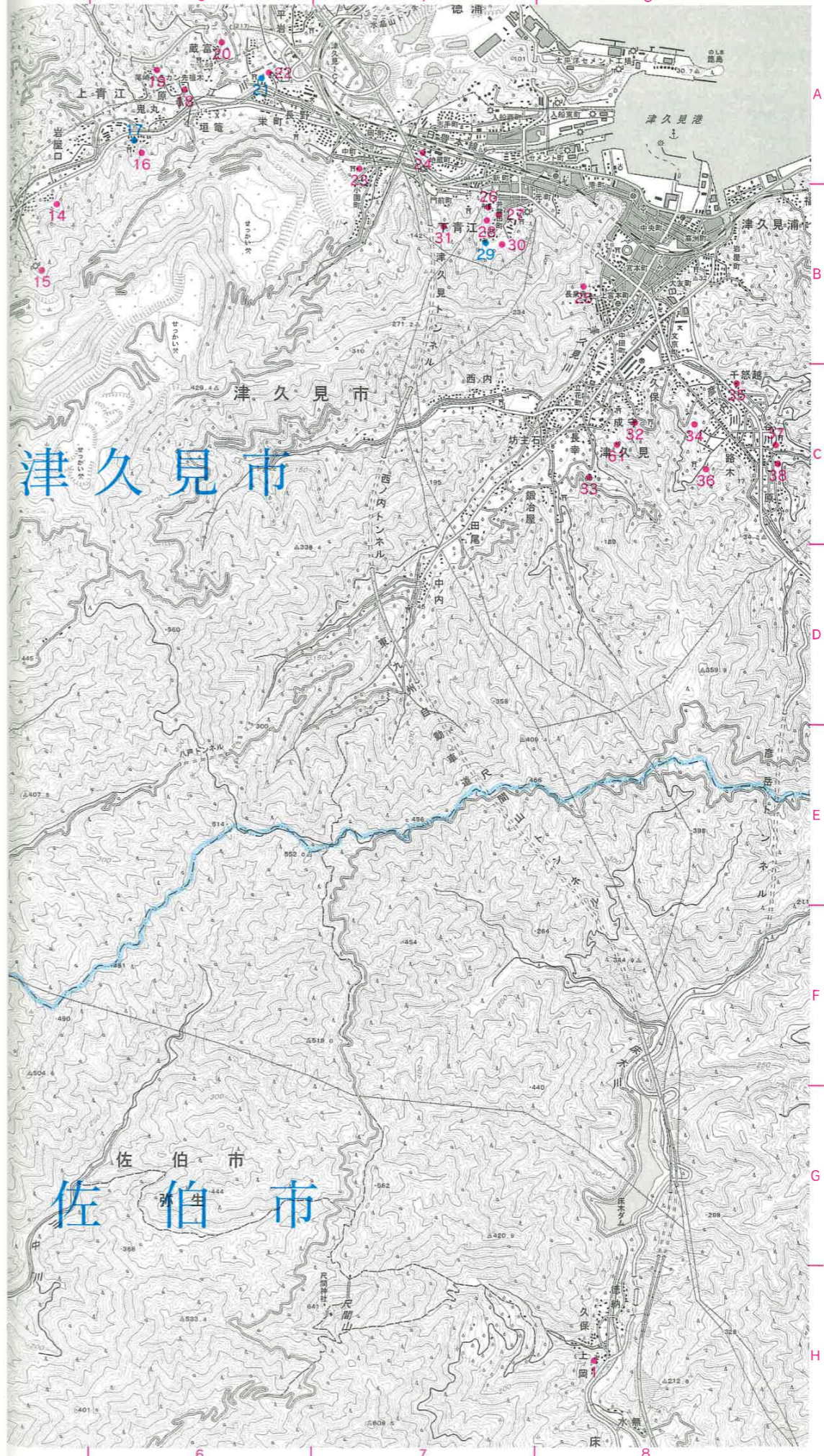
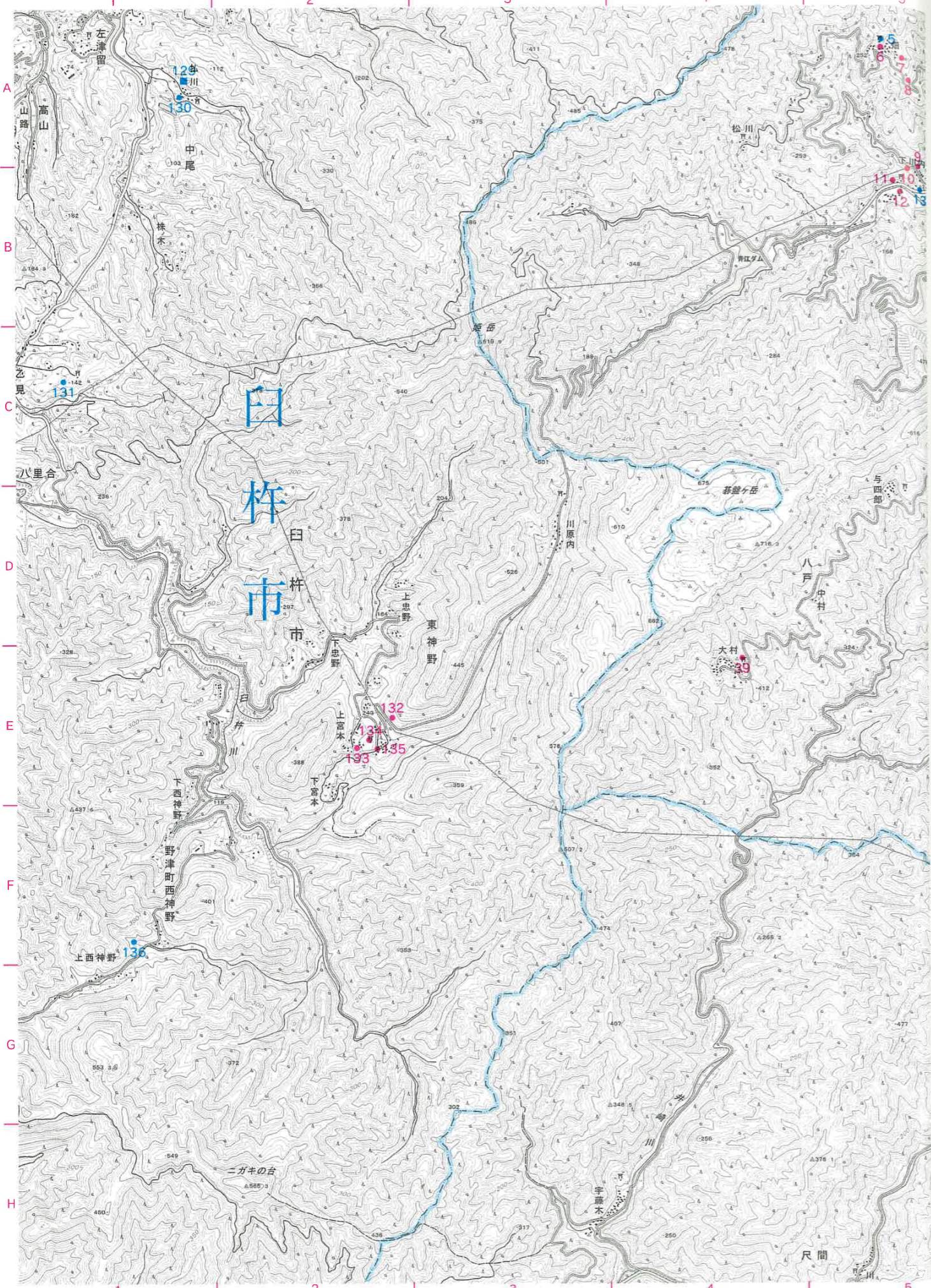
63 田中

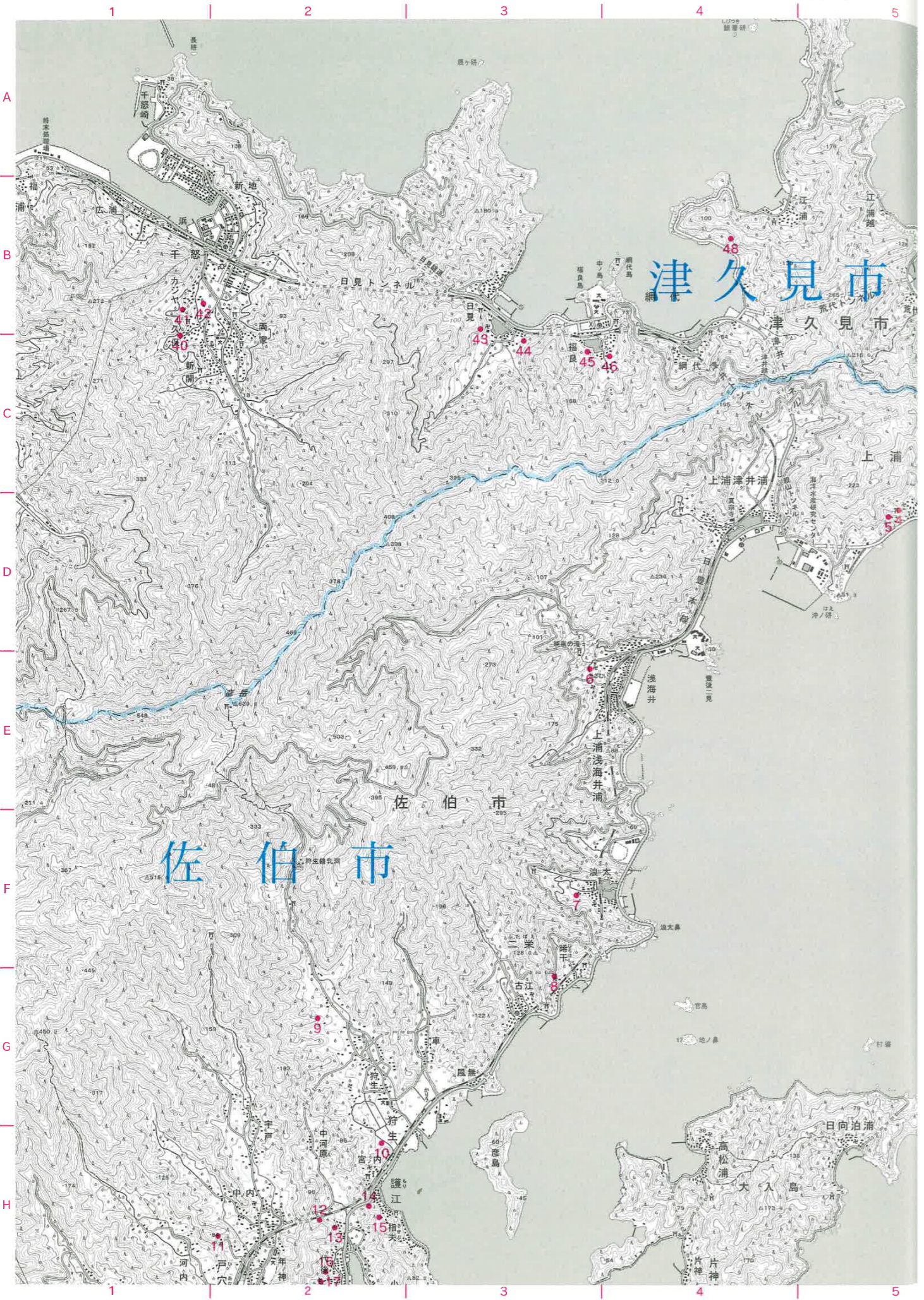


65 津久見

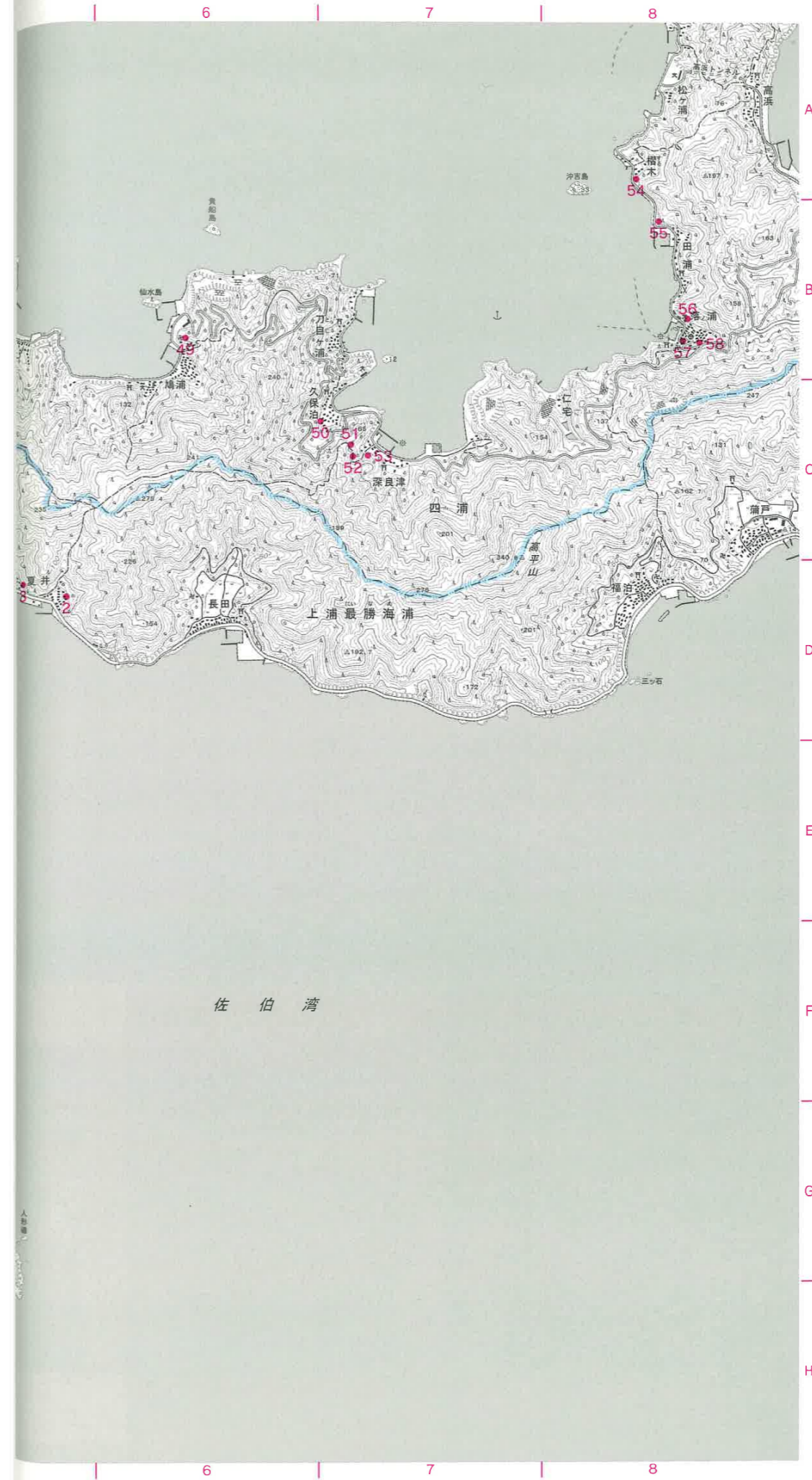
54 野津原	55 戸次本町	56 白竹
63 田中	64 犬飼	65 津久見
71 三重町	72 佩楯山	73 俣松







65 津久見



67 保戸島

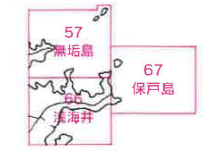
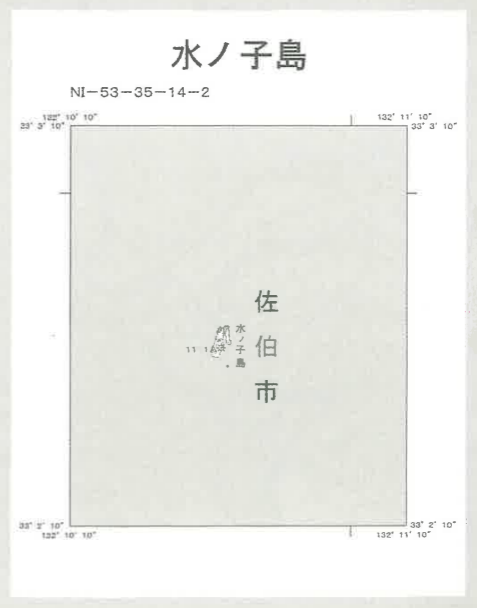
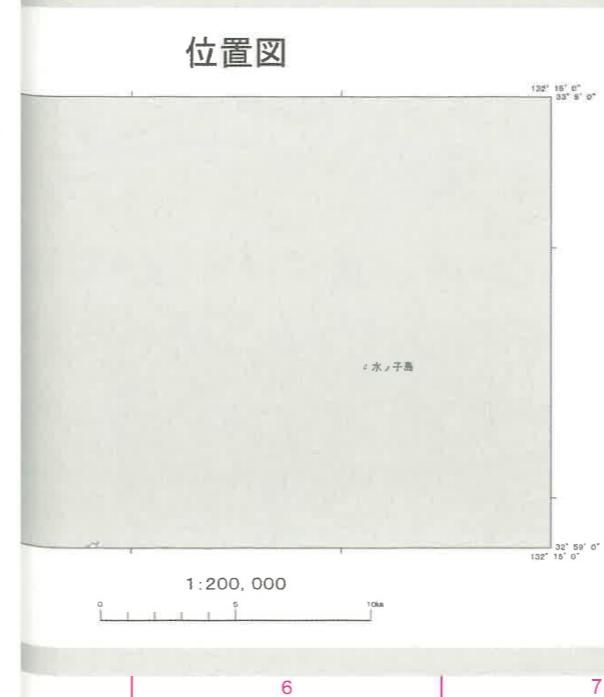


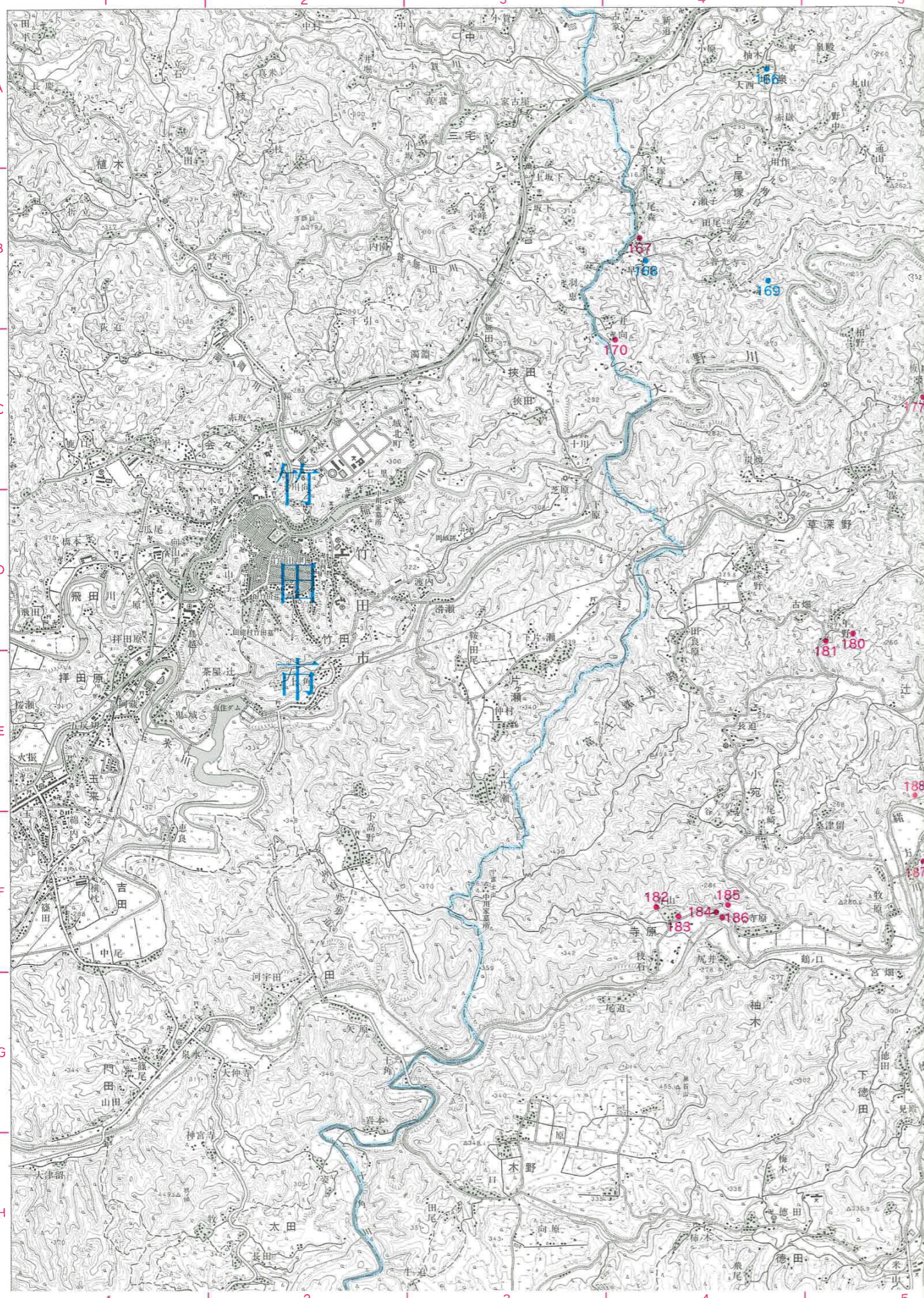
57 無垢島

66 浅海井



6 7 8





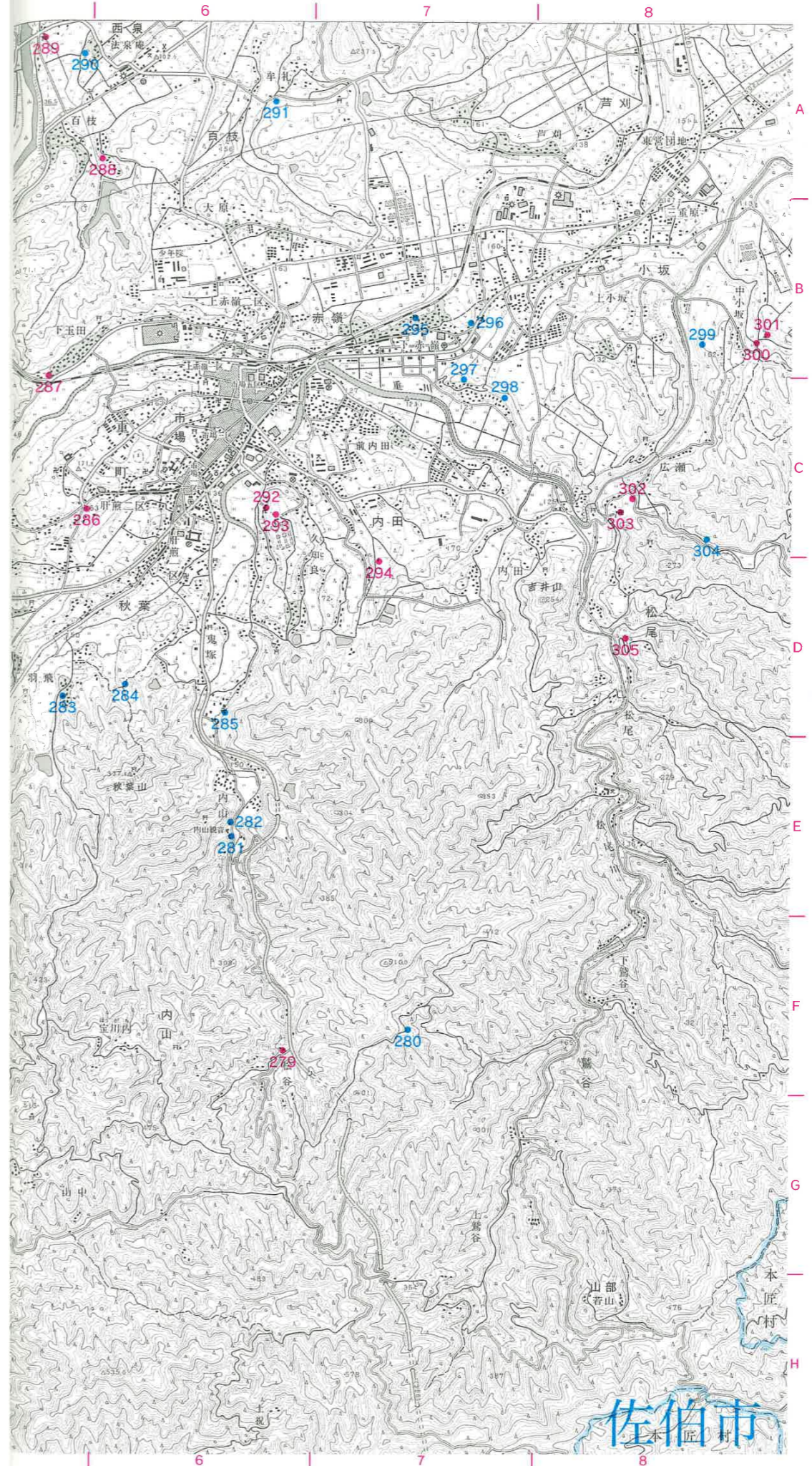
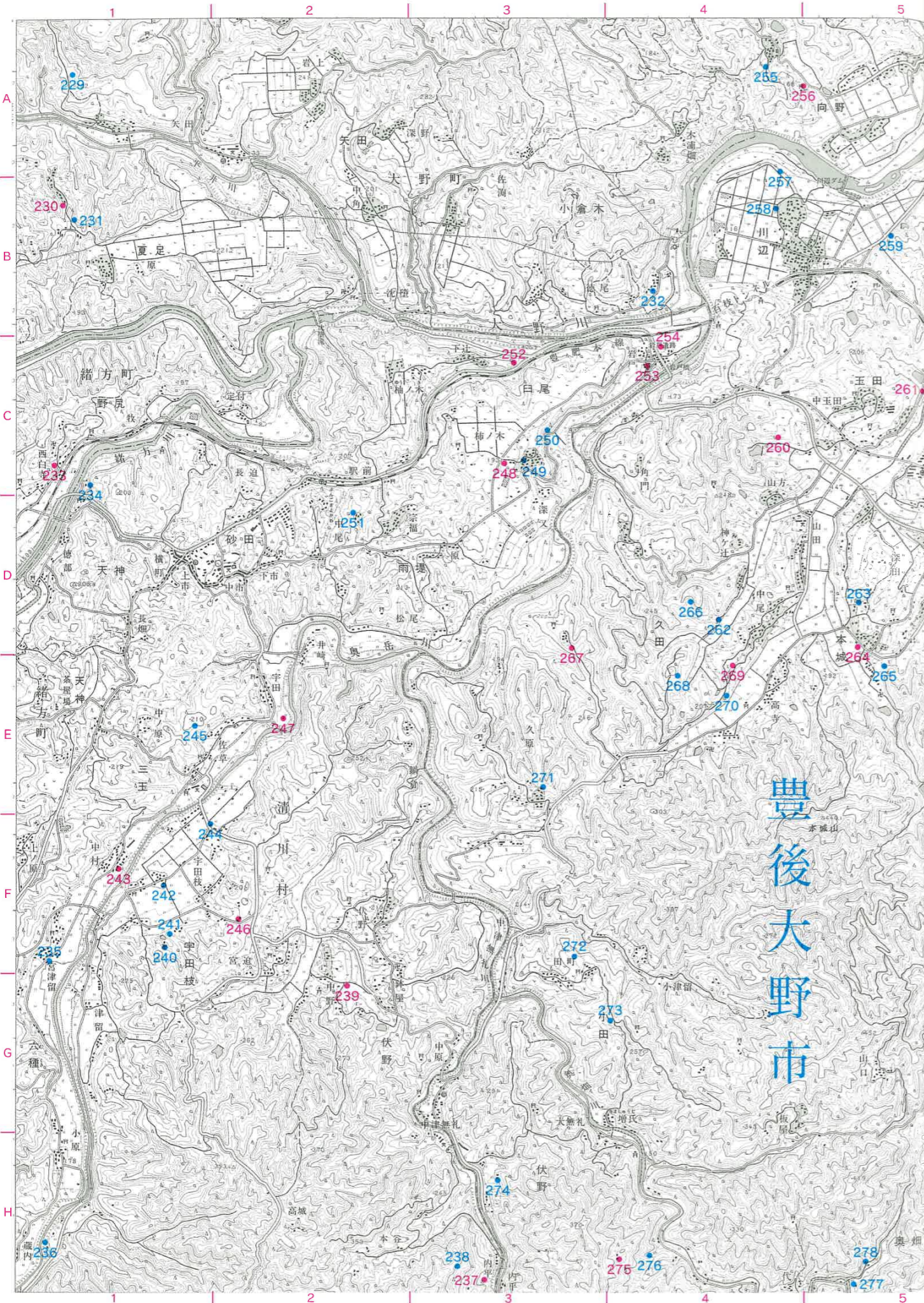
69 桜町



71 三重町

61 久住	62 朝地	63 田中
69 桜町	70 竹田	71 三重町
76 豊後柏原	77 小原	78 中津留



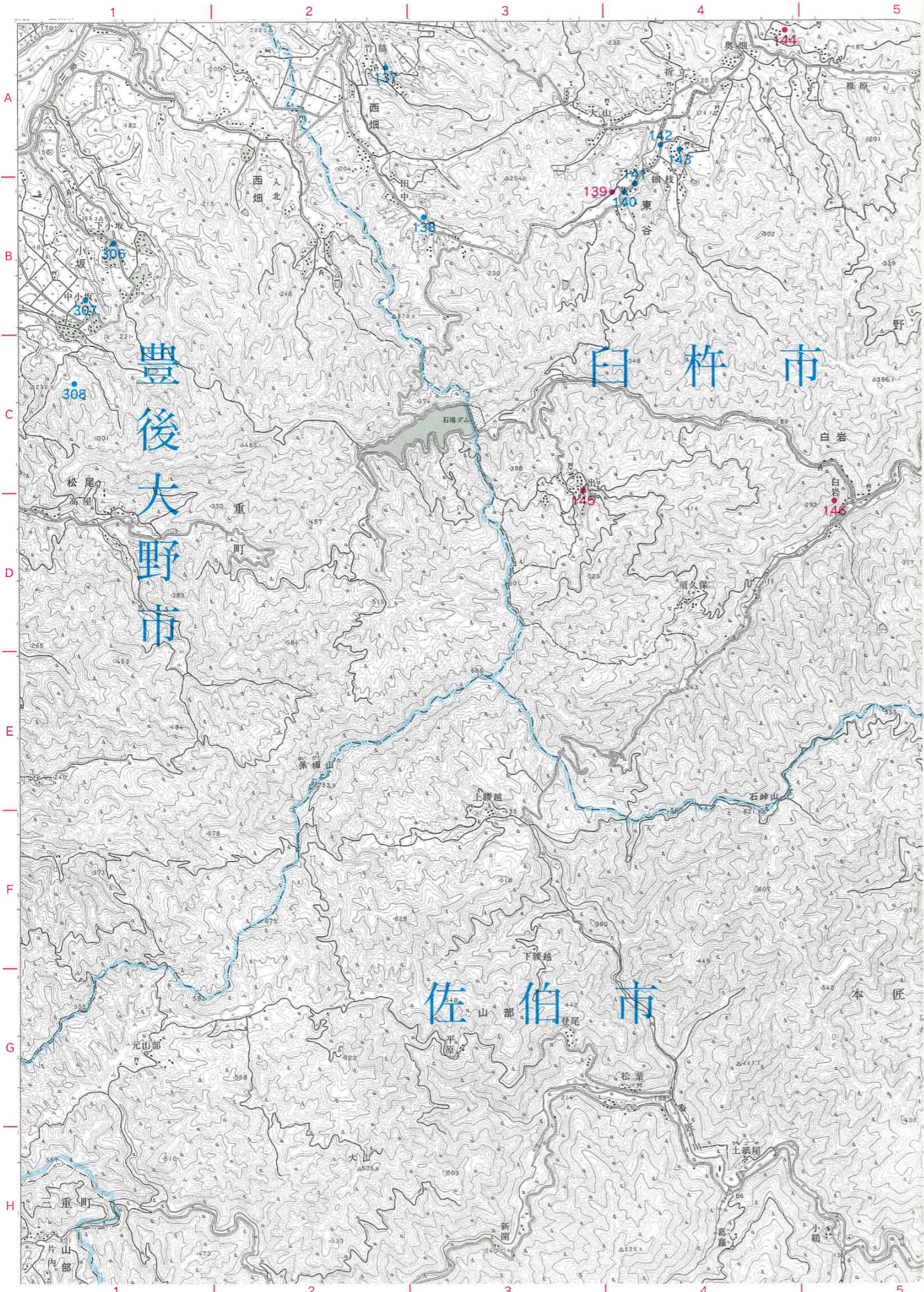


72 佩楯山

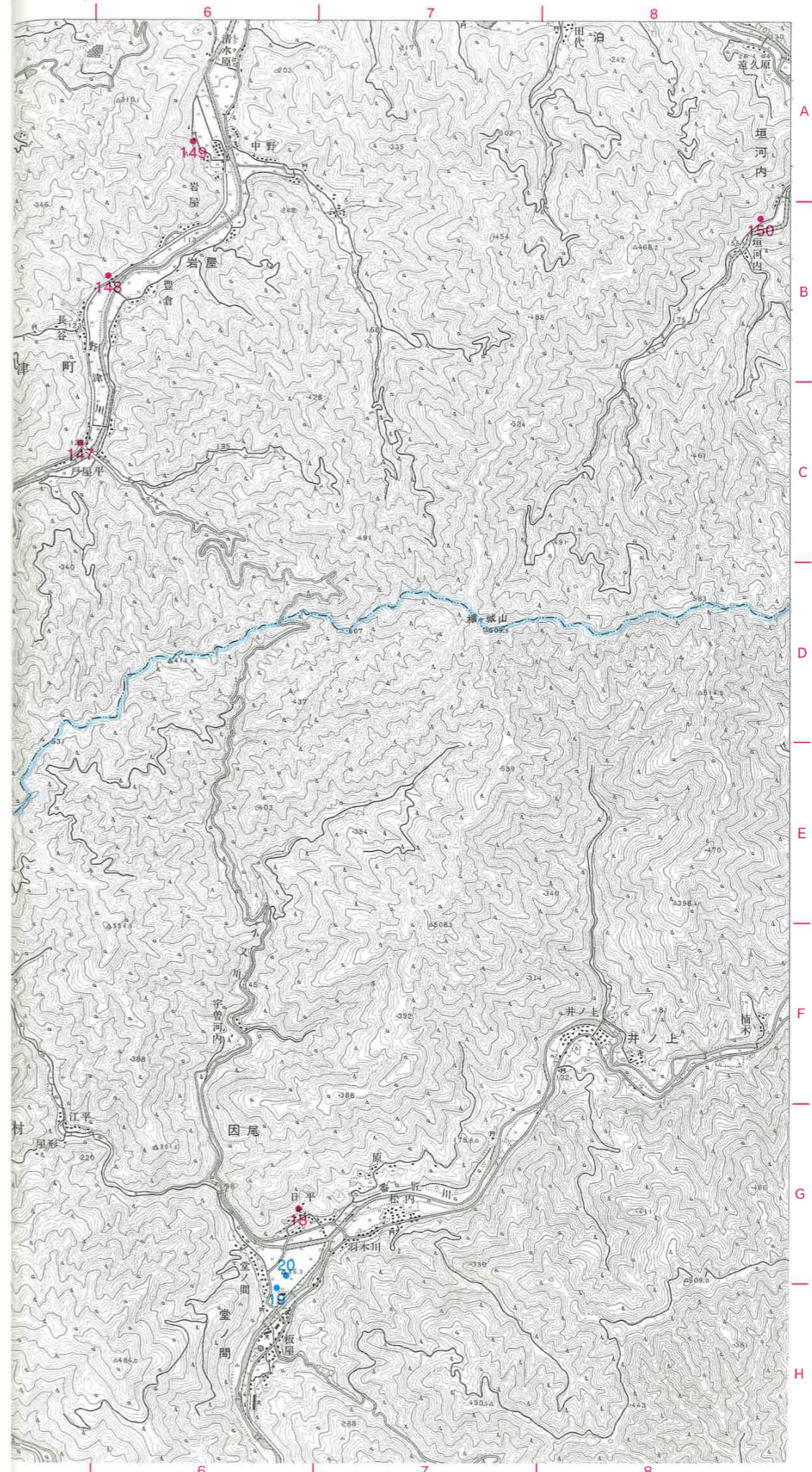
62 朝地	63 田中	64 大鶴
70 竹田	71 三重町	72 佩楯山
77 小原	78 中津留	79 千歳



70 竹田



71 三重町



73 植松

63 田井	64 犬飼	65 滝久見
71 三重町	72 佩楯山	73 植松
78 中澤留	79 千束	80 上直見

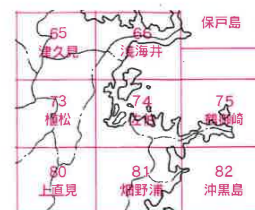


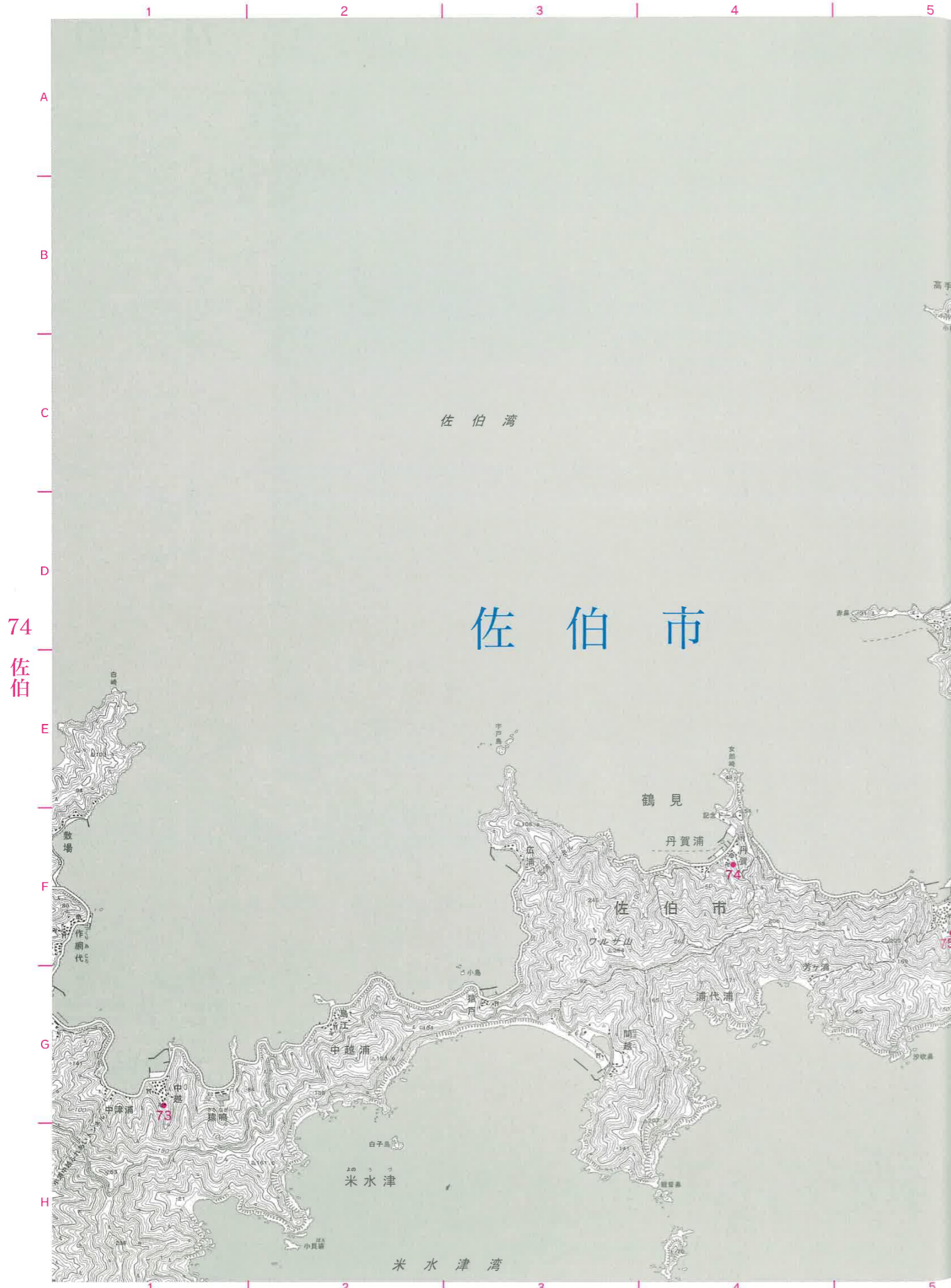


73 植松

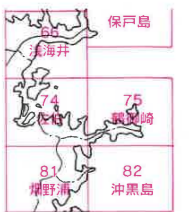
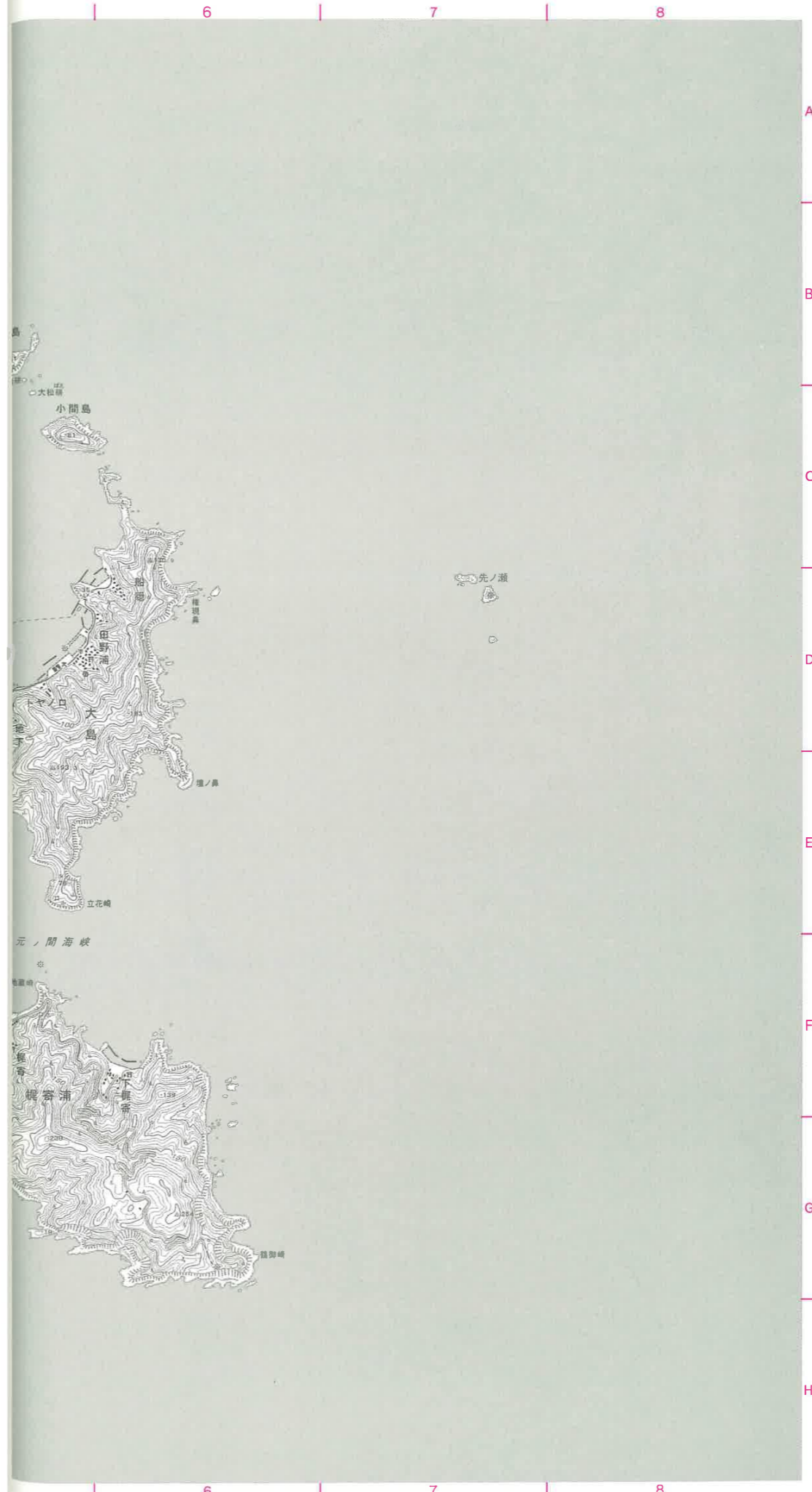


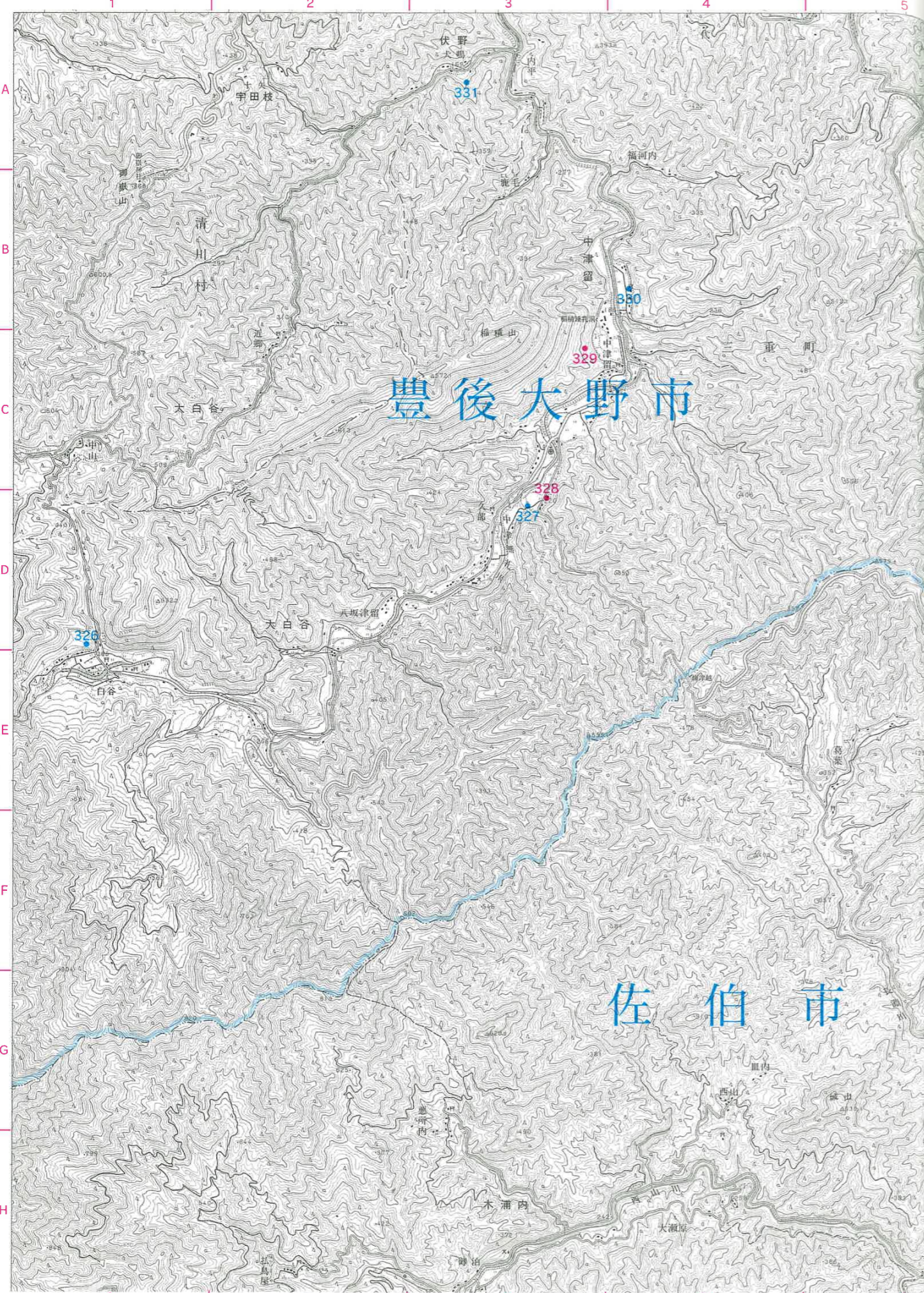
75 鶴見崎





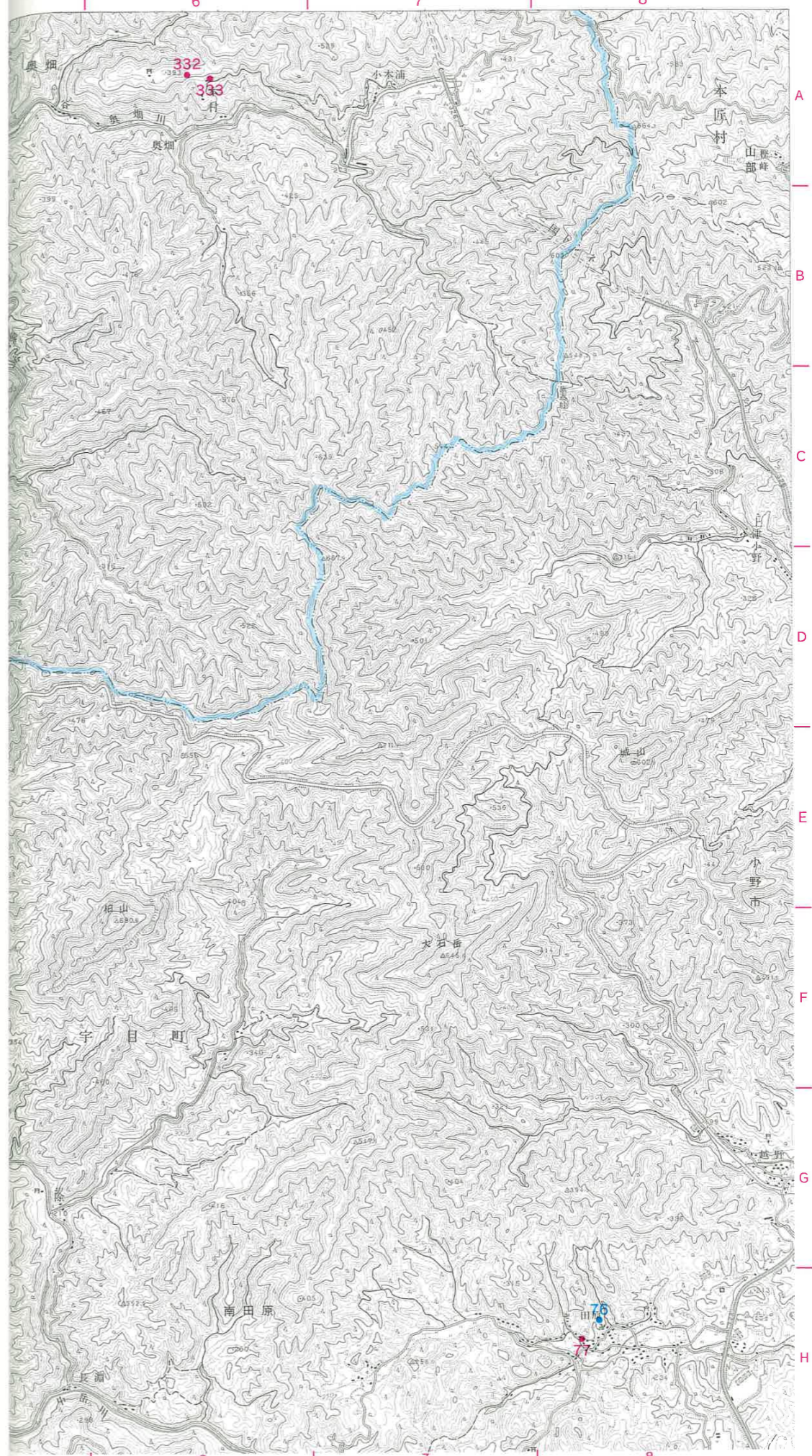
74 佐伯





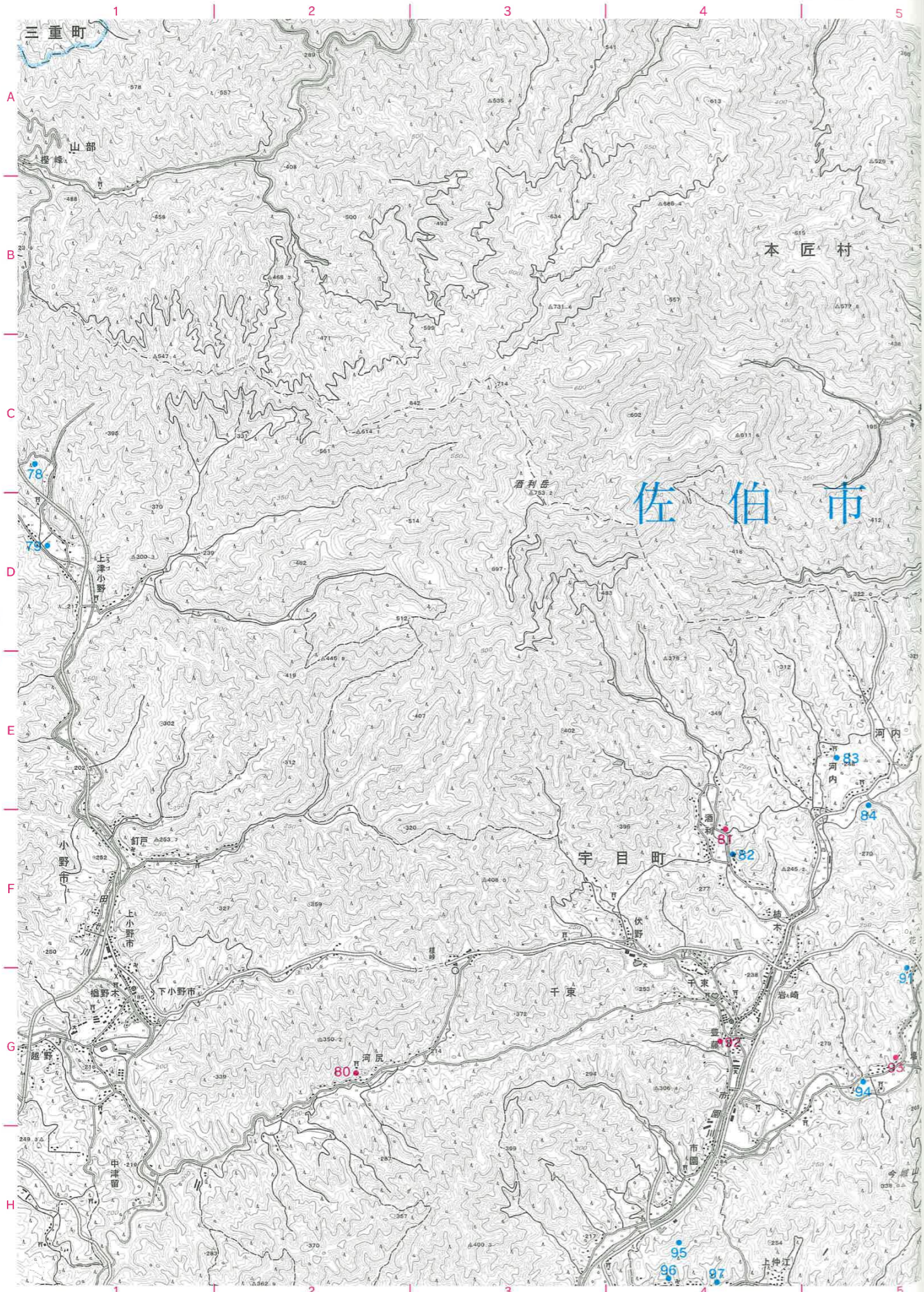
豊後大野市

佐伯市

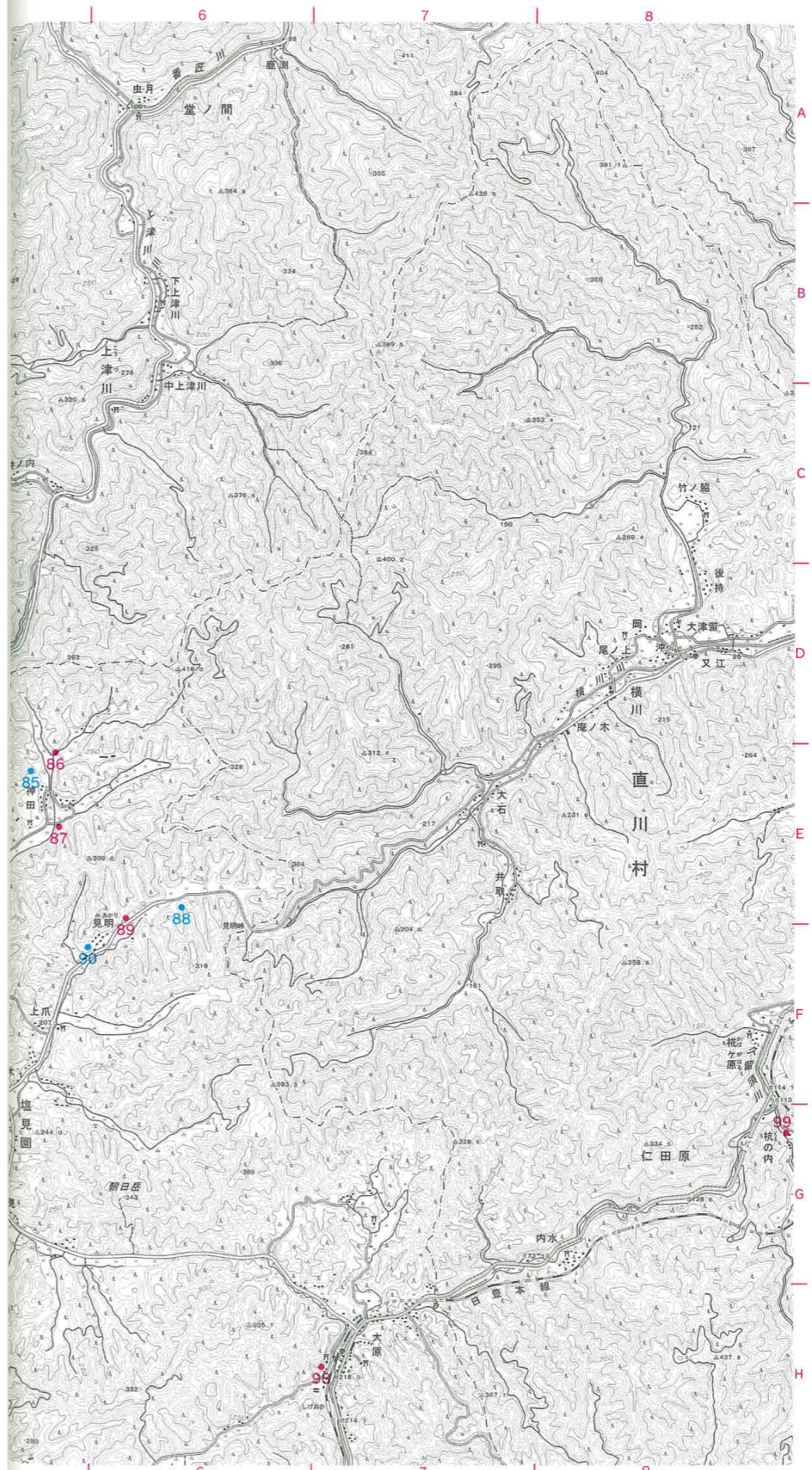


70 竹田	71 三重町	72 鬼橋山
77 小原	78 中津留	79 千束
84 見立	85 木浦鉾山	86 豊河





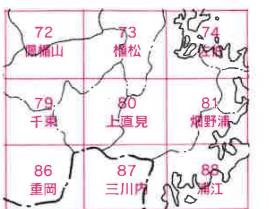
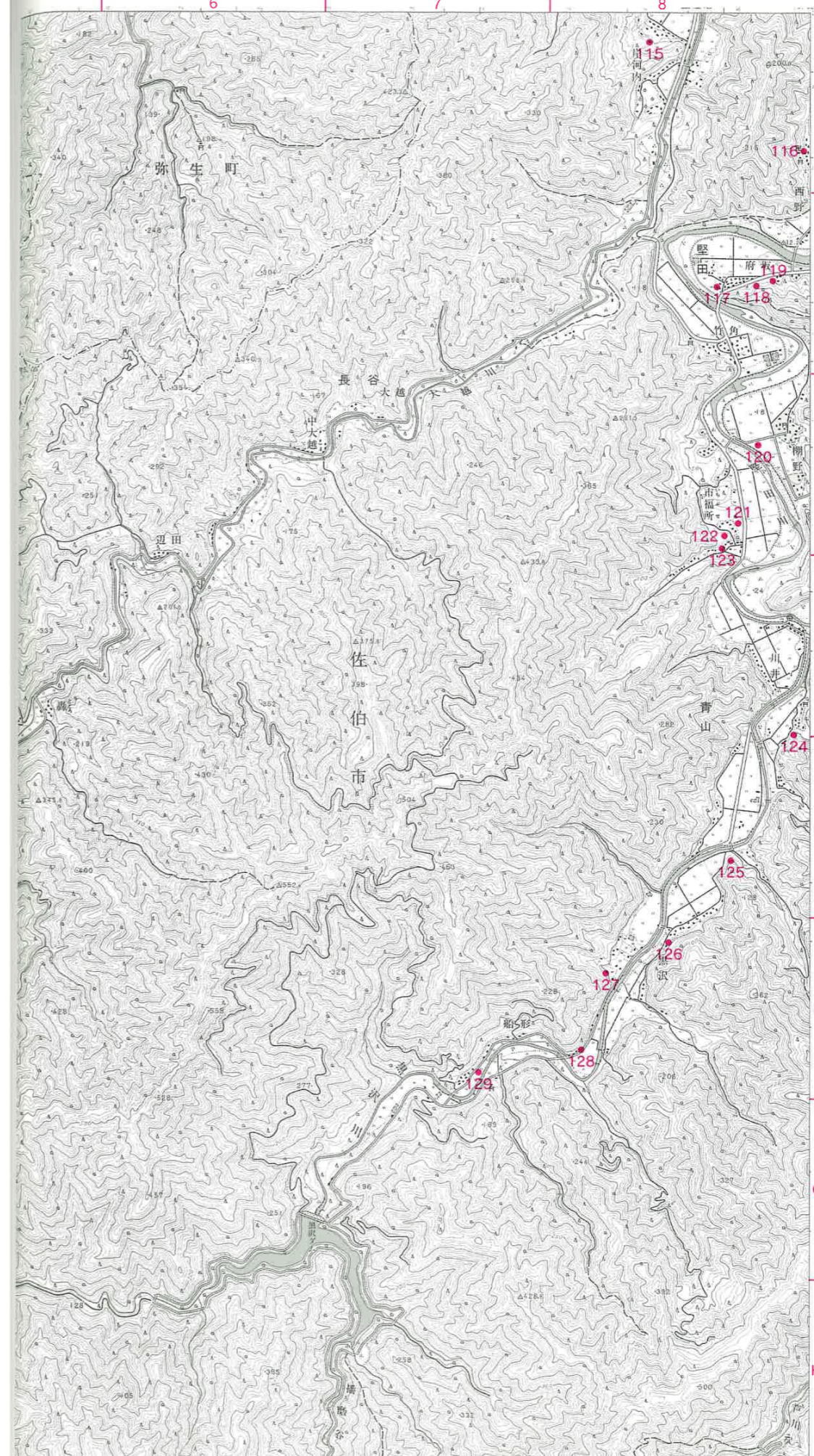
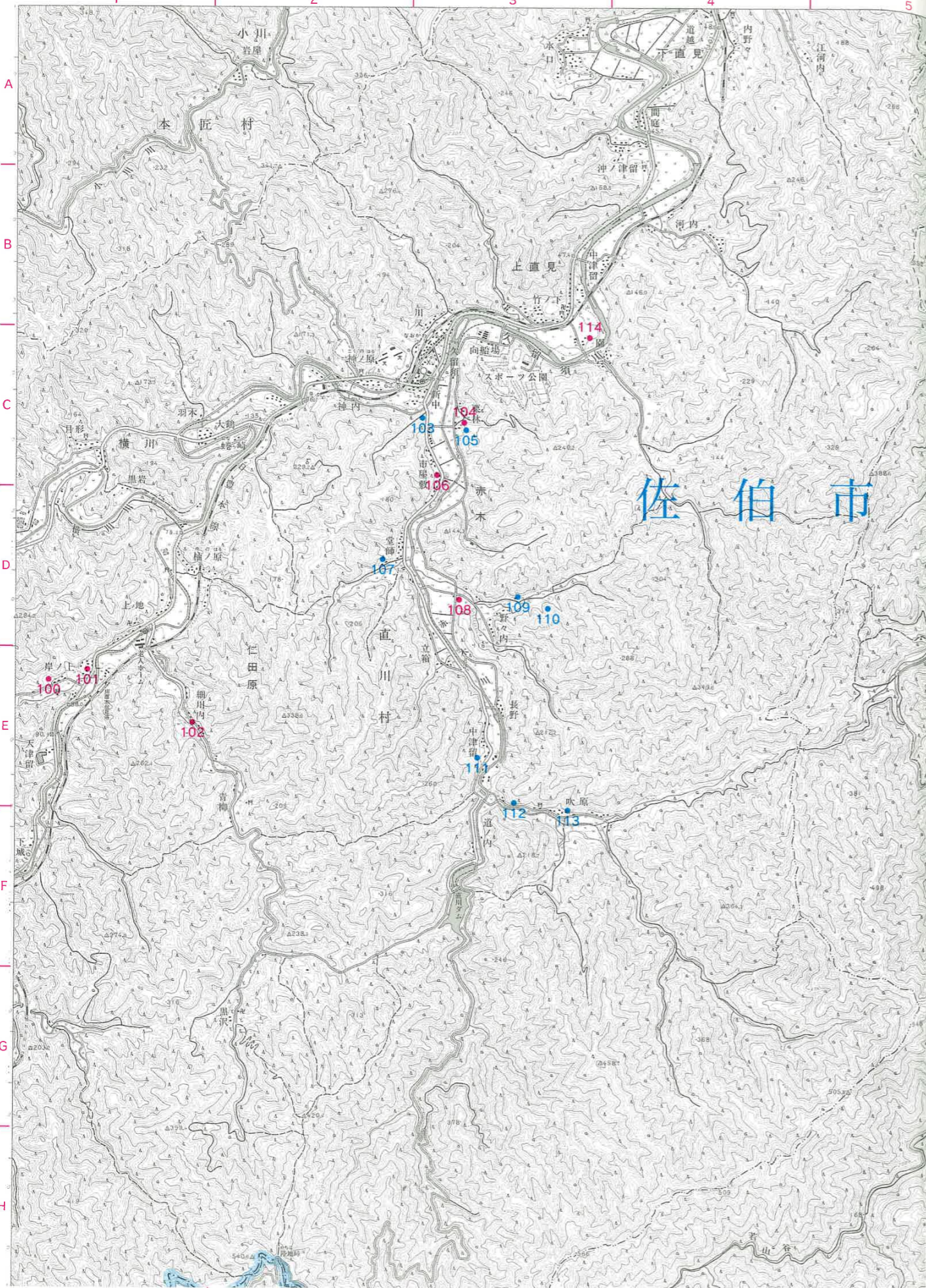
78 中津留



80 上直見

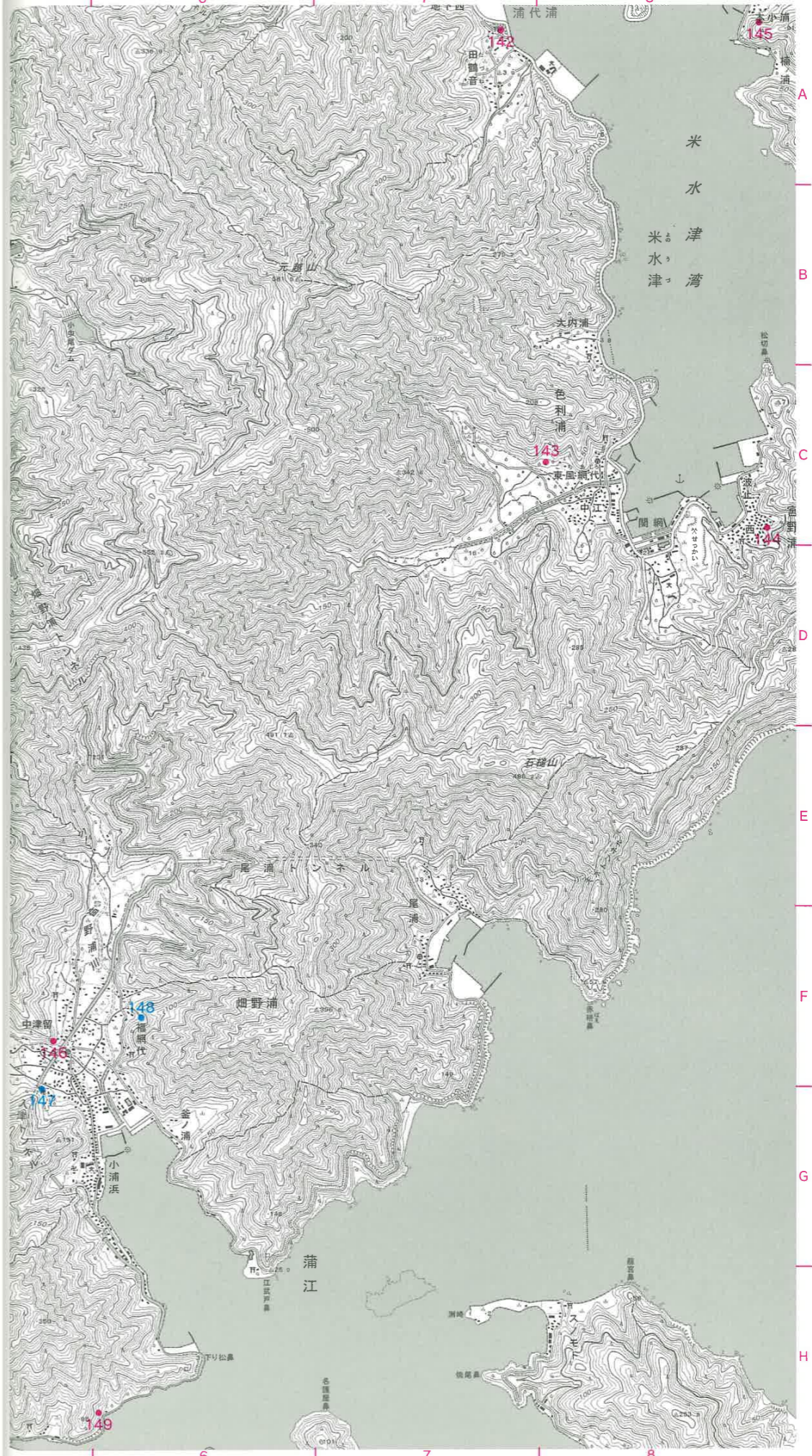
71 三重町	72 佩楯山	73 板松
78 中津留	79 千束	80 上直見
85 木浦山	86 重岡	87 三川内



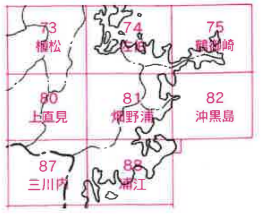


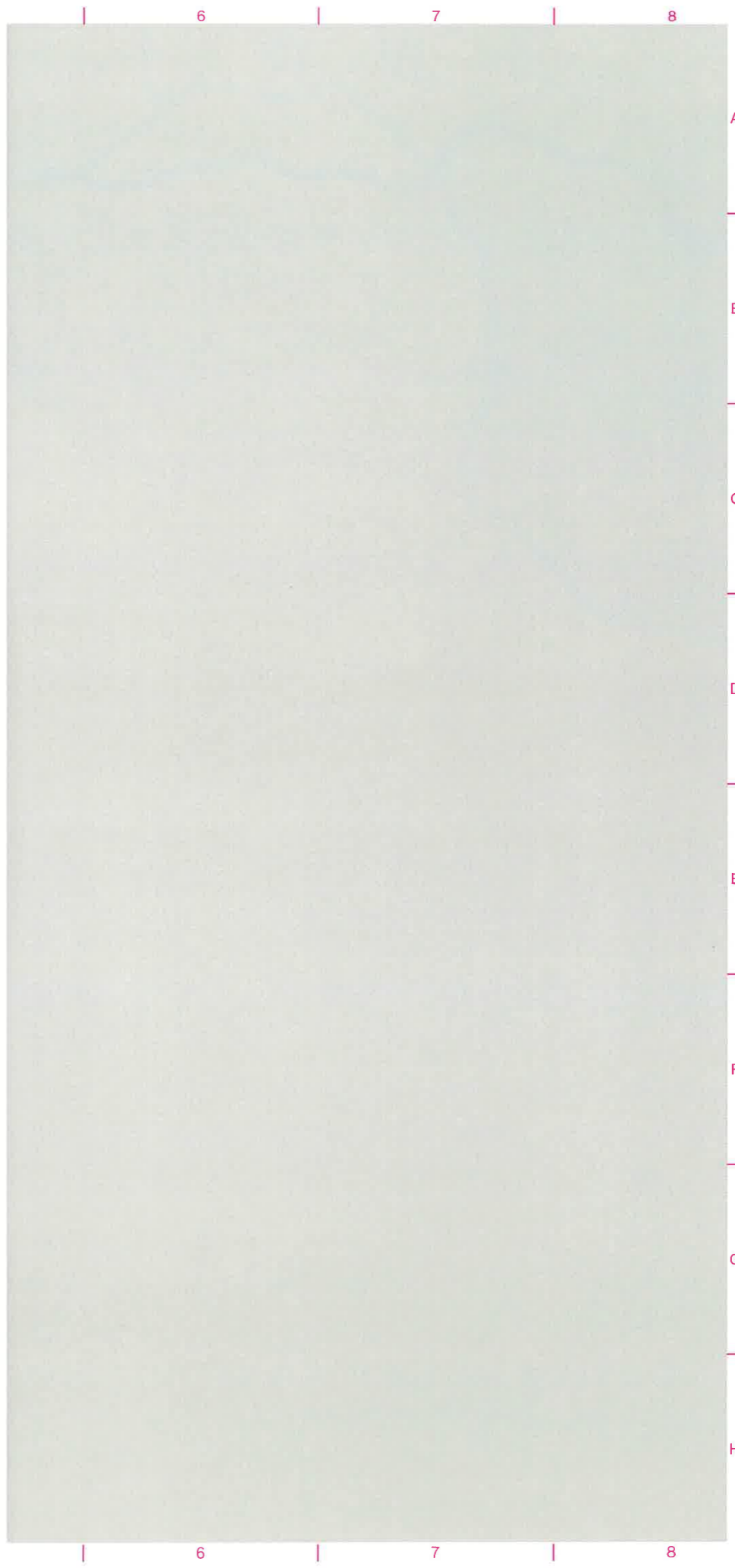
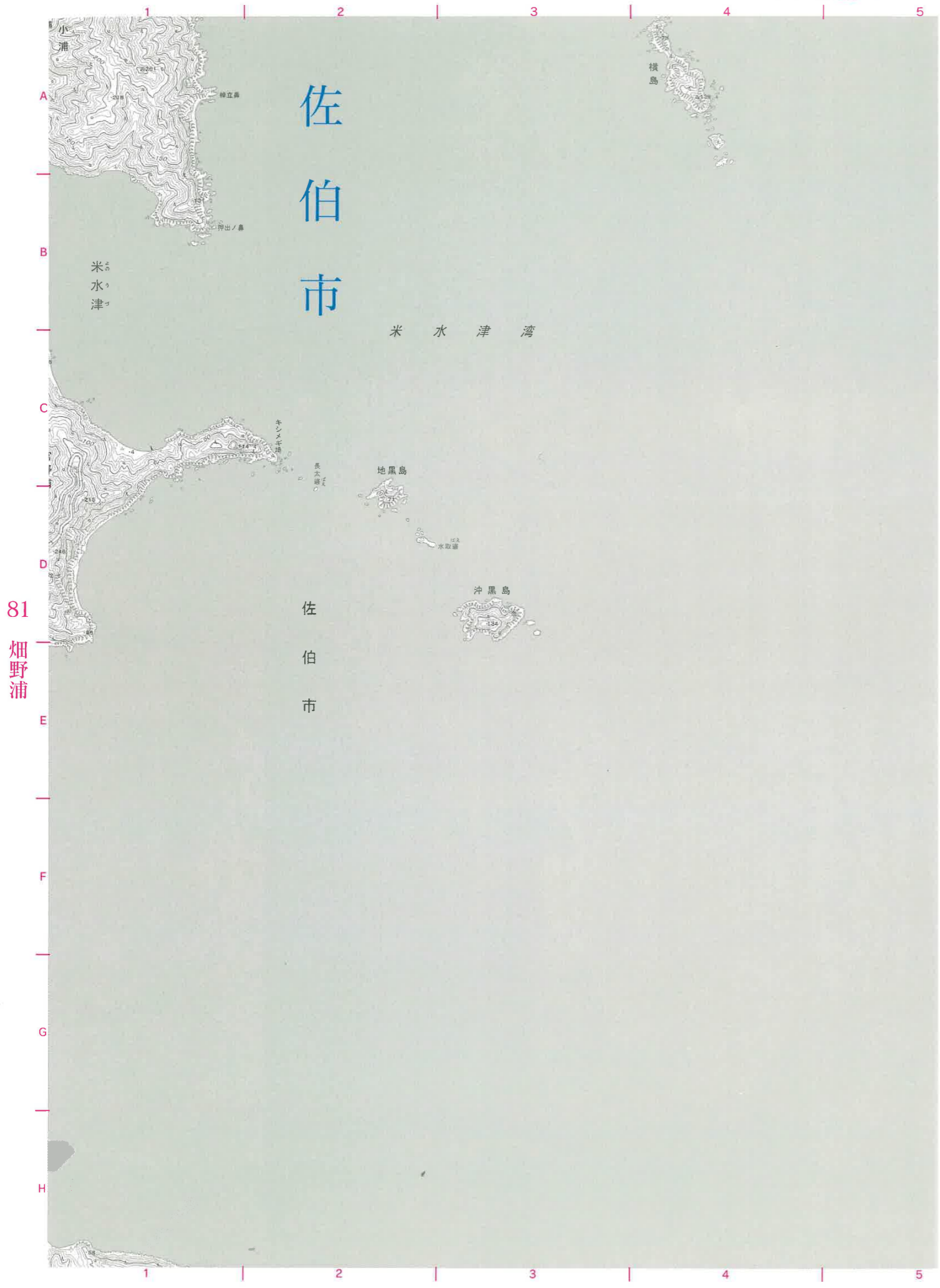


80 上直見



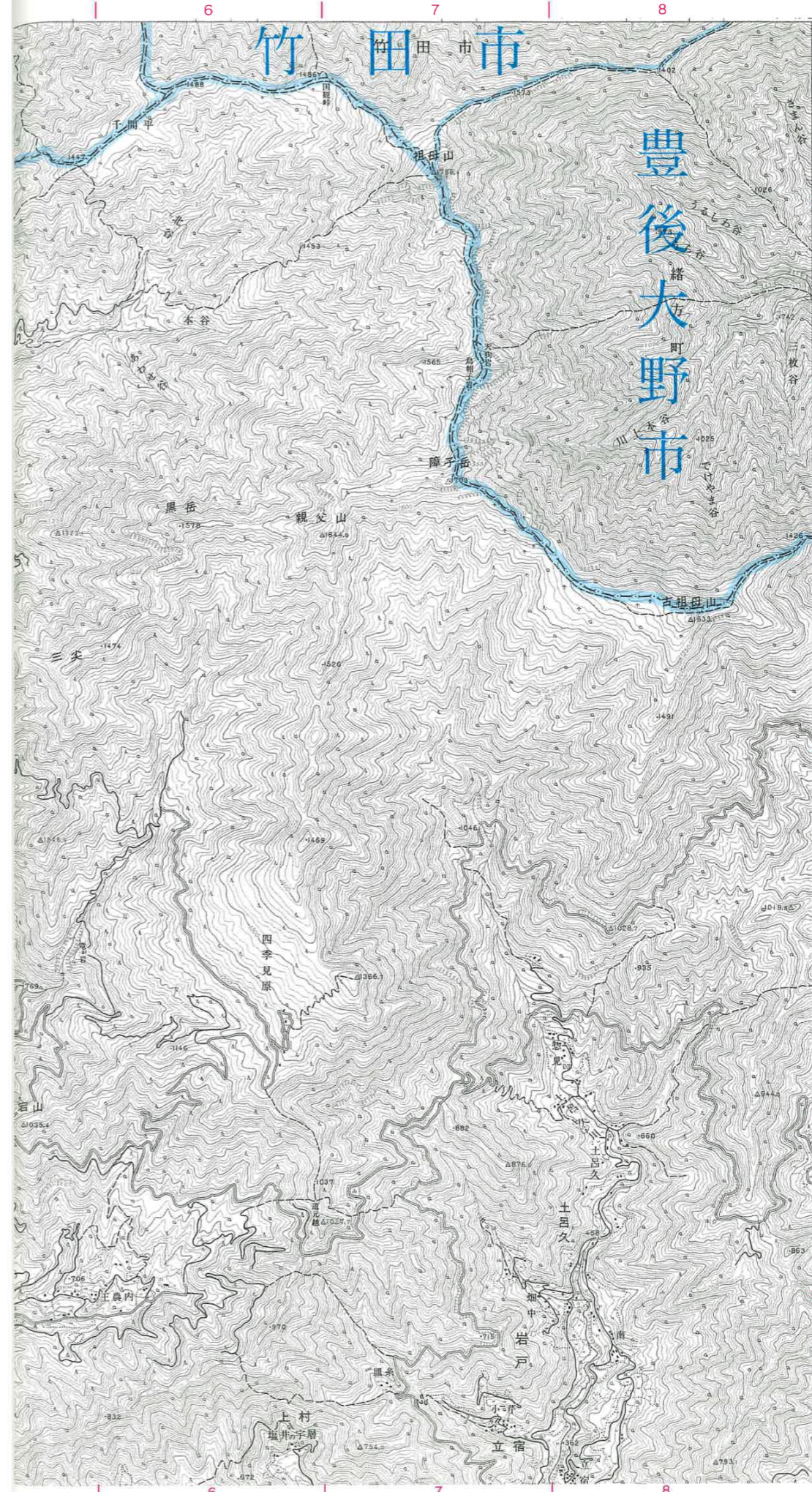
82 沖黒島





81 畑野浦





76 豊後柏原	77 小原
83 祖母山	84 見立





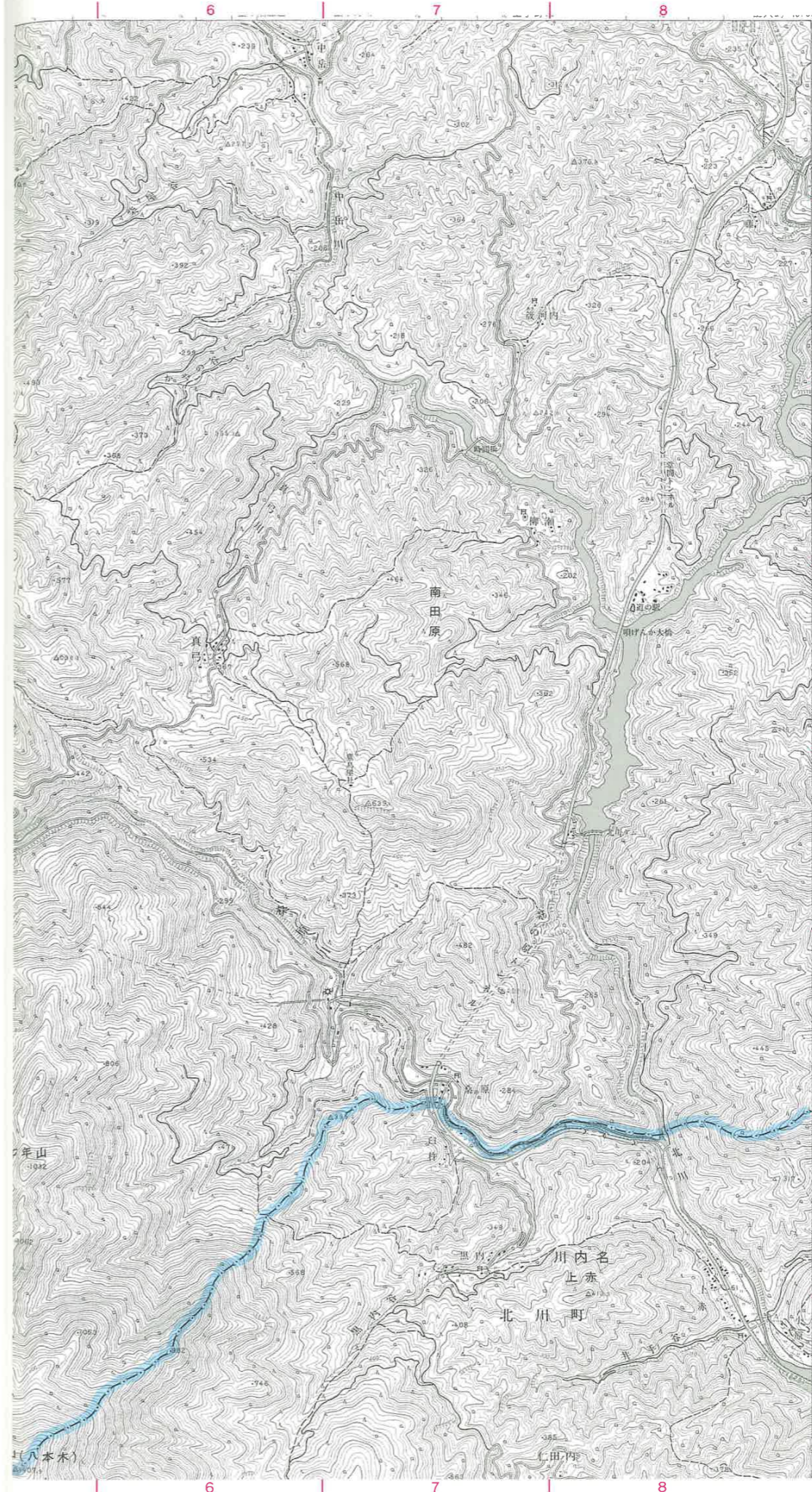
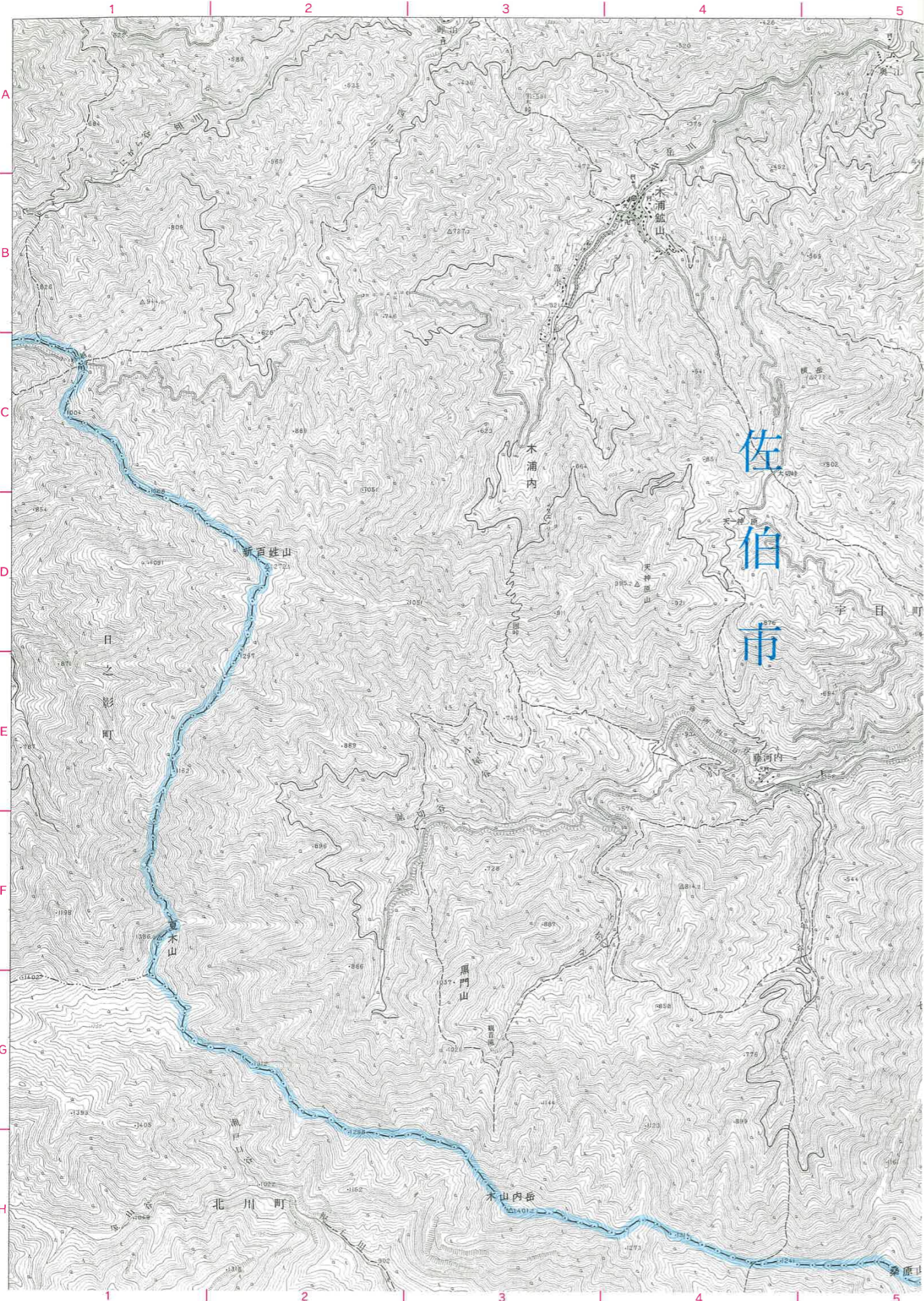
83 祖母山



85 木浦鉾山

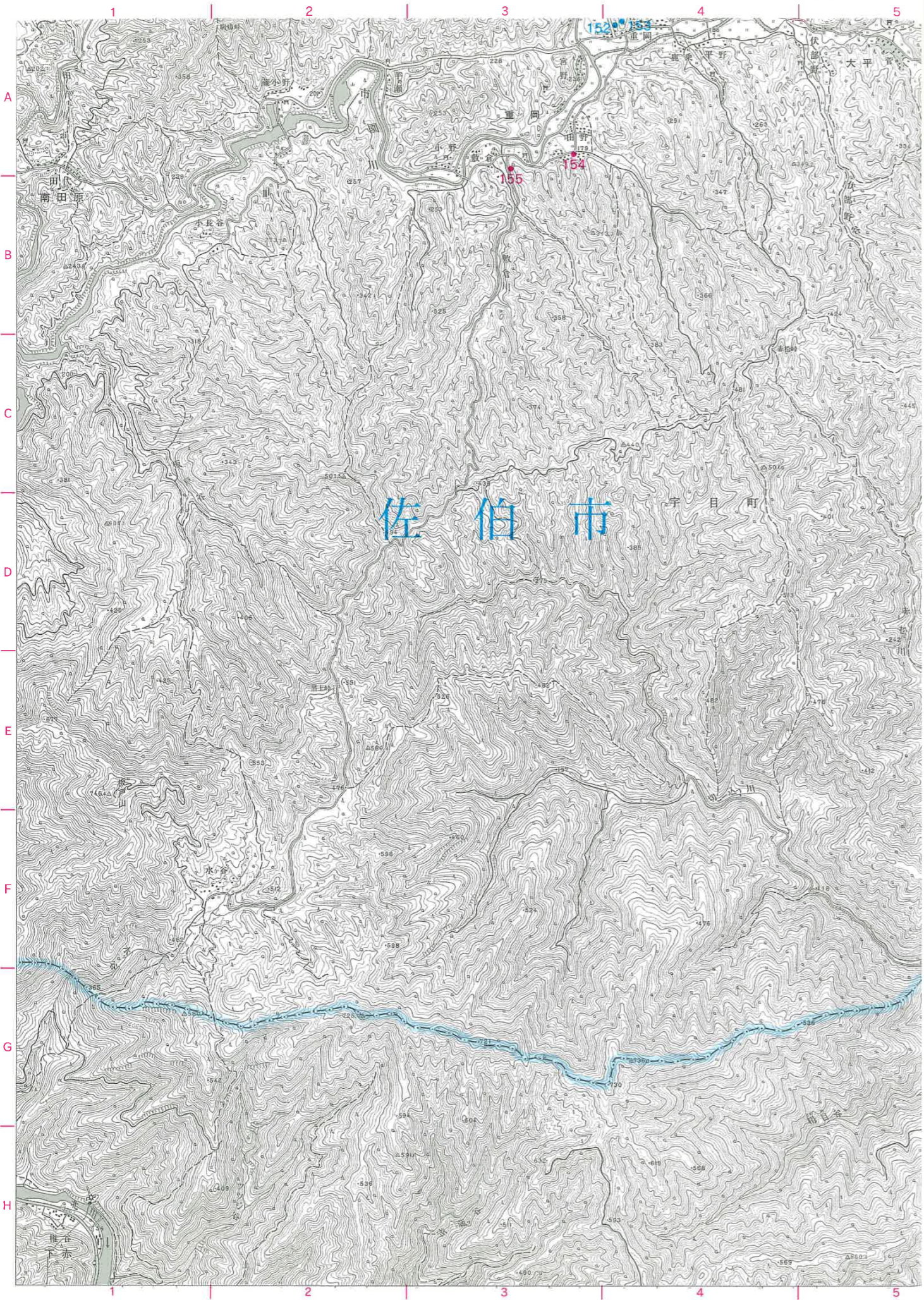
76 豊後柏原	77 小原	78 中津留
83 祖母山	84 見立	85 木浦鉾山

0 1500m

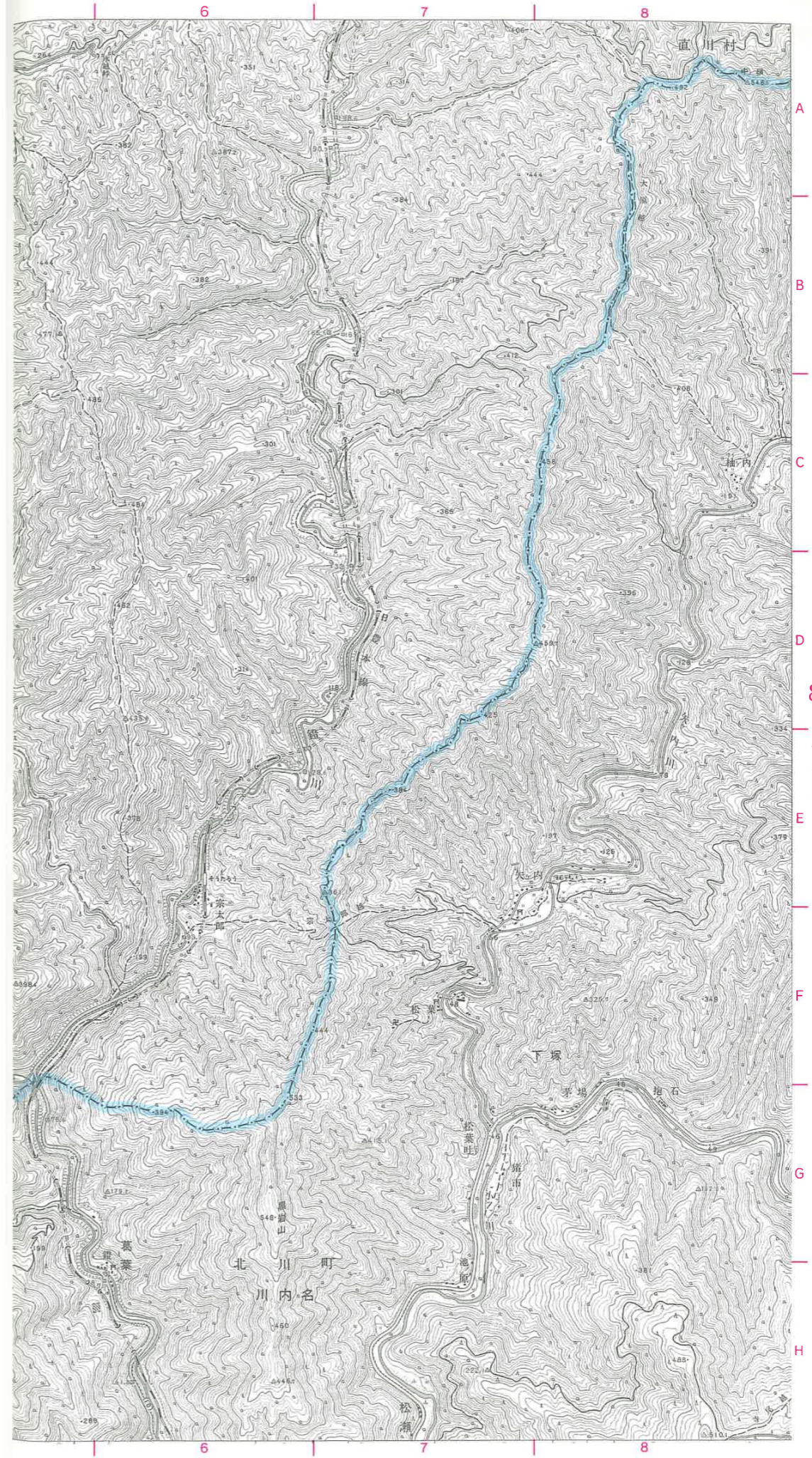


77 小原	78 中津留	79 千桑
84 見立	85 木浦鉾山	86 重岡



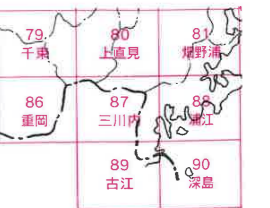
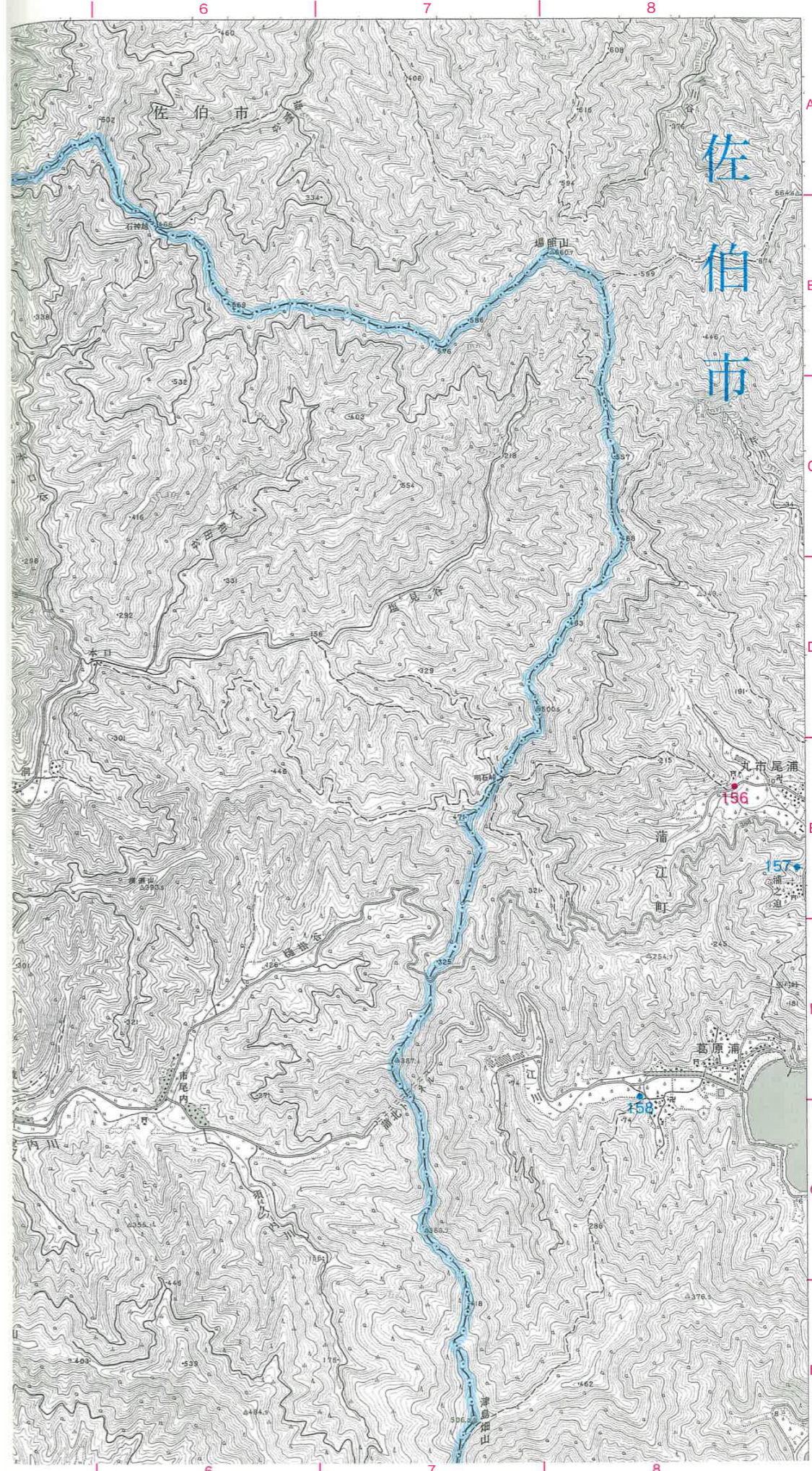


85 木浦鉾山



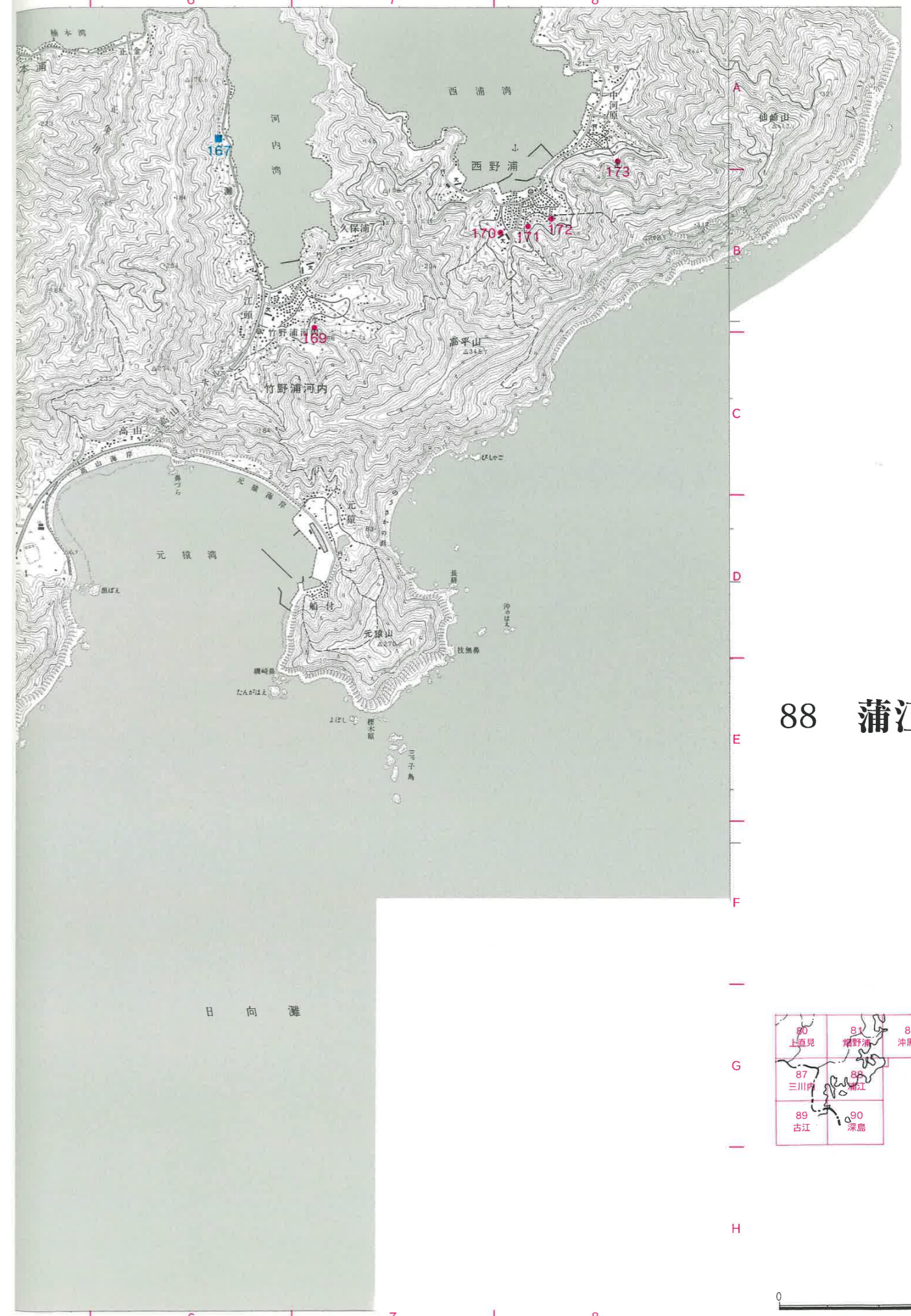
87 三川内

78 中津留	79 千束	80 上直見
85 木浦鉾山	86 重岡	87 三川内
		89 古江

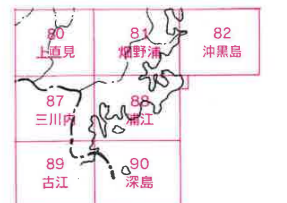


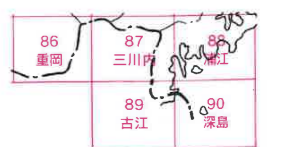
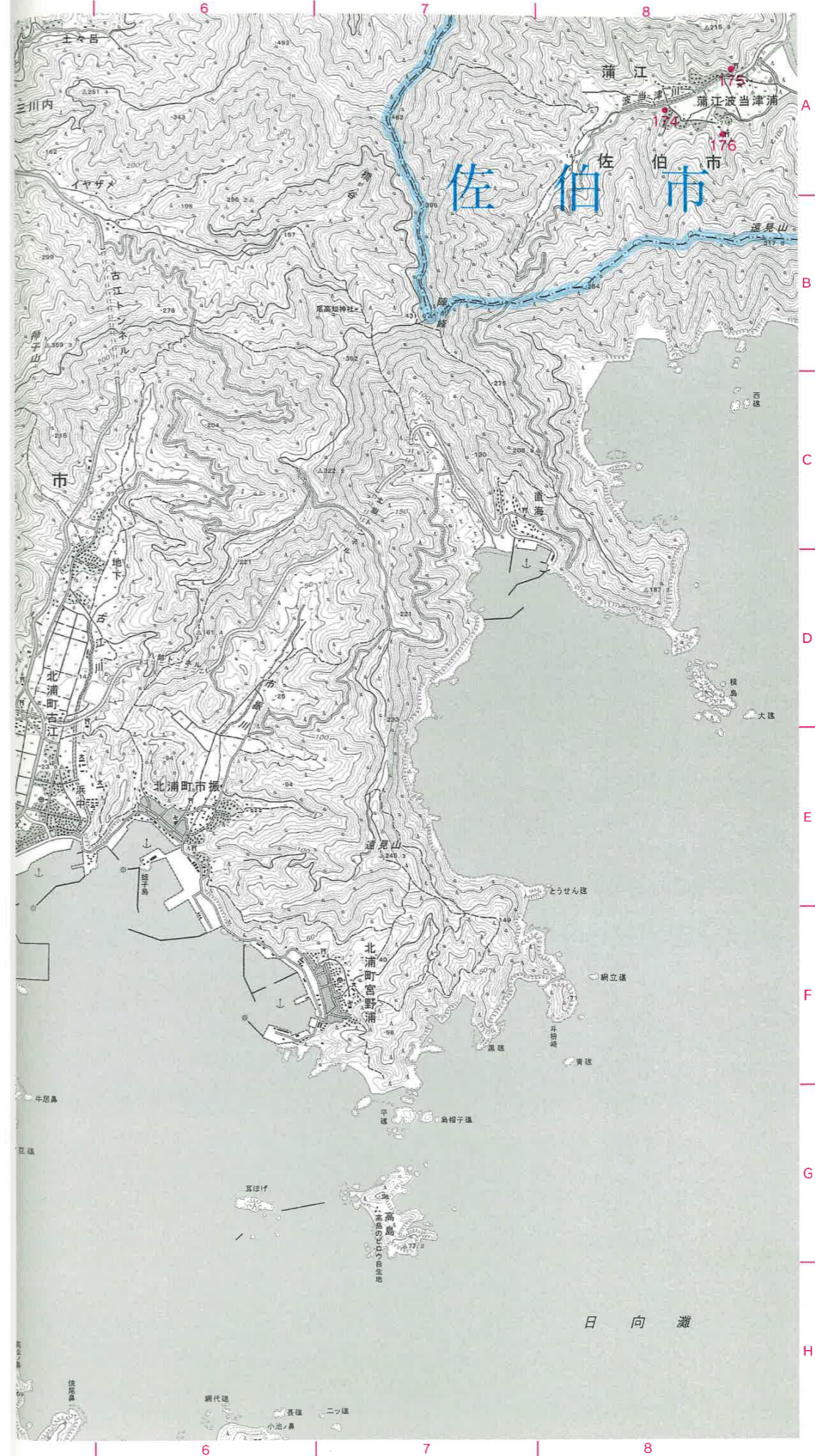
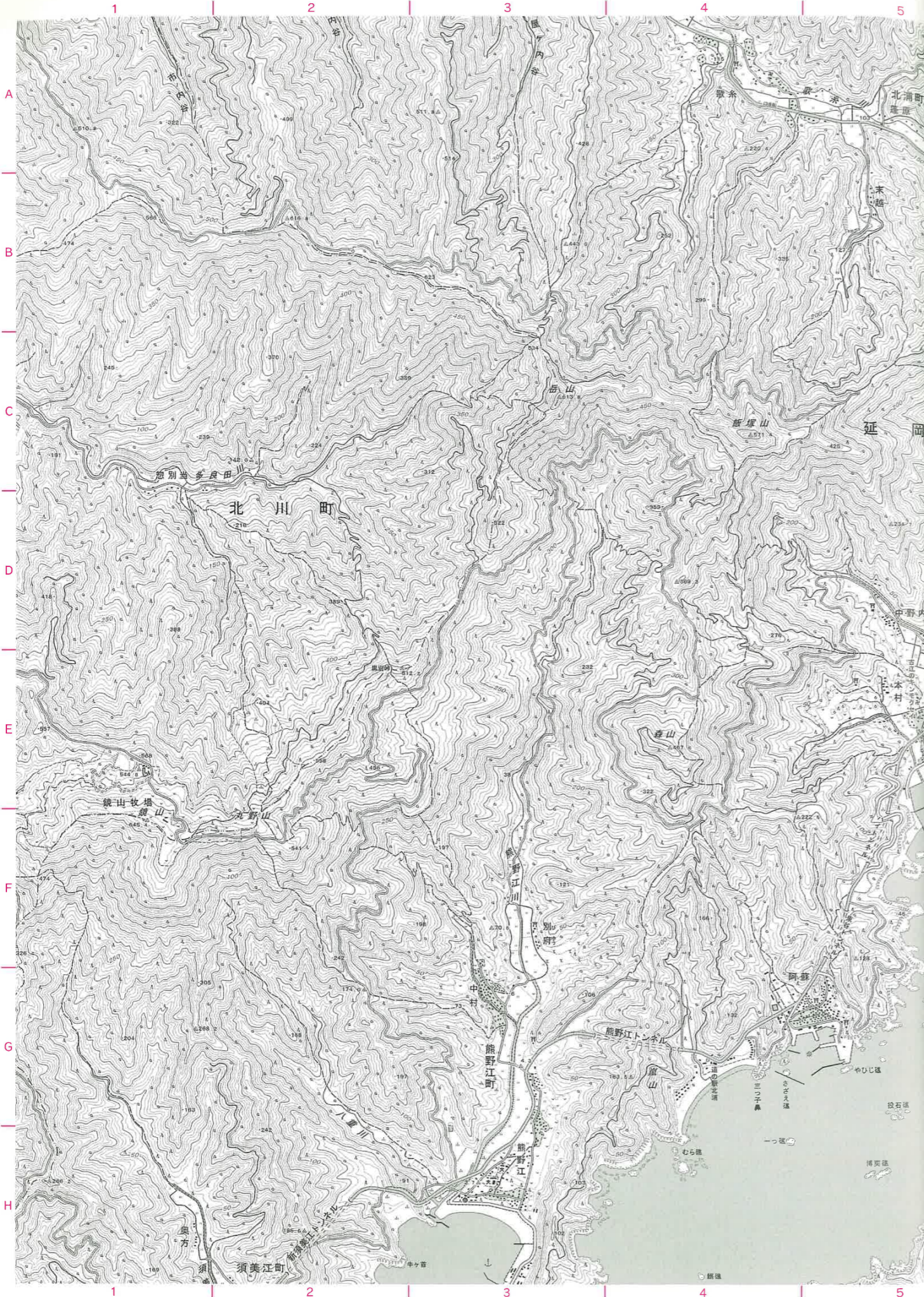


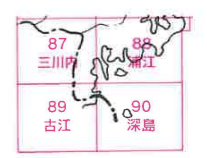
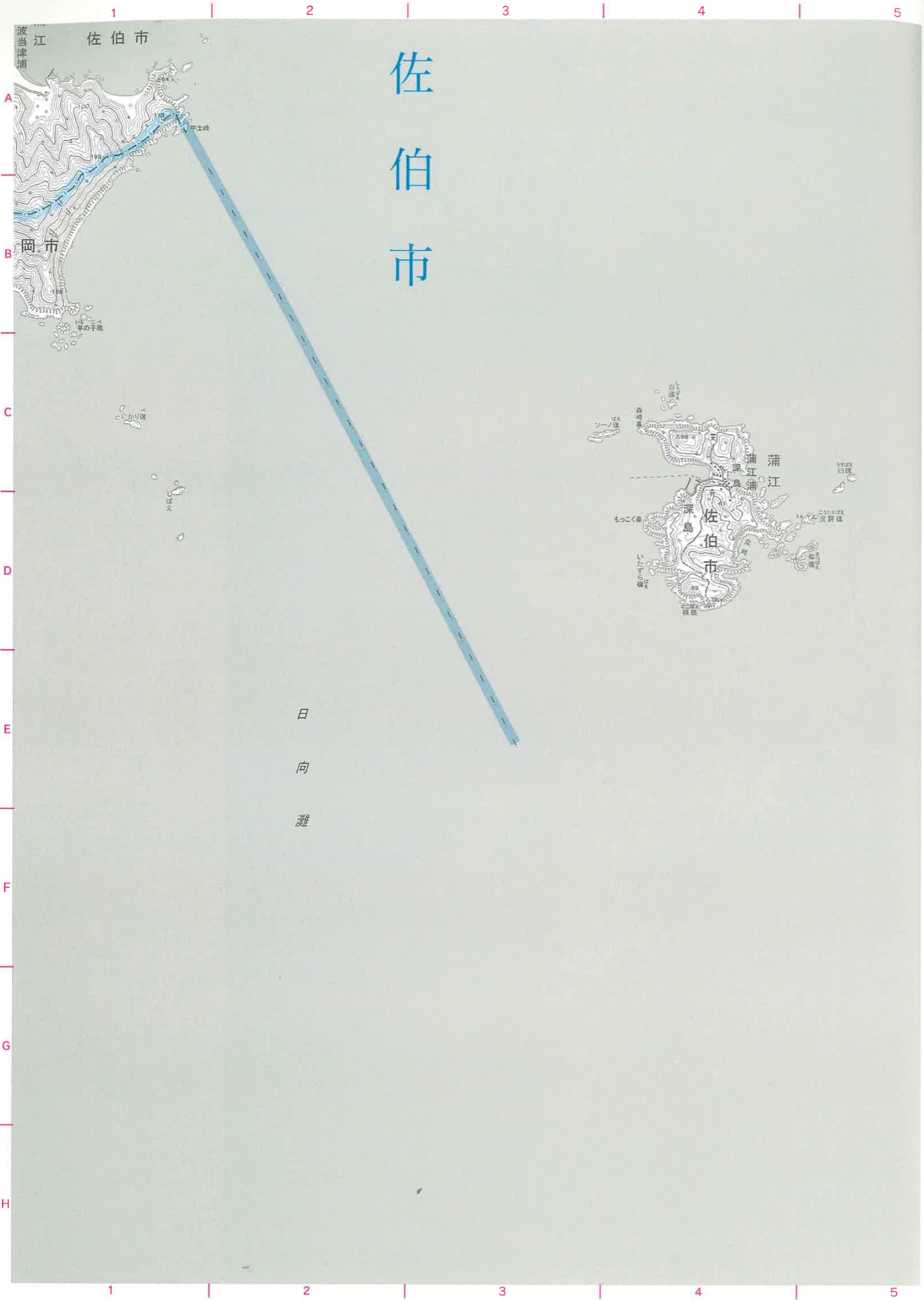
87 三川内



88 蒲江







報告書抄録

ふりがな	おおいたのちゆうせいせきぞういぶつ だい1しゅう ぶんぶず・ちめいひょうへん							
書名	大分の中世石造遺物 第1集 分布図・地名表編 (上)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	小柳和宏・原田昭一・友岡信彦・染矢和徳							
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター							
所在地	〒870-1113 大分市大字中判田1977番地							
発行年月日	2013年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
								大分県古代・古代中世石造遺物分布調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
要約								

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第70集

大分の中世石造遺物

第1集 分布図・地名表編（上）

2013（平成25）年3月29日

発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター
〒870-1113
大分市大字中判田字ビワノ門1977番地
TEL 097-597-5675

印刷 株式会社エポックアート
〒870-0942
大分市羽田984-1
TEL 097-569-1181

